



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

Toyo University supports the Sustainable Development Goals



2025年度 東洋大学 社会貢献センター年報

TOYO University Social Contribution Center 2025
Annual Report



東洋大学

目 次

刊行にあたって

東洋大学社会貢献センター長	1
---------------------	---

社会貢献センターについて

東洋大学社会貢献センター規程	4
社会貢献センター組織図	6
2025年度 社会貢献センター運営委員会委員名簿	7
2025年度 社会貢献センター運営委員会活動記録	8

生涯学習部門

生涯学習部門の歴史的背景	14
2025年度 東洋大学フィロソフィアアカデミー／公開講座と講師派遣事業の概要 ...	17
東洋大学フィロソフィア アカデミー／公開講座	
2025年度 公開講座実績一覧	21
2025年度 公開講座アンケート結果	24
過去3年間の受講者数	36
PICK UP	43
資格講座	
2025年度 資格講座	49
講師派遣	
2025年度 「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」実施報告	50
2025年度 講師派遣事業 派遣先実績一覧	53
PICK UP	58
東洋大学オンライン講座 日本の「知」	
2025年度 東洋大学オンライン講座 日本の「知」実施報告	61

社会貢献部門

社会貢献情報収集	
社会貢献情報収集の概要	66
2025年度調査 社会貢献活動一覧	68
PICK UP	118
地域活性化活動支援事業	
地域活性化活動支援事業の概要	123
2025年度 地域活性化活動支援事業一覧・活動報告	124
能登版 地域活性化支援事業	141
社会貢献活動助成・表彰制度	
社会貢献活動助成・表彰制度	150
2025年度 社会貢献活動助成 表彰式・報告会	153
SDGs 実践講座	
2025年度 東洋大学 SDGs 実践講座 活動報告	160
リカレント教育推進特別助成制度	178

社会貢献センター 外部評価

2025年度 東洋大学社会貢献センターに対する外部評価結果	184
-------------------------------------	-----

刊行にあたって



東洋大学社会貢献センター長
高山 直樹

学生と教職員による平和・人権・豊かな環境づくりへの挑戦

東洋大学は、2012年創立125周年を迎え、創設者井上円了の教育理念のもと「グローバル人財」の育成を目指して、「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」を3本の柱とする未来宣言を行いました。その宣言を具現化するために、社会貢献センターは、従来の「生涯学習センター」を継承、発展させ、日本や国際社会への社会貢献を展開するために設立されました。

創立者・井上円了は、「諸学の基礎は哲学にあり」を掲げ、「他者のために自己を磨く、活動の中で奮闘する」人間の育成を教育の大きな柱としてきました。また、「余資なく、優暇なき者(資産や時間に余裕がない人)のために教育の機会を開放する」という理念を掲げ、本学の前身である「哲学館」を創立しました。そこでは『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」を行い、現在の通信教育へと継承してきました。さらに円了は、欧米視察により、「日本と日本人の改良」が必要との認識に至り、「哲学館」を大学へと発展させるために、1890(明治23)年から全国巡講を始めました。全国で実施された巡回講演は、延べ5,129回を数え、130万人を超える人々がその講演を聴いたとされています。この円了の全国巡講が現在の社会貢献センターの事業の柱として、講師派遣事業や公開講座などへと引き継がれて現在に至っています。

現在、社会貢献センターでは、建学の精神の共有と継承を図ると同時に、上記の未来宣言を推進するべく、様々な事業を企画し、活動を展開しています。

1 社会貢献部門

- ・ ボランティアマインドの滋養：学生のボランティア活動の推進と支援等
- ・ 社会的活動に対応したボランティアの推進：学生と教員による地域活性化活動支援等

- ・SDGsにつながる教育の展開：SDGs アンバサダー（学生）の育成等
- ・災害等緊急支援ボランティアの推進：能登震災復興支援、学生と教職員による地震、災害対策等
- ・環境保全の推進・啓発：環境問題の学び、環境保全の取り組み、学内環境整備等

2 生涯学習部門

- ・人生100歳時代の学びの支援：生涯学習のための多様な機会の提供
- ・公開講座、資格取得講座、講師派遣事業の実施
- ・リカレント講座の実施

社会貢献センターの様々な活動主体は、学生であり、教職員であり、また地域の人々との協働であることが特徴です。この協働の輪を広め、深めていく過程のなかで、地域社会、日本そして世界の「平和・人権・豊かな環境づくり」を創っていくことを支援していくことが社会貢献センターの使命です。

いま、国内外において戦争、自国優先の経済政策、社会正義を振りかざしての後を絶たないテロ、コロナ禍による諸問題、差別、格差、虐待をはじめとする様々な「社会問題」が顕在化してきています。そして私たちは、「いま・ここ」(Here and Now) で生きています。「いま・ここ」に生きづいている様々な場面が、未来の「いま・ここ」に大きな影響を及ぼすことになります。自らの生活というミクロレベルの「いま・ここ」という「ローカル」な視点と、それらに密接に関係している自分、地域、国および人々、宗教、自然、環境等を世界、宇宙をつなげていく視点である「グローバル」な視点の両方を持つことが求められています。「グローバル」な視点です。それはまさに、本学での「哲学」を基盤とした各学問の学びを深めることです。そしてさらに様々な実践活動に参画していくことが、「社会問題」の解消に貢献するのです。「いま・ここ」にある「わたし」が、社会の諸問題にいかに向きあうのかが問われています。

それは、今、混迷のなかにある国内外の問題を自分ごととし、社会の幸せの在り方を発信していくことが東洋大学の使命といえます。そのためには、積極的な社会貢献を進めることになります。東洋本学は、3万人超の学生を擁し、15大学院研究科、14学部を擁する総合大学です。大学に蓄積された人的・知的資源を必要としている人たちや地域に届けていきたいと考えます。現代の新しい社会づくりを目指して、東洋大学の学生、教職員、卒業生たちが力を合わせ、また市民の皆様と一緒に新しい挑戦について考え、様々な課題に真摯に、誠実に取り組みたいと思います。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

社会貢献センターについて

改正 平成27年6月1日
平成28年6月1日
平成29年4月1日
令和5年4月1日規程第37号
令和7年4月1日規程第112号

東洋大学社会貢献センター規程

東洋大学生涯学習センター規則（平成8年規則第131号）の全部を改正する。

（趣旨）

第1条 この規程は、東洋大学学則（昭和24年4月1日施行）第8条第1項に基づき、東洋大学（以下「本学」という。）において生涯教育に関する諸事業を積極的に推進するとともに、社会貢献活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献の発展に寄与するために設置する「東洋大学社会貢献センター」（以下「社会貢献センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

第2条 削除

（構成）

第3条 社会貢献センターに、生涯学習部門と社会貢献部門を置く。

（事業）

第4条 社会貢献センターは、第2条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

2 生涯学習部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

- （1）生涯学習プログラムの開発
- （2）公開講座等の開催
- （3）生涯学習に関する広報活動及び案内
- （4）生涯学習に関する資料の収集
- （5）その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

3 社会貢献部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

- （1）社会貢献プログラムの開発
- （2）本学各部局で実施されている社会貢献活動に関する情報の収集、連携促進及び発信
- （3）ボランティア活動その他社会貢献に係る支援策に関する事項
- （4）その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

4 前項第3号に規定するボランティア活動を推進するために東洋大学ボランティア支援室を置き、その運営等必要な事項については、別に定める。

（センター長）

第5条 社会貢献センターに、センター長を置く。

2 センター長は、社会貢献センターの事業を統括し、社会貢献センターを代表する。

3 センター長は、本学の教授のうちから、学長の推薦により、理事長が任命する。

4 センター長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（副センター長）

第6条 社会貢献センターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、本学の専任教員のうちから、センター長及び学長の推薦により、理事長が任命する。

3 副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるとき又はセンター長が欠けたときは、センター長の職務を代理し、又は代行する。

4 副センター長の任期は2年以内とし、センター長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

（社会貢献センター運営委員会）

第7条 社会貢献センターに、社会貢献センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

（運営委員会の組織）

第8条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) センター長及び副センター長
- (2) 各学部が推薦する専任教員 各1名
- (3) 大学院が推薦する専任教員 1名
- (4) 学長が推薦する者 若干名
- (5) 通信教育部長
- (6) 学生部長
- (7) 教務部長
- (8) SDGs 推進センター長

(委員の任期)

第9条 前条第2号から第4号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(審議事項)

第10条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生涯学習プログラムの基本方針
- (2) 社会貢献プログラムの基本方針
- (3) 社会貢献センターの事業計画に関する事項
- (4) 学長から諮問された事項
- (5) その他社会貢献センターに関する重要事項

(議長)

第11条 運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第12条 議長は、必要に応じ、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第13条 運営委員会は、専門的な事項その他特に必要な事項について調査審議するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

(事業計画)

第14条 センター長は、当該年度の10月末日までに次年度の事業計画を定め、学長の承認を受けなければならない。

2 センター長は、各年度の事業の実施結果について、当該年度終了後1カ月以内に、学長に報告しなければならない。

3 事業計画を変更する場合は、学長の承認を受けなければならない。

(事務の所管)

第15条 社会貢献センターの事務は、社会貢献センター事務室が所管する。

(細則)

第16条 この規程の実施について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

(改正)

第17条 この規程の改正は、学長が運営委員会の意見を聴いて行う。

附 則

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、東洋大学生涯学習センター規則(平成9年4月1日施行)は、廃止する。

附 則(平成27年規程第153号)

この規程は、平成27年6月1日から施行する。

附 則(平成28年規程第90号)

この規程は、平成28年6月1日から施行する。

附 則(平成29年規程第2号)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(令和5年4月1日規程第37号)

この規程は、2023年4月1日から施行する。

附 則(令和7年4月1日規程第112号)

この規程は、2025年4月1日から施行する。

社会貢献センター組織図

社会貢献センター運営委員会

- センター長及び副センター長
- 各学部及び大学院が推薦する専任教員 各1人
- 学長が推薦する者 若干名
- 通信教育部長
- 学生部長
- 教務部長
- SDGs 推進センター長

ボランティア支援室運営委員会

- 室長＝社会貢献センター長
- 副室長…室長及び学長の推薦
- 社会貢献センター運営委員会委員から互選した者 若干名
- 室長が推薦する者 若干名
- 学生部長
- 教務部長

【担当事務局】

- 社会貢献センター事務局

専門部会

5名程度

評価委員会
(外部から2名程度)

2025年度 社会貢献センター運営委員会委員名簿

所 属	氏 名
セ ン タ ー 長	高山 直樹
副 セ ン タ ー 長	堀本 麻由子

東洋大学社会貢献センター規程第5条、第8条第1項第1号による
(任期：2025年4月1日～2026年3月31日)

所 属	氏 名
文 学 部	佐藤 泰人
経 済 学 部	塩田 徹
経 営 学 部	久世 恭子
法 学 部	ジェイムズ ダニエル ショート
社 会 学 部	本田 宏治
国 際 学 部	藪長 千乃
国 際 観 光 学 部	杉本 興運
理 工 学 部	神山 藍
総 合 情 報 学 部	小瀬 博之
生 命 科 学 部	三浦 健
食 環 境 科 学 部	塩原 明世
福 祉 社 会 デ ザ イ ン 学 部	松本 和也
情 報 連 携 学 部	浅野 泰仁
健 康 ス ポ ー ツ 科 学 部	細谷 洋子
大 学 院 (生命科)	児島 伸彦

東洋大学社会貢献センター規程第8条第1項2号及び第3号による
(任期：2025年4月1日～2027年3月31日)

所 属	氏 名
学 長 推 薦	川口 英夫

東洋大学社会貢献センター規程第8条1項第4号による
(任期：2025年4月1日～2026年3月31日)

所 属	氏 名
通 信 教 育 部 長	高木 英行

東洋大学社会貢献センター規程第8条第1項第5号による
(任期：2024年4月1日～2026年3月31日)
※通信教育部長の任期に準じる

所 属	氏 名
学 生 部 長	早川 和宏

東洋大学社会貢献センター規程第8条第1項第6号による

所 属	氏 名
教 務 部 長	多田 英明

東洋大学社会貢献センター規程第8条第1項第7号による

所 属	氏 名
SDGs 推進センター長	金子 律子

東洋大学社会貢献センター規程第8条第1項第8号による

計 22名

2025年度 社会貢献センター運営委員会活動記録

第1回：2025年4月1日(火)（書面会議）

【審議事項】

1. ボランティア支援室運営委員の立候補について

【報告事項】

2. 2025年度 社会貢献センター運営委員および各種助成事業等選考分担について
3. 2025年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成 追加募集について
4. 2025年度 地域活性化活動支援事業 追加募集
5. 東洋大学「リカレント教育推進」特別助成制度 追加募集
6. 2025年度 東洋大学フィロソフィアアカデミー／春期公開講座
7. 2025年度 春期資格取得講座
8. 2025年度 講師派遣
9. 東洋大学オンライン講座 日本の「知」（海外向けオンライン講座）報告について（TUGS 連携講座）
10. 2025年度 能登半島 想像／創造的復興支援事業について
11. 東洋フィロソフィアアカデミー／公開講座ポイント制度 ポイント数の改訂について

第2回：2025年5月15日(木)（書面会議）

【審議事項】

1. 2025年度 能登半島 想像／創造的復興支援事業 募集要項 変更について
2. 地域おこし協力隊 インターンシップに関する覚書等 変更について

【報告事項】

3. 2025年度 国際ボランティア活動支援事業募集要項 変更について
4. 2025年度 地域活性化活動支援事業の追加募集について
5. 2025年度 東洋大学リカレント教育推進特別助成プロジェクト追加募集（延長）について
6. 2025年度 学生団体による社会貢献活動助成の追加募集について
7. GW 能登半島ボランティア活動報告について
8. 大阪・関西万博学生参加型プログラムへの SDGs アンバサダーの参加について
9. 留学生向けの各種事業等の英文案内について
10. 2025年度 東洋大学オンライン講座 日本の「知」（海外向け）実施について
11. 各種実施計画

第3回：2025年6月27日(金)（書面会議）

【報告事項】

1. 地域活性化活動支援事業 外部助成金獲得に伴う補助額変更について
2. 能登半島ボランティア（2025年度 夏季休暇期間）実施計画について
3. 石川県七尾市との包括協定について
4. 2025年度 SDGs 実践講座について
5. 2026年度 教学予算要求について
6. 群馬県甘楽町地域おこし協力隊インターン実施について

7. 各種実施計画 (pick up)
8. ボランティア支援室企画活動報告 (6/7まで)

第4回：2025年7月28日(月) (書面会議)

【報告事項】

1. 2025年度 東洋大学リカレント教育推進特別助成プロジェクト追加募集について
2. 能登半島 想像／創造的復興支援事業募集追加募集について
3. 春期公開講座報告について
4. 秋期公開講座について
5. 全国講師派遣について (7/28現在)
6. 2025年度 夏季能登半島地震ボランティア活動について
7. 群馬県甘楽町地域おこし協力隊インターン実施について
8. 東洋大学「令和7年能登半島地震」被災地支援 ボランティア活動助成事業について (追加募集)
9. 校友会からのご提案 ～大学「地域活性化活動支援事業」との連携協力について
10. 大阪・関西万博に向けたアジア地域等における環境課題解決のためのワークショップ参加について
11. 各種活動計画等

第5回：2025年9月13日(土) (書面会議)

【審議依頼事項】

1. 予算要求に伴う各事業の方針について
2. 予算要求について
 - ①全体予算総括表 ②目的 (公開講座) ③目的 (円了理念) ④目的 (センター運営)
 - ⑤目的 (受託事業) ⑥教育力強化特別予算 ⑦収支対応予算

【報告事項】

3. 2025年 日本国際博覧会における環境教育・ESD プログラム「SDGs Students Dialogue Expo 2025」参加について
4. 文京区クールアースフェアについて
5. わらしべ長者プロジェクトについて
6. 能登半島ボランティア活動について
7. 能登半島災害ボランティアバンク (引率教員) 募集について
8. 富士樹海清掃ボランティア活動について

第6回：2025年10月15日(水) (書面会議)

【報告事項】

1. 能登半島ボランティア (七尾市) について
2. 2026年度 地域活性化活動支援事業について (教員と学生が一緒に活動)
3. 2026年度 東洋大学「リカレント教育推進」特別助成について
4. 2025年度 夏季国際ボランティア活動助成報告について
5. 各種活動計画等

第7回：2025年12月5日(金)（書面会議）

【審議依頼事項】

1. 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び社会貢献活動に対する表彰募集要項の変更について
2. 「地域活性化支援活動」に関する東洋大学と〇〇〇との相互協力覚書について

【報告事項】

3. 日本経済新聞社「大学の地域貢献度調査」で、東洋大学が「1都3県の地方貢献度」第3位にランクインした件について
4. 社会貢献センターにおける国内外自然災害等支援活動について
5. 能登半島 想像／創造的復興支援事業募集追加募集について
6. 能登半島災害ボランティアバンク（引率教職員）登録状況について
7. 第69回 東京輪島会参加について
8. 「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム2025 世代をこえて考える、気候危機のこれから～こども・ユースの声をきっかけに広がる対話～」への参加について
9. SDGs Week EXPO エコプロ2025出展について
10. 被災からの復興と持続可能なコミュニティを考える～東洋大学の支援と山古志村の挑戦～〈学ボラ発足20周年記念講演〉について
11. 映画『「生きる」大川小学校 津波裁判を闘った人たち』（2023年第78回毎日映画コンクールドキュメンタリー映画賞他）上映会について

第8回：2026年1月27日(火)（書面会議）

【審議依頼事項】

1. 2026年度 能登半島 想像／創造的復興支援事業 募集要項の変更について
2. 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び社会貢献活動に対する表彰募集要項の変更について 追加変更

【報告事項】

3. 2025年度 東洋大学社会貢献活動表彰の採択結果および表彰に対する助成金について
4. 学長賞の候補者推薦について
5. 2025年度 東洋大学「令和6年能登半島地震」被災地支援ボランティア活動助成事業（個人）申請者について
6. 能登半島復興支援ボランティア（春季）実施について
7. 能登半島復興支援 佐藤農園インターンシッププログラム（予定）
8. 群馬県甘楽町地域おこし隊インターンについて
9. 全学総合 SDGs 実践講座について
10. 東洋大学オンライン講座「日本の知」実施報告について
11. 社会貢献事業の実施状況調査について
12. 各種活動計画

第9回：2026年2月25日(水)（書面会議）

【報告事項】

1. 2025年度 全国講師派遣について

2. 2025年度 秋期公開講座報告について
3. 2026年度 春期公開講座等実施予定一覧について
4. 2026年度 講師派遣テーマ等について
5. 社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会、課外活動団体報告会、地域活性化活動支援事業報告会について
6. 2026年度地域活性化活動支援事業採択結果について
7. 学生による地域活動報告会 in 文京区について
8. 日本経済新聞社「大学の地域貢献度調査」で、東洋大学が「1都3県の地方貢献度」第3位にランクインについて
9. 学長賞の受賞について
10. 首都直下型地震に備える！2025年度東洋大学宿泊サバイバル体験～もし、大地震が発生した時、白山キャンパスにいたら・・・？～
11. スポ GOMI 東洋大学 in 赤羽台キャンパスについて
12. 「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム2025 世代をこえて考える、気候危機のこれから～子ども・ユースの声をきっかけに広がる対話～」の参加について
13. SDGs Week EXP0 エコプロ2025出展について（SDGs アンバサダー出展）
14. 令和7年度 学生ボランティア団体助成事業「学生ボランティア団体活動レポート募集」表彰式について（一般財団法人 学生サポートセンター）
15. 【東洋大学×山古志×能登】被災からの復興と持続可能なコミュニティを考える＝地域共創シンポジウム＝（共催：社会貢献センター／公認団体 学ボラ（旧学生ボランティアセンター）
後援・協力：能登復興支援学生団体 青いビブス／山古志住民会議）

第10回：2026年3月14日(土)（書面会議）

【審議依頼事項】

1. 2026年度 東洋大学「令和6年能登半島地震」被災地支援 ボランティア活動助成事業募集要項（案）について

【報告事項】

2. 外部評価の結果について
3. 2025年度地域活性化活動支援事業活動報告（P.3～32）および現地団体アンケート結果について
4. リカレント教育推進特別助成活動報告について
5. 能登半島 想像／創造的復興支援事業助成活動報告について
6. 2025年度 各種活動に対する助成 用途指定型寄付について
7. 2025年度 国際ボランティア活動支援事業実施に伴う助成金について
8. 2026年度 東洋大学リカレント教育推進特別助成プロジェクトについて
9. 2026年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成採択結果について
10. 2025年度 SDGs アンバサダー自己評価及び2026年度継続手続きについて
11. 2025年度予算執行報告及び2026年度予算執行計画について
12. 被災地のまちづくりを考え、発信するスタディーツアー（春）について〔東日本大震災から

15年]

13. 「生きる一大川小学校 津波裁判を闘った人たち」上映会について〔東日本大震災から15年〕
14. 能登半島ボランティア（春季）実施状況について（抜粋）
15. NICE 日本国際ワークキャンプセンタープログラムについて（2025春休み）
16. 【東洋大学×山古志×能登】被災からの復興と持続可能なコミュニティを考える＝地域共創シンポジウム＝（共催：社会貢献センター／公認団体 学ボラ（旧学生ボランティアセンター）
後援・協力：能登復興支援学生団体 青いビブス／山古志住民会議）
17. ゴールボール×体験会2026について
18. 学生による地域活動報告会 in 文京区について
19. IKEA 横浜 CSR スタディーツアーについて

第10回（追加）：2026年3月16日（月）（書面会議）

【審議依頼事項】

1. 日本財団ボランティアセンターとの「学生ボランティア活動推進に関する協定書の改変」について

生涯学習部門

- 東洋大学フィロソフィアアカデミー／公開講座
- 資格講座
- 講師派遣
- 東洋大学オンライン講座 日本「知」

生涯学習部門の歴史的背景

1. 公開講座の歴史的背景

本学の前身である哲学館では、創立直後に日曜講義として一般に向け仏教哲学を中心に講じる機会を設けたとの記録がある。これは、創立者井上円了が、当時米国等で行われていた「サマースクール」に関する情報や、その日本版ともいえる「通信講学会」での夏期学校の実施経験から影響を受けたものと思われる。日本においても極めて早い時期の実施であり、創立以来、本学が一貫して教育を広く民衆に提供する役割を果たそうとしてきた証でもある。

第2次世界大戦後、多くの国立大学で周辺住民や一般社会人を対象にした公開講座が開かれ、その伝統は現在に引き継がれている。本学でも、特に教員の免許法認定講習は1949（昭和24）年という早い時期から実施され、1986（昭和61）年度までに330回開講という歴史を有する。また、1979（昭和54）年には「市民大学講座」の企画が学長により提起されており、地域のひとびとに大学の持つ知的資源を提供する社会貢献事業は、一貫して重視されてきた。

高度経済成長を遂げた日本の新しい社会にあって、人々の生涯にわたる学習への欲求はますます高いものとなった。その期待を受け、1970（昭和45）年代後半になるといくつかの国立大学に公開講座のためのセンターが設けられ、組織的な公開講座事業が始まった。

明治期の設立当初から高等教育の開放を自らの使命としてきた私立大学の伝統校は、公開講座を独自のスタイルで発展させてきた歴史を持つ。生涯教育の制度化が世界的な課題となり始めた時期、私立大学はそれぞれのミッションに沿った公開講座の組織化を進めた。

政府は、1990（平成2）年、生涯学習の基盤整備に関わる新しい法律を制定した。それまでの社会教育法と並立する形となり、人々は多様な学習機会を享受することになった。この時期、特に高等教育機関に対する期待は高いものであった。そのため、生涯学習に関する包括的な法律の制定よりも、生涯学習に資する公開講座の設置において、大学自身の方が早く対応していたといえる。

本学に生涯学習センターが設置されたのは、1997（平成9）年であった。創立期以来の理念を守ろうとする伝統を引き継ぎ、多様な公開講座実施の経験を踏まえ、一層組織的に大学の知を地域社会に還元していこうとする動きであった。その後、キャンパス拡張に伴って新たに発生した近隣自治体との連携の必要等から、公開講座は継続的な改変・拡充を経て現在に至る。また、2020年度からは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響もあり、Webを利用したオンライン講座を実施している。対面とWebを併用したハイフレックス型を導入することで、多様なニーズに応えられる講座展開を行っている。

2023年度よりリカレント教育を目的とした講座を開始し、2024年度には「東洋大学フィロソフィアカデミー」として体系化した。同アカデミーでは、「文学」「思想・哲学」「社会貢献」コースに加え、「リカレント・リスキリング」「円了から学ぶ経営哲学」コースからなる『アクティブラーニングプラン』を提供し、教養から最新の研究事例まで幅広いテーマを取り扱っている。講義形式にとどまらず、グループワークやレポート作成、フィールドワーク等の活動を

取り入れた実践的な学びを展開している。

2025年度も引き続き同アカデミーにおいて、春学期・秋学期あわせて計12講座を開講した。

2. 講師派遣事業の歴史的背景

現在の本学における講師派遣事業は、創立者である井上円了による全国巡回講演に由来する記念事業として、没後80年を経た1999（平成11）年に開始されたものである。

哲学館創立直後の1888（明治21）年、井上円了は1年間の欧米視察を行い、その経験を通じて「日本と日本人の改良」が必要であるとの認識に至った。その後、円了は哲学館の財政危機を脱し、大学設立のための資金を得るべく、全国を巡回して講演を行い、寄付を募る計画を立てた。当時、既に卒業生を輩出していたことや、講義録の配信による通信教育を進めていたこともあり、全国各地に円了を招聘しようとする人物が存在していた。そして、1890（明治23）年11月より、円了は自ら全国各地に赴いて講演を行う教育活動に着手したのである。

欧米視察の際、ケンブリッジ大学を起点として英国各地および米国において急速に発展していた大学の構外講義、いわゆる「ユニバーシティ・エクステンション」事業を詳細に見聞した円了にとって、これは日本における大学拡張への着手であったといえる。

その後、1898（明治31）年～1902（明治35）年、1906（明治39）年～1919（大正8）年と講演旅行は続き、全国で実施された巡回講演は合計で5,129回を数えた。

講演は、町村の小学校の講堂や寺院等で開催され、延べ130万人を超える人々が聴講したとされる。この偉業は、今日まで類を見ない記録である。

受け入れた地域の人々は、「井上円了博士」が直接出向いての講演ということで、地域を挙げて歓迎した。当時、こうした講演を聞く機会を持たなかった民衆が多数聴講した様子は、円了自身の記録のみならず、全国各地の記録として今日まで保存されている。

こうした講演をきっかけとして多くの寄付が寄せられ、本学はまさに日本各地の人々の貴重な志によって支えられ、その基礎が築かれたといっても過言ではない。

1997（平成9）年に設立110年を迎えた際、「110年目の御礼」と題するプロジェクトが企画され、1999（平成11）年度には創立者井上円了の没後80周年記念事業が構想された。

そのひとつが、創立時に社会から受けた支援（寄付金）への謝意と、創立者の精神を活かした社会貢献としての講師派遣事業であった。

同年度から始まり全国各地で実施している講師派遣事業の回数は、27年間で2,697回に達した。それでもなお、創立者の講演回数には遠く及ばず、本事業は今後も継続して取り組むべきものである。

本事業は、長く高校生を対象とした派遣と、一般成人を対象とした派遣とに区分されてきた。高校においては、2000（平成12）年度より情報化や国際化などに対応した現代的な課題を扱う「総合的な学習の時間」が本格的に導入された。文部科学省によれば、「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする」（文部科学省 HP より引用）とされている。

現代社会の課題を専門的な立場から研究している大学教員による講演は、そうした思考の材料を提供する意味で大いに貢献するものであった。事業の認知度が高まるにつれ、2001（平成13）年度には100件もの依頼が寄せられた。

しかし、いわゆる学力低下論がマスコミ等で議論されるにつれ、総合的な学習の時間への評価は二分されることとなった。

2011（平成23）年度より実施された新しい学習指導要領では、実質的にその時間数が減少した。さらに、教育目標のねらいが明確に示され、全体計画や単元計画を綿密に立てて指導することとなり、教科横断的な領域において体験的な学習活動がより重視されるようになった。そうした動きに連動するかのよう、高校の総合的な学習の時間に対応した講師派遣の申し込みは2012（平成24）年度より大幅に減少した。

一般成人を対象とした講師派遣については、公民館などの社会教育施設および関連施設における講座、教育委員会主催の家庭教育学級や高齢者学級、市民大学、そして社会教育関係団体による事業等、派遣を求める主催団体は多岐にわたった。

2015（平成27）年度には、グローバル教育の深化の一環として、本学が有する他国文化の知識を企業の海外活動に資するよう「企業研修支援プログラム」を開始した。本プログラムは、2016（平成28）年度より有料化し、2018（平成30）年度からは「研修支援プログラム」と改称して、企業のみならず各種団体でのスキルアップ研修に対応した。また、2016（平成28）年から2019年度においては、小中高等学校や特別支援学校に向けて、五輪をはじめとするスポーツに関する講義を行う「オリンピック・パラリンピック学習支援講座」を設けた。

2020年度には、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、オンラインでの講師派遣を初めて実施した。

また、本学のSDGs達成に向けた取り組みの一つとして、小中高等学校や特別支援学校を対象とした「SDGs達成学習支援プログラム」を開始し、2025年度は7件が実施に至った。

生涯学習部門

2025年度 東洋大学フィロソフィアアカデミー／ 公開講座と講師派遣事業の概要

1. 東洋大学フィロソフィアアカデミー／公開講座

「東洋大学フィロソフィアアカデミー」、「オープン講座」、「エクステンション講座 A・B」、「文化公演」、「資格講座」、5 区分で実施を行った。その他にも、文京アカデミア講座、川越小・中学生サマースクール等を開講している。

2025年度は2024年度に設立した東洋大学フィロソフィアアカデミーをより発展させ、開講した。豊かで彩りある充実した生き方を目的とした「アクティブラーニングプラン」と、新しい知識やスキルの習得を目的とした「リカレント・リスキリングプラン」で構成されている。アクティブラーニングプランでは座学の学びに加えて関連施設やゆかりの地を訪問するなど、フィールドワークを実施した。

公開講座は2024年度に引き続き、対面形式及び Web 形式で講座を開講している。また、「公開講座ポイント制度」を実施し、有料エクステンション講座の受講時間および出席率に応じて「公開講座ポイント」が付与され、学期末に「修了証〔賞状〕」が贈呈される。受講者のモチベーションを上げることを目的にしている。

1) 東洋大学フィロソフィアアカデミー

春期は「空海『秘蔵宝鑰』を読む」、「在原業平生誕1200年『古今和歌集』『業平名歌』誕生の背景とその魅力」、「みんなのゼミナール新しい自分をみつけよう第5期～子ども・若者の相談・支援を考えるⅠ～」、「ソーシャルワークは真に権利擁護を推進できるのか」、「ダイバーシティ・マネジメントリーダーシップのあり方とは」の5コースを開講した。

秋期は、春期に引き続き、「空海『秘蔵宝鑰』を読む」、「日本古典の王道『古今和歌集』の謎に迫る一天皇と四季と恋」、「みんなのゼミナール 新しい自分をみつけよう第6期～国際社会と日本の子ども支援～」、「ソーシャルワークは真に権利擁護を推進できるのか～反抑圧的ソーシャルワークを中心に～」、「働く人のウェルビーイングとストレス対処」の5コースを開講した。

また、本学卒業生であり株式会社アクティブ・シニア・ラボ代表取締役である蓮見雅人氏をお招きし、講演会及びグループワークを開催した。

本学卒業生を招いての講演会及び実演会は校友会協力のもと実施をしており、受講者より大変好評であった。

2) オープン講座（無料）

2015（平成27）年度まで「市民大学講座」「学術講演会」として開講されていた無料講座を2016（平成28）年度より合わせて「オープン講座」と名称変更し、各キャンパスを会場として実施している。

春期白山キャンパスでは、「震度7の後どう生き延びたか～輪島の被災地から～」、「『マンガ円了』から見る井上円了と東洋大学建学の理念」、を開講した。秋期は、「麟祥院と井上円了—ZAZENで自己発見・自分磨き！—」、「ハザードマップとマイタイムラインで災害から身を守ろう」をテーマに開講した。また、赤羽台キャンパスにて「自分史を書いてみよう」講座を開講した。

3)エクステンション講座A

教養や最新研究や事例まで幅広いテーマの講座を取り扱うA講座は「歴史コース」「文学コース」「哲学・宗教コース」「人生100年コース」に分類して講座を展開している。

春期は、A講座10コースを開講した。仏教、万葉集、年金問題、マーケティング入門など、多種多様なテーマを取り上げて開講した。

その他にも「人生100年コース」からは、フィールドワークを伴う「植物に学ぶ2025～初夏のプラントウォッチング～」講座や、音楽業界で活躍する講師を招いた講座「AI時代における音楽の盗作問題を考える」を開講し、いずれも受講者より好評を得た。

秋期は、A講座10コースを開講した。睡眠の基本と食事、金融リテラシー、現代文学、介護問題等の様々なトピックを取り上げて講座を開講した。

その他にも、源氏物語や幕末維新の古文書は春期に引き続き開講しており、受講者より定評のある講座である。

いずれの講座も総合大学ならではのテーマ設定で多様な講座を提供することができた。

4)文化公演

「東洋落語祭2025」を井上円了ホールで開講した。当日は4名の落語家と曲芸の披露があり、大変好評を得た。約350人が参加した。

5)資格講座

2016年度より始まった当講座は、学生の就職活動時または就職後、及び社会人の学び直しによるキャリアアップまたは再雇用に必要な資格の取得を目的としている。

2024年度に引き続き、春期は対面で1講座、通年ではオンデマンドで6講座実施した。学内外での周知を徹底するとともに、本学に求められる資格講座のニーズに応えられる仕組みづくりを引き続き行っていく予定である。

2. 講師派遣事業

今年度は、3つのプログラム全体で91件の申し込みがあり、このうち実施に至ったのが77件であった。

例年に引き続き、関東の実施件数の比率が突出して高い一方、地方の実施件数が、その全体に占める比率はコロナ禍以前に戻りつつある。(図-1、図-2)

また、本事業における派遣実績の42%は教育委員会が占めており、公教育の現場から高い需要があることが示されている。(図-3) 現在、地方自治体（特に財政基盤の脆弱な小規模自治体）にとって、外部リソースの活用は予算的制約から困難な状況にある。こうした中、本事業を全国一律で「無償提供」することは、居住地域に左右されない教育環境の整備、ひいては都

市部と地方における「教育格差」の是正に大きく寄与するものであり、その社会的意義は極めて高い。

実際に派遣に応じた講師は、専任教員が37名で実施件数45件と多数を占めており、東洋大学専任教員にとっても重要な役割として認識されている。さらに、名誉教授・元教授・客員教授20名による32件という数字も明記しておきたい。

図-1 過去5年実施件数

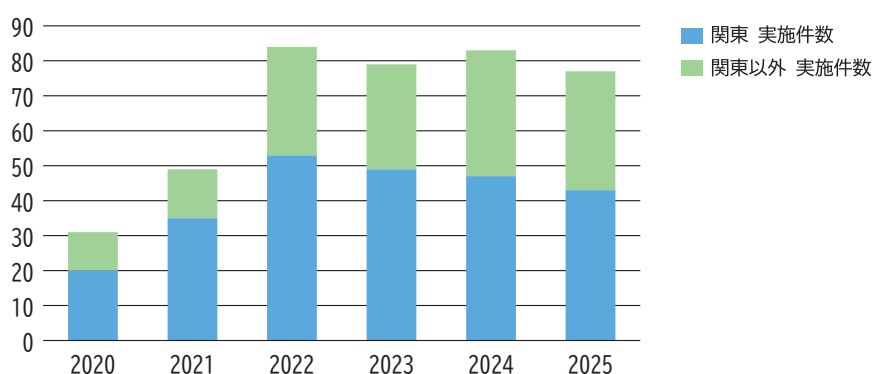


図-2 地域別に見た講師派遣

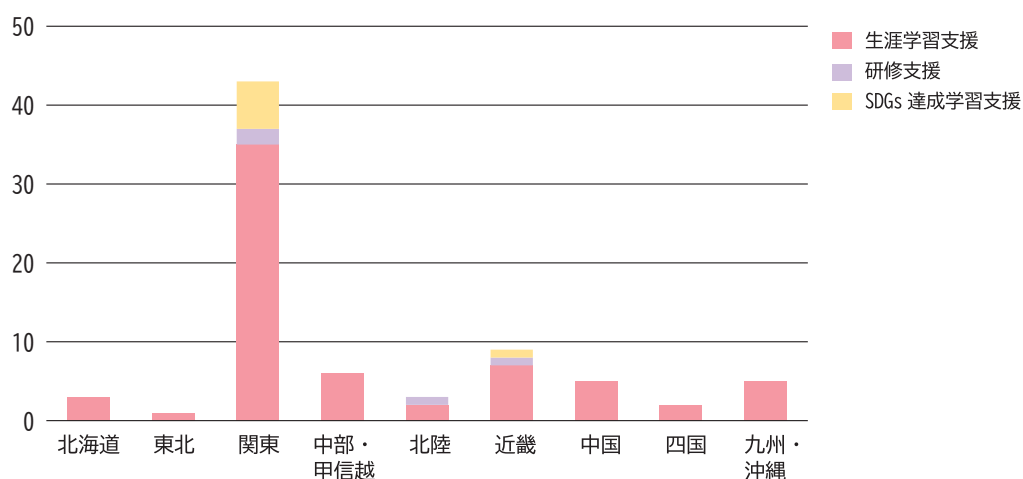


図-3 派遣先団体種別に見た講師派遣

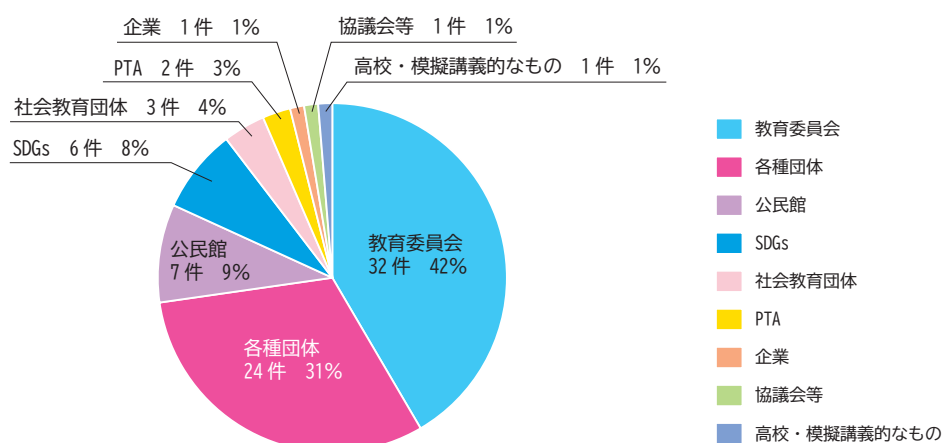


図-4 派遣実施件数一覧（1999年度～2025年度）

東洋大学講師派遣事業件数一覧（1999年度～2025年度）

単位：件

地域	年度	1999年度			2000年度			2001年度			2002年度			2003年度			2004年度			2005年度			2006年度			2007年度		
		高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計
北海道		0	12	12	1	3	4	3	3	6	1	5	6	3	2	5	1	4	5	0	4	4	2	2	4	0	1	1
東北		6	21	27	0	11	11	9	2	11	15	5	20	9	2	11	6	3	9	2	6	8	2	3	5	2	7	9
関東		6	90	96	4	20	24	41	11	52	34	16	50	51	20	71	27	29	56	18	25	43	18	39	57	16	40	56
中部・甲信越		0	30	30	0	13	13	0	19	19	0	22	22	0	8	8	0	7	7	2	4	6	2	3	5	5	2	7
北陸		0	10	10	0	8	8	0	9	9	0	13	13	0	5	5	0	4	4	0	1	1	2	1	3	2	2	4
近畿		0	20	20	2	2	4	8	4	12	8	2	10	0	8	8	0	7	7	0	4	4	2	5	7	1	4	5
中国		2	13	15	0	3	3	11	0	11	8	3	11	0	4	4	0	3	3	0	1	1	2	0	2	1	0	1
四国		0	6	6	0	3	3	4	0	4	2	0	2	0	2	2	0	2	2	0	1	1	0	1	1	1	0	1
九州・沖縄		2	13	15	0	8	8	6	5	11	8	5	13	0	5	5	3	3	0	1	1	1	3	4	0	2	2	
合計		16	215	231	7	71	78	82	53	135	76	71	147	63	56	119	34	62	96	22	47	69	31	57	88	28	58	86

年度 地域	2008年度			2009年度			2010年度			2011年度			2012年度			2013年度			2014年度			2015年度			2016年度			
	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	-	生涯	計	企業	生涯	計	企業	オリ パラ	生涯	計
北海道	2	2	4	0	5	5	0	2	2	0	5	5	0	5	5	0	6	6	-	7	7	0	7	7	0	0	5	5
東北	2	6	8	1	8	9	3	5	8	1	7	8	0	5	5	0	7	7	-	11	11	0	14	14	0	0	16	16
関東	19	42	61	13	31	44	10	39	49	17	37	54	5	45	50	3	42	45	-	49	49	6	53	59	0	9	61	70
中部・甲信越	3	4	7	0	7	7	1	7	8	1	10	11	0	9	9	1	4	5	-	11	11	0	4	4	0	0	12	12
北陸	1	1	2	1	3	4	0	2	2	2	4	6	0	0	0	0	1	1	-	6	6	0	8	8	0	0	5	5
近畿	0	6	6	0	6	6	1	6	7	0	8	8	0	9	9	0	4	4	-	7	7	0	5	5	0	0	9	9
中国	2	0	2	0	1	1	0	4	4	0	1	1	0	2	2	0	7	7	-	4	4	0	5	5	0	0	5	5
四国	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	2	2	0	1	1	-	1	1	0	3	3	0	0	3	3
九州・沖縄	0	6	6	1	3	4	0	4	4	0	6	6	0	8	8	0	7	7	-	3	3	0	6	6	0	0	5	5
合計	29	67	96	16	64	80	15	70	85	21	79	100	5	85	90	4	79	83		99	99	6	105	111	0	9	121	130

地域	年度	2017年度				2018年度				2019年度				2020年度				2021年度				2022年度				2023年度			
		企業	オリパラ	生涯	計	研修	オリパラ	生涯	計	研修	オリパラ	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計
北海道		0	0	9	9	0	0	10	10	0	0	5	5	0	0	2	2	0	0	2	2	0	0	3	3	0	0	5	5
東北		0	0	14	14	2	0	11	13	0	0	10	10	0	0	2	2	0	0	3	3	0	1	6	7	0	0	1	1
関東		5	8	60	73	6	7	50	63	2	10	41	53	2	7	11	20	1	9	25	35	3	16	34	53	2	8	39	49
中部・甲信越		1	2	12	15	0	1	10	11	0	1	8	9	0	0	1	1	1	0	3	4	0	0	5	5	1	0	6	7
北陸		0	0	6	6	1	0	7	8	0	0	1	1	0	0	3	3	0	0	2	2	0	1	4	5	0	1	3	4
近畿		2	0	9	11	0	0	9	9	0	0	6	6	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	4	4	0	0	6	6
中国		0	0	7	7	0	0	4	4	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2
四国		0	0	2	2	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1
九州・沖縄		0	0	12	12	0	0	6	6	0	0	7	7	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	4	4	0	0	4	4
合計		8	10	131	149	9	8	110	127	2	11	82	95	2	7	22	31	2	9	38	49	3	18	63	84	3	9	67	79

地域	年度	2024年度				2025年度				合計					
		研修	SDGs	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計	高校	企業研修	オリパラ	SDGs	一般(生涯)	計
北海道		0	0	5	5	0	0	3	3	13	0	0	0	124	137
東北		1	0	4	5	0	0	1	1	58	3	0	1	191	253
関東		1	4	42	47	2	6	35	43	282	30	34	50	1026	1422
中部・甲信越		1	0	9	10	0	0	6	6	15	4	4	0	236	259
北陸		0	0	3	3	1	0	2	3	8	2	0	2	114	126
近畿		0	1	7	8	1	1	7	9	22	3	0	2	166	193
中国		1	0	1	2	0	0	5	5	26	1	0	0	81	108
四国		0	0	0	0	0	0	2	2	7	0	0	0	38	45
九州・沖縄		0	0	3	3	0	0	5	5	18	0	0	0	136	154
合計		4	5	74	83	4	7	66	77	449	43	38	55	2112	2697

*2014年度より一般（社会人）と高校を一本化し、「生涯学習」支援プログラムとして実施

*2015年度より新規に「企業研修」支援プログラムを開始

*2016年度より新規に「オリンピック・パラリンピック教育」支援プログラムを開始

*2020年度より新規にSDGs（持続可能な開発目標）達成学習支援プログラムを開始

東洋大学フィロソフィアアカデミー／公開講座

2025年度 実績一覧

①オープン講座 ※文化講演等含む

学期	場所	形式	テーマ	講師（代表）	期間	回数	総時間数	受講料（単位：円）		受講者数						
								一般	学生	一般			学生			合計
										対面	Web	小計	対面	Web	小計	
春	白山	Web	震度7の後どう生き延びたか～輪島の被災地から～	能門 亜由子	5月24日(土)	1	90	無料	無料		29	29		1	1	30
	白山	対面	『マンガ円了』から見る井上円了と東洋大学建学の理念	長谷川 琢哉	5月27日・6月3日(火)	2	180	無料	無料	24		24	1		1	25
	赤羽台	対面	自分史を書いてみよう	文 貞實	5月13日・5月20日(火)	2	180	無料	無料	27		27	0		0	27
	赤羽	ハイブリッド	これならわかる！介護保険制度～2025年問題・2040年問題を踏まえて～	高野 龍昭	5月17日(土)	1	120	無料	無料	34	38	72	0	0	0	72
	川越	対面	「波とは何か？」を考えよう	物部 秀二	5月24日(月)	1	90	無料	無料	28		28	0		0	28
	朝霞	対面	再生医療の可能性 ～iPS細胞でできること～	川口 英夫	6月14日(土)	1	90	無料	無料	32		32	4		4	36
秋	白山	対面	私たちが起こす“福祉 Innovation”～実践者が創造する新しい福祉ビジネスとその価値は？～	蓮見 雅人	1月10日(土)	1	120	無料	無料	24		24	0		0	24
	白山	対面	麟祥院と井上円了—ZAZENで自己発見・自分磨き！—	長谷川 琢哉	11月8日(土)	1	90	無料	無料	20		20	25		25	45
	白山	対面	ハザードマップとマイタイムラインで災害から身を守ろう	松丸 亮	10月4日(土)	1	180	無料	無料	22		22	0		0	22
	白山	対面	東洋落語祭2025	高松亮太	12月13日(土)	1	90	無料	無料	218		218	129		129	347
	赤羽台	対面	自分史を書いてみよう	文 貞實	1月13日・1月20日(火)	2	180	無料	無料	22		22	0		0	22
	朝霞	対面	気になるけれど、あきらめてきた...大人のヨガ入門～理論と実技(基礎編)～	高橋 珠実	10月24日(金)・10月25日(土)	1	90	無料	無料	19		19	0		0	19
合計（オープン）										470	67	537	159	1	160	697

②東洋大学フィロソフィアアカデミーF／エクステンション講座A

学期	場所	形式	テーマ	講師（代表）	期間	回数	総時間数	受講料（単位：円）		受講者数						
								一般	学生	一般			学生			合計
										対面	Web	小計	対面	Web	小計	
春	白山	対面	空海『秘蔵宝鑑』を読む	竹村 牧男	5月17日～7月26日(土)	6	540	対面：9,900円	3,300円	20		20	0		0	20
	白山	ハイブリッド	在原業平生誕1200年『古今和歌集』『業平名歌』誕生の背景とその魅力	河地 修	5月12日～6月30日(月)・7月5日(土)	9	1080	対面：14,850円 Web：8,800円	対面：4,950円 Web：4,400円	19	5	24	2	0	2	26
	白山	ハイブリッド	みんなのゼミナール	森田 明	6月21日・7月12日・7月26日(土)	3	360	対面：4,950円 Web：3,300円	1,650円	13	1	14	2	0	2	16

学期	場所	形式	テーマ	講師（代表）	期間	回数	総時間数	受講料（単位：円）		受講者数						
								一般	学生	一般			学生			合計
										対面	Web	小計	対面	Web	小計	
春	白山	対面	ソーシャルワークは真に権利擁護を推進できるのか	高山 直樹	5月17日・ 5月31日・ 6月14日(土)	3	360	対面：4,950円	1,650円	12		12	1		1	13
	白山	対面	ダイバーシティ・マネジメント—リーダーシップのあり方とは—	堀本 麻由子	6月28日・ 7月5日(土)	2	240	対面：3,300円	1,100円	6		6	4		4	10
	白山	Web	東と西の自然観	渡辺 章悟	5月16日・ 5月23日・ 5月30日(金)	3	270	Web：3,300円	1,650円		8	8		0	0	8
	白山	ハイブリッド	黒船来航と幕末日本・国際社会	岩下 哲典	6月11日・ 6月18日・ 6月25日(水)	3	270	対面：4,950円 Web：3,300円	1,650円	17	6	23	1	0	1	24
	白山	対面	江戸時代の寺院と檀家	朴澤 直秀	5月29日・ 6月5日(木)	2	180	対面：3,300円	1,100円	12		12	0		0	12
	白山	対面	万葉集をよむ—東国の歌ごえ・防人歌の世界—	菊地 義裕	5月20日～ 6月24日(火)	6	540	対面：9,900円	3,300円	11		11	0		0	11
	白山	対面	薦屋重三郎と江戸文化	高松 亮太	5月10日・ 5月24日・ 5月31日(土)	3	270	対面：4,950円	1,650円	18		18	1		1	19
	白山	ハイブリッド	年金について考える	川瀬 晃弘	6月10日(火)	1	90	対面：1,650円 Web：1,100円	550円	8	6	14	0	0	0	14
	白山	対面	AI時代における音楽の盗作問題を考える	安藤 和宏	6月28日(土)	1	195	対面：4,950円	1,650円	38		38	19		19	57
	白山	対面	「生きがい」の捉え方、そして探し方	浅間 正通	6月27日・ 7月4日(金)	2	180	対面：3,300円	1,100円	9		9	0		0	9
	白山	ハイブリッド	マーケティング入門	長島 広太	6月21日(土)	1	90	対面：1,650円 Web：1,100円	550円	7	9	16	1	0	1	17
	白山	対面	植物に学ぶ 2025 ～初夏のプラントウォッチング～	金子 有子	6月7日(土)・ 6月8日(日)	2	240	対面：3,300円	1,100円	13		13	0		0	13
秋	白山	対面	空海『秘蔵宝鑑』を読む	竹村 牧男	10月11日～ 12月13日(土)	6	540	対面：9,900円	3,300円	25		25	0		0	25
	白山	ハイブリッド	日本古典の王道『古今和歌集』の謎に迫る—天皇と四季と恋—	河地 修	10月6日～ 12月15日(月)・ 10月18日(土)	9	1080	対面：14,850円 Web：8,800円	対面：4,950円 Web：4,400円	17	6	23	2	0	2	25
	白山	対面	みんなのゼミナール 新しい自分をみつけよう第6期～国際社会と日本の子ども支援～	森田 明美	12月6日・ 12月13日・ 1月24日(土)	3	360	対面：4,950円	1,650円	14		14	1		1	15
	白山	対面	ソーシャルワークは真に権利擁護を推進できるのか～反抑圧的ソーシャルワークを中心に～	高山 直樹	12月6日・ 12月20日・ 1月10日(土)	3	360	対面：4,950円	1,650円	14		14	1		1	15
	白山	対面	働く人のウェルビーイングとストレス対処	榊原 圭子	11月15日(土)	1	90	対面：1,650円	550円	10		10	0		0	10
	白山	Web	大乘仏教とは何か	渡辺 章悟	11月22日～ 12月13日(土)	4	360	Web：4,400円	Web：2,200円		13	13		0	0	13
	白山	対面	高齢家族の介護—12年間の介護から学んだこと&現代社会に欠けているもの—	中里 巧	10月18日～ 11月22日(土)	4	480	対面：6,600円	2,200円	6		6	1		1	7
	白山	ハイブリッド	幕末維新の古文書	岩下 哲典	10月15日・ 11月19日・ 12月3日(水)	3	270	対面：4,950円 Web：3,300円	1,650円	15	4	19	0	0	0	19
	白山	ハイブリッド	秀吉と秀長—織田家臣としての実像—	柴 裕之	11月22日(土)	1	90	対面：1,650円 Web：1,100円	550円	25	17	42	0	0	0	42

学期	場所	形式	テーマ	講師（代表）	期間	回数	総時間数	受講料（単位：円）		受講者数						
								一般	学生	一般			学生			合計
										対面	Web	小計	対面	Web	小計	
秋	白山	対面	万葉集講座生活を取り巻く思想—自然・信仰・文化—	菊地 義裕	10月14日～ 11月25日(火)	6	540	対面：9,900円	3,300円	10		10	0		0	10
	白山	対面	薦屋重三郎と版の黄表紙を読む	高松 亮太	10月11日・ 11月15日・ 12月20日(土)	3	270	対面：4,950円	1,650円	9		9	2		2	11
	白山	ハイブリッド	村上春樹の文学世界—短編集を読む2025	石田 仁志	10月11日・ 11月8日・ 12月20日(土)	3	270	対面：4,950円 Web：3,300円	1,650円	12	6	18	0	0	0	18
	白山	対面	大学教員が語る安心して資産形成をはじめるための金融リテラシー	山下 実若	11月8日・ 11月22日(土)	2	180	対面：3,300円	1,100円	12		12	0		0	12
	白山	対面	睡眠の基本と食事	吉崎 貴大	12月20日(土)	1	90	対面：1,650円	550円	25		25	1		1	26
	白山	ハイブリッド	マーケティング・トピックス	長島 広太	10月11日・ 10月25日(土)	2	180	対面：3,300円 Web：2,200円	1,100円		11	11		1	1	12
受講者合計										397	92	489	39	1	40	529

③災害救援ボランティア講座

学期	場所	形式	テーマ	講師（代表）	期間	回数	総時間数	受講料（単位：円）		受講者数						
								一般	学生	一般			学生			合計
										対面	Web	小計	対面	Web	小計	
秋	池袋防災館	対面	災害救援ボランティア講座	宮崎 賢哉	9月17日(水)・ 9月18日(木)	2	1,540	15,000円	10,000円	0		0	23		23	23

④文京アカデミア講座

学期	場所	形式	テーマ	講師	期間	回数	総時間数	受講料（単位：円）		受講者数						
								一般	学生	一般			学生			合計
										対面	Web	小計	対面	Web	小計	
春	文京アカデミア	対面	フランス近代美術の光と闇	増子 美穂	5月16日・ 5月23日・ 5月30日(金)	3	270	2,000円		30		30				30

2025年度 公開講座アンケート結果

2025年度春期講座総合集計結果（総合）

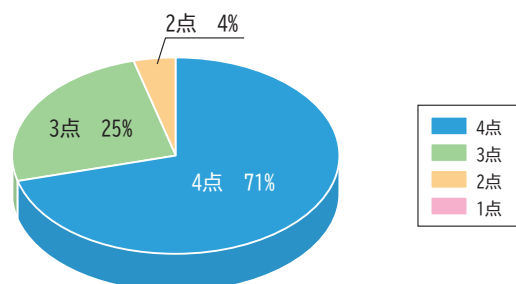
申込者数：323名

回収枚数：154枚

◎受講した講座について（【満足度等】）

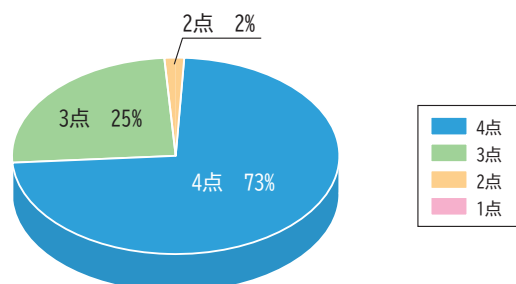
【新たな知見・発見】

4点	3点	2点	1点
109	39	6	0



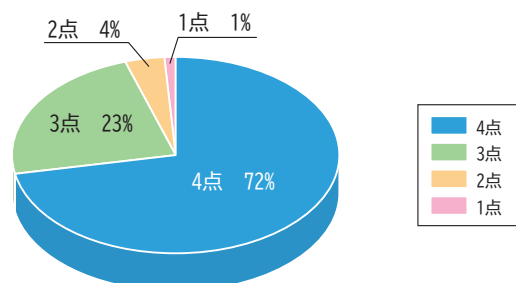
【理解度（分かり易さ）】

4点	3点	2点	1点
112	38	4	0



【満足度】

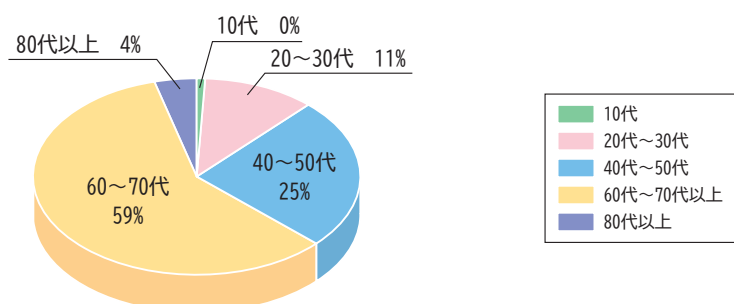
4点	3点	2点	1点
111	35	7	1



◎ご自身について

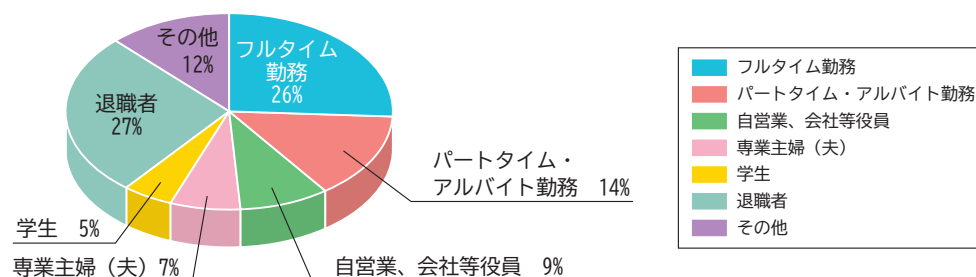
【年齢】

10代	20～30代	40～50代	60～70代	80代以上
1	17	38	91	7



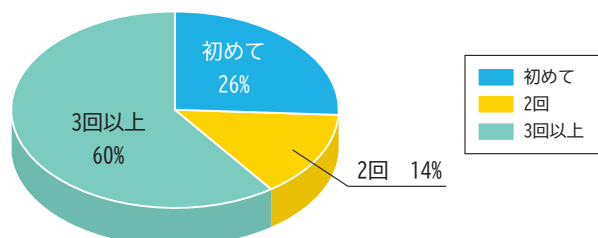
【職業】

フルタイム勤務	パートタイム・アルバイト勤務	自営業、会社等役員	専業主婦(夫)	学生	退職者	その他
40	22	14	10	8	41	19



【本学公開講座の受講経験】

初めて	2回	3回以上
40	21	93



【講座の感想等】

F1 空海『秘蔵宝鑑』を読む

- ・ 独力で原文を読む力はないので、竹村先生の講義はたいへんわかりやすく助かりました。質問にも丁寧にご回答いただき空海を読む刺激になりました。ありがとうございました。
- ・ 竹村先生の著作は何冊か読みましたが、わかりやすかったのが、実際の講義を聞くのを楽しみにしていました。退職しようやく参加できました。秘蔵宝鑑のなかでわからない部分もあることがわかり良かったです。
- ・ 題材が難しく予習して、授業を聞いても理解が不十分だが、質疑応答時間を充分にとって下さり、そのやり取りから理解が深まる事が多かった。活発な質疑により随分理解の助けになった。

F2 在原業平誕生1200年『古今和歌集』『業平名歌』誕生の背景とその魅力

- ・ 生誕1200年となる在原業平の魅力を、歴史、文化、政治、そして死生観を織り交ぜ、河地先生のウィットで味付けされた講義で、楽しく学ぶことができました。
- ・ 業平の和歌について、業平を巡る人々との関係性や時代背景を確かめつつ、古今集の詞書と伊勢物語本文中の表現を細かく検討して、業平の歌に込めた想いや編者紀貫之の意図などをより深く理解することができた。

F3 みんなのゼミナール 新しい自分を見つけよう第5期～子ども・若者の相談・支援を考えるI～

- ・ 子供支援について実践、理論共に優れた先生達の講義は非常に勉強になり刺激を受けました。次回も楽しみにしています。
- ・ 毎回、著名な先生方のお話や施設への見学、現場の声を聞くことができます。感じていたこと考えていたことを言語化していただき、大きな学びになりました。
- ・ 自身の職務において進むべき方向性の確認が出来ました。なかなか聴講できない素晴らしい先生方の講義と併せて実践現場の視察を組み入れて頂けるので具体的な取組とセットで学べ大変有意義な時間でした。

F4 ソーシャルワークは真に権利擁護を推進できるのか

- ・ 約20年実践した日々が、理論とどのように結びついているのか、学問としてどのように整理されるか、自分の中で振り返る貴重な時間となりました。
- ・ 前回に比較し参加者は少なかったですが、その分参加者同士、講師の先生ともコミュニケーションはとりやすい環境で良かったです
- ・ ソーシャルワーカーが当事者として関わるためにという知見を示していただいた。日々の実践とリンクして考える機会となった。参加者が発言をしやすく、皆で学び合ういい雰囲気がとても良かった。

F5 ダイバーシティ・マネジメントーリーダーシップのあり方とはー

- ・ 話し合いの場面で感じる自分の課題を解決するためのヒントを得ることができました。
- ・ グループワークで学生さんと一緒に考えることができ、新鮮でした。

A1 東と西の自然観

- ・ 自然観という視点で東西文化の基底にある思想的根拠について新たな学びをえることができ、感謝しています。
- ・ 仏教の教義が深掘りされてとても勉強になりました。
- ・ 宗教により自然のとらえ方が違うため、キリスト教によると自然は人間が支配するもの。仏教等によると自然は共存するもの。ここに大きな違いがあり、現在の環境問題の原点があると感じた。

A2 黒船来航と幕末日本・国際社会

- ・ 2人の教授の対談形式で質問に答えるやり方はとてもよかった、幅が広がり色々な知見が得られた
- ・ 質問に対してご丁寧な回答ありがとうございました。幕府の人事システムを含め、まだまだ、わからないことはたくさんあるんですね。
- ・ 幕末を黒船来航時の日本の情勢や諸外国との関係から知れて楽しかったです。明治の人は外国の文化を吸収するときに自分達にも出来るという前向きな姿勢で取り組んでいた事が資料からも分かって感動しました。

A3 江戸時代の寺院と檀家

- ・ 偽法令と背景の講義が素晴らしかった。
- ・ たいへん有意義な講座でした。特に、宗門檀那請合之掟に関して興味深く、また、新しい知見を得られました。ありがとうございました。
- ・ 江戸幕府の寺院対策が、キリスト教の増加を防ぐ鎖国へとつながり寺院のまとめ・管理の為の組織方法になったと理解しました。

A4 万葉集をよむ―東国の歌ごえ・防人歌の世界―

- ・ 菊地先生の講座は回数を重ねる度に、気付きとさらなる知識を得ることができる。貴重な年二回の機会です。
- ・ いつも楽しみに参加しております。新たな知見と振り返りで和歌の世界が広がるのが楽しみです。また次回の講座も心よりお待ちしております。
- ・ 防人歌は聞けわたつみの声と感情が重なります。人間は文明の発達も武器として使い、同じ過ちを繰り返している事に胸が痛みます。ペンは剣より強しの世の中になる事を願います。

A5 蔦屋重三郎と江戸文化

- ・ 蔦屋重三郎が携わった出版物を分かりやすく、大河ドラマとリンクした話題を取り入れて、楽しく受講できました。
- ・ 戯作の読み下しとあわせた説明は、たいへん分かりやすく、時代背景が目には浮かびました。ありがとうございました。
- ・ 講座の内容がとてもタイムリーでテレビ放送を理解しながら楽しむ事が出来た。政治の動きが文化や芸術に大きな影響を与えても、その時代を生きる庶民達は遅く文化を動かす力を持っていた歴史を知る講座であった。

A6 年金について考える

- ・ 最初は知ってる範囲の情報かな？ と思いましたが、後半徐々に密度が上がり有意義なものとなりました。先生の声のトーンが優しく安心して受講できました。
- ・ 講師講師のわかりやすいお話で、自分がメディアの言うことをよく考えずに、鵜呑みにしていたことに気付かされました。今までの年金、これからの年金について、とてもわかり易かったです。ありがとうございました。
- ・ 基本的小話を丁寧にわかりやすく講義いただき、たいへん有意義でした。アタマの中が整理されてたいへん満足です。先生の講義の内容と話の進め方、語りはとても理解しやすいです。

A7 AI 時代における音楽の盗作問題を考える

- ・ AI で音楽を作る方を面白く観させていただき、ありがたく存じます。そして、AI を使ってAI で作る音楽を評判するのも、初めて見ました。勉強になりました。
- ・ 元安藤ゼミ生です。年に一回の安藤先生の授業を体験させていただく機会を大変ありがたく

感じております。来年も楽しみです。

- ・著作権管理とアドバイザー業務に従事していますが、AIによる創作の進化のスピードにとても驚きました。非常に有意義な時間になりました。開催いただきありがとうございました。

A8 「生きがい」の捉え方、そして探し方

- ・浅間正通先生のお人柄、知性に変感銘を受けました。
- ・1回目はテーマを重く捉えすぎていましたが、2回目は色々な角度からのお話で、あっという間に時間が終わって、もっと聞いていたいと思うほどでした。
- ・先生のご講義の受講は2回目ですが、先生が覚えていてくださったことに感謝です。双方向、インタラクティブのワークショップ形式の方式をより取り入れても面白いと思いました。

A9 マーケティング入門

- ・大学の学部を決める上で、マーケティングを本当に学びたいか確かめたくて受講しましたが、受講してみてより興味が深まり意思を確認できて良かったです。
- ・私の大学時代から23年程が経過したが、当時のマーケティング論からのプラスアルファ部分（IT関連）部分の話を聞くことが出来た事は有意義であった。
- ・初めてマーケティングという学問に触れました。違った角度から物事を見ることができるときっかけとなり、大変興味深い講義でした。秋の講座も期待しています。

A10 植物に学ぶ 2025 ～初夏のプラントウォッチング～

- ・小石川植物園の観察について、NHKの番組に拘らず講義の内容を実際の植物を観察することによって、より理解を深める内容にした方が良いと思う。
- ・思っていたよりも内容が専門的な内容でしたが、植物に関する新たな知識を得ることが出来大変有益でした。二日目の小石川植物園散策も実際の植物を見学しながら説明を受けることが出来、有益でした。

OP1 震度7の後どう生き延びたか～輪島の被災地から～

- ・能登半島地震・豪雨災害に会われても、なお前向きに生きてこられた能登の方に敬意を表したいと思いました。講師の方が言われた防災対策にたいし、地域コミュニティの確立が大切であるということがよくわかりました。
- ・「被災地の今」を丁寧にお話しして頂けた。どこでも起こり得ることであると再認識できた。歴史や文化的な仕組みが有事に役立つのだと再認識した。
- ・被災された方々がいまだにご苦労されていることが良く分かりました。行政の対応が責任回避に重点を置いた判断になっていることが大変情けなく感じました。

OP2 『マンガ円了』から見る井上円了と東洋大学建学の理念

- ・井上円了学祖の事をマンガにした事で非常に分かりやすく理解が深まりました。是非、続編をお願いしたいです。

- ・とても興味深い講義でした。エピソードを織り交ぜながらの話は、楽しく学ばせて頂きました。井上円了のひととなりを身近に感じることができました。哲学とは、何かを少し解ったような気がします。
- ・今回の講座で円了先生の「建学の精神」がとてもよくわかりました。「哲学」を根本にした円了先生にあらためて感銘した次第です。ありがとうございました。

2025年度秋期講座総合集計結果（総合）

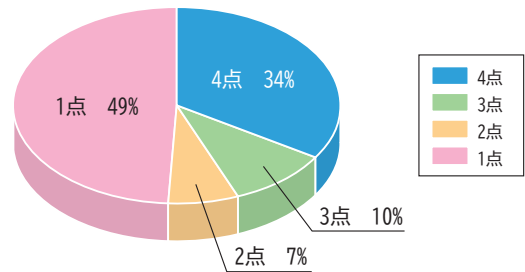
申込者数：697名

回収枚数：415枚

◎受講した講座について（満足度等）

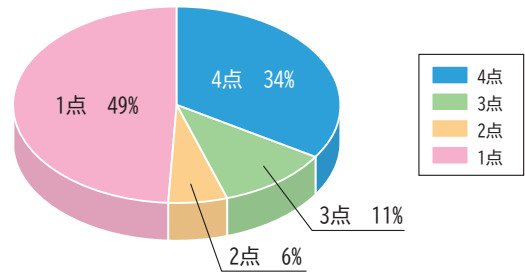
【新たな知見・発見】

4点	3点	2点	1点
128	40	27	185



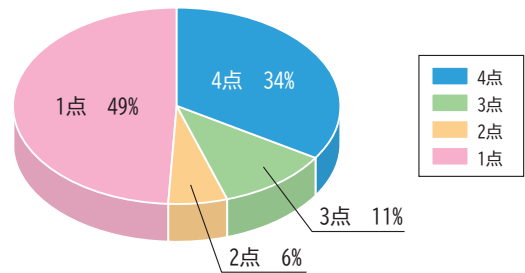
【理解度（分かり易さ）】

4点	3点	2点	1点
128	42	24	186



【満足度】

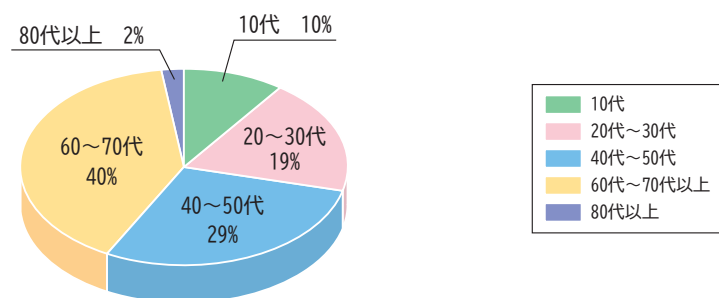
4点	3点	2点	1点
128	41	25	186



◎ご自身について

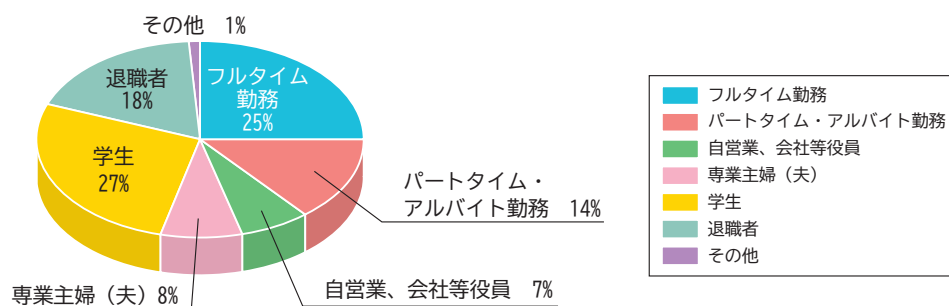
【年齢】

10代	20～30代	40～50代	60～70代	80代以上
38	78	116	163	9



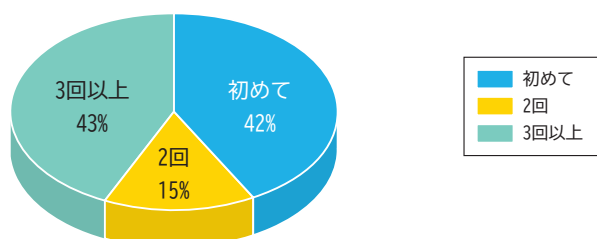
【職業】

フルタイム勤務	パートタイム・アルバイト勤務	自営業、会社等役員	専業主婦(夫)	学生	退職者	その他
102	55	26	33	109	74	5



【本学公開講座の受講経験】

初めて	2回	3回以上
171	60	171



【講座の感想等】

F1 空海『秘蔵宝鑑』を読む

- ・わかりやすい説明で目から鱗が落ちたような気がいたします。質問にも筋道立ててお答えいただき自分が何をお聞きしたかったのかわかるようなこともありました。とても刺激になる授業でした。
- ・春の前期から継続しての講義でしたが、毎回予習も含めて大変勉強になりました。曼荼羅美術館の見学も大変意義深いものでした。ありがとうございました。
- ・内容のある有意義な講義で大変感謝しております。私の浅学のため、十分に内容を理解できない部分もありましたが、この講義を機会に研鑽を深めたいと思います。

F2 日本古典の王道『古今和歌集』の謎に迫る—天皇と四季と恋—

- ・先生のお話しは毎回とても楽しく、また新しい発見も色々あり大変勉強になりました。
- ・古今和歌集の講義を通じて平安時代の貴族の生活の厳しさが分かり視野が広がった。
- ・河地先生ありがとうございました。次回も楽しみにしております。

F3 みんなのゼミナール 新しい自分をみつけよう第6期～国際社会と日本の子ども支援～

- ・講義だけでなく、日本ユニセフ協会訪問、ユニセフラオス事務所の方から直接オンラインで講演を受け、質問もできるなど本当に充実した講座でした。非常に感銘を受けました。本当にありがとうございました。
- ・初めて東洋大学の講座に参加させていただきましたが、本講座で日本と世界における子供の支援や課題、ユニセフの活動内容等について学ぶことができて大変勉強になりました。実習も貴重な経験になりました。
- ・甫水会が縁で参加しましたが、会員でなくなった後も一般参加者として引き続き講座に出席させていただきたいと思っています。貴重な学びの機会と、そのきっかけをありがとうございました。

F4 ソーシャルワークは真に権利擁護を推進できるのか～反抑圧的ソーシャルワークを中心に～

- ・様々な考え方に触れて楽しかったというのが率直な考えです。息子の受講している先生でもあり私の仕事にも有益な内容であると思い初めてこのような講座に参加しました。また機会があれば参加したいです。
- ・権利擁護、理念への接続の重要性が理解できた。対話形式の進め方で参加者同士の考えが分かり良かった。
- ・ソーシャルワークを深く掘り下げる事で、今までになかった抑圧を捉える視点という新たな発見があった。日頃の実践においても核となる考えを得ることが出来たと思います。

F5 働く人のウェルビーイングとストレス対処

- ・先生が資料を使って教えるだけでなく、参加者同士で話すことができて良かったです。
- ・とても有意義な時間を過ごさせていただきました。ストレス対処法について、また講座を開いていただきたいと思います。

F6 私たちが起こす“福祉 Innovation”～実践者が創造する新しい福祉ビジネスとその価値は？～

- ・蓮見さんの真摯な等身大の講義に感謝します。場の空気がとても心地よく、グループワークでの出会いも素敵でした。心よりありがとうございます。
- ・実際に事業を立ち上げるためのお金の事を実際に使った資料を見ながら教えて頂きありがとうございました。何よりも強い思いが必要でそれに向かって学びを深めていく事の大切さも知りました。
- ・起業について全く知識がなかったので、とても勉強になりました。何をして生きていくかを、どう選択するかについても、ヒントを得ることができました。

A1 大乘仏教とは何か

- ・最新の研究成果が理解できました。
- ・大乘仏教について分かりました。

- ・大乘仏教について、発祥の地や展開などの歴史的背景を学ぶことができ、大乘仏教の全体像を捉えることができた。また、パワポを使用した講義資料も見やすく大変参考になりました。

A2 高齢家族の介護—12年間の介護から学んだこと&現代社会に欠けているもの—

- ・日程的に全てに参加することは出来ませんでしたが、資料等も含め分かり易くお話下さり、初めて知る事や考えるキッカケをたくさん頂きました。ありがとうございます。
- ・四回目、「死」に関する哲学的な考察は、面白かったです。

A3 幕末維新の古文書

- ・毎回新たな知見と、楽しいお話し、ありがとうございます。来年度も楽しみにしています。
- ・歴史の新たな一面を知ることができ、大変勉強になり興味深く受講することができました。
- ・古文書を読み解くだけでなく古文書に記された歴史を動かした背景を解くことが新たな知識となった。

A4 秀吉と秀長—織田家臣としての実像—

- ・秀長の幼少期の名前のことなど、今までの認識とは違うことを知ることが出来たりして、興味深く講義をきくことが出来ました。
- ・豊臣秀長については、来年のNHK大河ドラマの主人公であり、タイムリーな内容であったと思います。秀長については知らないことが多かったので、良い講義であったと思います。ありがとうございます。
- ・芝先生のお話は大変分かりやすく、良かったです。秀長のことはあまり研究されてないとのことで、今後の講座も期待します。
- ・柴先生のお話は、いつもとてもわかりやすく、もっといろいろ知りたい、と思わせる講義でした。次回も楽しみにしています。
- ・秀吉の弟である秀長の出生からの生い立ちがよくわかった。資料として添付された羽柴家家系図と天正9年の羽柴領国と周辺の地図が役に立ちました。

A5 万葉集講座 生活を取り巻く思想—自然・信仰・文化—

- ・菊地先生の講義は素晴らしいといつも感じます。きちんとした資料と、深い知識の元90分があっという間に過ぎてしまいます。ありがとうございます。
- ・万葉集の歌の理解だけでなく、政治的背景や文化的背景、当時の人の言葉や暮らし、全てが繋がって想いを馳せる事が出来る菊地先生の解説にいつも感無量です。貴重な授業を誠にありがとうございます。
- ・回を重ねるたびに知識が深まる。今回も万葉に歌われる言葉内容を、また違う観点でとらえることを学んだ。

A6 蔦屋重三郎と版の黄表紙を読む

- ・黄表紙がこれほど面白いとは知りませんでした。先生のお話しもたいへんわかりやすく、楽しい講座でした。

- ・先生のお話しが分かりやすく、楽しく学ぶことができました。当時の文化や背景を知ること
で理解が深まりました。ありがとうございました。
- ・黄表紙の解説が解りやすく古地図で場所も示されて、江戸における庶民が書物を愉しみ江戸
文化を創り上げて行った事が良く理解できた。

A7 村上春樹の文学世界—短編集を読む2025

- ・村上春樹作品についての考察をじっくり聞く方ができて、とても興味深く楽しかったです。
ありがとうございました。
- ・今まで短編集の配列、登場人物の夢についてあまり意識して読んでいませんでしたが、意識
するようになり、より面白く感じました。
- ・先生とディスカッションする機会が多くあり、色々な知見を得ることができ、とても満足し
ています。可能であれば、受講できない際は、アーカイブで見ることが出来るようにしてい
ただきたいと思います。

A8 大学教員が語る安心して資産形成をはじめるための金融リテラシー

- ・資産形成について、大学の先生から安心して、体系的に学ぶことが出来ました。
- ・イーロン・マスク氏についてビル&メリンダ・ゲイツ財団との比較で質問させていただきま
した。格差の拡大と階級差が社会問題であり、その解決の手法とともに「市場の道徳的限界」
を問い続けたいと考えます。

A9 睡眠の基本と食事

- ・年代別の状況やどのように対応すべきかを説明いただき参考になるとともに、日頃疑問に
思っていることも解消された
- ・睡眠の基本に関していろいろな研究結果をまとめた形でご説明いただけてとても参考になり
ました。大人の場合7-9時間の睡眠が推奨されるというデータも教えていただけましたの
で自分の生活に役立てたいと思います。
- ・分かりやすい内容で、聞きやすかったです。良い睡眠をとるための工夫も知ることができ、
今後の生活に役立てたいと思います。

A10 マーケティング・トピックス

- ・マーケティングと広告について、歴史や現代の会社の事例を交えながら、説明していただい
たため、とても理解がしやすい講座でした。ありがとうございました。
- ・マーケティング、宣伝について基本的な知識を整理して教えて頂けて面白かったです。メディ
ア4媒体の合計の宣伝費よりインターネット宣伝費の方が既に巨額になっているということ
も驚きでした。

OP1 麟祥院と井上円了—ZAZENで自己発見・自分磨き！—

- ・長谷川先生の講義が非常に分かりやすく、また参加したいです。
- ・普段体験できないことに接することができ新鮮な気持ちになりました。

- ・麟祥院という東洋大学の原点とも言える場所で、学びを深めることができ、非常にいい経験ができました。とてもわかりやすく、楽しかったです。
- ・井上円了の哲学教育への熱意を感じた。挑戦と発見は、物事の本質を見極め、諦めずに探究するために必要な礎となることを学ぶことができた。

OP2 ハザードマップとマイタイムラインで災害から身を守ろう

- ・実際にネットを使っただけの作業はリアルで良かったです。災害は世界を左右されるということも理解できて良かったです。
- ・改めて、ハザードマップを確認して災害に備えて何をする準備するかを考える機会になりました。学問として聞いたのも興味深かったです。話しやすい雰囲気に参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・タイムラインをつくる、ということを実習出来たことがたいへん役に立ったと満足しております。ありがとうございました。この続きの講座も企画ください。

東洋落語祭2025

- ・初めて落語や曲芸を生で見たのですごく面白かった。1人で座りながら話しているのに、情景が想像できて笑えるのがプロの技だと感じました。
- ・話の導入がすごく自然で面白かった。落語を久々に聞いたのですが、とても面白かったです。曲芸を初めて見ました。湯のみ回すの凄かったです。個人的には、大学の先輩方の話があった面白かったなと思いました。
- ・初めて落語を観ましたが、率直にとっても面白かったです。話の内容で、とても抜けている人が出てきたりして、クスッと笑えるようなものが多くて、また観たいなと思いました。良い体験になりました。

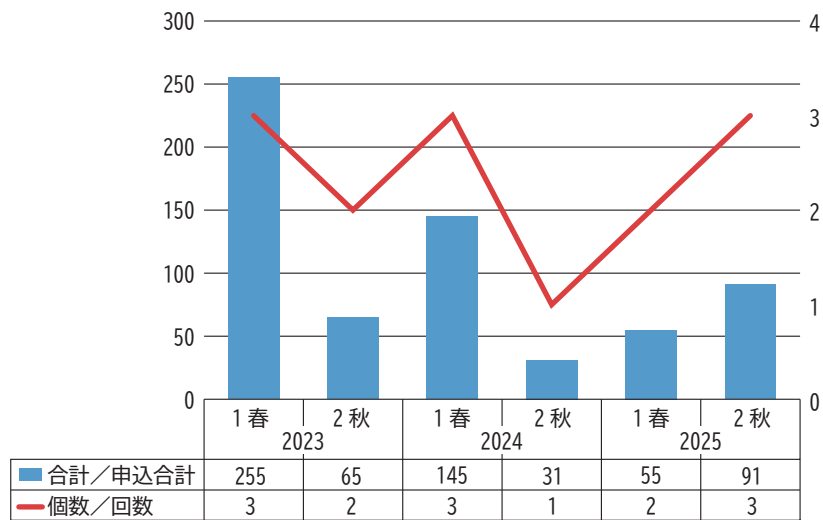
過去 3 年間の受講者数

オープン講座（無料リカレント講座含む）／2023年～2025年

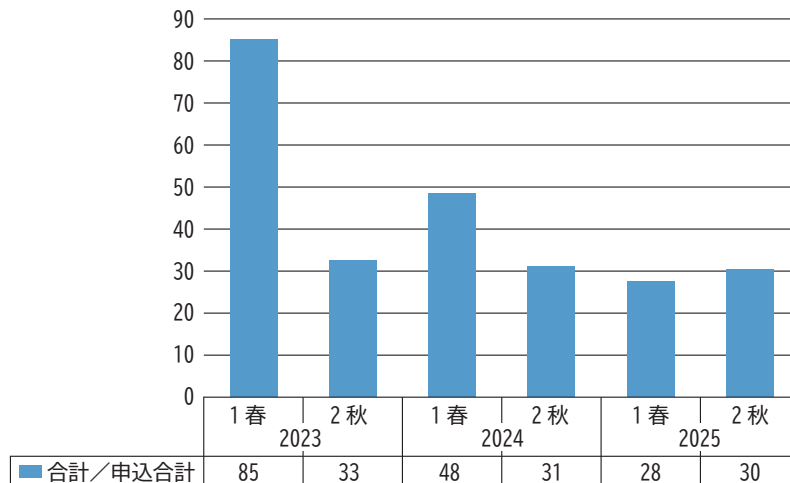
※白山は、学生に教員等関係者を含む。学生は授業振替も含む。
※白山以外は、一般に学生を含める。

※白山は、学生に教員等関係者を含む。学生は授業振替も含む。 ※白山以外は、一般に学生を含める。									申込者数						
									一般			学生			計
年度	期	形式	会場	テーマ（一部省略有）	主な講師 公演者等	講師等 人数 (団体数)	回数	総時間 (分)	一般 /対面	一般 /web	一般 計	学生 /対面	学生 /Web	学生 計	申込 合計
2023	春	ハイブリッド	白山	ドナルド・キーンの研究を学ぶ ～蔵書整理・調査プロジェクトから～	石田 仁志 他	4	3	270	23	8	31	5	1	6	37名
		ハイブリッド	白山	ウクライナ侵攻と EU 気候変動・エネルギー 政策	市川 颯	1	1	90	47	48	95	3	1	4	99名
		ハイブリッド	白山	井上円了の妖怪学―迷う心と向き合う―	長谷川琢哉	1	2	180	48	68	116	1	2	3	119名
		ハイブリッド	赤羽台	現代住宅の現実と可能性	内田 祥士	1	2	180	62	54	116	0	0	0	116名
		ハイブリッド	川越	日本の都市と庭園鑑賞～京都の庭園を愉しむ ～	神山 藍	1	1	90	19	34	53	0	0	0	53名
		ハイブリッド	板倉	『伊勢物語』『源氏物語』の魅力とは ～その「深き心」を探る	河地 修	1	1	120	10	129	139	0	0	0	139名
	秋	対面	白山	麟祥院と井上円了―ZAZEN で自己発見・自分 磨き！―	岩下 哲典	1	1	270	20	0	20	0	0	0	20名
		ハイブリッド	白山	ハザードマップとマイタイムラインで災害から 身を守ろう	松丸 亮	1	1	180	27	18	45	0	0	0	45名
		対面	赤羽台	健康づくりはまちづくりから	齊藤 恭平	1	1	90	21	0	21	1	0	1	22名
2024	春	ハイブリッド	白山	井上円了の哲学と仏教	竹村 牧男	1	2	180	47	43	90	1	2	3	93名
		ハイブリッド	白山	救急医療関連情報の連携の現況と課題： IT 活用による医工連携が創る近未来	森村 尚登	1	1	90	13	10	23	1	1	2	25名
		対面	赤羽台	ビタミンC―なぜ摂るべきなのか？―	佐藤 綾美	1	1	90	57	0	57	0	0	0	57名
		ハイブリッド	川越	ナノスケールのエレクトロニクス	根岸 良太	1	1	90	0	13	13	0	0	0	13名
		対面	白山	麟祥院と井上円了	長谷川 琢哉	1	1	90	27	0	27	0	0	0	27名
	秋	対面	白山	これからの災害復興を考える	松丸 亮	1	2	90	31	0	31	0	0	0	31名
		対面	赤羽台	自分史を書いてみよう	文 貞實	1	2	180	31	0	31	0	0	0	31名
		ハイブリッド	赤羽台	和辻哲郎の「奈良」・林屋辰三郎の「京都」・ 加藤周一の「東京」	内田 祥士	1	3	270	36	45	81	0	0	0	81名
		対面	朝霞	変化を愉しむマインドフルネスヨガ	高橋 珠実	1	1	90	24	0	24	0	0	0	24名
2025	春	ハイブリッド	白山	震度7の後どう生き延びたか～輪島の被災地 から～	能門 亜由子	1	1	90	0	29	29	0	1	1	30名
		対面	白山	『マンガ円了』から見る井上円了と東洋大学 建学の理念	長谷川 琢哉	1	1	180	24	0	24	1	0	1	25名
		対面	赤羽台	自分史を書いてみよう	文 貞實	1	2	180	27	0	27	0	0	0	27名
		ハイブリッド	赤羽	これならわかる！介護保険制度 ～2025年問題・2040年問題を踏まえて～	高野 龍昭	1	1	120	34	38	72	0	0	0	72名
		対面	川越	「波とは何か？」を考えよう	物部 秀二	1	1	90	28	0	28	0	0	0	28名
		対面	朝霞	再生医療の可能性 ～iPS 細胞でできること ～	川口 英夫	1	1	90	32	0	32	4	0	4	36名
	秋	対面	白山	私たちが起こす“福祉 Innovation” ～実践者が創造する新しい福祉ビジネスとそ の価値は？～	蓮見 雅人	1	1	120	24	0	24	0	0	0	24名
		対面	白山	麟祥院と井上円了―ZAZEN で自己発見・自分 磨き！―	長谷川 琢哉	1	1	90	20	0	20	25	0	25	45名
		対面	白山	ハザードマップとマイタイムラインで災害から 身を守ろう	松丸 亮	2	1	180	22	0	22	0	0	0	22名
		対面	赤羽台	自分史を書いてみよう	文 貞實	1	2	180	22	0	22	0	0	0	22名
		対面	朝霞	気になるけれど、あきらめてきた．．． 大人のヨガ入門～理論と実技（基礎編）～	高橋 珠実	1	1	90	19	0	19	0	0	0	19名

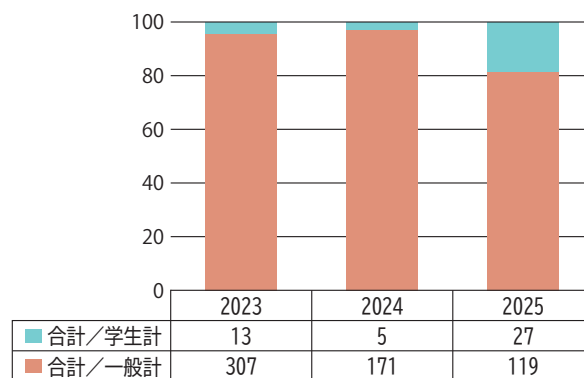
申込者数／開講数（白山オープン講座）



平均申込者数
（白山オープン／授業振替含む）



申込者内訳（白山オープン講座）

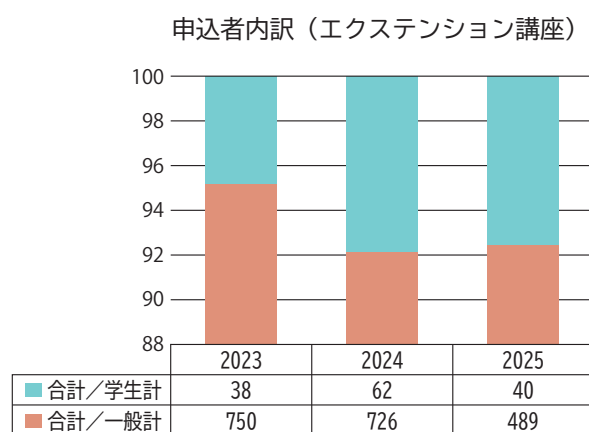
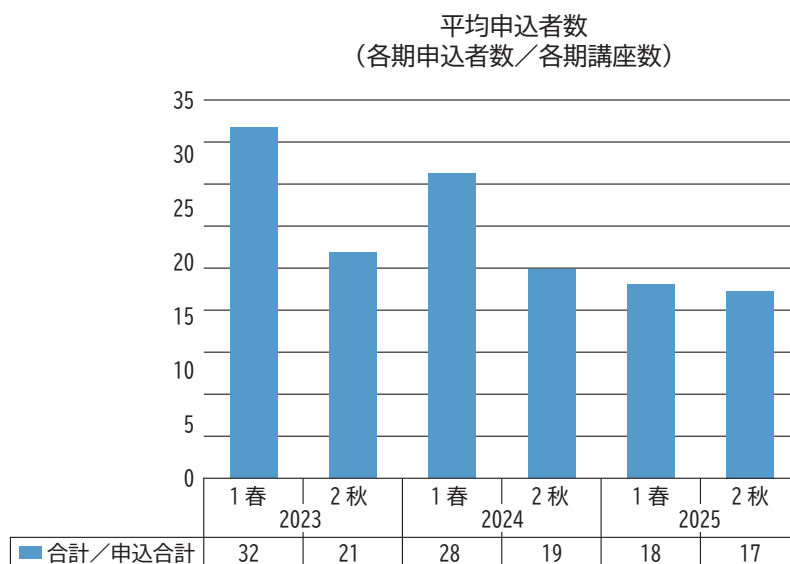
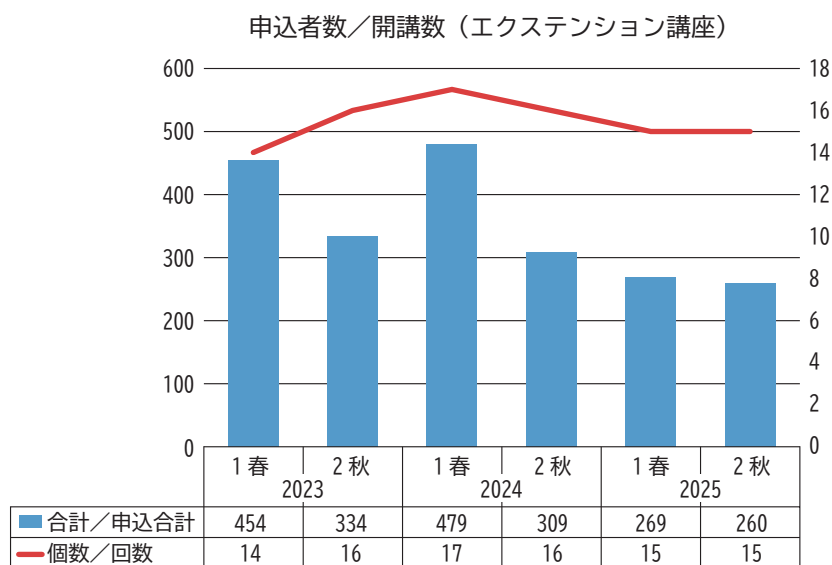


エクステンション講座・東洋大学フィロソフィアカデミー／2023年～2025年

※中止講座は未掲載							申込者数						
							一般			学生			計
年度	期	形式	テーマ（一部省略有）	主な講師	回数	総時間 （分）	一般 /対面	一般 /web	一般 計	学生 /対面	学生 /Web	学生 計	申込 合計
2023	春	Web	大乘仏教とは何か―その成立と展開―	渡辺 章悟	3	270分	0	16	16	0	0	0	16名
		ハイブリッド	良寛の『法華経』観	竹村 牧男	3	270分	29	19	48	0	1	1	49名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書を読む・知る	岩下 哲典	3	270分	11	10	21	1	1	2	23名
		ハイブリッド	江戸時代の徒歩旅行	谷釜 尋徳	2	180分	26	11	37	2	1	3	40名
		ハイブリッド	徳川家康と「信康・築山殿事件」	柴 裕之	1	90分	30	20	50	1	1	2	52名
		ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読む ―「手習」巻～浮舟は生きていた！	河地 修	8	960分	13	8	21	0	3	3	24名
		ハイブリッド	江戸時代の二次創作 ～古典のパロディに触れる～	高松 亮太	2	180分	8	1	9	2	1	3	12名
		対面	福祉社会システム専攻シリーズ： 介護保険制度の賢い使い方2023版	須田 木綿子	1	90分	20	0	20	0	0	0	20名
		ハイブリッド	老後資金について考える	川瀬 晃弘	1	90分	16	7	23	1	0	1	24名
		ハイブリッド	「終活」最前線	井上 治代	1	90分	20	6	26	1	0	1	27名
		ハイブリッド	動物園の生き物をめぐる歴史秘話： キリンを初めてみた日本人は誰？	郡司 芽久	1	120分	54	11	65	0	0	0	65名
		ハイブリッド	簿記の世界に飛び込もう ～日商簿記初級にチャレンジ～	坂巻 仁志	7	630分	7	7	14	1	0	1	15名
		ハイブリッド	最新の介護福祉実践とケアマネジメント ～認知症ケアと自立支援～	古川 和稔	2	180分	20	45	65	1	0	1	66名
		ハイブリッド	みんなのゼミナール、子どもにかかわり新しい自分をみつけよう	森田 明美	3	270分	18	3	21	0	0	0	21名
	秋	Web	大乘仏教をめぐる諸問題	渡辺 章悟	3	270分	0	17	17	0	1	1	18名
		ハイブリッド	良寛の仏教	竹村 牧男	3	270分	19	19	38	1	0	1	39名
		対面	神と悪魔―ヨーロッパと日本の倫理観を霊性から垣間見る―	中里 巧	5	600分	7	0	7	1	0	1	8名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書を読む・知る	岩下 哲典	3	270分	13	8	21	3	1	4	25名
		対面	東アジアと『三国志演義』	白井 順	2	180分	9	0	9	1	0	1	10名
		ハイブリッド	斎藤道三と下剋上	木下 聡	1	90分	8	4	12	0	1	1	13名
		ハイブリッド	徳川家康―江戸開幕への道程とその「実像」―	柴 裕之	1	90分	20	9	29	0	0	0	29名
		ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読む―「手習」「夢の浮橋」巻 ～浮舟はどこへゆくのか？	河地 修	8	960分	21	5	26	2	2	4	30名
		ハイブリッド	村上春樹の文学世界―長編小説を読む2023―	石田 仁志	3	270分	11	10	21	0	0	0	21名
		ハイブリッド	ストレス反応と自律神経 ―脳科学から見た正体と対処法―	堀内 城司	1	90分	18	7	25	0	0	0	25名
		ハイブリッド	絵画鑑賞入門：グランドツアーと風景画の旅	増子 美穂	2	180分	7	3	10	0	0	0	10名
		ハイブリッド	高経年マンションの価値向上にむけて～具体的な事例をもとに	秋山 哲一	2	180分	8	6	14	0	0	0	14名
		ハイブリッド	植物、その驚きの能力！―知られざる植物の世界―	金子 有子	1	120分	20	6	26	1	1	2	28名
		対面	クリエイティブ分野のためのデザイン思考	柏樹 良	2	240分	9	0	9	1	0	1	10名
ハイブリッド	マーケティング入門	長島 広太	1	90分	21	4	25	0	0	0	25名		
ハイブリッド	みんなのゼミナール 新しい自分をみつけよう ～子ども・若者に寄り添う支援を考える～	森田 明美	3	270分	12	13	25	2	2	4	29名		
2024	春	対面	日本仏教入門―井上元了『日本仏教』講読	竹村 牧男	6	540分	13	0	13	1	0	1	14名
		ハイブリッド	二人の女房は何を書き残したのか―『枕草子』と『源氏物語』	河地 修	9	810分	23	8	31	2	0	2	33名
		ハイブリッド	みんなのゼミナール 新しい自分を見つけよう第3期 ～こどももまんなか社会をつくる子ども・若者支援～	森田 明美	3	270分	18	2	20	1	0	1	21名
		ハイブリッド	ソーシャルワークにおける権利擁護を考える	高山 直樹	4	360分	16	14	30	1	1	2	32名
		ハイブリッド	福祉実践最前線：自立支援とリハビリテーション、「ケアの本質 生きることの意味」から学ぶ～福祉専門職が知っておくべき ケアとは～	古川 和稔 八木 裕子	4	360分	10	19	29	0	0	0	29名

							申込者数						
							一般			学生			計
年度	期	形式	テーマ（一部省略有）	主な講師	回数	総時間 (分)	一般 /対面	一般 /web	一般 計	学生 /対面	学生 /Web	学生 計	申込 合計
2024	春	対面	わたしの起業プロデュース人生 ～サザコーヒーはどうブランド力を確立したか～	鈴木 誉志男	1	90分	39	0	39	1	0	1	40名
		Web	仏教的心の探求 ～仏教は心をどのように捉えたのか～	渡辺 章悟	3	270分	0	15	15	0	0	0	15名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書	岩下 哲典	3	270分	16	8	24	0	0	0	24名
		ハイブリッド	織田信長―“戦国の天下人”の実像―	柴 裕之	1	90分	23	8	31	0	0	0	31名
		対面	万葉集講座―万葉の歌・生活・文化―	菊地 義裕	6	540分	19	0	19	2	0	2	21名
		対面	植物に学ぶ 2024 ～初夏のプラントウォッチング～	金子 有子	2	180分	12	0	12	1	0	1	13名
		対面	介護保険制度の賢い使い方：2024年度版	須田 木綿子	1	90分	20	0	20	0	0	0	20名
		ハイブリッド	自宅でも出来る運動で健康づくり	神野 宏司	1	90分	0	9	9	0	0	0	9名
		対面	アーティスト・マネージメントの将来像	安藤 和宏	3	270分	29	0	29	42	0	42	71名
		ハイブリッド	失速する中国経済の行方：持続的成長は可能か？	郝 仁平	1	90分	22	8	30	0	0	0	30名
		ハイブリッド	マーケティング入門	長島 広太	1	90分	20	10	30	0	0	0	30名
		ハイブリッド	キリンのツノは何センチ？ ～身近なもので知るキリンの大きさ～	郡司 芽久	1	90分	33	11	46	0	0	0	46名
	秋	対面	日本仏教入門―井上元了『日本仏教』講読	竹村 牧男	5	450分	20	0	20	0	0	0	20名
		ハイブリッド	『源氏物語』の「巻名」の奥深さ～紫式部の思索を探究する～	河地 修	9	810分	19	7	26	3	0	3	29名
		ハイブリッド	みんなのゼミナール 新しい自分を見つけよう第4期 ～こどもまんなか社会をつくる子ども・若者支援（2）～	森田 明美	3	270分	14	5	19	0	0	0	19名
		ハイブリッド	「ソーシャルワークと権利擁護」～当事者とは何かを改めて考える～	高山 直樹	4	360分	16	5	21	1	1	2	23名
		対面	ダイバシティ・マネジメント―リーダーシップのあり方とは―	堀本 麻由子	2	180分	12	0	12	0	0	0	12名
		対面	遠山の地で生まれた地酒を未来へ！	新里 佳子	1	90分	39	0	39	0	0	0	39名
		Web	大乘仏教入門 ～空の思想～	渡辺 章悟	3	270分	0	23	23	0	2	2	25名
		対面	ミヒャエル＝エンデのファンタジーと日本の童話	中里 巧	4	360分	8	0	8	0	0	0	8名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書	岩下 哲典	3	270分	14	12	26	0	0	0	26名
		ハイブリッド	藤原道長と平安貴族社会	上村 正裕	2	180分	19	6	25	0	0	0	25名
		対面	万葉集講座―万葉の歌・生活・文化―	菊地 義裕	6	540分	12	0	12	0	0	0	12名
		ハイブリッド	村上春樹の文学世界―長編小説を読む2024	石田 仁志	3	270分	9	13	22	1	0	1	23名
		対面	遥かなる唐の調べに魅せられて ～音読で中国の名詩人たちと旅する時間～	大野 公賀	2	180分	9	0	9	0	0	0	9名
		Web	ウクライナ戦争を隣国から見る	市川 顕	2	180分	0	11	11	0	0	0	11名
		ハイブリッド	マーケティング・トピックス	長島 広太	2	180分	10	5	15	1	0	1	16名
		対面	介護保険制度の賢い使い方：2024年度版	須田 木綿子	1	90分	11	0	11	1	0	1	12名
2025	春	対面	空海『秘蔵宝鑑』を読む	竹村 牧男	6	540分	20	0	20	0	0	0	20名
		ハイブリッド	在原業平生誕1200年 『古今和歌集』『業平名歌』誕生の背景とその魅力	河地 修	9	1080分	19	5	24	2	0	2	26名
		ハイブリッド	みんなのゼミナール	森田 明	3	360分	13	1	14	2	0	2	16名
		対面	ソーシャルワークは真に権利擁護を推進できるのか	高山 直樹	3	360分	12	0	12	1	0	1	13名
		対面	ダイバシティ・マネジメント―リーダーシップのあり方とは―	堀本 麻由子	2	240分	6	0	6	4	0	4	10名
		Web	東と西の自然観	渡辺 章悟	3	270分	0	8	8	0	0	0	8名
		ハイブリッド	黒船来航と幕末日本・国際社会	岩下 哲典	3	270分	17	6	23	1	0	1	24名
		対面	江戸時代の寺院と檀家	朴澤 直秀	2	180分	12	0	12	0	0	0	12名
		対面	万葉集をよむ―東国の歌ごえ・防人歌の世界―	菊地 義裕	6	540分	11	0	11	0	0	0	11名
		対面	薦屋重三郎と江戸文化	高松 亮太	3	270分	18	0	18	1	0	1	19名
		ハイブリッド	年金について考える	川瀬 晃弘	1	90分	8	6	14	0	0	0	14名

							申込者数						
							一般			学生			計
年度	期	形式	テーマ（一部省略有）	主な講師	回数	総時間 (分)	一般 /対面	一般 /web	一般 計	学生 /対面	学生 /Web	学生 計	申込 合計
2025	春	対面	AI 時代における音楽の盗作問題を考える	安藤 和宏	1	195分	38	0	38	19	0	19	57名
		対面	「生きがい」の捉え方、そして探し方	浅間 正通	2	180分	9	0	9	0	0	0	9名
		ハイブリッド	マーケティング入門	長島 広太	1	90分	7	9	16	1	0	1	17名
		対面	植物に学ぶ 2025 ～初夏のプラントウォッチング～	金子 有子	2	240分	13	0	13	0	0	0	13名
	秋	対面	空海『秘蔵宝鑑』を読む	竹村 牧男	6	540分	25	0	25	0	0	0	25名
		ハイブリッド	日本古典の王道『古今和歌集』の謎に迫る —天皇と四季と恋—	河地 修	9	1080分	17	6	23	2	0	2	25名
		対面	みんなのゼミナール 新しい自分をみつけよう第6期 ～国際社会と日本の子ども支援～	森田 明美	3	360分	14	0	14	1	0	1	15名
		対面	ソーシャルワークは真に権利擁護を推進できるのか ～反抑圧的ソーシャルワークを中心に～	高山 直樹	3	360分	14	0	14	1	0	1	15名
		対面	働く人のウェルビーイングとストレス対処	榊原 圭子	1	90分	10	0	10	0	0	0	10名
		Web	大乗仏教とは何か	渡辺 章悟	4	360分	0	13	13	0	0	0	13名
		対面	高齢家族の介護 —12年間の介護から学んだこと&現代社会に欠けているもの—	中里 巧	4	480分	6	0	6	1	0	1	7名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書	岩下 哲典	3	270分	15	4	19	0	0	0	19名
		ハイブリッド	秀吉と秀長—織田家臣としての実像—	柴 裕之	1	90分	25	17	42	0	0	0	42名
		対面	万葉集講座生活を取り巻く思想—自然・信仰・文化—	菊地 義裕	6	540分	10	0	10	0	0	0	10名
		対面	薦屋重三郎と版の黄表紙を読む	高松 亮太	3	270分	9	0	9	2	0	2	11名
		ハイブリッド	村上春樹の文学世界—短編集を読む2025	石田 仁志	3	270分	12	6	18	0	0	0	18名
		対面	大学教員が語る安心して資産形成をはじめるための金融リテラシー	山下 実若	2	180分	12	0	12	0	0	0	12名
		対面	睡眠の基本と食事	吉崎 貴大	1	90分	25	0	25	1	0	1	26名
		Web	マーケティング・トピックス	長島 広太	2	180分	0	11	11	0	1	1	12名



文化講演等／2023年～2025年

年度	期	形式	会場	テーマ	主な講師・出演者等	講師人数	回数	総時間(分)	申込者数						
									一般			学生			計
									一般/対面	一般/web	一般計	学生/対面	学生/Web	学生計	申込合計
2023	秋			オレンジ・ランプ映画上映	八木 裕子	1	1	150分	107	—	107	192	—	192	299名
2024	秋			凧が灯るころ～奥能登、珠洲の記憶～映画上映	高山 直樹	1	1	150分	127	—	127	13	—	13	140名
2025	秋			東洋落語祭2025	高松 亮太	4	1	90分	218	—	218	129	—	129	347名

文京アカデミア講座／2022年～2024年

年度	期	形式	会場	テーマ	講師	回数	総時間(分)	申込者数
2022	前	対面	白山	異文化からみた「思いやり」	浅間 正通	3	270分	21名
	前		白山	世界と日本の震災と子どもたち	小野 道子	1	90分	29名
	後		アカデミー文京	夢と睡眠の心理学 基礎編	松田 英子	3	270分	30名
2023	前	対面	アカデミー文京	人間と自然～理科の視点から国語教材を考える～	大辻 永	3	270分	17名
	後	—	—	実施なし	—	—	—	—
2024	前	対面	アカデミー文京	「香害」について考える	川瀬 晃弘	3	270名	15名
	後	—	—	実施なし	—	—	—	—
2024	前	対面	アカデミー文京	フランス近代美術の光と闇	増子 美穂	3	270名	30名
	後	—	—	実施なし	—	—	—	—

*受講者アンケートについては「アンケート集計結果」参照



東洋大学フィロソフィアカデミー

F5 ダイバーシティ・マネジメント

ーリーダーシップのあり方とはー

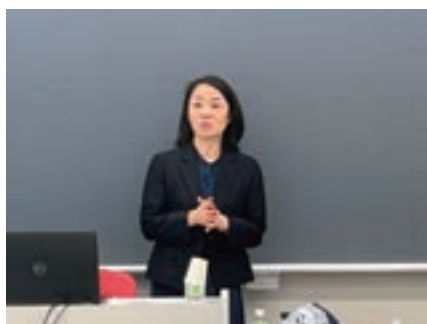
日 時：2025年6月28日(土)・7月5日(土) 10:00～12:00(120分)

講 師：堀本 麻由子(東洋大学文学部教授)

受講者数：10名

【講座の目標】

- ① 自分自身のリーダーシップの課題を明確にすることができます。
- ② 誰もが活躍できる職場環境構築のためのリーダーとしてのコミュニケーションのあり方を学ぶことができます。



白山オープン講座 2

0P2 『マンガ円了』から見る井上円了と東洋大学建学の理念

日 時：2025年5月27日(火)・6月3日(火) 10:30～12:00(90分)

講 師：長谷川 琢哉(東洋大学法学部教授)

受講者数：25名

【講座の目標】

東洋大学では、創立者の井上円了の人生と東洋大学（哲学館）の創立について1冊の漫画にまとめました。講座では「マンガ円了」から井上円了と東洋大学建学の理念について解説します。



エクステンション講座 A

A2 黒船来航と幕末日本・国際社会

日 時：2025年6月11日(水)・6月18日(水)・6月25日(水) 10:40~12:10(90分)

講 師：岩下 哲典(東洋大学文学部教授)

加藤 祐三(元横浜市立大学学長・名誉教授)

受講者数：24名

[講座の目標]

幕末維新期のはじまり黒船来航と日本と国際社会の関係を考えます。





エクステンション講座 A

A10 植物に学ぶ 2025～初夏のプラントウォッチング～

日 時：2025年6月7日(土)・6月8日(日) 10:00～12:00(120分)

講 師：金子 有子(東洋大学文学部教授)

受講者数：12名

【講座の目標】

- 1 日目は、植物がより多くの子孫を残すことにつながる繁殖戦略について知識を深めます。
- 2 日目は初夏の小石川植物園で、アンパンマンの作者、やなせたかしさんが、一番好きだったというホオノキを見つけましょう。



東洋大学フィロソフィア アカデミー

F1 空海『秘蔵宝鑑』を読む

日 時：2025年10月11日(土)・10月25日(土)・11月8日(土)・11月22日(土)・
11月29日(土)・12月13日(土) 10:30～12:00(90分)

講 師：竹村 牧男(東洋大学名誉教授)

受講者数：25名

【講座の目標】

空海の『秘蔵宝鑑』を読むことにより、各宗派等の仏教思想の内容を理解し、また空海が考える顕教から密教への道筋を理解することを目標とします。合せて人間存在にはさまざまな境涯があることへの理解も深めます。



エクステンション講座 A

A4 秀吉と秀長

—織田家臣としての実像—

日 時：2025年11月22日(土) 14:00～15:30(90分)

講 師：柴 裕之(東洋大学文学部非常勤講師)

受講者数：42名

【講座の目標】

2026年 NHK 大河ドラマの主人公である羽柴（豊臣）秀長について、兄秀吉の出世とともに織田信長に仕え、どのような立場にあったのか、そして本能寺の変が起こるまでどのような活躍したのかを見ていきます。





白山オープン講座

0P2 ハザードマップとマイタイムラインで災害から身を守ろう

日 時：2025年10月4日(土) 10:00～13:00

講 師：松丸 亮(東洋大学国際学部教授・学部長・国際強制社会研究センター長)
飯田 進史

(パシフィックコンサルタンツ株式会社 防災事業部 流域防災事業室 室長)

受講者数：22名

【講座の目標】

日本ではどこにいても自然災害の被害を行ける可能性があります。本講座では、ハザードマップを正しく理解すること、ハザードマップを利用してマイタイムラインを作ること、災害から身を守る力を高めていきます。



文化公演

東洋落語祭2025

日 時：2025年12月13日(土) 14:45～16:15(90分)

講 師：高松 亮太(文学部教授)

受講者数：347名

【講座の目標】

日本の伝統文化を知るための一環として、我が国の伝統文化である「落語」の実演を見聞して、伝統文化を体験し、理解を深める。



資格講座

2025年度 資格講座

								受講料 (テキスト代含む)		受講者数			
	期	講座名	開講地	委託会社	期間	回数	延べ 時間数	学生／ 卒業生	一般	学生	卒業 生	一般	計
1	春	宅地建物取引士講座	対面	TAC	2025年 5月24日～2025年 10月11日	45	135H	¥64,600	¥76,120	25	3	2	30
2	通年	FP技能検定3級対策講座	オンデ マンド	クレアール	開始日～6ヶ月間	－	24H	¥8,000	¥9,600	38	6	7	51
3	通年	FP技能検定2級対策講座	オンデ マンド	クレアール	開始日～6ヶ月間	－	36H	¥31,000	¥37,200	5	1	0	6
4	通年	ITパスポート試験 対策講座	オンデ マンド	LEC	開始日～2026年 6月30日	－	40H	¥11,840	¥13,840	32	6	0	38
5	通年	情報セキュリティマ ネジメント試験対策 講座	オンデ マンド	LEC	開始日～365日間	－	30H	¥17,600	¥20,300	1	0	0	1
6	通年	基本情報技術者試験 対策講座	オンデ マンド	ネットラー ニング	開始日～6ヶ月 (+閲覧期間6ヶ月)	－	135H	¥33,440	¥40,128	3	0	0	3
7	通年	MOS Excel 365講座	オンデ マンド	LEC	開始日～2026年 3月31日	－	20H	¥20,000	¥23,000	18	3	1	22
								合計		122	19	10	151

講師派遣

2025年度 「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」 実施報告

1. 2025年度講師派遣要項

(1) 名称「東洋大学の講義を全国各地にお届けします―講師派遣」とし、本年度は3つのプログラムを提供した。

①生涯学習支援プログラム(以下『生涯』)
教育委員会、生涯学習・社会教育等の各種団体が開催する講演会および学校のPTA等で企画する講演会等へ本学の講師を派遣
②研修支援プログラム(以下『研修』)
企業、各種団体等で実施する研修会等へ本学の講師を派遣
③SDGs（持続可能な開発目標）達成学習支援プログラム(以下『SDGs』)
全国の小・中・高等学校、特別支援学校におけるSDGs目標達成のための教育を推進するため、本学教員を派遣

【派遣期間等】

派遣期間	2025年6月1日(日)～12月15日(月)
申込期間	2025年4月1日(火)～10月15日(水)
申込締切	開催希望日の2ヶ月前迄とし、原則として、①③は年間1団体につき1回派遣。但し、9月および10月開催分は、7月4日(金)締切。
派遣実施件数	77件
派遣上限	本学専任教員並びに本学名誉教授で、1教員の派遣数は原則3回まで

2. 実施経過（概略）

- (1) 2024年11月25日 : 専任教員全員と元教員に対して、当事業への協力要請。
- (2) 2025年1月4日 : テーマ募集提出締切
- (3) 2025年1月～3月: テーマ集約・分類・HPアップ準備（事務局作業）
- (4) 2025年4月1日 : ホームページ等にて受付開始
- (5) 2025年4月7日 : パンフレット送付

送付先	件数
教育委員会	1804
大学施設関連	3
過去派遣実施(自治体他)	440
過去派遣実施(企業)	26
東京都・文京区	49
高校教員入試説明会	544

3. テーマ数、実施件数

テーマ提出教員数：専任教員 148名（全専任教員の約19％）元教員49名

プログラム	生涯	研修	SDGs	合計
募集時 テーマ数	198	21	91	583
	273（共通テーマ）			
実施件数	66	4	7	77

(1) 地域別派遣実施件数

地域	生涯学習			研修			SDGs			合計		
	2024	2025	増減	2024	2025	増減	2024	2025	増減	2024	2025	増減
北海道	5	3	↓ (2)	0	0	→ 0	0	0	→ 0	5	3	↓ (2)
東北	4	1	↓ (3)	1	0	↓ (1)	0	0	→ 0	5	1	↓ (4)
関東	42	35	↓ (7)	1	2	↑ 1	4	6	↑ 2	47	43	↓ (4)
中部・甲信越	9	6	↓ (3)	1	0	↓ (1)	0	0	→ 0	10	6	↓ (4)
北陸	3	2	↓ (1)	0	1	↑ 1	0	0	→ 0	3	3	→ 0
近畿	7	7	→ 0	0	1	↑ 1	1	1	→ 0	8	9	↑ 1
中国	1	5	↑ 4	1	0	↓ (1)	0	0	→ 0	2	5	↑ 3
四国	0	2	↑ 2	0	0	→ 0	0	0	→ 0	0	2	↑ 2
九州・沖縄	3	5	↑ 2	0	0	→ 0	0	0	→ 0	3	5	↑ 2
計	74	66	↓ (8)	4	4	→ 0	5	7	↑ 2	83	77	↓ (6)

(2) 実施一覧 別紙参照

(3) 講師の内訳

実施件数と講師の内訳は次のとおり。

	2024		2025	
	件数	人数	件数	人数
学長	1	1	1	1
教授	40	26	38	31
准教授	5	5	4	3
助教	0	0	1	1
講師	1	1	1	1
客員研究員	2	1	2	1
名誉教授	27	13	23	15
元教授	7	3	7	4
計	83	50	77	57

(4) 申込者(団体)のリピーターの割合

昨年度も実施した団体は19団体で、全体の約25％にあたる。

4. 次年度に向けて

2025年度の申し込み件数は91件であったが、14件がキャンセルとなり、実施は77件にとどまった。

昨年度に引き続き、対面による講座実施に限定せず、オンラインによる実施やハイブリッド型による実施の選択肢も用意したところ、オンライン実施は1件、ハイブリッド型での実施は2件となった。遠方への派遣のハードルが下がり、より柔軟に調整することが可能になったともいえるが、依然として対面による講座実施に重きを置く団体がほとんどであった。そのため日を跨ぐような遠方への派遣においては調整が難航する場面がみられたが、教員および元教員の協力により、片道100kmを超える遠距離出張は31件で、実施件数のうち約4割を占めた。

公開講座もハイブリッド化が進み、大学近隣に住まいを構える方のみならず、全国に学びを提供できるようになった。「地方においては、現在においても学びの機会が平等とは思えない」という申し込み団体からの声もあるなか、こうした学びを提供する場があることを、受講者へ伝えていくことが急務である。次年度は派遣回数160件(生涯・SDGs130、研修30)を目標とし、地方を切り離さず、質の高い学びを提供できるよう講座提供をすすめていく。

2025年度 講師派遣事業 派遣先実績一覧

生涯学習支援

No.	開催県 (主催者)	開催日時	団体名	講演テーマ	講師	学部	身分	受講 者数
1	静岡県	2025年 7 月 5 日	三島絵本をたのしむ会	子どもと読書	竹内 美紀	文学部	准教授	75
2	滋賀県	2025年 7 月 5 日	NP0 法人葛川共創ネットワーク	農泊と観光の推進—インバウンド政策の展開に向けて—	青木 辰司		名誉教授	31
3	群馬県	2025年 7 月11日	群馬県安中市教育委員会	子どものためのデジタル社会	島田 裕次		元教授	26
4	埼玉県	2025年 8 月 2 日	朝霞市東朝霞公民館	アンモナイトのレプリカづくりを通して地球の歴史を探ろう	寺木 秀一		元教授	29
5	山口県	2025年 8 月 3 日	山陽小野田市立中央図書館	ヨガで学ぶメンタルヘルス	加藤 千恵子	総合情報学部	教授	48
6	千葉県	2025年 8 月 4 日	我孫子市教育委員会 生涯学習部 我孫子地区公民館「アビコでなんでも学び隊」	睡眠中の夢と心の健康	松田 英子	社会学部	教授	
7	熊本県	2025年 8 月 8 日	長洲町	新しいテクノロジーとこれからの働き方・学び方	久米 功一	経済学部	教授	63
8	長野県	2025年 8 月18日	一般社団法人信州いいやま観光局	身近な環境問題「光害」を考えよう	越智 信彰	経営学部	准教授	64
9	埼玉県	2025年 8 月19日	鶴ヶ島市立鶴ヶ島第一小学校	生涯発達のためのストレス・マネジメント	緒方 登士雄		名誉教授	40
10	三重県	2025年 8 月23日	鈴鹿市	サイバー時代の身の守り方—何が問題でどのように守ればよいのか—	島田 裕次		元教授	59
11	岡山県	2025年 8 月24日	新見市立中央図書館	歩く江戸の女子旅	谷釜 尋徳	法学部	教授	48
12	奈良県	2025年 8 月25日	上牧町教育委員会事務局 社会教育課	最高のホスピタリティを知る—世界のリーディング・ホテルを通じて—	徳江 順一郎	国際観光学部	准教授	35
13	京都府	2025年 8 月26日	京都府城陽市教育委員会	「思いやり」を科学する	浅間 正通	人間科学総合研究所	客員研究員	141
14	兵庫県	2025年 8 月29日	加古川市立志方公民館	たかがアニメの教育学—サザエさん、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃん—	藤本 典裕		名誉教授	46
15	埼玉県	2025年 9 月 5 日	春日部市庄和地区市民大学	江戸庶民の旅と歩行	谷釜 尋徳	法学部	教授	
16	愛知県	2025年 9 月 5 日	西尾市教育委員会事務局 生涯学習課	クラシックバレエ鑑賞入門—美の秘密—	海野 敏	社会学部	教授	32

No.	開催県 (主催者)	開催日時	団体名	講演テーマ	講師	学部	身分	受講 者数
17	徳島県	2025年9月7日	北島町人権教育推進協議会	子どもの権利の視点はなぜ必要か	森田 明美		名誉教授	
18	埼玉県	2025年9月9日	上尾市立原市公民館	薬・トクホ・機能性表示と健康食品の違い	加藤 和則	健康スポーツ科学部	教授	19
19	鳥取県	2025年9月13日	倉吉市教育委員会	現代社会に問われ始めたデジタルとアナログ力	浅間 正通	人間科学総合研究所	客員研究員	38
20	東京都	2025年9月14日	羽村市教育委員会	記憶と忘却のメカニズム	児島 伸彦	生命科学部	教授	44
21	北海道	2025年9月16日	釧路町教育委員会	地域はあなたの活躍を期待しています。地域活動に参加するための処方箋。	小瀬 博之	総合情報学部	教授	87
22	東京都	2025年9月23日	文京区立本郷図書館	あなたはどんな言葉や言葉の使い方が気になりますか？—今どきの日本語—	坂詰 力治		名誉教授	28
23	神奈川県	2025年9月26日	茅ヶ崎市	日本の近現代小説に描かれた社会の在り方(家族、震災など)	石田 仁志		名誉教授	14
24	埼玉県	2025年9月28日	久喜市立栗橋文化会館図書室	いつまでも元気に過ごす方法	古川 和稔	福祉社会デザイン学部	教授	25
25	宮崎県	2025年10月4日	高鍋町役場	郷土の先人に学ぶ—地域社会の活性化—	吉田 公平		名誉教授	60
26	埼玉県	2025年10月5日	川口市立映像・情報メディアセンターメディアセブン	バリー来航と幕末情報社会	岩下 哲典	文学部	教授	66
27	東京都	2025年10月9日	武蔵村山市	障がい児・者への発達支援	緒方 登士雄		名誉教授	7
28	新潟県	2025年10月10日	見附市市民税務課	書いた文字でこころの不調が測れる！？	川口 英夫	生命科学部	教授	58
29	北海道	2025年10月12日	旭川市中央図書館	子どもと読書	竹内 美紀	文学部	准教授	43
30	千葉県	2025年10月16日	長南町中央公民館	高齢者の財産管理	山下 りえ子	法学部	教授	23
31	千葉県	2025年10月18日	鎌ヶ谷市中央公民館	あまり飲まない方がいい薬の話	鈴木 孝弘		名誉教授	46
32	滋賀県	2025年10月25日	竜王町教育委員会	「ゲーム依存症」とは何か？ ゲーム研究科の観点より	ブリュクナーステファン	経営学部	講師	46
33	埼玉県	2025年10月25日	白岡市立図書館	『源氏物語』はおもしろい！—「女房」が見た、聞いた、そして喋った—	河地 修		名誉教授	33
34	北海道	2025年10月26日	千歳市教育委員会 教育部生涯学習課	睡眠中の夢と心の健康	松田 英子	社会学部	教授	
35	千葉県	2025年10月28日	袖ヶ浦市教育部生涯学習課	現代社会における親と子—親にとって子どもとは何か—	西野 理子	社会学部	教授	17

No.	開催県 (主催者)	開催日時	団体名	講演テーマ	講師	学部	身分	受講 者数
36	埼玉県	2025年10月16日	川越市役所	分かっていますか？ 「怒る」と「叱る」の違い	鈴木 崇之	福祉社会デザイン学部	教授	40
37	埼玉県	2025年10月30日	川越市中央公民館	輝いて生きるための 「終活」講座—自分らしい 葬送と生前準備	井上 治代		元教授	39
38	静岡県	2025年10月31日	このはなさくやひめ	グリム研究への誘い	大野 寿子	文学部	教授	
39	愛知県	2025年10月31日	尾張旭市教育委員会事務局	介護する覚悟、介護される覚悟	八木 裕子	福祉社会デザイン学部	教授	74
40	東京都	2025年11月3日	杉並区立下井草図書館	宮沢賢治作品（童話・詩）を読む	高橋 直美	福祉社会デザイン学部	教授	26
41	埼玉県	2025年11月5日	入間地区 PTA 連絡協議会	子どものためのデジタル社会	島田 裕次		元教授	66
42	千葉県	2025年11月7日	市原市立五井公民館	ロミオとジュリエットの考察	五十嵐 博久	食環境科学部	教授	58
43	岡山県	2025年11月8日	玉野市田井地区コミュニティ協議会安全部会	世界・日本・地域の防災	松丸 亮	国際学部	教授	15
44	埼玉県	2025年11月12日	志木市立いろは遊学館	江戸の将軍たち	白川部 達夫		名誉教授	67
45	東京都	2025年11月12日	北区立中央公園文化センター	年金問題について考える	川瀬 晃弘	経済学部	教授	16
46	京都府	2025年11月13日	亀岡市役所 教育委員会社会教育課	睡眠中の夢と心の健康	松田 英子	社会学部	教授	102
47	茨城県	2025年11月14日	古河市教育委員会生涯学習課	日本に暮らす外国人家族と支援	南野 奈津子	福祉社会デザイン学部	教授	109
48	埼玉県	2025年11月14日	川口市	食でのびる寿命、縮む寿命	芝崎 誠司	経済学部	教授	43
49	埼玉県	2025年11月21日	新座市立野火止公民館	「まちあるき」で地域の魅力を掘りおこそう	小瀬 博之	総合情報学部	教授	15
50	埼玉県	2025年11月22日	鶴ヶ島市富士見市民センター	「やさしい日本語」の作り方	平畑 奈美	文学部	教授	19
51	新潟県	2025年11月26日	新潟市生涯学習センター	万能薬としての運動：ストレスと脳への効果	小河 繁彦	生命科学部	教授	91
52	埼玉県	2025年11月26日	こしがや市民活動連合会	トランプ新政権が世界に与える影響&分裂を深めるアメリカ社会の現状	西川 吉光		名誉教授	19
53	宮崎県	2025年11月27日	延岡市教育委員会社会教育課	なぜ今、プラスチックごみ対策？	鈴木 孝弘		名誉教授	70
54	埼玉県	2025年11月27日	上里町人権を大切にする会	あなたは気持ちを言葉で表していますか？—よりよいコミュニケーションを目指して—	坂詰 力治		名誉教授	44
55	神奈川	2025年11月28日	鎌倉市生涯学習推進委員会	能狂言の文化史	原田 香織		名誉教授	29
56	岩手県	2025年11月28日	公益社団法人岩手県青少年育成県民会議	「聴き上手」になるために—言葉のボールの受け止め方—	鈴木 崇之	福祉社会デザイン学部	教授	24

No.	開催県 (主催者)	開催日時	団体名	講演テーマ	講師	学部	身分	受講 者数
57	愛知県	2025年11月29日	知立市生涯学習スポーツ課	生誕1200年—在原業平を追う	河地 修		名誉教授	66
58	千葉県	2025年11月30日	鴨川市	地域を開く未来世代へのメッセージ—7世代後の子孫にむけてあるべき世界を展望しよう!!—	青木 辰司		名誉教授	47
59	埼玉県	2025年11月30日	まちづくりネットワーク・かぞ	たかがアニメの教育学—サザエさん、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃん—	藤本 典裕		名誉教授	40
60	埼玉県	2025年12月1日	埼玉県北部高等学校等保健会養護教諭会	子ども・若者の貧困を考える	森田 明美		名誉教授	43
61	神奈川県	2025年12月5日	座間市立東地区文化センター	お墓からみる家族社会学	井上 治代		元教授	66
62	大分県	2025年12月7日	舞鶴町青年会	子育て支援と地域コミュニティ	矢口 悦子		教授	34
63	広島県	2025年12月8日	竹原市教育委員会	食を取りまく環境—日本と世界の食糧事情を考える—	大熊 廣一		名誉教授	31
64	徳島県	2025年12月11日	藍住町教育委員会	認知症の母を12年間介護して	中里 巧		名誉教授	
65	埼玉県	2025年12月13日	長瀬町教育委員会	障がいのある人たちへの虐待防止と人権擁護	是枝 喜代治		元教授	
66	福岡県	2025年12月14日	古賀市教育委員会生涯学習推進課	『源氏物語』はおもしろい!	河地 修		名誉教授	

研修支援

No.	開催県 (主催者)	開催日時	団体名	講演テーマ	講師	学部	身分	受講者数
1	東京都	2025年 7 月31日	公益財団法人全国商業高等学校協会	生成 AI で、教育、そして経済・社会はどう変わる？	松原 聡		名誉教授	
2	埼玉県	2025年 8 月21日	狭山市役所	児童虐待時代の福祉臨床学	鈴木 崇之	福祉社会デザイン学部	教授	65
3	大阪府	2025年 8 月27日	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会	たかがアニメの教育学—サザエさん、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃん—	藤本 典裕		名誉教授	16
4	新潟県	2025年 9 月11日	魚沼市教育センター	子ども・若者の貧困を考える	森田 明美		名誉教授	43

SDGs 達成学習支援

No.	開催県 (主催者)	開催日時	団体名	講演テーマ	講師	学部	身分	受講者数
1	東京都	2025年 6 月14日	東京都立新宿山吹高等学校	AI 社会哲学者が考える未来の AI 社会—AI への信頼と共感—	津村 賢宏	情報連携学部	助教	36
2	埼玉県	2025年 6 月18日	埼玉県立所沢西高等学校	外国人とともにいきる	南野 奈津子	福祉社会デザイン学部	教授	36
3	埼玉県	2025年 7 月27日	桶川市	スマホ顕微鏡で地球最強生物クマムシを観察しよう！	伊藤 政博	生命科学部	教授	47
4	和歌山県	2025年 8 月29日	和歌山県立橋本高等学校	世界のまちのバリアフリー	菅原 麻衣子	福祉社会デザイン学部	教授	29
5	東京都	2025年10月29日	田園調布学園中等部・高等部	数学の神様が微笑むとき	小山 信也	理工学部	教授	10
6	神奈川県	2025年11月11日	神奈川県立座間高等学校	開発途上国協力を目指す人へ	北脇 秀敏	国際学研究科	教授	63
7	神奈川県	2025年11月26日	横浜市立あかね台中学校	SDGs と環境にやさしいものづくり～つくる責任とつかう責任～	神田 雄一		名誉教授	91
受講者合計								3120人

生涯学習支援	66件
研修支援	4件
SDGs 達成学習支援	7件
合計	77件



2025年度利用者の方から寄せられた声 生涯学習支援プログラム

利用団体：熊本県 長洲町役場

開催日時：2025年8月8日(金) 16:00～17:20

講師：久米 功一（経済学部総合政策学科教授）

テーマ：新しいテクノロジーとこれからの働き方・学び方

聴講者数：63名

◆利用した感想

希望した教授及びプログラムが採用されたことと、これに併せて貴学による迅速かつ丁寧なご説明が事務をスムーズに進めることが出来て良かったです。また、久米教授につきましても、打ち合わせの段階から非常に丁寧に接していただき、当日の講演につきましても、講演内容の専門的で少し難しい箇所でも非常に分かりやすいご説明でかつ適確な時間配分により参加者にとって大変貴重な場となり、満足度の高い講演会となった。

◆受講者の声

- ・ AI には「人」が必要であることを学んだ。機会があればより深い説明を受けたい。
- ・ 働き方とテクノロジー、AI との関連について、非常に分かりやすく理解することが出来た。
- ・ 具体的な数字やデータでベンチマークした説明が分かりやすかった。
- ・ 今後の取り組みにおいても大変勉強になった。





2025年度利用者の方から寄せられた声 研修支援プログラム

利用団体：埼玉県 狭山市役所

日 時：2025年8月21日(木) 14：00～15：00

講 師：鈴木 崇之（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

テ ー マ：児童虐待時代の福祉臨床学

聴講者数：65名

◆利用した感想

どんな内容を依頼できるか一覧になっているため、依頼をしやすかったです。メールでの調整のため、時間がかかりましたが、最終的には先生と直接打ち合わせをすることができて良かったです。

◆受講者の声

- ・具体的な事例をもとに学べたため、勉強になりました。
- ・自分の職場でこういった子がいた場合、どうしたらよいか考える良い機会になりました。



2025年度利用者の方から寄せられた声 SDGs 達成学習支援プログラム

利用団体：和歌山県 和歌山県立橋本高等学校

開催日時：2025年8月29日(金) 15:25～16:15

講師：菅原 麻衣子（福祉デザイン学部人間環境デザイン学科）

テーマ：世界のまちのバリアフリー

聴講者数：29名

◆利用した感想

菅原先生の講義を通じて、生徒たちは世界レベルの思考に触れ、新たな視点や価値観を得る貴重な機会となりました。ワークショップでは「存在しないものに気づくことの難しさ」を実感し、その気づきの力が専門性へとつながることを学び、学ぶことの意義を理解するきっかけにもなりました。

◆受講者の声

- ・「障害は個人の中にあるのではなく、社会との関係性の中にある」という見方は、取り組んでいる探究活動を進めるうえで大変参考になりました。この考え方は、視野を広げるとともに、社会課題に対する理解を深めるきっかけになったと思います。
- ・世界のバリアフリーについて知ったときに、日本では想像もつかないようなデザインなどがあったので、見る事が出来て楽しかったです。ありがとうございました。
- ・レジュメ形式の講義で、大学の雰囲気を感じることができて、とても新鮮でした。個人モデル、社会モデルについて初めて知り、とても興味を持ちました。
- ・見たことのない世界のバリアフリーがたくさんあって驚きました。障がい者の方が、もっと過ごしやすい社会になってほしいと思いました。
- ・聞くだけでなく、自分たちで考えて、発表したりする時間があったので楽しかった。



東洋大学オンライン講座 日本の「知」

2025年度 東洋大学オンライン講座 日本の「知」実施報告

講座概要

講座期間：	① 7月12日(土) ② 10月4日(土) ③ 12月6日(土)
講座形式：	Zoom を用いたオンライン形式
受講対象：	N2 (JLPT) 以上の日本語能力を持つ外国人の方、日本人の方
募集コース：	6 コース (1 日 2 コース開催)
受講費用：	無料
申込期間：	2025年6月20日(金)から2025年12月5日(金) 各コース開講日前日まで受付
申込方法：	TOYO Japanese Language Program サイト (URL : https://toyo-jlp.com)

開講コース

① 敬語の基礎 入門編

日時：	7月12日(土) 13:00~14:30
講師：	高橋 直美(福祉社会デザイン学部子ども支援学科・教授)

② 現代都市として見た東京

日時：	7月12日(土) 15:00~16:30
講師：	篠崎 正彦(理工学部 建築学科・教授)

③ 百人一首を味わう

日時：	10月4日(土) 13:00~14:30
講師：	菊地 義裕(文学部 日本文学文化学科・教授)

④ 外国人観光客とのよりよいコミュニケーションとは

日時：	10月4日(土) 15:00~16:30
講師：	中挾 知延子(国際観光学部 国際観光学科・教授)

⑤ 江戸時代の文献から知る、江戸文化・折り鶴・幾何学

日時：	12月6日(土) 13:00~14:30
講師：	吉野 隆(理工学部 機械工学科・教授)

⑥ 手で話すことば、見えてくる文化—日本とアメリカの手話に見ることばの多様性—

日時：	12月6日(土) 16:30~18:00
講師：	八木 裕子(福祉社会デザイン学部社会福祉学科・教授)

※講師の所属・職位は講座実施時の表記

申込者数 延べ人数690名 実人数346名

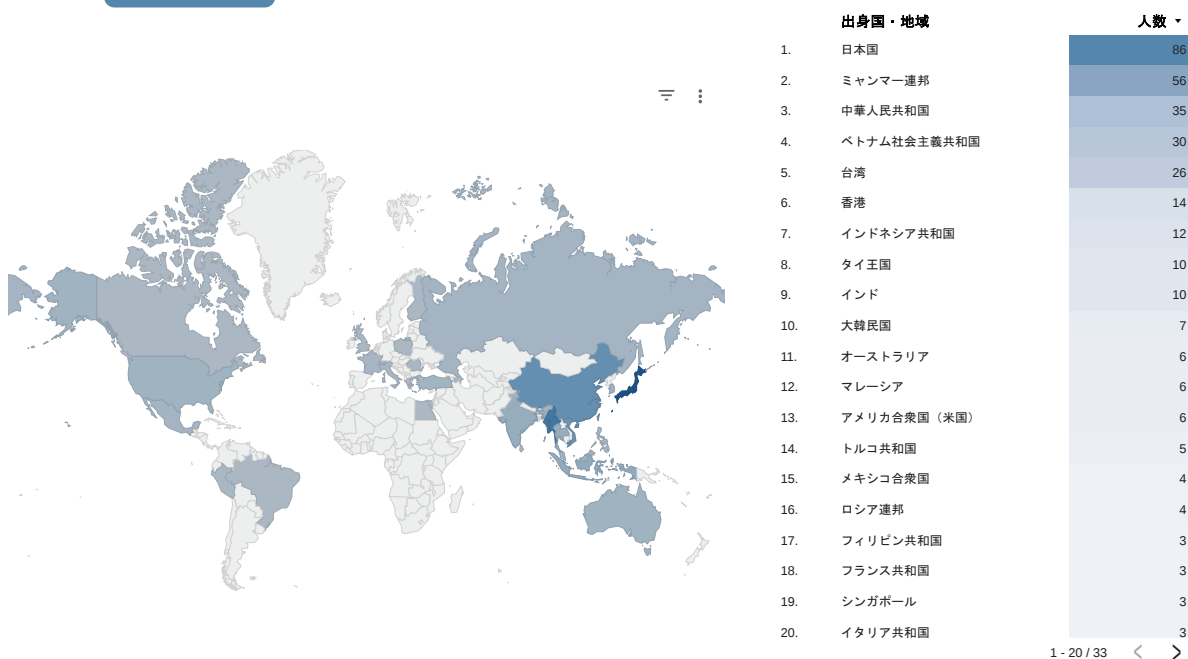
申込者数 延べ人数690名 実人数346名

	申込者数	受講者数	受講率
敬語の基礎 入門編	197名	115名	58.3%
現代都市として見た東京	147名	81名	55.1%
百人一首を味わう	88名	54名	61.3%
外国人観光客とのよりよいコミュニケーションとは	99名	59名	59.5%
江戸時代の文献から知る、江戸文化・折り鶴・幾何学	77名	51名	66.2%
手で話すことば、見えてくる文化 ー日本とアメリカの手話に見ることばの多様性ー	82名	44名	53.6%
合計	690名	404名	58.5%

※受講者数＝講座当日Zoomに接続した人数

国籍・地域 346名（33カ国・地域）

国籍・地域 346名（33カ国・地域）



アンケート結果

回答者数 延べ136名

回答者数

延べ136名

	受講者数	回答者数	回答率
敬語の基礎 入門編	115名	38名	33.0%
現代都市として見た東京	81名	22名	27.1%
百人一首を味わう	54名	20名	40.7%
外国人観光客とのよりよいコミュニケーションとは	59名	18名	30.5%
江戸時代の文献から知る、江戸文化・折り鶴・幾何学	51名	18名	35.2%
手で話すことば、見えてくる文化 ー日本とアメリカの手話に見ることばの多様性ー	44名	20名	45.5%
合計	404名	136名	33.7%

受講者の声

敬語の基礎 入門編

- ・敬語にも、動詞の活用のようなルールがあるという説明を聞くことができた。
- ・日本語学習者が敬語を使用する際のトライアル&エラーの例を挙げながら説明することで、日本語学習者と日本語教師が学習の際の認識を共有しやすくなる。
- ・テーマも内容も実用的で、基礎から学び直すのにちょうど良い内容でした。内容が非常に充実していて、大変勉強になりました

現代都市として見た東京

- ・この講座を通して、伝統的な建築と現代建築の違いを理解することができました。
- ・都市というものを住居構造やその共存という視点が捉えている点がとても興味深かったです。
- ・「現代都市として見た東京」というテーマは個人的になかなか聞かないテーマですので興味を持っています。

百人一首を味わう

- ・講義のテーマ「百人一首を味わう」が非常に魅力的でした。内容は期待をはるかに超えるもので、個々の和歌の解釈に留まらず、その背後にある文化的背景や美意識（例えば「悲秋観」や「秋の夕暮れ」）、そして藤原定家による原型の編纂とその後の人々による加筆といった歴史的経緯まで深く掘り下げて解説していただきました。また、講師は『百人一首』を『万葉集』や『古今和歌集』といった文学史の流れの中に位置づけて説明してくださったので、日本の古典文学に対する理解がより体系的で深いものになりました。

外国人観光客とのよりよいコミュニケーションとは

- ・外国人観光客の増加という現代的なテーマに対し、AI 翻訳ツール、ピクトグラム、やさしい日本語、そして実際の商店街の取り組みといった多角的な視点から具体的な解決策が提示されており、非常に示唆に富む内容でした。単なる語学の問題ではなく、コミュニケーションの本質に迫る深い議論がなされていた点に大変満足しています。

江戸時代の文献から知る、江戸文化・折り鶴・幾何学

- ・この授業を通して、江戸時代の小紋と折り鶴、そして幾何学の関連が理解できました。
- ・講義が素晴らしかったですが、自分をもっと幾何学の知識があればもっと理解できると思います。
- ・自己啓発の一環として、学びの場を探していました。楽しく参加させていただき、後輩たちの育成にも役立つと感じました。

手で話すことば、見えてくる文化—日本とアメリカの手話に見ることばの多様性—

- ・普段の勉強では手話に接する機会がほとんどないので、このテーマは非常に興味深いと思いました。
- ・手話の本質（独立した言語、文化を持っている）ことが理解できました。
- ・内容が分かりやすく整理されていて、自分の学習レベルに合っていました。基本だけでなく実践的な表現も学べたため、学習の幅が広がったと感じています。

社会貢献部門

- 社会貢献情報収集
- 地域活性化活動支援事業
- 社会貢献活動助成・表彰制度
- SDGs 実践講座
- リカレント教育推進特別助成制度

社会貢献部門

社会貢献情報収集の概要

2013（平成25）年4月1日、生涯学習センターに代わって、生涯学習部門と社会貢献部門の2つの部門から構成される「社会貢献センター」が設置された。社会貢献部門では、本センターの目的である「生涯学習に対する社会的要請に基づき、生涯教育に関する諸事業を積極的に推進すること並びに本学で実施する社会貢献活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献活動の発展に寄与するとともに、社会に開かれた大学としての本学の発展に資すること」を達成するために、学内で実施されている社会貢献事業に関する情報収集活動を行った。本活動は、2013年度から13年目の活動となる。

1. 社会貢献情報収集

(1)経緯

2月下旬～ 調査開始（学部長会議及び事務局部長会を経由して個別に依頼）

2月下旬～5月下旬 Google スプレッドシートにて情報を回収・集約

(2)情報の収集

2025年度の調査では、新規分を含め全学への協力依頼と併せて、前年度調査に回答のあった事業に対しては、引き続き、前年度の内容に加筆・修正を加えるよう依頼した。

なお、調査結果は、本センターのホームページに掲載しているが、ホームページの充実強化を図るため、①「社会貢献事業実施状況調査」結果一覧で特色あるもの、②学内のホームページに掲載されていた社会貢献に関する活動についても併せて掲載している。

(3)「社会貢献」の定義

大学の役割としては、第1に高度な専門性に根差した学生の教育があり、第2に教員の研究成果の公表による技術開発や社会的課題解決への寄与がある。また、これらを基盤として、第3に地域社会や国際社会等、より広い意味での社会発展への貢献がある。本センターでは、調査にあたって「社会貢献」の定義を明確にする必要があったことから、例年と同様に『教職員等の持つ専門的な知識や技術を、広く社会の人々に提供する講座・講師派遣等の活動、特定の地域（国内外）や団体・機関と連携した地域づくりや地域課題解決への貢献』を基本として、本年度からは、より定義を明確にするため、「researchmap」の「社会貢献活動」項目に準拠したフォーマットを用いて、情報の収集と発信を促進した。なお、多様な水準での政策策定への貢献となる各種審議会や委員会への参加等も社会貢献活動に含まれるが、人事課及び各学部教務課をはじめ研究推進課等の教務関係所管部署がその実態を把握していることから、2025年度調査においても調査対象とはしないこととした。

参考：大学の「社会貢献」についての文部科学省の見解

大学は教育と研究を本来的な使命としているが、同時に、大学に期待される役割も変化しつつあり、現在においては、大学の社会貢献(地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体の発展への寄与)の重要性が強調されるようになってきている。当然のことながら、教育や研究それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、近年では、国際協力、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献も求められるようになっており、こうした社会貢献の役割を、言わば大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代となっているものと考えられる。

(出典：平成17年中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」)

(4)調査結果及び公表（参照：2024年度データ）

教員が実施している社会貢献活動が100事業(従来の地域貢献・振興、社会福祉、環境共生、産官学民連携、高大連携、生涯学習、キャリア教育、哲学教育、国際協力等の区分から代表的なSDGs17目標の区分へ変更する)、事務局や研究所・センターが中心になって実施している社会貢献活動が186事業、合計286事業であった。いずれも、調査回答提出者・調査対象該当者からの延べ件数で、計画中止等のものは含まれていない。

なお、結果は、本学の社会貢献活動のより一層の推進に資するため、「社会貢献活動一覧」とともに、各分野の典型的な事例をピックアップし、本センターのホームページにて紹介している。



【学部】

文	経済	経営	法	社会	国際	国際観光	理工	総合情報	生命科学	食環境科学	福祉社会デザイン
18	0	15	14	0	0	0	13	13	0	3	11

【その他】

情報連携	健康スポーツ	大学院	研究所・センター	事務局(※)	合計
0	3	0	121	147	358

※事務局には・学部学科単位の件数を含む。

注：提出者・調査該当のみ

2025年度調査 社会貢献活動一覧

〈教 員〉

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
1			第39回東洋大学「現代学生百人一首」選考委員	その他	その他	東洋大学	第39回東洋大学「現代学生百人一首」	9/12-1/15	東洋大学	小学生 中学生 高校生 大学生 社会人・一般	国内外から寄せられる短歌作品の選考委員を務め、伝統的な言語文化への親しみを広めるとともに、若者の感性や社会観を学術的・教育的見地から選考する活動。	https://www.toyo.ac.jp/social/issyu/	
2	高松 亮太	文学部 日本文学文化学科	市民公開講座「宣長十講」講師	講師	講演会	本居宣長記念館	宣長十講(2025年度シリーズ) 第2講「上田秋成のみた宣長—呵刈段論争を中心に—」	6/21	本居宣長記念館	社会人・一般	江戸時代の国学者・本居宣長に関する最新の研究成果を一般市民に向けて解説する生涯学習講座の講師。地域文化の理解促進に寄与する活動。	https://www.norinagakenkan.com/ https://www.norinagakenkan.com/pages/55/	
3			賀茂真淵記念館 記念館アカデミー 講師	講師	講演会	賀茂真淵記念館 (一般社団法人浜松史蹟調査顕彰会)	賀茂真淵記念館 アカデミー 真淵の注釈で『百人一首』を読むⅡ	7/4 10/17 10/31	賀茂真淵記念館	社会人・一般	静岡県浜松市の賀茂真淵記念館が行っている市民講座「記念館アカデミー」で、「真淵の註釈で『百人一首』をよむ」と題して全3回の講座を行った。	https://www.mabuchi-kinenkan.jp/event/index.html https://researchmap.jp/takamatsu/social_contribution/49705255	
4	川内 佑毅	文学部 日本文学文化学科	講義「篆刻文化とその魅力」講師	講師	講演会	国立台湾師範大学文学学院	篆刻文化與其魅力(オンライン講義)	5/1、5/8	オンライン	大学生 研究者	国立台湾師範大学にて、篆刻文化の歴史と魅力について全2回のオンライン講義を担当。東アジアにおける伝統文化の普及と学術交流に寄与する活動。	https://researchmap.jp/g0000220027/others/52950476	
5			文京区秋の文化祭 第43回書道展 審査員	その他	その他	文京区アカデミー推進課	文京区秋の文化祭 第43回書道展	10/8	文京区	社会人・一般	文京区主催の書道展において審査員を務め、地域住民の芸術活動を評価・支援。地域文化の振興に寄与する活動。	https://researchmap.jp/g0000220027/social_contribution/51567313	
6	大田 悦子	文学部 英米文学科	Sherpa(Senior High English Reform Project ALC) メンバー	その他	セミナー・ワークショップ	株式会社アルク	高校英語授業改善プロジェクト(Sherpa)	4/1-3/31	オンライン・各研修会場	教育関係者	高校英語授業の改善を目指すプロジェクト「Sherpa」のメンバーとして継続的に活動。2025年度も「中高英語指導の円滑な接続」をテーマに、教材開発や教員対象のワークショップ、実証研究を通じて、英語教育の質的向上に寄与する活動。	https://alc-nds.com/itaf/2021/09/20/sherpa/	
7	木下 聡	文学部 史学科	偉人・敗北からの教訓 シリーズ信長① 信長と斎藤道三・同盟の行方	その他、出演、情報提供、助言・指導	テレビ・ラジオ番組	日本BS放送(BS11)	偉人・敗北からの教訓シリーズ信長① 信長と斎藤道三・同盟の行方	4/1-3/31	BS11(全国放送)	社会人・一般 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 メディア	歴史番組において戦国・中世史の専門家として解説や考証を担当。メディアを通じた歴史教育の普及と、一般市民への正しい歴史知識の伝達に寄与する活動。	https://vod.bs11.jp/contents/w-ijin-haiboku-kyoukun-41	
8			偉人・敗北からの教訓 太田道灌・文武両道の名将の最期	その他、出演、情報提供、助言・指導	テレビ・ラジオ番組	日本BS放送(BS11)	偉人・敗北からの教訓 太田道灌・文武両道の名将の最期	4/1-3/31	BS11(全国放送)	社会人・一般 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 メディア	歴史番組において戦国・中世史の専門家として解説や考証を担当。メディアを通じた歴史教育の普及と、一般市民への正しい歴史知識の伝達に寄与する活動。	https://vod.bs11.jp/contents/w-ijin-haiboku-kyoukun-61	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
9	木下 聡	文学部 史学科	偉人・敗北からの教訓 斎藤龍興・信長に美濃を追われた若き国主	その他、出演、情報提供、助言・指導	テレビ・ラジオ番組	日 本 BS 放送 (BS 11)	偉人・敗北からの教訓 斎藤龍興・信長に美濃を追われた若き国主	12/6	BS11 (全国放送)	社会人・一般小学生中学生高校生大学生大学院生教育関係者保護者研究者メディア	歴史番組において戦国・中世史の専門家として解説や考証を担当。メディアを通じた歴史教育の普及と、一般市民への正しい歴史知識の伝達に寄与する活動。	https://vod.bs11.jp/contents/w-ijin-haiboku-kyoukun-117	
10			英雄たちの選択 豊臣秀吉出世の鍵は美濃にあり	その他、出演、情報提供、助言・指導	テレビ・ラジオ番組	NHKBS	英雄たちの選択 豊臣秀吉 出世の鍵は美濃にあり	3/2	NHKBS (全国放送)	社会人・一般小学生中学生高校生大学生大学院生教育関係者保護者研究者メディア	歴史番組において戦国・中世史の専門家として解説や考証を担当。メディアを通じた歴史教育の普及と、一般市民への正しい歴史知識の伝達に寄与する活動。	https://www.nhk-ondemand.jp/goods/G2026155520SA000/	
11	中平 一義	文学部 教育学科	青森県総合学校教育センター研修講座 講師	講師	講演会	青森県教育委員会	青森県総合学校教育センター研修講座	8/28	青森県総合学校教育センター	教育関係者	テーマ「公民としての資質・能力を育む『公共』の授業づくり～『熟議』を通じたシティズンシップ教育～」	—	 
12			新潟県見附市立見附小学校「総合的な学習の時間」講師	講師	出前授業	新潟県見附市立見附小学校	新潟県見附市立見附小学校「総合的な学習の時間」講師	9/25	オンライン	小学生	テーマ「災害情報とうまくつきあう—事実・意見とホント・ウソ」	—	 
13			埼玉県社会保険労務士会法教育研究部会 助言・指導	助言・指導	研究指導	埼玉県社会保険労務士会	埼玉県社会保険労務士会法教育研究部会	4/1～(現在に至る)	浦和コミュニティセンターなど	その他	学校教育における労働法や年金制度学習の調査研究の助言・指導	—	 
14	大江 啓賢	文学部 教育学科	まつもと幼稚園・教職員研修会 講師	講師	講演会	学校法人細刈学園まつもと幼稚園	2025年度まつもと幼稚園教職員研修	8/4	まつもと幼稚園 (埼玉県さいたま市)	教育関係者	まつもと幼稚園主催の園内研修会「幼稚園における発達障害幼児(ASD、ADHD等)の理解と対応」にて講師を担当した。	https://researchmap.jp/g0000219045/social_contribution/53050540	
15			埼玉県教育委員会「教育職員免許法認定講習」講師(夏期)	講師	資格認定講習	埼玉県教育委員会	2025年度教育職員免許法認定講習	8/18、8/21	埼玉県内	教育関係者	埼玉県教育委員会主催の「教育職員免許法認定講習」にて講師を担当した。	https://researchmap.jp/g0000219045/social_contribution/51033100	
16			さいたま市教育委員会「教育職員免許法認定講習」講師	講師	資格認定講習	さいたま市教育委員会	2025年度教育職員免許法認定講習	8/19-8/20	さいたま市内	教育関係者	さいたま市教育委員会主催の「教育職員免許法認定講習」にて講師を担当した。	https://researchmap.jp/g0000219045/social_contribution/51033144	
17			山形県立楯岡特別支援学校寒河江校 公開授業研修会 講師	講師	講演会	山形県立楯岡特別支援学校寒河江校	山形県立楯岡特別支援学校寒河江校 公開授業研修会	12/10	山形県立楯岡特別支援学校寒河江校	教育関係者	山形県立楯岡特別支援学校寒河江校 公開授業研修会にて講師を担当した。	https://researchmap.jp/g0000219045/social_contribution/53050560	
18			埼玉県教育委員会「教育職員免許法認定講習」講師(冬期)	講師	資格認定講習	埼玉県教育委員会	2025年度教育職員免許法認定講習	12/25-12/26	埼玉県内	教育関係者	夏期に続き、冬期に実施された埼玉県教育委員会主催の「教育職員免許法認定講習」にて講師を担当した。	https://researchmap.jp/g0000219045/social_contribution/53050504	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
19	越智 信彰	経営学部会計 ファイナンス 学科	探究活動への 協力	講師、助 言・指導	研究指導	つくばイン ターナショ ナル スクール	探究活動への 協力	4月	つくばイン ターナショ ナル スクール	小学生	光害に関連した探究活動において、光害や環境問題に関する専門的知見からアドバイスや指導を行い、次世代の環境意識向上を支援する活動。	https://researchmap.jp/ochi_nobuaki/social_contribution/52266945	
20			講演『光害のない街へ～光害対策の考え方とダークスカイ活動の紹介～』	講師	セミナー・ワークショップ	(株)YAMAGIWA	光害セミナー	7/3	株式会社YAMAGIWA	企業	照明メーカー(株)YAMAGIWAにて、光害セミナーの講師を担当。光害対策の考え方やダークスカイ活動について90分の講演を行い、専門的知見を提供。	https://researchmap.jp/ochi_nobuaki/social_contribution/50539567	
21			J-WAVE「ACROSS THE SKY」ゲスト出演	その他	テレビ・ラジオ番組	J-WAVE	ACROSS THE SKY	7/6	ラジオ放送	社会人・一般メディア	「光害」の専門家としてラジオ番組に出演し、夜間の照明環境が自然や星空に与える影響、および「ダークスカイ運動」の意義について啓発を行った。	https://www.j-wave.co.jp/original/acrossthesky/connectors/250706.html	
22			三鷹ネットワーク大学アストロノミー・パブ『星空と電波の環境保護：光害と衛星コンステレーション』	講師	講演会	三鷹ネットワーク大学	アストロノミー・パブ	7/19	三鷹ネットワーク大学(会場・オンライン併用)	社会人・一般	国立天文台企画のイベントに登壇。衛星コンステレーションによる影響や光害、ダークスカイ運動について専門的見地から解説し、市民と意見交換を行った。	https://www.mitaka-univ.org/kouza/B2551200	
23			小中学生向け出前講座『楽しく学ぶ照明教室』	講師	出前授業	照明学会東京支部	楽しく学ぶ照明教室	7/28、7/31	ギャラクシティ	小学生中学生保護者	「光の実験と光害について」を担当(50分)。手回し発電機を使った実験、ダークスカイキットの実演などを通し、光の性質や光害について学ぶ活動。	https://iei.org/shibu/tokyo/info2025/2025_07-08seminar-result.html	
24			探究活動への協力	講師、助言・指導	研究指導	東京都立日野台高校	探究活動への協力	8月	東京都立日野台高校	高校生	光害に関連した探究活動において、光害や環境問題に関する専門的知見からアドバイスや指導を行い、次世代の環境意識向上を支援する活動。	https://researchmap.jp/ochi_nobuaki/social_contribution/52266945	
25			小学生向け出前講座『楽しく学ぶ照明教室』	講師	出前授業	照明学会東京支部	楽しく学ぶ照明教室	8/7	江戸川区子ども未来館	小学生保護者	「光の実験と光害について」を担当。実験や実演を通して、子供たちに適切な照明の利用と環境保護の重要性を伝える活動。	https://iei.org/shibu/tokyo/info2025/2025_07-08seminar-result.html	
26			講演『星空かがやくまちづくりを目指して』講師	講師	講演会	一般社団法人信州いいやま観光局	星空かがやくまちづくりを目指して講演会	8/18	飯山市文化交流館なちゅら	社会人・一般行政機関	光害対策と観光まちづくりをテーマに、地域住民や行政関係者向けに講演。自然と調回した持続可能な地域振興について提言を行う活動。	https://www.iiyama-ouendan.net/2025/07/15738/	
27			小学生向け出前講座『光の実験と光害について』	講師	出前授業	稲城市立公民館	環境学習講座	8/30	稲城市第四文化センター	小学生保護者	小学生4～6年生対象の公民館イベント。実験や実演を通し、光の性質や光害について学ぶ活動。参加児童13名、保護者9名。	https://researchmap.jp/ochi_nobuaki/social_contribution/51004792	
28			環境イベントにてブース出展	情報提供	その他	府中市	府中環境まつり2025	10/5	府中駅けやき並木通り	社会人・一般	NPO「ダークスカイ・ジャパン」としてブースを出展。一般来場者に対し、光害の啓発や星空保護の取り組みについて紹介した。	https://researchmap.jp/ochi_nobuaki/social_contribution/51404195	
29			探究活動への協力	講師、助言・指導	研究指導	海城中学校	探究活動への協力	11月	海城中学校	中学生	光害に関連した探究活動において、光害や環境問題に関する専門的知見からアドバイスや指導を行い、次世代の環境意識向上を支援する活動。	https://researchmap.jp/ochi_nobuaki/social_contribution/52266945	
30			一般向け講演『美しい星空と自然環境を守るための光害対策』	講師	講演会	井原市	星空環境保護セミナー	11/17	井原市地場産業振興センター	社会人・一般	一般向け講演会にて講師を担当(45分)。美しい星空と自然環境を保護するための光害対策の重要性について、専門的見地から解説を行った。参加者約40名。	https://researchmap.jp/ochi_nobuaki/social_contribution/51677935	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
31	越智 信彰	経営学部会計 ファイナンス 学科	探究活動への 協力	講師、助 言・指導	研究指導	聖心イン ターナ ショナル スクール	探究活動への 協力	1 月	聖 心 イン ターナシ ョナルス クール	中学生	光害に関連した探究活動において、光害や環境問題に関する専門的知見からアドバイスや指導を行い、次世代の環境意識向上を支援する活動。	https://researchmap.jp/ochi_nobuaki/social_contribution/52266945	
32			探究活動への 協力	講師、助 言・指導	研究指導	自由の森 学園中 学校	探究活動への 協力	2 月	自由の森 学園中 学校	中学生	光害に関連した探究活動において、光害や環境問題に関する専門的知見からアドバイスや指導を行い、次世代の環境意識向上を支援する活動。	https://researchmap.jp/ochi_nobuaki/social_contribution/53130592	
33			小学生向け 出前講座『楽しく 学ぶ照明教室』	講師	出前授業	照明学会 東京支部	楽しく学ぶ 照明教室	3/30	コニカミ ノルサイ エンスド ーム (八王子市 こども科学 館)	小学生 中学生	「光の実験と光害について」を担当。実験や実演を通して、子供たちに適切な照明の利用と環境保護の重要性を伝える活動。参加児童生徒6名、保護者5名。	https://researchmap.jp/ochi_nobuaki/social_contribution/53130592	
34	早川 和宏	法学部 法律学 科	講義『公文書 管理のあり 方』	講師	講演会	市町村職員 中央研修所 (市町村アカ デミー)	令和7年度 専門実務課程 「情報公開と 個人情報保護」	5/27	市町村アカ デミー(千葉 市)	行政機関	全国の自治体職員等を対象に、公文書管理の必要性や情報公開・個人情報保護制度との関係性について専門的実地から講義を行った。	https://frontier-omiya.jp/topics/1243	
35			研修『公文書 管理条例時代の 葛飾〜できたこと・ できていないこと・ やるべきこと』	講師	講演会	葛飾区	公文書等管理に 関する研修(管理 職向け)	8/21	かつしかシ ンフォニー ヒルズ	行政機関	管理職職員を対象とした研修にて講師を担当。条例施行後の現状と課題、今後取り組むべき方策について具体的な解説を行った。	https://frontier-omiya.jp/topics/1255	
36			講義『アーカイ ブズ法制論』	講師	講演会	人間文化 研究機構 国文学研究 資料館	令和7年度 アーカイブズ・カ レッジ(史料管 理学研修会)	8/28	国文学研究 資料館	社会人・ 一般	史料管理の専門家を目指す受講生に対し、公文書管理やアーカイブズに関わる法制度の理論と実務について講義を実施した。	https://researchmap.jp/hayakawa_kazuhiro/social_contribution/51197351	
37			朝霞市無料法律 相談会	助言・指導	その他	東洋大学 無料法律 相談部	朝霞市無料 法律相談会	10/18	埼玉県朝霞 市 市民会 館ゆめばれ す	社会人・ 一般	朝霞市無料法律相談会にて本学の無料法律相談部の顧問として、相談対応に当たった。	https://sites.google.com/toyo.jp/law/news_f/20251018	
38			講演『アーカイ ブズの実務と法的 諸問題』	講師	講演会	神奈川県 歴史資料 取扱機関 連絡協議 会(神史協)	令和7年度 第2回研究会・全 史料協関東部 会第330回定 例研究会	12/23	神奈川県立 公文書館	社会人・ 一般	歴史資料の保存・活用に携わる専門職向けに、アーカイブズ運営における法的課題や実務上の留意点について専門的知見を提供した。	https://frontier-omiya.jp/topics/1267	
39			講演『情報公開 制度をめぐる最近 の動向』	講師	講演会	川口市	令和7年度 川口市情報 公開・個人情報 保護研修会	2/12	川口市役所	行政機関	自治体職員を対象に、近年の情報公開制度の改正や運用上の最新動向について、実務的な観点から解説・指導を行った。	https://frontier-omiya.jp/topics/1269	
40	奥乃 真弓	法学部 法律学 科	コーポレート・ガ バナンスとその実 効性の確保	取材協力	新聞・雑 誌	一般社団法人 通信研究会	通信 耀	6/27	『通信 耀』 2025年11月 号14-17頁	企業 行政機関	コーポレート・ガバナンスの観点から、株主利益最大化の下で株式会社が地域コミュニティや環境保全といった公共の利益に貢献していくうえでの3つの主要課題を示し、それらにいかに関与すべきかについて述べた。	  	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
41	松宮 智生	法学部 企業法 学科	令和7年度 JSP0サイエ ンスカフェ 〈第4期〉第 2回「スポー ツにおける男 女二元制の行 方」講演	講師	サイエン スカフェ	公益財団 法人日本 スポーツ 協会	JSP0サイ エンスカ フェ	6/5	オンライン	社会人・ 一般	テーマ「スポーツにおける男女二 元制の行方」	https://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid1325.html	
42			「体育・スポ ーツにおける 多様な性のあ り方」研修会 「多様な性の あり方について 考える」対談	パネリスト、コメンテーター	資格認定 講習	公益財団 法人日本 スポーツ 協会	「体育・ス ポーツにお ける多様な 性のあり方」研修会	8/2	パーソル クアパーク 宮崎	社会人・ 一般	下山田志帆氏（元女子プロサッ カー選手）との対談。テーマ「多 様な性のあり方について考える」	https://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid1242.html	
43			「体育・スポ ーツにおける 多様な性のあ り方」研修会 ワークショップ、コーディネーター	司会、コメンテーター	資格認定 講習	公益財団 法人日本 スポーツ 協会	「体育・ス ポーツにお ける多様な 性のあり方」研修会	8/23、 9/20	米子コンベンションセン ター、長 野ターミナル会館	社会人・ 一般	オープニングレクチャー「体育・ スポーツにおける多様な性のあ り方」、ワークショップ、コーディネーター	https://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid1242.html	
44			成田市男女共 同参画セミ ナー「多様な 性をスポーツ から考える： ジェンダーを 超えて可能性 を広げるス ポーツ」講演	講師	講演会	成田市	成田市男女 共同参画セ ミナー	11/22	赤坂ふれあ いセンター (成田市)	社会人・ 一般	テーマ「多様な性をスポーツから 考える：ジェンダーを超えて可能 性を広げるスポーツ」	https://www.city.narita.chiba.jp/environment/page104700_00001.html	
45			スポーツ・コン プライアンス・オ フィサー養成 講習「ジェン ダーをめぐる 競技参加のル ール：遺伝子 検査とスポー ツにおける性 別二元性の行 方」講師	講師	資格認定 講習	一般社団 法人スポ ーツ・コン プライアンス 教育振興 機構	スポーツ・ コンプライ アンス・オ フィサー養 成講習	3/15	味覚糖 UHA 館 TKP 浜松 町カンファ レンスセン ター	社会人・ 一般	テーマ「ジェンダーをめぐる競技 参加のルール：遺伝子検査とス ポーツにおける性別二元性の行 方」	—	
46			総合格闘技 「RIZIN」総合 格闘技競技オ フィシャル (レフェリー、 ジャッジ、公 式計量、ルー ルレビュー等)	その他	その他	株式会社 ドリーム ファクト リーワー ルドワイド、一般 社団法人 日本 MMA 審判機構	総合格闘技 「RIZIN」	5/4、 5/31、 6/14、 7/27、 9/28、 11/3、 12/31	東京ドーム、 PARADISE CITY（韓国・仁川）、 真駒内セキ スイハイム アイスア リーナ、IG アリーナ、 さいたま スーパーア リーナ、 GLION ARENA KOBE	社会人・ 一般	総合格闘技競技オフィシャル（レ フェリー、ジャッジ、公式計量、 ルールレビュー等）	https://jp.rizinff.com/	—
47			大阪体育大学 大学院スポ ーツ科学研究 科「スポーツ科 学セミナー」 『スポーツの 審判とルール の哲学』講演	講師	講演会	大阪体育 大学大学 院スポーツ 科学研究 科	「スポーツ の審判と ルールの哲 学」	11/10	大阪体育大 学大学院 (オンライン)	大学院生	テーマ「スポーツの審判とルールの 哲学」	—	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
48	松元 明弘 (代表) 山川 聡子 山田 和明 横田 祥	理工学部機械工学科	山車ロボット コンテスト 2025	運営参加 ・支援、 実演	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学 理工学部 機械工学科有志による「山車ロボットコンテスト実行委員会」	かわごえ産業フェスタ	11/16	ウェスタ川越	高校生 社会人・ 一般	川越まつりにちなんだ自律型ロボットコンテストを企画・開催。2025年度は20回目となる。高校生が製作したロボットの技術性と芸術性を競う場を提供。地域文化と先端技術の融合を通じた教育支援および地域活性化に寄与する活動。	https://sites.google.com/view/dashirobot/history/2025%E7%85%90%E6%9E%9C	
49	松元 明弘 横田 祥	理工学部機械工学科	デジタルエンジニアリング アカデミー (Season 5)	企画、運営参加 ・支援	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学工業技術研究所、武蔵野銀行 共催 ぶぎん地域経済研究所 後援 経済産業省 関東経済産業局、一般社団法人 機械振興協会技術研究所、ぶぎんシステムサービス 株式会社	デジタルエンジニアリングアカデミー (Season 5)	5/14~ 12/3	武蔵野銀行本店、東洋大学川越キャンパス	社会人・ 一般 企業 行政機関	武蔵野銀行と東洋大学工業技術研究所が連携し、地域の中小製造業のデジタル化・DXを伴走支援する連続講座「Season 5」を開催。主任講師・講師として実技指導や個別相談を担い、地域産業の生産性向上とデジタル人材育成に貢献する産学連携活動。	https://www.musashinobank.co.jp/irinfo/news/pdf/2025/toyouniversity20250409.pdf	
50	松元 明弘	理工学部機械工学科	全国ロボット・地域連携 ネットワーク (略称 RING プロジェクト)	運営参加 ・支援	その他	経済産業省		6/30~	インターネット, 日本経済新聞, 日刊工業新聞, テレビ東京ワールドビジネスサテライト, 他に各種の業界新聞	社会人・ 一般 企業 行政機関	産業界で深刻化する人手不足に対して、ロボットを活用した労働生産性やその専門人材の育成を目指して、経済産業省、各地域の自治体や支援組織、ロボット関係機関が連携し、ロボット導入支援の取組みを加速させる協議会が発足し、その主査を務める。	https://www.meti.go.jp/press/2025/06/20250630004/20250630004.html	
51			導入支援の“輪”を全国へ広げる【前編】／全国ロボット・地域連携ネットワーク 松元明弘主査	インタビュー	インターネット	株式会社ニュースダイジェスト社	ロボットダイジェスト (Webマガジン)	9/8	インターネット	社会人・ 一般	経済産業省が主導する RING プロジェクト「全国ロボット・地域連携ネットワーク（通称 RING プロジェクト）」の主査を務めることに對してのインタビュー（前編）	https://www.robot-digest.com/contents/?id=1756359986-537629	
52			導入支援の“輪”を全国へ広げる【後編】／全国ロボット・地域連携ネットワーク 松元明弘主査	インタビュー	インターネット	株式会社ニュースダイジェスト社	ロボットダイジェスト (Webマガジン)	9/9	インターネット	社会人・ 一般	経済産業省が主導する RING プロジェクト「全国ロボット・地域連携ネットワーク（通称 RING プロジェクト）」の主査を務めることに對してのインタビュー（後編）	https://www.robot-digest.com/contents/?id=1756360705-814245	
53	小山 信也	理工学部機械工学科	『笑わない数学』監修	助言・指導	テレビ・ラジオ番組	日本放送協会 (NHK)	『笑わない数学』監修	2022年～現在まで	日本放送協会 (NHK)、オンデマンド	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・ 一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア	2022年より NHK 総合テレビで放送されている『笑わない数学』の監修を担当。最先端の数学を一般視聴者にわかりやすく紹介する知的エンターテインメント番組で、2022年9月度のギャラクシー賞、ならびに2022年度上半期ギャラクシー賞奨励賞を受賞した。	https://www.nhk-ondemand.jp/program/P202200297400000/	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
54			NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く Part 3「素数の知られざる顔」	講師	セミナー・ワークショップ	NHK文化センター町田教室	NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く Part 3「素数の知られざる顔」	3/29～現在まで	NHK文化センター町田教室、オンライン、オンデマンド	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	素数を持つ不思議なランダム性のうち「整数で割った余り」から分かる性質をPart 2で紹介しましたが、それは素数が織りなす神秘のごく一部に過ぎません。Part 3では、20世紀初頭に活躍した数学者ラマヌジャンの天才的な着想から得られた「素数の知られざる不規則さ」を紹介します。後年、保型形式や楕円曲線の理論に発展し、BSD予想や深リーマン予想といった現代数学の最先端をなすに至りました。高校前半までの数学の知識を使って、最先端の研究を紹介する。	https://researchmap.jp/koyama/social_contribution/49573313	
55			劇団俳優座公演『存在証明』数学監修・アフタートーク登壇	出演、助言・指導	その他	有限会社劇団俳優座	劇団俳優座公演『存在証明』	11/8～11/15	俳優座スタジオ	社会人・一般	劇団俳優座による舞台作品『存在証明』において数学監修を担当。公演期間中にはアフタートークのゲストとして登壇し、専門的な知見から作品の背景にある数学の世界について解説。芸術表現における科学的整合性の確保と、一般観客への数学文化の普及・啓発に寄与する社会貢献活動。	https://haiyuza.net/past-performances/performances25/math-2/	
56	小山 信也	理工学部機械工学科	NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く Part 4「素数の偏り」	講師	セミナー・ワークショップ	NHK文化センター町田教室	NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く Part 4「素数の偏り」	7/12～現在まで	NHK文化センター町田教室、オンライン、オンデマンド	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	Part 1～3では素数のランダム性を扱いました。4で割って「1余る素数」と「3余る素数」がともに無限にあり、無限大の大きさも等しいという事実がその一例でした。Part 4では、一見それに矛盾する現象を紹介しています。それは、実際に数えると「1余る素数」より「3余る素数」が多く存在するのように見える現象です。これは「チェビシェフの偏り」と呼ばれる未解決問題です。本講義では、この偏りが「笑わない数学」最終回で取り上げたBSD予想（深リーマン予想）で解明できることを紹介する。	https://primes.jp/main/html/rd/p/000000541.000071793.html	
57			NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く Part 5「ゴールドバッハ予想」	講師	セミナー・ワークショップ	NHK文化センター町田教室	NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く Part 5「ゴールドバッハ予想」	10/11～12/13	NHK文化センター町田教室、オンライン、オンデマンド	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	ゴールドバッハ予想は「4以上のすべての偶数は2つの素数の和である」という命題であり、1742年に提唱され現在に至るまで未解決な、整数論の問題である。これを弱めた「弱いゴールドバッハ予想」は「7以上のすべての奇数は3つの素数の和である」という命題で、こちらは2013年にヘルフゴットによって解決された。これによって、ゴールドバッハ予想は「途中まで」解かれたことになる。ヘルフゴットの証明は、1937年のヴィノグラドフの定理「ある数以上のすべての奇数は3つの素数の和である」を精密にしたものであった。本講座ではこの定理の証明方針を解説し、ゴールドバッハ予想への部分的進展の様子を伝える。	—	
58			NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く Part 6「ABC予想」	講師	セミナー・ワークショップ	NHK文化センター町田教室	NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く Part 6「ABC予想」	7/12～現在まで	NHK文化センター町田教室、オンライン、オンデマンド	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	ABC予想は整数論分野における重要問題の1つである。1980年代に提唱され、数十年の間、解決に向けた動きはなかったが、2012年に京都大学の望月新一教授が証明に成功した旨を自身のウェブサイト上で公表し、世界的なニュースになった。その論文は2021年4月に学術誌に掲載された。本講座では、ABC予想の意味を解説するとともに、ABC予想をめぐる数学界の現状を報告する。	—	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
59	小山 信也	理工学部機械工学科	映画「ミステリーアーリーナ」数学監修	助言・指導	その他	株式会社オフィスクレッシェンド	映画「ミステリーアーリーナ」	5/22～現在まで（公開期間）	全国の映画館で公開	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	映画内で芦田愛菜さんが演ずる天才少女が壁面に書きめぐらせる数式の制作・監修を行った。	—	—
60			ユニクロ CM「大学キャンパス編」(数学研究会)	助言・指導	テレビ・ラジオ番組	株式会社ギークピクチャーズ	ユニクロ CM	4/1～5/22（製作期間）	テレビ CM	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	ユニクロの CM で河合優実さんが演ずる大学新入生が「数学研究会」の掲示板を見て入部を迷う場面で、掲示板に書かれている数学の問題の制作・監修を行った。	—	—
61	小瀬 博之	総合情報学部総合情報学科	生きものを育てる田んぼプロジェクト	助言・指導、運営参加・支援、調査担当	研究指導	NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ	—	—	川越市福田地区	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 社会人・一般 企業 市民団体	2014年度から任意団体、2017年度から NPO 法人として活動しているかわごえ里山イニシアチブの運営に協力している。2025年度も継続して、子どもを主な対象とした「田んぼの生きもの観察会」での調査や農作業への協力、会議の協力とともに、「ドローンの自律飛行による鳥害対策」の実地試験に協力いただいた。	https://www.facebook.com/kawagoesatoyama/	
62			川越キャンパス「こもれびの森」における里山林保全活動	助言・指導、企画、運営参加・支援、調査担当	その他	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	—	—	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般	2014年から川越キャンパス「こもれびの森」における生物多様性の向上と学内外の人々との協働による森林保全活動を掲げて活動を継続している。2025年度は学内外の構成員と一般参加者、学生を対象とした里山林保全活動または教育研修活動を月1回のペースで実施した。また、外部コミュニケーションの一環として、6月に鶴ヶ島市役所で開催された「つるがしま市民環境まつり」において「森で採れた材料で工作」「スズメバチの標本展示」を、11月に川越キャンパスで開催された「こもれび祭」において「里山体験と木工教室」を出展した。さらに、高大連携として合同実習等を実施している「インカレ SDGs プロジェクト」に協力して高校生を受け入れた。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyokomorebi/home	
63			霞ヶ関北地区における「鉄紺ゼミ」の開催	司会、企画	講演会	東洋大学環境コミュニケーションゼミ(小瀬ゼミ)	—	5/26、7/6、7/28	mibunka(みぶんか)	大学生 大学院生 社会人・一般	ゼミ科目である3年次演習「総合情報学演習Ⅰシス」は、地域活性化をテーマとして川越キャンパス近隣の霞ヶ関北地区を対象に調査、実施、発表を行っている。前身の演習では2012年度から対象地域において「地域活性化プロジェクト」を実施しており、2025年度は霞ヶ関北地区を対象として『世代を超えた「遊び」』というテーマで地域住民を対象としたイベントや発表会を実施した。	—	
64			川越シニアカレッジ「ふるさと塾」における「川越の自然環境」の講演と現場案内	講師	講演会	川越シニア大学『小江戸塾』	—	9/22	川越市名細公民館、東洋大学川越キャンパス	社会人・一般 市民団体	川越市の高齢者を対象とした「ふるさと塾」において「川越の自然環境」というタイトルで長年講師を務めており、2025年も講師を努めた。川越キャンパス内での自然観察を行い、大学近隣の公民館での講義の後に実地案内を行った。2025年度「ふるさと塾」：第5回講座 koedo-jyuku	—	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
65			「アースデイ川越 in 昭和の街2026」の開催及び出展	出演、司会、企画、運営参加・支援、報告書執筆	フェスティバル	第 27 回アースデイ川越実行委員会	「アースデイ川越 in 昭和の街2026」	3/7	蓮馨寺と昭和の街	小学生 中学生 高校生 大学生 保護者 社会人・一般 企業 市民団体 行政機関	SDGs の周知啓発を目的とした、27 回目の「アースデイ川越」の実行委員長を前回の2021年から務めている。2025年度は川越中心市街地の蓮馨寺を会場として「アースデイ川越 in 昭和の街2026」を3月7日（土）に開催した。運営を統括するとともに実行委員会の進行管理、行政・民間団体等の折衝、実施主体の川越中央通り「昭和の街」を楽しく賑やかなまちにする会（昭和の街の会）との企画検討を行った。	http://showanomachi.net/earthday/	
66	小瀬 博之	総合情報学部 総合情報学科	2025年「建築設備士の日」記念事業【記念講演会・学生コンペ表彰式】のビデオメッセージ出演	出演	講演会	一般社団法人建築設備技術者協会中部支部	「建築設備士の日」記念講演会・学生コンペ表彰式】	12/3	愛知芸術文化センター（アートスペース A）	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業	一般社団法人建築設備技術者協会中部支部主催の「建築設備士の日」記念事業「記念講演会及び2025年学生コンペ表彰式」において、会長としてビデオメッセージにて出演した。	https://jabmeetyubu.com/event/2822/	
67			埼玉未来大学南部・東部学園講師「ボランティア活動・フィールドワーク先を考える」「フィールドワーク（振り返り）」「今後の活動を考える（講座・グループワーク）」	講師	出前授業	公益財団法人いきいき埼玉	ライフデザイン科	10/1、11/12、3/4、3/6	蕨市市民会館、正和工業にじいホール	社会人・一般	埼玉未来大学が主催しているライフデザイン科の講義の一環として4回の講義を担当し、グループワークを交えながら地域活動への参加の仕方についてアドバイス等を行った。	https://www.iki-iki-saitama.jp/mirai/life-design/	
68			東村山市いのちを支える自殺対策推進協議会会長	議長	対話型集会・市民会議	東村山市役所健康福祉部健康増進課	—	8/21、2/17	東村山市役所	行政機関	東村山市自殺対策計画の策定その他地域の自殺対策の推進に関し必要な検討等を行う。	https://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/shisei/keikaku/shingikai/fukushi/jisatukyogikai3012.html	
69	加藤千恵子	総合情報学部 総合情報学科	『『生きる』を支えあう』自殺対策シンポジウム	司会	講演会	東村山市役所健康福祉部健康増進課	『『生きる』を支えあう』自殺対策シンポジウム～気づき 声かけ つながること で命をすくう 地域で『生きる』を支えあう まちへ～	5/10	東村山市中央公民館	社会人・一般	『『生きる』を支えあう』自殺対策シンポジウムにおいて、司会進行役を務めた。	https://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/kenko/kenko/chihikoken/jisatutaisakusinpojiumu.html	
70			健康講座「コラージュでこころリフレッシュ」	講師	セミナー・ワークショップ	東村山市役所健康福祉部健康増進課	健康講座「コラージュでこころリフレッシュ」	6/9	東村山市いきいきプラザ	社会人・一般	健康講座において、「コラージュでこころリフレッシュ」と題し、講師を務めた。	https://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/shisei/koho/sihou/25sihou/files/25_0501_10.pdf	
71			The 2nd Japan Visualization Symposium (Japan Vis 2025) アートコンテストオーガナイザー	その他	その他	可視化情報学会	The 2nd Japan Visualization Symposium (Japan Vis 2025) アートコンテスト	2025年度	可視化情報学会 Web	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般	芸術的に優れた可視化作品を顕彰する「アートコンテスト」において、オーガナイザーを務めた。	https://codria.github.io/art2025/all_entries	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
72	喜岡 恵子	総合情報学部 総合情報学科	安全文化の醸成—ヒューマンエラーの背景を考える—	講師	講演会	JX 金 属 株式会社 茨城事業 所（日立 地区）	安全講演会	6/10	JX 金 属 株 式会社 茨 城 事 業 所 （日立地区）	企業	JX 金属株式会社 茨城事業所（日立地区）主催の安全講演会にて、「安全文化の醸成—ヒューマンエラーの背景を考える—」と題し、講師を務めた。	https://researchmap.jp/g0000210047/presentations/50388090	  
73			絶景鉄道に残る列車の衝突を防ぐ信号の原風景	情報提供	テレビ・ラジオ番組	日本テレビ	所さんの目がテン！	7/6	日本テレビ（TV放送）、TVer（オンデマンド）	社会人・一般	日本テレビ番組の所さんの目がテン！「絶景鉄道に残る列車の衝突を防ぐ信号の原風景」にて、監修を務めた。	https://www.ntv.co.jp/megaten/articles/383369jwbw4bi0y7rpqa.html	  
74	高鶴 裕介	食環境科学部 健康栄養学科	認知症介護実践リーダー研修	講師、助言・指導	セミナー・ワークショップ	社会福祉法人群馬県社会福祉事業団	認知症介護実践リーダー研修	5/23、10/17	社会福祉法人群馬県社会福祉事業団研修指導センター	社会人・一般	主に老人保健施設ではたらく介護福祉士を対象に、認知症の病態の講義及び、それに基づく適切なケアの方法について指導した。	—	
75			認知症対応型サービス事業開設者研修	講師、助言・指導	セミナー・ワークショップ	社会福祉法人群馬県社会福祉事業団	認知症対応型サービス事業開設者研修	10/10	社会福祉法人群馬県社会福祉事業団研修指導センター	社会人・一般	介護福祉施設を運営するスタッフに対し、認知症の病態を講義し、それに基づく適切なケアを提供するための施設としてのあり方について指導した。	—	
76			東松山市のきらめき市民大学「認知症との上手な付き合い方」	講師	講演会	東松山市のきらめき市民大学	東松山市のきらめき市民大学「認知症との上手な付き合い方」	2/12	きらめき市民大学 講堂	社会人・一般	東松山市のきらめき市民大学の学生に向けて、認知症の主な病態の解説と、主に認知症予防に関する講演を行った。	https://www.city.higashimatsuyama.lg.jp/uploaded/life/49707_264282_misc.pdf	
77	古川 和稔	福祉社会デザイン学部 社会福祉学科	2025年度「東洋スマホ教室（第31回～第39回）」の開催支援	助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ	東洋スマホ教室	2025年度	—	社会人・一般	地域に居住する高齢者等を対象に、スマートフォンの基本操作や活用方法を伝える「東洋スマホ教室」（2025年度は第31回から第39回まで計9回）を開催。社会福祉学科の古川和稔ゼミの学生がサポーターとして運営に携わり、地域のデジタルデバйд解消と多世代交流を促進する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-06-11wed	  
78			ウェスタンシドニー大学 Jing-Jing Hong 氏による学術セミナーの開催	講師	セミナー・ワークショップ	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ	社会福祉学科公開セミナー	4/16	東洋大学赤羽台キャンパス	研究者・大学生・社会人・一般	社会福祉学科の古川和稔ゼミではオーストラリア・ウェスタンシドニー大学の Jing-Jing Hong 氏を講師に招き、障害学（Disability Studies）やインクルーシブ教育に関する最新の知見を共有するセミナーを開催。国際的な研究交流を通じて、共生社会の実現に向けた専門的知見を学生や地域社会へ提供する活動を実施。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-04-16wed	  
79			古川ゼミ・赤羽八幡自治会・北区社会福祉協議会による地域福祉に関する意見交換会の開催	情報提供、企画、運営参加・支援	対話型集会・市民会議	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ 赤羽八幡自治会 北区社会福祉協議会	地域福祉意見交換会	5/7	東洋大学赤羽台キャンパス	市民団体・行政機関	社会福祉学科の古川和稔ゼミが、赤羽八幡自治会および北区社会福祉協議会との意見交換会を実施。大学周辺地域の現状や課題を共有し、産官学民の連携による地域福祉の向上と、学生の地域貢献への参画について具体案を検討、協議した。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-05-07wed	  

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
80			韓 国・カトリックサンジ大学とのリモート交流会	情 報 提 供、企画、 運 営 参 加・支援	対話型集 会・市民 会議	東洋大学 福祉社会 デザイン 学部社会 福祉学科 古川和稔 ゼミ	学生リモ ート交流会	5/22	オンライン	大学生 研究者	古川和稔ゼミの学生と韓国のカトリックサンジ大学の学生が、リモート形式での学生交流会を実施。日韓両国の社会福祉を学ぶ学生同士が、互いの国の福祉制度や文化について意見交換を行い、国際的な視野を広げるとともに、将来の福祉専門職としての資質向上を目指す活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-05-31sat	
81			所沢日本語学校との交流会	運営参加 ・支援	対話型集 会・市民 会議	東洋大学 福祉社会 デザイン 学部社会 福祉学科 古川和稔 ゼミ	所沢日本語 学校交流会	7/16、 12/17	東洋大学赤 羽台キャン パス	大学生 社会人・ 一般	古川和稔ゼミの学生と所沢日本語学校に通う留学生（外国籍住民）との交流会（2025年度は7月16日と12月17日の計2回）を開催。対話やグループワークを通じて、留学生の日本社会への適応支援や、日本人学生の多文化理解・コミュニケーション能力の向上を図る活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-07-16wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-12-17wed	
82	古川 和稔	福祉社会デザイン学部 社会福祉学科	「コペンハーゲン大学・赤羽八幡自治会・古川ゼミによる国際・世代間交流会」の開催	助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援、実演	対話型集 会・市民 会議	東洋大学 福祉社会 デザイン 学部社会 福祉学科 古川和稔 ゼミ	国際・世代 間交流会	9/16、 2/19	東洋大学赤 羽台キャン パス	大学生 市民団体 その他	第5回・第6回デンマーク・コペンハーゲン大学の学生、赤羽八幡自治会、および古川和稔ゼミによる交流会を開催。日本の地域福祉や自治会活動に関する知見を共有し、国際比較や世代間交流を通じて、地域共生社会のあり方を多角的に検討する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-09-17wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2026-02-19thu	
83			「障害平等研修（DET）フォーラム2025」の開催	運営参加 ・支援	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学 福祉社会 デザイン 学部社会 福祉学科 古川和稔 ゼミ	障害平等研 修（DET） フォーラム 2025	10/15	東洋大学赤 羽台キャン パス	大学生 研究者 社会人・ 一般 その他	社会福祉学科の古川和稔ゼミが事務局を務め、障がい当事者がファシリテーターとなる「障害平等研修（DET）」のフォーラムを開催。対話を通じて社会の中にある障がい（社会的障壁）を発見し、その解決策を考えるワークショップ等を通じて、共生社会の実現に向けた意識変革を促進する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-10-15wed	
84			北区職員（健康福祉部）との意見交換会の開催	情 報 提 供、運営 参加・支 援	対話型集 会・市民 会議	東洋大学 福祉社会 デザイン 学部社会 福祉学科 古川和稔 ゼミ	北区職員と の意見交換 会	11/12	東洋大学赤 羽台キャン パス	大学生 行政機関	古川和稔ゼミの学生と東京都北区役所健康福祉部の職員による意見交換会を開催。行政の現場における福祉施策の現状や課題について直接対話を行い、地域福祉の向上に向けた大学と行政の連携強化および学生の実践的な学びを促進する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-11-12wed	
85			毎日新聞政治プレミア 日本で暮らす移民のこども「みな同じ日本人になれ」という苦しさ	取材協力	新聞・雑誌	毎日新聞 社	毎日新聞政 治プレミア	2/16、 2/24	毎日新聞政 治プレミア	メディア	日本で暮らす移民のこどもに関するインタビュー	https://mainichi.jp/premier/politics/articles/20260223/pol/00m/010/004000c	
86	南野奈津子	福祉社会デザイン学部 子ども支援学科	あーすぷらぎ2025年度第1回外国籍県民相談等に関する研修会「多文化共生社会における外国人相談の役割とは？」講師	講師	講演会	神奈川県立地球市民かながわプラザ（指定管理者：公益社団法人青年海外協力協会）	あーすぷらぎ2025年度第1回外国籍県民相談等に関する研修会	5/29	あーすぷらぎ（対面またはオンライン）	社会人・ 一般 行政機関	多文化ソーシャルワークの視点から外国人相談対応の基本を学ぶ研修会の講師を担当。	https://www.earthplaza.jp/event/20250529tabunka/	
87			2025年度外国人支援コーディネーター養成研修「外国人住民の福祉課題とコーディネート」講師	講師	セミナー ・ワーク ショップ	公益財団法人東京都つながり創生財団	2025年度外国人支援コーディネーター養成研修	6/30	新宿NSビル会議室3-J	社会人・ 一般 行政機関	多文化共生社会における外国人支援コーディネーターの役割とスキルを学ぶ研修の講師を担当。	https://tabunka.tokyo-tsunagari.or.jp/assets/2025coordinator1.pdf	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
88	細谷 洋子	健康スポーツ 科学部	令和7年度北区地域づくり 応援団事業 企画・運営・ 参加者への指導	運営参加・支援、 講師、企画、報告 書執筆	セミナー・ワーク ショップ	北区ワー キングマ ザーサロ ン Beleza	令和7年度 北区地域づくり応援団 事業 ①親子参加型講座 ②親子分離型講座	① 6/29、 7/27、 8/31 ② 12/21、 2/1、 2/15	①スタジオ モノトーン、リノア 北赤羽つながるば。② 東洋大学赤羽台キャン パス、いろむすびCafe	幼稚園以下 小学生 中学生 保護者	「親子参加型講座」「親子分離型講座」におけるヨガやボディアートを 通じた子育て支援の企画運営・ 参加者への指導		
89			2025クーコン フェスタ 企画・支援・助 言・指導	企画、助 言・指導	フェスティバル	十条仲通 り商店会	2025クー コンフェスタ	10/19	十条仲通り 商店街	小学生 幼稚園以下 保護者	イベント来場者（特に親子）への あそび支援・イベントテーマソ ング作成支援の助言と指導		
90			第42回ふるさと北 区民祭り 企画・運 営・参加	助言・指 導、運営 参加・支 援、企画	フェスティバル	東京都北 区地域振 興部	第42回ふる さと北 区民祭り	10/4、 10/5	飛鳥山公園	幼稚園以下 小学生 中学生 保護者	イベント来場者（特に親子）への 世界のあそび体験支援の企画・運 営・参加		

〈部局・研究所・センター等〉

学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs	
1	総務課	東洋大学白山地域振興懇話会「白山哲理塾」の事務	運営参加・支援、その他	セミナー・ワークショップ	白山地域振興懇話会(本学及び地域団体等との協働)	4/1-3/31	文京区男女平等センターほか	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 その他	総務課は、東洋大学白山地域振興懇話会事務局となっており、白山地域振興懇話会と協働し、大学と地域社会との連携及び地域社会への貢献の一環として実施。企画立案者(近隣住民等)は、事務局に企画書の提出を行い、学内外で活動を実施。実施場所が本学「地域交流サロン」であれば、無料。			
2		「SDGs Newsletter」	編集、情報提供、企画、寄稿、その他	会誌・広報誌	広報課	「SDGs Newsletter」	12/21-4/14	「SDGs Newsletter」	社会人・一般 メディア	SDGs に寄与する本学の取り組みや教員の研究、学生団体の活動を主に報道関係者へ情報提供する。報道関係者だけでなく、社会・一般者にも伝えられるようにコンテンツ化して随時公開していく。	https://www.toyo.ac.jp/sdgs/newsletter/	
3	広報課	東洋大学オウンドメディア「LINK@TOYO」	編集、情報提供、企画、寄稿、その他	会誌・広報誌	広報課	今こそ身につけたい“教養”、大人のためのWEBマガジン「LINK@TOYO」	10/30-現在まで	WEBマガジン「LINK@TOYO」	社会人・一般	生活の知恵を得る「LIFE」、社会の未来を考える「SOCIAL」、仕事に生きる術を知る「BUSINESS」、文化を味わう「CULTURE」、スポーツを学ぶ「SPORT」の5つのカテゴリーからなるコンテンツを展開。専門家である本学の教員がそれぞれのテーマについて分かりやすく解説する記事や、各界で活躍する卒業生・学生へのインタビュー記事など、今こそ身につけたい“教養”の獲得を後押しするコンテンツとして随時公開していく。	https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/ https://www.u-presscenter.jp/article/post-44677.html	
4		第38回東洋大学「現代学生百人一首」	編集、企画、運営参加・支援、その他	その他	主催：東洋大学広報課 後援：文部科学省	第39回東洋大学「現代学生百人一首」	9/12-1/15	第39回東洋大学「現代学生百人一首」	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生	短歌文学の教育研究活動を通じて日本の教育・文化の発展に寄与することを目的に、毎年国内外の学生から「現代学生のもの見方・生活感覚」を詠んだ短歌を募集。応募作品から100首、小学生の部10首を審査・発表。	https://www.toyo.ac.jp/social/issyu/ https://www.toyo.ac.jp/assets/social/issyu/index.html https://sites.google.com/toyo.jp/social-issyu/winning https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/culture/gakusei_hyakuninissyu/	—
5		TGL キャンプ「SDGs クリエイティブチャレンジ～未来デザイン～」	運営参加・支援、講師、助言・指導、情報提供、企画、報告書執筆、調査担当	セミナー・ワークショップ	東洋大学国際教育センター	TGL キャンプ「SDGs クリエイティブチャレンジ～未来デザイン～」	6/14	学外研修施設	大学生	次世代のグローバルリーダーを育成するためのキャンプ型研修プログラム。異文化理解、チームビルディング、リーダーシップスキルなどの習得を目指すワークショップを実施する。	https://sites.google.com/toyo.jp/ipo/newslist/20250614tgle?authuser=0	
6	国際課	国際協働 COIL 型フィールドスタディ「富士山フィールドワーク」	運営参加・支援、講師、助言・指導、情報提供、企画、報告書執筆、調査担当	その他	東洋大学国際教育センター	国際協働 COIL 型フィールドスタディ「富士山フィールドワーク」	8/24-26	富士山周辺地域	大学生	留学生を対象とした、富士山周辺での自然体験や伝統文化体験を通じた日本理解促進プログラム。学外での実体験を通じて、日本の環境保護や文化継承への関心を高める。	https://sites.google.com/toyo.jp/ipo/newslist/2025fuiji?authuser=0	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
14	経済学部 教務課	板橋区のまちあ るきイベントの 実施	企画、運営 参加・支援 、調査担 当	その他	東洋大学経 済学部宮下 ゼミ・板橋 区	学生とめぐる 中山道・板橋 宿まち歩き	12/25	板橋区仲宿 商店街	社会人・ 一般	板橋区からの協賛を得て、板橋仲宿 商店街周辺にまち歩きイベントを 開催。本イベントの目的は、区民の 方に地元の歴史文化を再認識して いただきながら、ご高齢の方の健康増 進を図ることであった。なお、本企 画は、「中山道板橋宿デジタルガイ ド 歩学（アルガク）」の一環にて 実施。	https://sites.google.com/toyo.jp/eco/news-f/2026%E5%B9%B4%E5%BA%A6/%E7%B7%8F%E5%90%88%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%AD%A6%E7%A7%91%E5%AE%AE%E4%B8%8B%E3%82%B3%E3%83%9F%E6%9D%BF%E6%A9%8D%E5%8C%BA%E3%81%A1%E3%83%81%E3%82%8B%E3%81%8D%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88%E3%82%92%E5%AE%9F%E6%96%BD%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F?authuser=0	
15	経済学部 教務課	酒粕プロジェクト「U-go!～酵 母の贈り物～」 酒粕活用学食メ ニューの企画開 発	企画、運営 参加・支援	その他	有限会社佐 藤酒造店 株式会社オ リエントル フーズ 経 営学部生・ 食環境科学 部生	酒粕活用学食 メニュー期間 限定販売	5/13- 5/30	東洋大学朝 霞キャンパ ス 学生食 堂	大学生 教育関係 者 社会人・ 一般	オリジナル日本酒の製造過程で生じ る酒粕の廃棄問題（フードロス）解 決を目的とし、学部を超えて連携し た学生が「酒粕活用学食メニュー」 を企画・開発。朝霞キャンパスの学 生食堂にて一般向けにも提供する産 学連携プロジェクト。	https://www.toyo.ac.jp/assets/news/pressrelease-20250509.pdf	
16	経営学部 教務課	産学連携「JA な すのフェア」の 企画・開催	企画、運営 参加・支援	その他	JA なすの 経営学部・ 蜂 巣 ゼ ミ (経営学部) 食環境科学 部・露久保 研究室(食 環 境 科 学 部)	JA なすの フェア	1/13- 1/15	東洋大学 6 号館地下1 階学生食堂 (鉄鍋屋)	大学生 教育関係 者 社会人・ 一般	経営学部・蜂巣ゼミと食環境科学 部・露久保研究室が「JA なすの」 等と連携し、地域貢献活動の一環と して企画。最高級品質の那須和牛や 特 A コシヒカリを使用したすき焼き を、学生や一般向けに学食で提供す る産学連携プロジェクト。	https://www.toyo.ac.jp/assets/news/20260109/20260113nasu.pdf	
17	法学部 教務課	法律相談部によ る無料法律相談 会（朝霞市）の 開催支援	運営参加・ 支援	その他	東洋大学 法律相談部	無料法律相談 会	10/18	朝霞市市民 会館ゆめば れす	社会人・ 一般	法学部の学生団体である法律相談部 が、一般市民を対象に行う無料法律 相談会の開催において、教務課とし て運営や広報の支援を行う地域連携 活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/law/news-f/20251018	
18	法学部 教務課	法律相談部によ る無料法律相談 会（常総市）の 開催支援	運営参加・ 支援	その他	東洋大学 法律相談部	無料法律相談 会	2/23	茨城県常総 市生涯学習 センター	社会人・ 一般	法学部の学生団体である法律相談部 が、一般市民を対象に行う無料法律 相談会の開催において、教務課とし て運営や広報の支援を行う地域連携 活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/law/news-f/20260223	
19		多文化共生プロ ジェクトの運営 ・支援	運営参加・ 支援	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学社 会学部	多文化共生プロ ジェクト	2025年 度	地 域 社 会 (北区団地 等)	小学生 社会人・ 一般	社会学部の域学連携教育プログラ ムの一回として、学生が地域社会の自 治会等と連携し、日本語サロンの運 営や子どもへの学習支援などを行う 「多文化共生プロジェクト」の活動 を運営・支援する取り組み。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-156/news_d	
20	社会学部 教務課	第41回文京あじ さいまつりの運 営参加支援	運営参加・ 支援	フェス ティバル	文京あじさい まつり実行 委員会	第41回文京あ じさいまつり	6/7- 6/15	白山神社・ 白山公園	社会人・ 一般	社会学部の学生が地域貢献活動の一 環として、文京区の「第41回文京あ じさいまつり」の運営ボランティア として参加。地域住民との交流やイ ベント運営の補助を支援する取り組 み。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-151/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E7%A7%91/20250607_%E7%AC%41%E5%9B%9E%E3%81%82%E3%81%98%E3%81%95%E3%81%84%E3%81%8E%E3%81%4A%E3%82%8A%E3%81%AE%E9%81%8B%E5%96%B6%E3%81%AB%E5%AD%A6%E7%94%9F%E3%81%8C%E5%8F%82%E5%8A%A0%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F?authuser=0	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
21											https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-151/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E7%A4%BE%E4%BC9A%E5AD%A6%E7%A7%E91/20250611%E7%A4%BE%E4%BC9A%E5AD%A6%E7%A7%E91%E5%85%AC%E9%96%8B%E8%AC%9B%E7%B%EA9E3%E81AE%E3W81894%E6A1%E88%E5%86%85%E3%82%BD%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83AB%E3%82%A8%E3%82%B3%E3%83%8E%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%81%88%E3%82%89%E3%83%8E3%81%88%E3%82%8B%E3%82%B3%E3%83%9FE3%83%A5%E3%83B8%E3%83%86%E3%82%A3%E3%81A5%E3%81%8F%E3%82%8A	
		社会学科公開講義「ソーシャルエコノミーから考えるコミュニティづくり」の開催	講師、情報提供、企画、運営参加・支援	講演会	東洋大学社会学部社会科学	社会学科公開講義	6/26-6/27	東洋大学白山キャンパス	社会人・一般大学生	「ソーシャルエコノミーから考えるコミュニティづくり」をテーマとした公開講義を開催。一般市民や学生を対象に、新たな社会の仕組みについて学ぶ機会を企画・運営支援する地域貢献活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-151/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E7%A4%BE%E4%BC9A%E5AD%A6%E7%A7%E91/20250913-14_%E6%9D%B1%E6%B4%8B%E5%A4%A7%E5AD%A6%E7%A4%BE%E4%BC9A%E5AD%A6%E9%E3%81%8C%E7%99%BD%E5%B1%B1%E7%A5%89%E7%A4%BD%E4%B8%E8%BE5A4A7%E7%A5AD%E3%81AB%E5%8F%82%E5%8AA0%E3%81%97%E3%81%9F	
22	社会学部教務課	白山神社例大祭への運営参加・支援	運営参加・支援	フェスティバル	白山神社	白山神社例大祭	9/13-9/14	白山神社	社会人・一般	社会学部の学生が地域貢献活動の一環として、白山神社の例大祭にボランティアとして参加。神輿の担ぎ手や祭りの運営支援を通じて、地域住民との交流を深める取り組み。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-151/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E7%A4%BE%E4%BC9A%E5AD%A6%E7%A7%E91/20250913-14_%E6%9D%B1%E6%B4%8B%E5%A4%A7%E5AD%A6%E7%A4%BE%E4%BC9A%E5AD%A6%E9%E3%81%8C%E7%99%BD%E5%B1%B1%E7%A5%89%E7%A4%BD%E4%B8%E8%BE5A4A7%E7%A5AD%E3%81AB%E5%8F%82%E5%8AA0%E3%81%97%E3%81%9F	
23		白山上向丘商店街「白山まつり」への運営参加・支援	運営参加・支援	フェスティバル	白山上向丘商店街振興組合	白山まつり	10/5	白山上向丘商店街	社会人・一般	社会学部の学生が地域連携活動の一環として、白山上向丘商店街で開催された「白山まつり」の運営に参加。模擬店の補助や会場案内などを通して、商店街の活性化と地域住民との交流を支援する取り組み。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-151/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E7%A4%BE%E4%BC9A%E5AD%A6%E7%A7%E91/20251005_%E6%9D%B1%E6%B4%8B%E5%A4A7%E5AD%A6%E7A4%BE%E4%BC9A%E5AD%A6%E9%83%A8%381%AE%E5%AD%A6%E7%94%F%E3%81%8C%E7%99%BD%E5EB1%B1%E4KBB8AK%E5%90%91%E4KB8%98%E5%95%86%E5BAK97%E8%A1%97%E7%99%BD%E5B1%B1%E3%81%BE%E3%81%A4%E3%82%8A%E3%81AE%E9%81%8DE5%96%DB%E3%82%92%E8A3%9CE5%8AA9%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F?authser=2	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
24		白山下商店会 チャリティ感謝市への運営参加・支援	運営参加・支援	フェスティバル	白山下商店会	チャリティ感謝市	11/3	白山下商店会	社会人・一般	社会学部の学生が地域社会への貢献として、白山下商店会が主催する「チャリティ感謝市」のボランティアとして参加。販売補助等を通じて、地域経済の活性化と福祉支援に協力する取り組み。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-151/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E7%A7%91/20251103_%E6%9D%B1%E6%B4%88%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E7%A4%B8%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E9%83%A8%E3%81%A8%E5%AD%A6%E7%94%9F%E3%81%B8C%E7%99%BD%E5%B1%B1%E4%B8%8B%E5%BAC%97%E4%BCE%E3%83%81%E3%83%AE%E3%86%E3%82%AC%9D%E5%B8%82%E3%81%AB%E5%8F%82%E5%8AA%E3%81%97%E3%81%9F	
25	社会学部 教務課	ブータンデー 2025の開催	情報提供、企画、運営参加・支援	フェスティバル	東洋大学社会学部国際社会学科	ブータンデー2025	12/21	東洋大学白山キャンパス	大学生・社会人・一般	ブータンの文化、社会、国民の幸福（GNH）について理解を深めるイベント「ブータンデー2025」の開催において、写真展や講演会を通じた異文化理解促進の活動を支援する取り組み。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-156/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E7%A7%91/20251204_%E3%83%96%E3%83%B3%E3%83%87%E3%83%BC2025%E9%96%88%E5%82%AC%E3%81%AE%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B	
26		映画『そして、アイヌ』上映および大宮監督との対話の開催	情報提供、企画、運営参加・支援	その他	東洋大学社会学部国際社会学科	映画『そして、アイヌ』上映会	1/14	東洋大学白山キャンパス	大学生・社会人・一般	社会学部国際社会学科の主催により、映画『そして、アイヌ』の上映と大宮浩一監督を迎えた対話集會を開催。アイヌの歴史や現代における共生について学ぶ機会を支援する地域・社会貢献活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-156/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E7%A7%91/20251120_%E3%81%94%E6%A1%88%E5%86%85%E6%98%A0%E7%94%B8%E3%81%9D%E3%81%97%E3%81%A6%E3%82%A2%E3%82%4A%E3%83%8C%E4%B8%8A%E6%98%A0%E3%81%8A%E3%82%88%E3%81%B3%E5%A4%A7%E5%AE%AE%E7%9B%A3%E7%9D%A3%E3%81%A8%E3%81%AE%E3%AF%BE%E8%A9%B1	
27		国際地域学科専長ゼミ生による板橋区都市づくりビジョンへの政策提言	運営参加・支援、調査担当	その他	板橋区・東洋大学	板橋区都市づくりビジョン(仮称)策定に向けた政策提言	6/19	東京都板橋区	社会人・一般行政機関	国際地域学科の専長ゼミに所属する学生が、板橋区の「都市づくりビジョン」策定に向け、地域課題の解決や活性化に関する政策提言を実施。自治体との連携を通じた地域貢献活動。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250623-17637.html	
28	国際学部 教務課	東洋大学・カーティン大学(オーストラリア)合同能登復興支援フィールドワーク2025の実施	情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学国際学部	能登復興支援フィールドワーク2025	6/5-6/9	石川県能登地域	中学生・社会人・一般市民団体行政機関	オーストラリアのカーティン大学と合同で、能登半島の震災復興支援を目的としたフィールドワークを実施。現地の復興状況の調査や住民との交流を通じて、国際的な視点から復興支援に寄与する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/grs/grsnews/20250711	
29		ShIP フィリピンコース学生によるセブ島沖地震緊急支援ボランティア活動	運営参加・支援	その他	東洋大学国際学部	ShIP フィリピンコース	10/2	フィリピン(セブ島沖被災地域)	社会人・一般市民団体	国際学部の学生が ShIP (Short-term Internship Program) フィリピンコースの一環として、セブ島沖地震の被災地に緊急支援ボランティア活動に参加。現地の復興支援や物資配給の補助等を通じた社会貢献活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/grs/grsnews/20251106	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
30		国際地域学研修 (能登ゼミ) による志賀町稗造地区での復興支援・地域活性化活動	運営参加・支援、調査担当、企画、報告書執筆	その他	東洋大学国際学部	国際地域学研修(能登ゼミ)	9/04-9/07	石川県羽咋郡志賀町稗造地区	小学生・社会人・一般・市民団体・行政機関	国際学部の学生が「能登ゼミ」の一環として、石川県志賀町稗造地区にて3泊4日の研修を実施。被災地の現状把握や地域住民との交流、草刈りなどの支援活動を通じて、復興支援と地域活性化に寄与する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/grs/grsnews/20251113	 
31	国際学部 教務課	「いま考える防災」イベントにおける能登災害ボランティア活動報告	運営参加・支援、情報提供	セミナー・ワークショップ	目黒区石川町人会	いま考える防災	2/15	目黒区民センターホール	社会人・一般	目黒石川町人会主催の防災イベント「いま考える防災」において、国際学部の学生が能登半島地震の被災地で行った災害ボランティア活動を報告。地域の防災意識向上と被災地支援の現状を伝える活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/grs/grsnews/20260310	 
32		こどもの権利推進リーダー会議	運営参加・支援	対話型集会・市民会議	文京区子育て支援課		2025年度	文京シビックセンター	中学生・高校生	動画やパンフレットの作成など、こどもの権利を広めるための活動。文京区子どもの権利推進リーダー会議に国際学部の学生が記録・ファシリテーターで運営を支援。	https://www.city.bunkyo.lg.jp/b093/p007766.html	
33		白山キャンパス「バーチャルツアー」の公開	情報提供、企画、運営参加・支援、その他	インターネット	東洋大学国際観光学部	白山キャンパス・バーチャルツアー	2025年度	インターネット(Webサイト)	高校生・大学生・大学院生・保護者・社会人・一般	観光業界のDXに対応する次世代観光人材育成を目的とした教育事業「多機能型観光ストリートビューを活用したSTEAM教育推進プロジェクト(代表:杉本興運教授)」の一環として、教員を中心に学生も制作過程に参加して開発。遠方からの受験希望者や在学生、一般の方々にキャンパスの魅力を新しい形で発信。デジタル技術を用いた大学情報の公開と地域・社会への情報発信。大幅にアップグレードされた第二版もリリースした。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250818-17954.html https://www.toyo.ac.jp/news/20251128-18660.html	  
34	国際観光学部教務課	「ツーリズムEXPO ジャパン2025」への出展および研究成果発表	出演、パネリスト、情報提供、企画、運営参加・支援、実演、その他	フェスティバル	公益社団法人日本観光振興協会 一般社団法人日本旅行業協会(JATA) 日本政府観光局(JNTO)	ツーリズムEXPO ジャパン2025	9/25-9/28	愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)	社会人・一般	世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPO ジャパン2025」に国際観光学部としてブースを出展。観光学に関する最新の研究成果や学部の取り組みを広く一般・業界関係者へ発表し、観光振興への寄与と社会連携を促進する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/itm/application/%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0expo%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%91%E3%83%B3/%E5%9B%B0%E3%9A%9B%E3%8A%6B%E5%85%A8%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0expo%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%91%E3%83%B32025%E3%81%A7%E8%BA%8D%E5%8B%95	  
35		国際観光学部増子ゼミ企画展示「MBTIでわかるあなたのAR-TYPE」の開催	情報提供、企画、運営参加・支援、その他	その他	東洋大学国際観光学部増子ゼミ	企画展示「MBTIでわかるあなたのAR-TYPE」	11/19-11/21	井上円了記念博物館ロビー展示エリア(展示室前)	社会人・一般	国際観光学部の増子ゼミが、性格診断「MBTI」を用いて来場者の特性に合ったアートの楽しみ方を提案する企画展示を開催。学生の専門知識を活かした体験型イベントを通じて、地域住民や学生へ文化芸術への関心を高める機会を提供。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-oshrase/20251119	  
36	研究推進課 東洋大学いのち総合研究機構	重点研究推進プログラム「神経可塑性から子どもの発達をサポートする」シンポジウム	出演、講師、パネリスト、企画、運営参加・支援	講演会	東洋大学いのち総合研究機構	「生育のdiversityを生むメカニズムの解明とwell-beingと社会の実現に向けた支援体制の構築」シンポジウム	10/11	東洋大学朝霞キャンパス 2101教室	社会人・一般・研究者・大学生	脳・からだ・こころの発達メカニズムを明らかにするため、生命科学・教育学等の知見を結集し、発達障害や感覚・運動の課題への支援を探るシンポジウムを開催。カレン・ブライアー博士の基調講演も実施。	https://www.u-presscenter.jp/article/5893	   
37		2025年度SDGsシンポジウム「未来を拓く研究力ー研究成果の社会実装を通じたSDGsへの貢献ー」	出演、講師、パネリスト、企画、運営参加・支援	講演会	東洋大学SDGs推進センター・東洋大学いのち総合研究機構	2025年度SDGsシンポジウム	11/11	25記念ホール(白山キャンパス)およびオンライン	社会人・一般・研究者・大学生・企業	大学の研究成果を社会に実装し、社会課題の解決とSDGs達成に貢献するため、産学連携による具体的な取り組み等の報告やパネルディスカッションを実施した。	https://www.toyo.ac.jp/sdgs/center/event/2025symposium/	  

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
38	研究推進課 東洋大学 いのち総合研究機構	〈推し活〉を学問する 第三弾 推しと推し活を考える	出演、講師、パネリスト、企画、運営参加・支援	講演会	東洋大学いのち総合研究機構	〈推し活〉を学問する 第三弾 推しと推し活を考える	11/3	東洋大学白山キャンパス 8 B11 教室	大学生 社会人・一般 研究者	現代の文化的現象である「推し活」について、学問的視点から多角的に分析・考察するシンポジウム（第三弾）を開催した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20251118-18592.html	  
39		1st East Asia Conference on Extremophiles (EACE 2025)	出演、講師、企画、運営参加・支援	講演会	東洋大学	1st East Asia Conference on Extremophiles (EACE 2025)	5/7	東洋大学朝霞キャンパス	研究者 大学生 大学院生	極限環境微生物研究の第一線で活躍する研究者、若手科学者、学生が一堂に会し、新たなコラボレーションや活発な議論を促進する国際会議を開催。	https://www.toyo.ac.jp/news/20251014_EACE2025.html	  
40		シンポジウム「中小企業の事業承継 親子の絆と葛藤」	出演、講師、パネリスト、企画、運営参加・支援	講演会	東洋大学・東京東信用金庫	中小企業の事業承継 親子の絆と葛藤	1/20	東京東信用金庫 両国本部10階大ホール	企業 研究者 行政機関 その他	中小企業の円滑な事業承継をテーマに、経営学や社会心理学、脳科学の視点からの研究発表と、実際に承継を経験した経営者による講演を実施し、次世代へつなげるヒントを議論した。	https://www.toyo.ac.jp/research/smes2025/ https://www.higashin.co.jp/article_source/data/info/detail/2025/2025_195.shtml	 
41		いのち総合研究機構開設記念シンポジウムおよび重点研究推進プログラム成果報告会「いのちの未来を考える」	出演、講師、パネリスト、企画、運営参加・支援	講演会	東洋大学いのち総合研究機構	いのち総合研究機構開設記念シンポジウム	2/19	白山キャンパス	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般	いのち総合研究機構の開設を記念し、重点研究推進プログラムの成果報告会を兼ねたシンポジウム「いのちの未来を考える」を開催。文理融合型のプロジェクトチームによる研究活動の成果を社会へ還元・発信した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20260206-18991.html	  
42		日本学術会議・公開シンポジウム	出演、講師、パネリスト、企画、運営参加・支援	講演会	日本学術会議（共催：東洋大学いのち総合研究機構）	日本学術会議・公開シンポジウム	3/28	ウェビナーによるオンライン開催	社会人・一般 研究者	日本学術会議主催の公開シンポジウムに共催として参画。福祉の価値と、新たな視点や仕組みによって社会を変えるイノベーションの創発的関係を踏まえ、多様な人々との地域での共生を図る福祉システム共創の可能性と課題について議論した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20260107-18856.html	  
43	研究推進課 人間科学総合研究所	「SDGs と人文学」公開セミナー「後宮と則天武后」	企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学人間科学総合研究所	「SDGs と人文学」公開セミナー	5/24	東洋大学白山キャンパスおよびオンライン	大学生 研究者 社会人・一般	「SDGs と人文学」シリーズの公開セミナーを開催。「後宮と則天武后」をテーマに、ジェンダーや歴史的背景の観点から人文学的な考察を深め、社会へ知を還元した。	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20250524	 
44		「SDGs と人文学」知の継承編公開講演会「近世百姓的世界と東アジア小農社会」	企画、運営参加・支援	講演会	東洋大学人間科学総合研究所	「SDGs と人文学」知の継承編公開講演会	6/21	東洋大学白山キャンパスおよびオンライン	大学生 研究者 社会人・一般	「SDGs と人文学」知の継承編の公開講演会を開催。17～19世紀の日本と中国の農村・農民の生活や再生産システムについて比較研究の成果を発信した。	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20250621_1	
45		「SDGs と人文学」公開イベント	企画、運営参加・支援	講演会	東洋大学人間科学総合研究所	「SDGs と人文学」公開イベント	7/26	東洋大学白山キャンパスおよびオンライン	大学生 研究者 社会人・一般	「SDGs と人文学」シリーズの公開イベントを開催。人文学の視座から持続可能な社会に向けた課題や展望について多角的な議論と情報発信を行った。	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20250726	
46		「SDGs と人文学」公開イベント	企画、運営参加・支援	講演会	東洋大学人間科学総合研究所	「SDGs と人文学」公開イベント	10/25	東洋大学白山キャンパスおよびオンライン	大学生 研究者 社会人・一般	「SDGs と人文学」シリーズの公開イベントを開催。人文学の多様な視点から SDGs の達成に向けた社会的・文化的背景の理解を深めるための知の還元を行った。	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20251025	
47		「対話——この葉を集める。景色を切り取る。」	企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学人間科学総合研究所	「対話——この葉を集める。景色を切り取る。」	11/6	東洋大学白山キャンパス	大学生 社会人・一般	対話を通じて日常の風景や言葉を再発見し、多様な視点を共有する場を提供するイベントを開催した。参加者同士のコミュニケーションを通じて、人文学的な考察を深めた。	https://www.toyo.ac.jp/news/list-research-labo-center-ihs.html	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
48		「SDGs と人文学」 知の継承編公開 講演会「ハンム ラビ法典とその 現代的意義」	企画、運営 参加・支援	講演会	東洋大学人 間科学総合 研究所	「SDGs と人文学」 知の継承 編公開講演会	11/22	東洋大学白 山キャンパ スおよびオ ンライン	大学生 研究者 社会人・ 一般	SDGs と人文学の関わりを探るシ リーズ公開講演会を開催。ハンムラ ビ法典を題材に、古代の法理が現代 の社会や正義の観念に与える意義に ついて考察し、広く社会へ知を還元 した。	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20251122	 
49	研究推進 課 人間科学 総合研究 所	「異世界へのま なざし」公開研 究会	企画、運営 参加・支援	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学人 間科学総合 研究所	「異世界への まなざし」公 開研究会	11/28	オンライン 開催	大学生 研究者 社会人・ 一般	オンラインにて公開研究会を開催。 文学や宗教、民俗学など様々なアプ ローチから、人々が抱く「異世界」 への視点や認識について考察し、参 加者と議論を交わした。	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20251128	
50		母子生活支援施 設における子ど も支援の可能性 —母子生活支援 施設・宇波施設 長と施設長経験 を有する渋谷さ んのお話と対話 —	企画、運営 参加・支援	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学人 間科学総合 研究所	公開研究会・ 対話イベント	12/6	東洋大学白 山キャンパ ス	大学生 研究者 社会人・ 一般 市民団体	母子生活支援施設における子ども支 援の可能性を探る対話型イベントを 開催。現役の施設長や経験者を招き 、現場の実情や支援のあり方について 意見を交わした。	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20251206	  
51		公開講演会～ド ローンが新しい 風を吹かせる～	企画、運営 参加・支援	講演会	現代社会総 合研究所	公開講演会	10/4	東洋大学白 山キャンパ ス	研究者 大学生 社会人・ 一般	本講演会では、次世代技術として注 目されるドローンに着目し、その最 新動向と社会実装の現状について専 門家が解説します。産業や防災、環 境保全など多様な活用可能性を具体 例を交えて議論し、最先端技術が今 後の社会生活にどのような変革をも たらすかについて、参加者と共に考 える機会を提供します。	https://sites.google.com/toyo.jp/gensha/lecture2/%E8%AC%98%E6%B8%94%E4%B8%A20251004?authuser=0	 
52		第1回研究成果 発表会—研究者 の発表を聞いて 理解を深めよう —	企画、運営 参加・支援	セミナー ・ワーク ショップ	現代社会総 合研究所	第1回研究成 果発表会	11/22	東洋大学白 山キャンパ ス	研究者 大学生 社会人・ 一般	本研究所の研究者が現在取り組んで いる最新の研究成果を一般に向けて 発表し、学術的な知見を広く共有す る場です。専門家のみならず学生や 一般市民との対話を通じて研究内容 への理解を深めることを目的として おり、地域社会の課題解決に向けた 意見交換や、大学の研究活動に対す る関心を高めるための成果報告会で す。	https://sites.google.com/toyo.jp/gensha/lecture2/%E7%AC%A5%E5%9B%9E%E7%A0%94%E7%A9%B6%E6%B8%80%E6%89%9C%E7%9D%A8%E8%A1%A8%E4%B8%9A	 
53	研究推進 課 現代社会 総合研究 所	第1回 関東 ナ チュラルチーズ コンテスト	企画、運営 参加・支援	その他	主催：関東 ナチュラル チーズコン テスト実行 委員会、共 催：現代社 会総合研究 所 SDGs プ ロジェクト	第8回関東ナ チュラルチー ズコンテスト	3/18	東洋大学白 山キャンパ ス	大学生 社会人・ 一般 企業 その他	関東近郊のチーズ生産者が一堂に会 し、技術の向上と地産地消の促進を 目的としたコンテストを開催しま す。専門家による審査を通じて地域 の食文化であるナチュラルチーズの 魅力を発信するとともに、生産者と 消費者の交流の場を提供すること で、地域産業の活性化と持続可能な 食のネットワーク構築を目指す取り 組みです。	https://sites.google.com/toyo.jp/gensha/project/projectSDGs/%E7%AC%A5%E5%9B%9E%E7%A0%94%E7%A9%B6%E6%B8%80%E6%89%9C%E7%9D%A8%E8%A1%A8%E4%B8%9A	  
54		第3回 SDGs フォトコンテ スト	企画、運営 参加・支援	その他	現代社会総 合研究所	第3回 SDGs フォトコンテ スト	11/18	東洋大学白 山キャンパ ス	大学生 大学院生 研究者 社会人・ 一般	SDGs（持続可能な開発目標）の意義 や重要性、SDGs のゴールを意識す るきっかけとなるような写真を募集 しそれを広く伝えることがこのコン テストの意義です。	https://sites.google.com/toyo.jp/gensha/project/projectSDGs/%E7%AC%A5%E5%9B%9E%E7%A0%94%E7%A9%B6%E6%B8%80%E6%89%9C%E7%9D%A8%E8%A1%A8%E4%B8%9A	  
55	研究推進 課 東洋学研 究所	2025年度第1回 研究発表例会	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー ・ワーク ショップ	東洋学研 究所	2025年度第1 回研究発表例 会	6/14	オンライン (Google Meet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	東洋学研究所の研究者が最新の研究 成果を発表し、学術的な知見を共有 する例会。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/20250614reikai	 

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
56		2025年度第2回 研究発表例会	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー・ワーク ショップ	東洋学研究所	2025年度第2 回研究発表例会	7/19	オンライン (Google Meet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	東洋学における各専門領域の報告を行い、相互の議論を通じて研究の質を高めるための定期的な研究発表会。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/20250719reikai2	
57		東アジア仏教研究会2025年度第2回定例研究会	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー・ワーク ショップ	主催：東アジア仏教研究会2025年度第2回定例研究会 共催：東洋学研究所	東アジア仏教研究会2025年度第2回定例研究会	7/26	東洋大学白山キャンパス	研究者 大学生 社会人・ 一般	東アジアにおける仏教思想の変容について、共同研究の成果を持ち寄り専門的な議論を深める研究会。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/20250726NE6%9D%BB%3%82%A2%E3%82%B3-%E4%B8%8F%E6%95%99%E7%A0%94%E3%82%A6%E4%B9%A9%E7%A9%AC%2E5%9B%9E%E5%A9%A4%E8%B7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%9A	
58		井上円了記念助成公開講演会「東洋の思想・宗教と環境保護」	企画、運営 参加・支援、 講師	講演会	東洋学研究所井上円了記念助成プロジェクト	公開講演会	7/29	東洋大学白山キャンパス・オンライン (GoogleMeet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	東洋思想の観点から環境問題（森林保護、地球温暖化）を捉え直すプロジェクトの一環として実施した公開講演会。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/20270729kouenkai	
59		2025年度第3回 研究発表例会	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー・ワーク ショップ	東洋学研究所	2025年度第3 回研究発表例会	9/27	東洋大学白山キャンパス・オンライン (GoogleMeet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	研究所内の若手からベテラン研究者が集い、それぞれの専門分野における調査研究の中間報告および成果発表。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/2025reikai03	
60	研究推進 課	井上円了記念助成プロジェクト第1回研究発表会	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー・ワーク ショップ	東洋学研究所	井上円了記念助成プロジェクト第1回研究発表会	10/4	オンライン (Google Meet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	環境保護と東洋思想の関連性について、プロジェクトメンバーが具体的な事例研究を発表。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/251004	
61	東洋学研究所	2025年度第4回 研究発表例会	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー・ワーク ショップ	東洋学研究所	2025年度第4 回研究発表例会	10/18	オンライン (Google Meet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	東洋における歴史的思想の再検討をテーマに、公開形式での研究報告と意見交換を実施。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/251018reikai4	
62		2025年度11月公開講演会	企画、運営 参加・支援、 講師	講演会	東洋学研究所	2025年度11月公開講演会	11/22	東洋大学白山キャンパス・オンライン (GoogleMeet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	東洋学の知見を一般社会へ還元するための公開講演会。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/kouenkai2025	
63		2025年度第5回 研究発表例会	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー・ワーク ショップ	東洋学研究所	2025年度第5 回研究発表例会	11/29	オンライン (Google Meet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	各専門領域の知見を統合し、研究プロジェクトの進捗報告および今後の課題検討。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/251129reikai5	
64		2025年度第6回 研究発表例会	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー・ワーク ショップ	東洋学研究所	2025年度第6 回研究発表例会	12/20	オンライン (Google Meet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	年度の活動を総括する研究発表例会として、本年度の研究成果の共有および次年度の展望について報告。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/20251220reikai6	
65		井上円了記念助成シンポジウム	企画、運営 参加・支援、 講師	講演会	東洋学研究所	井上円了記念助成シンポジウム	1/24	東洋大学白山キャンパス・オンライン (GoogleMeet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	「東アジアにおける宗教思想の受容と変容」をテーマに、学際的かつ国際的な視点から研究報告と議論を行うシンポジウム。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/260124symposium	
66		井上円了記念助成公開講演会「東洋の思想・宗教と環境保護」	企画、運営 参加・支援、 講師	講演会	東洋学研究所井上円了記念助成プロジェクト	公開講演会	1/31	東洋大学白山キャンパス・オンライン (GoogleMeet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	東洋思想を基盤とした現代の環境保護策（森林保護等）について議論する公開講演会。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/260131kouenkai2	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
67	研究推進課 東洋学研 究所	井上円了記念助 成プロジェクト 第2回研究発表 会	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー ・ワーク ショップ	東洋学研 究所	井上円了記念 助成プロジェ クト 第2回 研究発表会	2/27	オンライン (Google Meet)	研究者 大学生 社会人・ 一般	研究プロジェクトの最終的な知見を 報告し、環境保護に対する東洋学の 貢献についての総括的議論を実施。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyogaku/research/260227happy02	
68		日中共同シンポ ジウム・交流授 業	出演、パネ リスト、コ メンテー ター、司会、 講師、情報 提供、運営 参 加・支 援、その他	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学ア ジア文化研 究所	日中共同シン ポジウム	9/6	白山キャン パス	大学生 大学院生 研究者 社会人・ 一般	中国の提携大学との共同シンポジウ ムおよび学生間交流授業。学際的な 視点からアジアの諸問題を議論し、 国際相互理解を深める。	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/act/past/2025%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E7%A0%94%E7%A9%B6%E6%B4%B8%E5%B8%95/2025%E5%B9%B4%E6%9C%86%E6%97%A5%E5%85%B1%E5%90%83%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%9D%E3%82%B8%E3%82%A6%E3%83%A0%E4%BA%A4%E6%B5%81%E6%8E%82%E6%A5%AD	
69	研究推進課 アジア文化研 究所	国 際 ワ ー ク ショップ「東ア ジアの食文化― その 受 容 と 変 容」	出演、パネ リスト、コ メンテー ター、司会、 講師、情報 提供、運営 参 加・支 援、その他	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学ア ジア文化研 究所	国 際 ワ ー ク ショップ	10/25	白山キャン パス	大学生 大学院生 研究者 社会人・ 一般	東アジアにおける食文化の歴史的展 開と現代的な変容について、国内外 の研究者を招聘して開催する専門的 ワークショップ。	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/act/past/2025%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E7%A0%94%E7%A9%B6%E6%B4%B8%E5%B8%95/2025%E5%B9%B4%E6%9C%82%E6%97%A5%E6%9D%B1%E6%B4%8B%E5%A4%7E%E5%AD%A6%E3%82%A2%E2%8E%96%83%82%8C%96%7A%09%4%7A%A9%B%E6%89%80%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%83%83%97%E6%9D%B1%E3%82%A2%E3%82%B8%E3%82%A2%E3%81%AE%E9%A3%9F%E6%96%87%E5%8C%96%E3%81%9D%E3%81%AE%E5%83%97%E5%AE%B9%E3%81%A8%E5%A4%89%E5%AE%B9	
70		中国 経 済 セ ミ ナー	出演、パネ リスト、コ メンテー ター、司会、 講師、情報 提供、運営 参 加・支 援、その他	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学ア ジア文化研 究所	研究セミナー	11/10	白山キャン パス	大学生 大学院生 研究者 社会人・ 一般	最新の統計データやフィールド調査 に基づき、現在の中国経済の動向と 課題を多角的に分析・報告する公開 セミナー。	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/act/past/2025%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E7%A0%94%E7%A9%B6%E6%B4%B8%E5%B8%95/2025%E5%B9%B4%E6%9C%81%E6%97%A5%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E7%B5%8C%E6%B8%88%E3%82%BB%E3%83%9E%E3%83%8A%E3%83%BC	
71		国際セミナー： アジアにおける 文化遺産の保護 と継承	出演、パネ リスト、コ メンテー ター、司会、 講師、情報 提供、運営 参 加・支 援、その他	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学ア ジア文化研 究所	国際セミナー	11/14	白山キャン パス	大学生 大学院生 研究者 社会人・ 一般	アジア諸国の文化遺産保護に関する 政策や現状について、海外の専門家 を交えて議論を行う国際交流型セミ ナー。	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/act/past/2025%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E7%A0%94%E7%A9%B6%E6%B4%B8%E5%B8%95/2025%E5%B9%B4%E6%9C%81%4%E6%97%A5%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E3%82%BB%E3%83%9E%E3%83%8A%E3%83%BC	

	学部・研究所・センター・事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
72		研究年報第60号 刊行記念座談会 「写真とともに 振り返る研究年 報」	企画、その他	その他	東洋大学ア ジア文化研 究所	刊行記念イ ベント	11/18	白山キャン パス	大学生 大学院生 研究者 社会人・ 一般	研究所の歩みを記録した『アジア文化研究所研究年報』の創刊60号を記念し、過去の貴重な写真資料とともに活動の歴史を振り返る座談会。	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/act/past/2025%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E7%A0%94%E7%A9%B6%E6%B4%B8%E5%B8%B411%E6%9C%81%E6%97%A5%E7%A0%94%E7%A9%B6%E5%B0%B1%E5%AC%60%E5%8F%B7%E5%88%9A%E8%A1%8C%E8%A8%98%E5%Bf%b5%E5%BA%7E%8%ab%87%E4%BC%9a	
73	研究推進課 アジア文化研究所	東洋大学アジア文化研究所 第20回年次集会	出演、パネリスト、コメンテーター、司会、講師、情報提供、運営参加・支援、その他	その他	東洋大学ア ジア文化研 究所	年次集会	1/24	白山キャン パス	大学生 大学院生 研究者 社会人・ 一般	研究所に所属する研究員および関係者が一堂に会し、年度内の研究成果を報告・共有する最大規模 of 学術集会。	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/act/past/2025%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E7%A0%94%E7%A9%B6%E6%B4%B8%E5%B8%B411%E6%9C%81%E6%97%A5	 
74		International Symposium: Resilience of Sea Peoples in Southeast Asia and Oceania	出演、パネリスト、コメンテーター、司会、講師、情報提供、運営参加・支援、その他	セミナー・ワークショップ	東洋大学ア ジア文化研 究所	国際シンポジウム	1/30、 1/31	白山キャン パス（ハイ ブリッド）	大学生 大学院生 研究者 社会人・ 一般	東南アジアおよびオセアニアの「海民」に焦点を当て、そのレジリエンス（回復力・適応力）を地域間比較の視点から検討する2日間の国際シンポジウム。	https://www.maps.toyo.ac.jp/activity/380%09e3%81%94%5a0%1%591%8a%0%80%91international-symposium-resilience-of-sea-peoples-in-southeast-asia-and-oceania/	
75		2025年度 東洋大学工業技術研究所「研究発表会」	企画、運営参加・支援、出演	セミナー・ワークショップ	工業技術研 究所	2025年度 東洋大学工業技術研究所「研究発表会」	2/25- 3/11	オンライン	大学生 研究者 社会人・ 一般 企業	工業技術研究所における最新の研究成果を公開し、産学連携の促進および技術革新への貢献を目指した研究発表会をオンラインで開催。	https://sites.google.com/toyo.jp/riit/news/2026-02-02zhmzcb8ew1z1e9	 
76	研究推進課 工業技術研究所	講演会『人手不足に中小企業はどのように立ち向かうか～産・学・官・金の視点から考える～』	企画、運営参加・支援、講師、パネリスト	講演会	主催：工業技術研究所、共催：武蔵野銀行	講演会『人手不足に中小企業はどのように立ち向かうか』	2/26	川越キャン パス	大学生 研究者 社会人・ 一般 企業 行政機関	産・学・官・金の各視点から、中小企業が直面する人手不足問題への対応策について専門家を招いて開催した講演会。	https://www.toyo.ac.jp/news/20260203-18944.html	 
77		技術相談	助言・指導	その他	工業技術研 究所	技術相談	4/1- 3/31	工業技術研 究所	学術団体 企業 行政機関	企業からの技術相談に対して、研究所として対応可能な研究者の選定と日程調整を行い、相談に応じている（無料）。	https://www.toyo.ac.jp/research/labo-center/riit/	
78		デジタルエンジニアリングアカデミー	コメンテーター、講師、助言・指導	セミナー・ワークショップ	工業技術研 究所 武蔵 野銀行	デジタルエンジニアリングアカデミー	5/14- 12/3	東洋大学川 越キャンパ ス・武蔵野 銀行・企業	企業	工業技術研究所と武蔵野銀行の共催による、新技術の自社導入を目指す企業を対象とした連続講座。2025年度は、「工場のIoT化からDX化に向けて」のテーマで、企業を対象とする講演や工場見学、実習を定期的実施。	—	—
79	研究推進課 ライフイノベーション研究所	2025年シンポジウム「健康寿命延伸を目指したライフイノベーション研究所の取り組み」	企画、運営参加・支援、講師、出演	講演会	ライフイノベーション研究所	2025年シンポジウム「健康寿命延伸を目指したライフイノベーション研究所の取り組み」	11/8	赤羽台キャンパス 20312教室 (WELLB HUB-2 3階)	研究者 大学生 社会人・ 一般	健康寿命延伸を目指し、「腸内細菌叢のバランスを介した健康維持増進」および「生活習慣病の予防に関する研究」の2つの研究グループの成果概要を学内の研究者が紹介するシンポジウムを開催。	https://www.toyo.ac.jp/news/20251007-18234.html	
80	研究推進課 バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	第1回 BNC コロキウム	企画、運営参加・支援、講師、司会	セミナー・ワークショップ	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	第1回 BNC コロキウム	5/23	川越キャンパス 2103教室 (対面およびオンライン)	研究者 大学生 社会人・ 一般	ナノカーボン・2次元材料を用いたガスセンサや分光分析に関する研究発表および意見交換。	https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/news/2025-5-23?authuser=0	 

学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
81	第2回 BNC コロキウム on 朝霞キャンパス	企画、運営参加・支援、講師、司会	セミナー・ワークショップ	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	第2回 BNC コロキウム on 朝霞キャンパス	7/11	朝霞キャンパス 1号館 1階1102教室（対面およびオンライン）	研究者・大学生・社会人・一般	生物機能分子の創成および電子顕微鏡技術についての発表および意見交換。	https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/news/2025-7-11#h.uhjzolarapgf	
82	第1回 BNC サイエンスカフェ	企画、運営参加・支援、出演、司会	セミナー・ワークショップ	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	第1回 BNC サイエンスカフェ	7/1	川越キャンパス バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターβ棟1F	大学生・社会人・一般	博士号取得後に民間企業で活躍する研究者を招き、研究のキャリアや日々について気軽に語り合う交流イベント。	https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/news/2025-7-1	
83	研究推進課 バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	第9回（2025年度 第3回）BNC コロキウム	企画、運営参加・支援、講師、司会	セミナー・ワークショップ	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	10/10	川越キャンパス バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターβ棟4階多目的セミナー室（対面およびオンライン）	研究者・大学生・社会人・一般	光と探針技術による固液界面の研究および表面分析技術についての発表および意見交換。	https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/news/2025-10-10	
84	第22回 BNC シンポジウム	企画、運営参加・支援、講師、パネリスト、司会	講演会	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	第22回 BNC シンポジウム	12/4	川越キャンパス バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターβ棟	研究者・大学生・社会人・一般	センシング技術に関する招待講演、学内の研究成果発表、学生ポスター発表、キャリアに関するパネルディスカッションを実施。	https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/news/2025-12-4	
85	第10回（2025年度 第4回）BNC コロキウム	企画、運営参加・支援、講師、司会	セミナー・ワークショップ	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	第10回（2025年度 第4回）BNC コロキウム	12/9	川越キャンパス バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターβ棟4階多目的セミナー室（対面およびオンライン）	研究者・大学生・社会人・一般	AI・実験自動化による材料インフォマティクスおよび装置選択の考え方についての発表および意見交換。	https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/news/2025-12-9	
86	2025年度 ソウル国立大学アジアセンターとのレクチャーシリーズ（第1回）	企画、運営参加・支援、講師	講演会	主催：グローバル・イノベーション研究センター、韓国ソウル国立大学アジアセンター	2025年度 ソウル国立大学アジアセンターとのレクチャーシリーズ（第1回）	5/22	オンライン（Zoom）	研究者・大学生・社会人・一般	韓国ソウル国立大学アジアセンターと共同で開催するレクチャーシリーズの第1回。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250514-17414.html	
87	研究推進課 グローバル・イノベーション研究センター	政治社会学会移民難民研究部会第7回公開セミナー	運営参加・支援、講師、パネリスト	セミナー・ワークショップ	主催：政治社会学会移民難民研究部会、共催：グローバル・イノベーション研究センター	6/7	東洋英和女学院大学／Zoom（ハイブリッド）	研究者・大学生・社会人・一般	移民・難民問題をテーマに、政治社会学的視点から現状と課題を議論する公開セミナー。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250512-17505.html	
88	2025年度 ソウル国立大学アジアセンターとのレクチャーシリーズ（第2回）	企画、運営参加・支援、講師	講演会	主催：グローバル・イノベーション研究センター、韓国ソウル国立大学アジアセンター	2025年度 ソウル国立大学アジアセンターとのレクチャーシリーズ（第2回）	6/19	オンライン（Zoom）	研究者・大学生・社会人・一般	韓国ソウル国立大学アジアセンターと共同で開催するレクチャーシリーズの第2回。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250612-17579.html	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
89	研究推進 課 グローバル・イ ノベーション学 研究センター	シンポジウム 「Human Mobil- ity and Innova- tion: Crises and Oppor- tunities」	企画、運営 参加・支援、 講師、パネ リスト	講演会	グ ロー バ ル・イ ノ ベーション 学 研 究 セ ン ター	シンポジウム 「Human Mo- bility and Innovation: Crises and Opportuni- ties」	10/26	白山キャン パス 125 記念ホール	研究者 大学生 社会人・ 一般	「人々の移動」「教育」「イノベーション」をテーマに、国際的な専門家が研究成果を報告しディスカッションを行ったシンポジウム。	https://www.toyo.ac.jp/news/20251118-18595.html	
90		札幌市青少年科学館の特別展で「水走プロジェクト」で生まれた〈競技用国産カヌー：水走コンセプト艇〉が展示されます	運営参加・ 支援、その他	その他	札幌市青少年科学館、 生体医工学 研 究 セ ン ター	札幌市青少年科学館 特別展	7/26- 8/24	札幌市青少年科学館	小学生 中学生 社会人・ 一般	札幌市青少年科学館の特別展において、「水走（みずばしり）プロジェクト」によって開発された競技用国産カヌーのコンセプト艇が展示される。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250729-17883.html	
91		未来を拓くバイオミメティクス シンポジウム 2025～バイオミ メティクス技術 の社会実装～	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー ・ワーク ショップ	生体医工学 研 究 セ ン ター	未来を拓くバイオミメ ティクス シンポ ジウム2025	11/15	朝霞キャン パス 2 号館 8 階（対面 およびオン ライン）	研究者 大学生 社会人・ 一般	生物の卓越した機能や構造を工学・医療へ応用する「バイオミメティクス」の最新研究動向と社会実装の可能性について、対面とオンラインのハイブリッド形式でシンポジウムおよびポスター発表を実施。	https://www.toyo.ac.jp/news/20251211-18754.html	
92	研究推進 課 生体医工 学研究セ ンター	いばらき子ども 大学出展	運営参加・ 支援、講師、 実演	セミナー ・ワーク ショップ	いばらき子 ども大学実 行委員会	バイオミメ ティクス 生 き物を活用 したモノづく りのヒント！	7/20	茨城県 県 西生涯学習 センター	小学生	小学校高学年を対象とし、合田教授によるバイオミメティクスの講義とバイオミメティクス研究会メンバーによる体験授業を実施。		
93		バイオミメティ クス研究会「東 洋大学学園祭バ イオミメティク ス体験型展示イ ベント」	企画、運営 参加・支援、 情報提供、 実演	セミナー ・ワーク ショップ	バイオミメ ティクス研 究会、生体 医工学研 究 セ ン ター	東洋大学大学 祭「第2回 霞 祭（朝 霞 キャンパス） 第16回こもれ び 祭（川 越 キャンパス）」	11/2- 11/3	東洋大学朝 霞キャンパ ス・川 越 キャンパス	幼稚園以 下 小学生 中学生 高校生 教育関係 者 保護者 社会人・ 一般 メディア	朝霞キャンパス、川越キャンパスの大学祭にて参加型展示を行い、来場者へバイオミメティクスの紹介を行った。	https://www.toyo.ac.jp/contents/bmsv/index.html	
94		KISTEC 理 科 実 験 室 実 験 秋 祭 り！～大学生が 教えてくれる理 科実験～	実演、運営 参加・支援、 講師	セミナー ・ワーク ショップ	地方独立行政 法人 神 奈 川 県 立 産 業 技 術 総 合 研 究 所	KISTEC 理 科 実 験 室 実 験 秋 祭 り！～大学 生 が 教 えて く れる 理 科 実 験 ～	10/11	かながわサイ エンス パーク内 東 棟 7 階 701室・702 室	小学生 保護者	バイオミメティクス研究会メンバーによる小学生を対象としたバイオミメティクスの講義を実施。		
95	研究推進 課	特別セ ミ ナー 「PPP/PFI 推 進 のための新しい 戦略 2025」	出演、パネ リスト、コ メンター ー、司会、 講師、運営 参加・支援、 情報提供、 企画	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学、 国土交通省 協力：紫波 町	特別セミナー 「PPP / PFI 推 進のための新 しい 戦 略 2025」	8/20・ 9/17	岩手県紫波 町情報交流 館、沖縄県 市町村自治 会館、オン ライン	研究者 社会人・ 一般 行政機関 企業	国土交通省と連携し、PPP/PFI 推進アクションプラン(令和7年改定版)を受けた新しい戦略や、地域での具体的な PPP 事例（オガール、スモールスケール PPP 等）について解説するセミナー。	https://www.pppschoo1.jp/news/20250723-08615.html	
96	国 際 PPP 研究所	第20回国際 PPP フォーラム「水 分野における PPP」	出演、パネ リスト、コ メンター ー、司会、 講師、運営 参加・支援、 情報提供、 企画	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学 後援：内閣 府、総務省、 国土交通省 特別後援： 民間企業	第20回 国 際 PPP フォー ラム「水 分野にお ける PPP」	10/14	白山キャン パス（ハイ ブリッド）	研究者 社会人・ 一般 行政機関 企業	「ウォーター PPP」の推進をテーマに、海外（ポルトガル・フランス）の事例や秋田県での国内事例を交え、人口減少下における上下水道の経営改善と官民連携のあり方を議論するフォーラム。	https://www.pppschoo1.jp/news/20250912-08921.html	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
97		プロジェクト視 察 (HOME/WORK VILLAGE)	運営参加・ 支援、その他	その他	東 洋 大 学 PPP スク ール	プロジェクト 視 察 (HOME/ WORK VILLAGE)	10/16	HOME / WORK VILLAGE (東 京都世田谷 区)	大学生 大学院生 研究者 企業 市民団体 行政機関	廃校 (旧池尻中学校) を再活用した PPP 事業の先進事例を視察。2 度の 事業者公募を経た経緯や、老朽化対 応、運営スキームの変更点などに ついて実地で学ぶ。	https://www.pppschoo1.jp/news/20251027-09106.html	                
98		2025年度 東洋 大学 PPP スク ール成果発表会	出演、パネ リスト、コ メンテー ター、司会、 講師、情報 提供、企画、 運営参加・ 支援	講演会	東 洋 大 学 PPP スク ール	2025年度 東 洋大学 PPP ス クール成果発 表会	1/31	白山キャン パス (ハイ ブリッド)	大学生 大学院生 研究者 社会人・ 一般	PPP スクールの履修生を中心とした 研究成果 (空港 PPP、農業 PPP、廃 校活用、地方創生まちづくり等) を 広く一般に公開・共有する発表会。	https://www.pppschoo1.jp/news/20260126-09662.html	                
99		Long-Term Fi- nancing and Partnership- Based Solu- tions for Water and Sanitation In- frastructure with a Focus on the PPP Model	講師、助言 ・指導、コ メンテー ター、運営参 加・支援、 出演	セミナー ・ワーク ショップ	Asian De- velopment Bank In- stitute, 東洋大学国 際 PPP 研究 所	Long-Term Financing and Partner- ship-Based Solutions for Water and Sanita- tion Infra- structure with a Focus on the PPP Model	3/30- 04/01	ADB I、三浦 市 (視察先)	社会人・ 一般 行政機関 研究者 大学院生	特にアジア開発銀行の融資を実行ま たは検討している国の政府関係者 を中心とした参加者に対する水道・衛 生分野の PPP に関する研修・プロ ジェクト視察の企画、講師を実施し た。	https://www.adb.org/adbi/events/long-term-financing-and-partnership-based-solutions-for-water-and-sanitation-infrastructure-with-a-focus-on-the-ppp-model	                
100	研究推進 課 国際 PPP 研究所	LAD Training Program on Public Policy for Infra- structure	出演、講師	セミナー ・ワーク ショップ	Asian De- velopment Bank In- stitute, Stanford Univer- sity	LAD Training Program on Public Pol- icy for In- frastruc- ture	11/20	ADB I	社会人・ 一般 行政機関 大学院生 研究者	ADB I とスタンフォード大学が共催 する途上国の行政機関等のリーダー に対するインフラ開発・公共政策に 関する研修において、講師として登 壇した。	https://www.adb.org/news/events/adbi-stanford-leadership-academy-for-development-training-program-on-public-policy-for-infrastructure-2025	               
101		Asia PPP Prac- titioners' Network (APN) Conference	出演、講師	セミナー ・ワーク ショップ	Asian De- velopment Bank, Asian De- velopment Bank In- stitute, Korea De- velopment In- stitute, Min- istry of Economy and Finance, Re- public of Korea, World Bank	2025 APN Conference	9/23- 25	Ninetree Premier Rokaus Ho- tel、ソウル 市 (韓国)	社会人・ 一般 行政機関	韓国経済財務省、開発研究所、ア ジア開発銀行、アジア開発銀行研究所、 世界銀行が開催したハイレベル PPP 実務者会議において、日本の PPP の 経験について講演した。	https://www.adb.org/adbi/events/2025-asia-ppp-practitioners-network-apn-conference-ensuring-sustainable-infrastructure-delivery-through-public-private-partnerships	          
102	研究推進 課 国際共生 社会研究 センター	2025年度 第 1 回 CeSDeS Open Seminar on SDGs ミャンマーでの 国際協力最前線 ～多様な NGO の 現場から～	企画、運営 参加・支援、 講師、報告 書執筆	セミナー ・ワーク ショップ	国際共生社 会研究セン ター	2025年度 第 1 回 CeSDeS Open Seminar on SDGs	6/5	白山キャン パス 6 号館 6208教 室 (対面およ びオンライン)	教育関係 者 大学生 社会人・ 一般 研究者	ミャンマーの複合的危機に直面する 人々に対し、保健改善、村落開発、 地域経済開発などの分野で活動する NGO の現場からの報告と、国際協力 のあり方について議論する公開セ ミナー。	https://sites.google.com/toyo.jp/orc/newsandevent/event/2025%E5%B9%84%E5%B8%A6%E3%81%AE%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88/20250605	     

学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
103	2025年度 第2回 CeSDeS Open Seminar on SDGs 子育てを共に担うフィンランド・日本・ポルトガルにおけるコペアレンティング（共育）と出生率に関する研究から	企画、運営参加・支援、講師、パネリスト、報告書執筆	セミナー・ワークショップ	主催：フィンランドセンター、共催：国際共生社会研究センター、ポルトガル文化センター	2025年度 第2回 CeSDeS Open Seminar on SDGs	10/23	オンライン	研究者 大学生 社会人・一般	フィンランド、日本、ポルトガルの3カ国を対象としたコペアレンティング（共育）に関する国際比較調査のデータに基づき、ジェンダー平等な子育てや家族の幸福、出生率低下の背景について考察するウェビナー。	https://sites.google.com/toyo.jp/orc/newsandevent/2025%E5%B9%B4%E5%B8%A6%E3%81%AE%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88/20251023	  
104	2025年度 第3回 CeSDeS Open Seminar on SDGs 第3の生理用品〈月経カップ〉と自分の身体を知る	企画、運営参加・支援、講師、報告書執筆	セミナー・ワークショップ	国際共生社会研究センター	2025年度 第3回 CeSDeS Open Seminar on SDGs	12/18	白山キャンパス10号館A304教室	教育関係者 大学生 社会人・一般 研究者	フェムテックとして関心を集める「月経カップ」をテーマに、若年層のウェルビーイング向上について、大学生モニターの調査結果報告や産婦人科医・開発者とのディスカッションを実施するセミナー。	https://sites.google.com/toyo.jp/orc/newsandevent/2025%E5%B9%B4%E5%B8%A6%E3%81%AE%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88/20251218	 
105	2025年度 第1回 CeSDeS Workshop(UNICAM and Toyo CeSDeS Joint Workshop)Sustainable, Resilient and Well-being Society ~ Challenges in Chusankan-chi and Jouken Furi-chi	企画、運営参加・支援、講師、報告書執筆	セミナー・ワークショップ	国際共生社会研究センター	2025年度 第1回 CeSDeS Workshop	9/29	白山キャンパス スカイホール	大学生 大学院生 教育関係者	本ワークショップでは、日本とイタリアの中山間地域および条件不利地域という、共通の課題に直面する地域における持続可能性とウェルビーイングについて議論し、学術的知見を共有・深化させるとともに、今後の共同研究の可能性を探ることを目的としています。	https://sites.google.com/toyo.jp/orc/newsandevent/2025%E5%B9%B4%E5%B8%A6%E3%81%AE%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88/20250929?authuser=0	  
106	研究推進課 国際共生社会研究センター 2025年度 第2回 CeSDeS Workshop on SDGs SURF (Smart Urban Solution Framework)イニシアティブ：開発途上国大都市における効率的な都市マネジメントに関する研究関連イベント	企画、運営参加・支援、講師	セミナー・ワークショップ	国際共生社会研究センター	2025年度 第2回 CeSDeS Workshop	12/10	白山キャンパス 8号館8301教室	大学生 大学院生 教育関係者 研究者	徒歩に対する選好や意識が私的交通への依存傾向と大きく関係するという認識の下で、徒歩および短距離移動に関する意識および行動と、私的交通依存傾向に関する現状とその関係について学術的知見を共有・深化させることを目的としています。	https://sites.google.com/toyo.jp/orc/newsandevent/2025%E5%B9%B4%E5%B8%A6%E3%81%AE%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88/20251210?authuser=0	 
107	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2025	運営参加・支援、講師、司会	セミナー・ワークショップ	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会	第14回「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2025」	10/18・19	横浜情報文化センター 情交ホール	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 メディア	少子高齢化が進む中で日常の通院や買い物等に困難を抱える人々が増える中、当事者、行政、事業者、NPOなどの関係者が集まり、立場を越えて生活者の目線から地域移動課題の解決策やヒントを探るフォーラム。	第14回くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2025	
108	異文化コミュニケーションと文化交流	講師	出前授業	東洋大学 国際地域学科	国際地域学基礎Ⅱ	11/25	白山キャンパス 8号館8B11教室	大学生 研究者	大学生1年生を対象として、異文化コミュニケーションと文化交流の重要性に関する講義を行う取り組み。	https://sites.google.com/toyo.jp/grs/grsnews/2025/20251128	 
109	トンガハイスクールを核とした防災教育・環境教育の実践	講師、助言・指導、企画	出前授業	トンガハイスクール	トンガハイスクールの防災教育	2/4	トンガハイスクール	高校生 教育関係者	トンガハイスクールへの防災教育の一環として避難訓練を実施し、関連部分に対して専門的観点から協力し、今回の避難訓練本番を実施した。	  	

学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
110		「災害時におけるこどもの居場所づくり調査研究事業」研究成果報告会	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー・ ワーク ショップ	福祉社会開 発研究セン ター	研究成果報告 会	6/20	オンライン	研究者 大学生 社会人・ 一般	「災害時におけるこどもの居場所づくり調査研究事業」に関する研究成果報告会をオンラインで開催。終了後はアーカイブ配信も実施した。	 
111		リハビリテーション工学カンファレンスにおける「能登半島地震へのそぞう的復興」研究発表	出演、講師	セミナー・ ワーク ショップ	リハビリテ ーション工 学カン ファレンス	リハビリテ ーション工 学カン ファレンス	8/9	赤羽台キャン パス	研究者 大学生 社会人・ 一般	東洋大学赤羽台キャンパスで開催される「リハビリテーション工学カンファレンス」において、福祉社会開発研究センターの取り組みとして「能登半島地震へのそぞう的復興」をテーマに研究発表を実施。	 
112	研究推進 課 福祉社会 開発研究 センター	セラピードッグ ふれあい体験	企画、運営 参加・支援	セミナー・ ワーク ショップ	主催：人間 科学総合研 究所、共催 ：福祉社会 開発研究セン ター	セラピードッグ ふれあい体 験	12/4	赤羽台キャン パス 図 書室1階グ ループ学習 室	大学生 社会人・ 一般	学生や一般を対象に、動物介在療法への理解と心身のケアを目的としたセラピードッグとのふれあい体験イベントを開催。	
113		長春人文学院 崔先生講演会 「テクノロジー +高齢者福祉 中国における 介護ロボットの 形態と活用場 面」	企画、運営 参加・支援	講演会	主催：福祉 社会開発研 究セン ター、共催 ：東洋大学 大学院社会 福祉学研 究科	長春人文学院 崔先生講演会	11/11	赤羽台キャン パス WELLB HUB- 2 20303教 室	研究者 大学生 社会人・ 一般	長春人文学院の崔月琴教授を招き、「テクノロジー+高齢者福祉—中国における介護ロボットの形態と活用場面—」をテーマとした講演会を開催。	 

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
114		子どもの居場所 PJT 公開研究会 「災害時の子ども の意見表明権と 参加について一 緒に考えませ んか？」	企画、運営 参加・支援	セミナー・ ワーク ショップ	福祉社会開 発研究セン ター 子どもの 居場所 PJT	子どもの居場所 PJT 公開研 究会	12/19	赤羽台キャン パス WELLB HUB- 2 20301教室 (対面および オンライン)	研究者 大学生 社会人・ 一般	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン の山田心健氏と東北福祉大学の清水 冬樹氏を招き、災害時の子どもの意 見表明権と参加について考える公開 研究会をハイブリッドで開催。	https://sites.google.com/toyo.jp/cdws/news_cr/%5E5AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E3%81%A9%E5%8B%81%E3%80%81%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%A0%94%E7%A9%86%E4%BC%9A%E3%81%AE%E3%81%94%E6%A1%88%E5%86%85?authuser=0	
115	研究推進 課 福祉社会 開発研究 センター	2025年度末シン ポジウム「被災 地支援と防災」 —重点研究推進 プログラム—	企画、運営 参加・支援、 講師、コメン テーター	講演会	福祉社会開 発研究セン ター	2025年度末シン ポジウム	1/9	オンライン	研究者 大学生 社会人・ 一般	能登半島における茶話会の支援やイ タリアの防災と福祉をテーマに、被 災地支援と防災に関する今年度末の オンラインシンポジウムを開催。	https://sites.google.com/toyo.jp/cdws/news_cr/2025%E5%8B%94%E5%8A%A6%E6%9C%A8%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%9D%E3%82%B0%E3%82%A6%E3%83%A0%E8%A2%A8%E7%81%BD%E5%9C%B0%E6%94%F6%E6%83%81%AE%E3%81%94%E7%A9%86%E4%BC%9A%E3%81%AE%E3%81%94%E6%A1%88%E5%86%85?authuser=0	
116		共催シンポジウ ム「復興と連携 —能登から学ぶ こと」	企画、運営 参加・支援、 講師	講演会	共催：福祉 社会開発研 究センタ ー、日本精 神遅滞教育 研究会、東 京都北区作 業所連絡会	シンポジウム 「復興と連携 —能登から学 ぶこと」	3/22	赤羽台キャン パス 20508教室 (WELLB-HUB 2)	研究者 大学生 社会人・ 一般	能登半島復興支援の取り組みや「ご ちやまぜ福祉」のあり方、都会にお ける地域連携をテーマに、外部団体 と共催でシンポジウムを実施。	https://sites.google.com/toyo.jp/cdws/news_cr/%E5%85%B1%E5%82%AC%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%9D%E3%82%B0%E3%82%A6%E3%83%A0%E8%A2%A8%E7%81%BD%E5%9C%B0%E6%94%F6%E6%83%81%AE%E3%81%94%E7%A9%86%E4%BC%9A%E3%81%AE%E3%81%94%E6%A1%88%E5%86%85?authuser=0	
117		今年も KISTEC にてクマムシ観 察会を実施しま す！	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー・ ワーク ショップ	パイオレ ジリエン ス研究プ ロジェク ト	クマムシ観 察会	6/14	KISTEC (神 奈川県立産 業技術総合 研究所)	小学生 中学生 社会人・ 一般	KISTEC にてクマムシの観察会を 実施。参加者に極限環境生物の生態 や特徴について解説し、実際の顕微 鏡観察などを通じて科学への関心を 深める場を提供した。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-06-01.html	
118	研究推進 課 パイオリ ジリエン ス研究プ ロジェク ト	生命科学部トッ プリーダーセ ミナーで筑波大 学・野村暢彦先 生にご講演いた だきました。	企画、運営 参加・支援	講演会	パイオリ ジリエン ス研究プ ロジェク ト	生 命 科 学 部 トッ プ リ ー ダ ー セ ミ ナ ー	6/17	朝霞キャン パス	大学生 大学院生 研究者	生命科学部トップリーダーセミナー において、筑波大学の野村暢彦先生 を招き講演会を開催。最新の生命 科学分野の研究動向や知見を共有し、 学生や研究者とディスカッションを 行った。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-06-17.html	
119		2025年度附属京 北中学・高等学 校「未来の科学 者育成プログラ ム」A チームが 活動スタート！	助言・指導、 運営参加・ 支援	研究指導	パイオリ ジリエン ス研究プ ロジェク ト	未来の科学者 育成プログラ ム	6/18	京北中学高 等学校理科 実験室	中学生 高校生	附属京北中学・高等学校の生徒を 対象とした「未来の科学者育成プロ グラム」において、A チームの研究 活動がスタート。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-06-18.html	
120		小学生対象の夏 休みクマムシ観 察会	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー・ ワーク ショップ	パイオリ ジリエン ス研究プ ロジェク ト	夏休みクマム シ観察会	8/2	かながわサ イエンス パーク	小学生	小学生を対象とした「夏休みクマム シ観察会」を開催。顕微鏡を使って 極限環境生物であるクマムシを観 察し、科学や生物への関心を深める 機会を提供した。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-07-05.html	

学部・研究所・センター・事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
121	FEMS Microbe Milan 2025への参加および研究発表	助言・指導、運営参加・支援	その他	バイオレジェリエン্স研究プロジェクト	FEMS Microbe Milan 2025	7/14-7/17	イタリア・ミラノ コンベンションセンター	大学院生研究者	イタリア・ミラノで開催された国際学会「FEMS Microbe Milan 2025」に、本プロジェクトの研究室から大学院生7名が参加し、最新の研究成果の発表を行った。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-07-14.html	
122	桶川市・夏休み子どもワールド2025 クラムシ観察イベント	企画、運営参加・支援、講師	セミナー・ワークショップ	桶川市、バイオレジェリエン্স研究プロジェクト	夏休み子どもワールド2025	7/27	桶川東部公民館	小学生中学生	桶川市が主催する「夏休み子どもワールド2025」に出展し、クラムシ観察イベントを実施。地域の子どもたちに向けて、実践的な科学体験の場を提供した。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-07-27-277.html	
123	附属京北中高「未来の科学者育成プロジェクト」高校Aチームの活動報告	助言・指導、運営参加・支援	研究指導	バイオレジェリエン্স研究プロジェクト	未来の科学者育成プロジェクト	7/29	京北中学高等学校理科実験室	高校生	附属京北中学・高等学校の生徒を対象とした「未来の科学者育成プロジェクト」において、高校Aチームの研究活動を支援し、教員や研究員による指導を実施した。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-07-29.html	
124	研究推進課バイオレジェリエン্স研究プロジェクト	助言・指導、運営参加・支援	研究指導	バイオレジェリエン্স研究プロジェクト	未来の科学者育成プロジェクト	9/2	京北中学高等学校理科実験室	中学生	附属京北中学校の生徒を対象とした「未来の科学者育成プロジェクト」において、中学Aチームの研究活動を支援し、教員や大学生による実験指導・サポートを実施した。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-09-02.html	
125	附属京北中高「未来の科学者育成プロジェクト」中学Aチームの活動報告(10月4日)	助言・指導、運営参加・支援	研究指導	バイオレジェリエン্স研究プロジェクト	未来の科学者育成プロジェクト	10/4	朝霞キャンパス学生実験室	中学生	附属京北中学校の生徒を対象とした「未来の科学者育成プロジェクト」において、中学Aチームに向けた継続的な研究活動の助言・指導を行った。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-10-4.html	
126	第2回 KISTEC 理科実験室「実験秋祭り！」—大中学生が教える“ワクワク理科”を開催！	企画、運営参加・支援、講師	セミナー・ワークショップ	KISTEC、バイオレジェリエン্স研究プロジェクト	第2回 KISTEC 理科実験室「実験秋祭り！」	10/11	かながわサイエンスパーク	小学生中学生保護者	KISTEC と連携し、大学生が講師となって子どもたちに理科の楽しさを伝える実験教室「実験秋祭り！」を開催。科学への関心を深める実践的なワークショップを提供した。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-10-11.html	
127	第1回東アジア極限環境微生物学会(EACE2025)を開催し、盛会裡に終了しました	企画、運営参加・支援、司会	その他	バイオレジェリエン্স研究プロジェクト	第1回東アジア極限環境微生物学会(EACE2025)	5/7	朝霞キャンパス	研究者大学院生大学生	第1回東アジア極限環境微生物学会(EACE2025)を開催。東アジア地域の研究者や学生が参加し、極限環境微生物の多様性や応用に関する研究発表および活発な議論が行われた。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-11-7.html	  
128	産学連携推進課産学協同教育センター	企画、運営参加・支援、講師	講演会	産学協同教育センター	中核人材育成セミナー	9/3	東洋大学川越キャンパス、オンライン	大学生研究者社会人一般企業	埼玉県内のインフラについて、劣化のメカニズム、点検・補修の最新手法、人材育成の重要性などをテーマに専門家数名を招いて行った講演会。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250725-17824.html	 
129	産学連携推進課産学協同教育センター	出演、パネリスト、講師、助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	国際発酵・醸造食品産業事務局	第4回国際発酵・醸造食品産業展「発酵アカデミックフォーラム」	7/16-7/18	東京ビッグサイト	企業研究者社会人一般行政機関	東京ビッグサイトで開催された「第4回国際発酵・醸造食品産業展」に理工学部応用化学科の峯岸宏明准教授が出展。ブース展示とショートセミナーを通じて本学の研究成果を広くアピールした。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250815-17938.html	

学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
130	SPORTEC 2025 内「スポーツアカデミックフォーラム」出展およびショートセミナー	出演、パネリスト、講師、助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	SPORTEC 実行委員会	SPORTEC 2025 内「スポーツアカデミックフォーラム」	7/30-8/1	東京ビッグサイト	企業研究者・社会人・一般行政機関	東京ビッグサイトで開催された「SPORTEC2025」において、健康スポーツ科学部の新谷昂助教が出展。「あらゆるスポーツを対象としたスリッパコントロールクリーム」の開発をテーマに、ブース展示とショートセミナーを通じて研究成果の社会実装に向けたアピールを行った。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250815-17944.html	
131	「大学見本市2025～イノベーション・ジャパン」出展	出演、パネリスト、講師、助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)	大学見本市2025～イノベーション・ジャパン	8/21-8/22	東京ビッグサイト 西4ホール	企業研究者・行政機関・社会人・一般	JST 主催の「大学見本市2025～イノベーション・ジャパン」に生命科学部生体医工学科の大澤重仁准教授が出展。「貴金属マテリアルリサイクル・リパーバッシングを促進する高分子」をテーマに、水溶性ポリマーを用いた金属イオンの配位・析出制御に関する研究成果を社会還元・技術移転に向けて発信した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250904-18052.html	
132	「文京博覧会2025」学生団体「Smile F LAOS」によるフェアトレードコーヒ販売	実演、その他	フェスティバル	文京博覧会2025実行委員会・文京区	文京博覧会2025	11/14-11/15	文京シビックセンター	社会人・一般企業・市民団体	文京区主催の「文京博覧会2025」に東洋大学の学生団体「Smile F LAOS」が出展し、ラオスの子供達への教育環境の改善に貢献するため、ラオス産フェアトレードコーヒの販売および試飲提供を行った。	https://www.toyo.ac.jp/news/20251212-18765.html	
133	Wellness Tokyo 2025内「ウェルネスフードジャパン2025」出展および研究発表セミナー	出演、パネリスト、講師、助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	Wellness Tokyo 2025事務局	Wellness Tokyo 2025 内「ウェルネスフードジャパン2025」	11/26-11/28	東京ビッグサイト 東展示棟5ホール	企業研究者・社会人・一般行政機関	東洋大学健康スポーツ科学部の加藤和則教授が展示会に出展し、「熱中症対策機能成分の探索から産官学連携の社会実装への展開」をテーマとした研究発表セミナー（11/26）を実施した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20251212-18759.html	
134	「化粧品開発展—COSME Tech—2026」アカデミックフォーラム出展および研究発表セミナー	出演、パネリスト、講師、助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	化粧品開発展事務局 (RX Japan 株式会社)	化粧品開発展—COSME Tech—2026 アカデミックフォーラム	1/16	東京ビッグサイト 西展示棟2ホール	企業研究者・社会人・一般行政機関	東洋大学生命科学部の三浦健准教授がアカデミックフォーラムに出展し、「微生物における未利用青果物発酵液の可能性について」をテーマとした研究発表セミナーを実施した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20260105-18852.html	
135	【社会科学研究会】パレスチナ問題が明らかにしたもの—東洋大で何ができるのか—の開催	企画、運営参加・支援	講演会	社会科学研究会	パレスチナ問題が明らかにしたもの—東洋大で何ができるのか—	5/22	6号館教室	社会人・一般大学生	昼夜合わせて60名程度の参加者を集め、パレスチナ／イスラエル問題について活発な意見交換を行うことができた。参加者にマイクを握ってもらう場面も設けるなど、一方的な発信にとどまらない双方向の場を実現。学内外の人々に社会問題に向き合う活動の存在を広く知ってもらう機会となった。	https://sites.google.com/toyo.jp/student/news	
136	【手話サークル「つみき」】東京都立大学・北里大学との合同手話交流会	企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	手話サークル「つみき」	東京都立大学・北里大学との合同手話交流会	7/6	スカイホール	大学生	新メンバーを迎えた各サークルで交流の機会を設けることで、部員の手話に対する意欲の活性化を図る。また、大学の垣根を越えて親睦を深めることを目的として、手話要素を交えたゲーム企画などを楽しんだ。		
137	【手話サークル「つみき」】白山祭での手話カフェ出展	企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	白山祭実行委員会ほか	白山祭	11/2	白山キャンパス	大学生保護者・高校生・中学生・小学生・社会人・一般	白山祭にて『手話カフェ』を出展し、カフェ形式で来場者を迎え、飲み物を提供しながら手話での会話を体験してもらった。手話初心者には自己紹介や簡単な表現を丁寧に教え、聴覚に障がいのある方との交流を通じてメンバー自身も実際の会話で使い方を体験することができた。		
138	【手話サークル「つみき」】合同勉強会の開催	企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	手話サークル「つみき」	合同勉強会	12/7	白山キャンパス	大学生	勉強会にて、手話の基本的な構成要素の単語と文法以外に、空間の使い方や表情、CL、ロールシフトという、より踏み込んだ手話の技術をレクチャー。他大学のメンバーと混合したグループで実践ワークを行うことで活発な意見交換を行い、応用的な表現方法を習得した。		

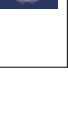
	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
139		【手話サークル「つみき」】早稲田・北里との合同手話交流会	企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	手話サークル「つみき」	早稲田・北里との合同手話交流会	2/15	白山キャンパス	大学生	大学ごとに持ち寄った企画（アイスブレイク、リアクションゲーム、手話 de ファイブボンバー）を楽しむ形で合同手話交流会を行った。大学ごとに集合時間を分けて設定したことで、50名ほどの参加者がトラブルなくスムーズに集合・進行することができた。		 
140		【Bbooth】第49回北区わんぱく相撲でのボランティア支援	運営参加・支援	フェスティバル	わんぱく北区大会実行委員会	第49回北区わんぱく相撲	5/10	北区 滝野川体育館	小学生 中学生	80名超が参加した北区わんぱく相撲の大会運営をボランティアとして支援。土俵整備・エコステーション・保護者案内・駐輪場整理・ちゃんこ鍋の手伝いなど各班に分かれて担当し、子どもたちへの声かけやケアを行い、地域の子どものためのスポーツ体験を支えた。	https://sites.google.com/view/wanpakusumo-kitaku/	  
141		【学ボラ】子ども食堂（坂下おかえりごはん）でのボランティア活動	運営参加・支援	その他	千駄木三丁目北町会	子ども食堂（坂下おかえりごはん）でのボランティア	7/5～3/27	坂下会館（東京都文京区千駄木3丁目42）	小学生 中学生 高校生	こども食堂でボランティアをしながら、自分たちで企画・運営することを目指し、現在こども食堂で不足しているものやニーズを把握するため、料理準備、来客対応、会館内の片付けを行った。	https://rn-sakashita.org/okaerigohan.html	   
142	学生部学生支援課	【学ボラ】第41回文京あじさい祭りでのボランティア支援	運営参加・支援	フェスティバル	文京あじさいまつり実行委員会、一般社団法人文京区観光協会	第41回文京あじさい祭り	6/7	白山神社	社会人・一般	本部でのパンフレット配布や会場案内のほか、名物のあじさい金平糖・羊羹を売る「白山會」、伝統工芸品販売、写生会、子供愛好会の金魚すくい、わたあめや磯辺焼きの販売ブースなどで呼び込みや会計など一連のお客様対応を担当した。	https://hakusanshita.com/bunkyo-ajisaisfes_no41/index.html	
143		【学ボラ】2025年ほおずき千成り市でのボランティア活動	運営参加・支援	フェスティバル	文京区光源寺	2025年ほおずき千成り市でのボランティア	7/5	文京区光源寺	社会人・一般	ほおずき千成り市の準備としてテントの組み立てやちょうちんの飾り付けを実施。当日はスーパーボールすくいのブースや、防災サークルのブースにて防災射的・クイズの手伝い、大雨の中での片付けなどを様々な人と協力して行った。	https://kougenji.tokyo/category/hoozuki/	
144		【学ボラ】ビーチクリーン合宿の実施	運営参加・支援、企画	その他	学ボラ	ビーチクリーン合宿	9/11	千葉県	社会人・一般	町中を歩きながら清掃活動を行い、食べ物関連のゴミ捨てが目立つ現状を実感して環境美化への意識を高めた。活動後にサークル員同士で意見交流を行い、今後の活動をより良くしていくための改善点を発見する貴重な学びの機会とした。		  
145		【Salamat】第11回たかつde笑顔！ファミリースポーツ緑日でのボランティア出店	運営参加・支援	フェスティバル	川崎市高津市役所、NPO法人 高津総合型スポーツクラブSELF	第11回 高津de笑顔！ファミリースポーツ緑日	12/13	川崎市立久本小学校校庭・体育館	社会人・一般	イベントにて塩焼きそばと輪投げの屋台を出店し、多くの地域住民と交流。サークルのモットーを広めるとともに、長期休暇を利用してフィリピンで実施している渡航支援活動についても紹介し、活動への理解と地域連携を深めた。	https://www.city.kawasaki.jp/takatsu/page/000011952.html	  
146		【東洋大学里山サポーターズ】牛尾神社天王祭りのボランティア支援	運営参加・支援	フェスティバル	牛尾神社	牛尾神社天王祭	6/12	佐渡市新穂湯上牛尾神社	社会人・一般	佐渡市新穂湯上で開催された天王祭に参加。早朝から集落内の各家庭を訪問する鬼太鼓の門付けに同行し、荷物運びや掛け声の補助を行ったほか、牛尾神社での神輿渡御にて神輿の担ぎ出しや貢物の運搬を担当し地域に貢献した。		  

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
147		【東洋大学里山サポーターズ】トキ餌場づくりボランティア活動	運営参加・支援、調査	その他	トキ交流会館	トキ餌場づくりボランティア	8/31	トキ交流会館（新潟県佐渡市新穂潟 上1101-1）	その他	トキの水辺作り協議会の方々と合同でトキの餌場づくり（草刈り）を実施。また佐渡市役所を訪問して副市長への活動報告を行ったほか、現地の方々と報告会や、JA 佐渡への減農薬の取り組みに関するインタビュー調査を行った。	https://tiera2.wixsite.com/website	  
148		【東洋大学里山サポーターズ】出雲市トキ保護活動の学習・調査	運営参加・支援	その他	出雲市トキ分散飼育センター	出雲市トキ保護活動の学習	1/17	島根県 出雲市西新町 2 丁目1039-3	その他	島外の保護拠点である出雲市トキ分散飼育センターを訪問。佐渡との環境や低減農業の拡大状況の違い、観光資源としての位置づけの違いを比較調査し、地域ごとの特性に応じた持続可能な共生のあり方や地域経済と環境保護のバランスについて考察を深めた。	https://izumo-toki.jp/	  
149		マレーシア難民学習センター インターンシップ（教育支援活動）	運営参加・支援	その他	マレーシア難民学習センター	マレーシア難民学習センター インターンシップ	9/1	マレーシア クアラルンプール 難民学習センター	その他 幼稚園以下 小学生 中学生	マレーシアの難民学習センターにおいて10日間にわたり教育支援活動を実施。難民の子どもたちに対し、学習支援・授業補助などを行い、現地に根差した国際教育協力の実践的理解を深めた。	—	   
150	学生部学生支援課	【Smile F LAOS】第12回スタディツアーの実施	運営参加・支援、調査	その他	Smile F LAOS	第12回 スタディツアー	12/20 ～ 12/27	ラオス	幼稚園以下 小学生 中学生	ラオスにて1週間のツアーを実施。コーヒー農家の家計調査や組合へのインタビューを通じたフェアトレード意義の考察、小学校でのキャリア教育ワークショップおよび職業ガイドブックの配布、ホームステイや伝統儀式を通じた文化体験を行った。	—	   
151		【大道芸サークルpastime 白山支部】千駄木小学校サマーフェスタでのボランティア	運営参加・支援	フェスティバル	千駄木小学校	千駄木小学校サマーフェスタ	7/26	千駄木小学校	小学生 社会人・一般	サマーフェスタにおいて、バルーンアート（花、剣、犬）を制作し子どもたちに配布。PTAの方々と協力しながら多くの数を配布し、地域の子どもたちに喜んでもらう体験型ボランティア活動となった。	https://www.sendagiseirin.info/report-archive/archive/2.html	
152		【大道芸サークルpastime 白山支部】赤西祭でのパフォーマンス・ボランティア	運営参加・支援	フェスティバル	赤羽西福祉所	赤西祭	9/6	北区立赤羽西福祉作業所	行政機関	赤羽西福祉作業所にてジャグリング、マジックの披露、およびバルーンアートの配布を実施。イベントを通じてジャグリング時のマイクパフォーマンス技術を学ぶなど、地域交流を深めながら施設の方々に楽しんでもらう活動となった。	—	
153		【大道芸サークルpastime 白山支部】ばねっ子まつりでのバルーンアート配布ボランティア	運営参加・支援	フェスティバル	赤羽児童館	ばねっ子まつり	10/25	東京都北区赤羽南1丁目 16-1 101	幼稚園以下 小学生	雨天の中、赤羽児童館にてバルーンアート（剣、犬、花、うさぎなど）の制作・配布を実施。来場した子どもたちに手渡し、満足してもらえる地域貢献活動となった。	—	
154		【大道芸サークルpastime 白山支部】朝霞市富士見町内会でのイベント出演	出演	フェスティバル	朝霞市富士見町内会	朝霞市富士見町内会イベント	10/26	朝霞市富士見町内会館	社会人・一般	朝霞市の富士見町内会館にてジャグリングとバルーンアートのパフォーマンスを披露。地域のご高齢の方々と交流や、青年会のパフォーマンスの手伝い、宴会での親睦を通じて地域コミュニティの活性化に寄与した。	—	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
155		【Lu:ite】文京区都市交流フェスタ2026への出演	出演	フェスティバル	文京区都市交流フェスタ2026事務局	文京区都市交流フェスタ2026	3/7	東京ドームシティ	社会人・一般	地域との連携を深め、日々の活動の成果を発揮するため、文京区都市交流フェスタ2026にてK-POPカバーダンス8曲をステージ披露した。	https://www.city.bunkyo.lg.jp/b014/p007644.html	
156		【管弦楽団】朝霞市成人式での招待演奏	出演	フェスティバル	朝霞市	朝霞市成人式	1/11	朝霞市民会館 ゆめばれす	社会人・一般	成人の日記念式典にて、呼び込み演奏として「威風堂々」を演奏。また、新成人の「20歳の言葉」や答辞のバックグラウンドミュージックとして弦楽四重奏を演奏し、式典を彩るとともに新成人の緊張を和らげた。	https://www.city.asaka.lg.jp/soshiki/55/kisya-260105.html	
157		【管弦楽団】朝霞市ファミリーコンサートの実施	出演	フェスティバル	朝霞市教育委員会、管弦楽団	朝霞市ファミリーコンサート	11/1	朝霞第十小学校	小学生保護者	朝霞第十小学校にて、小学生とその保護者を対象にオーケストラ演奏を行い、生の音楽に触れてもらう体験型コンサートを実施した。		 
158		【吹奏楽研究部】2026年朝霞市消防出初め式での式典演奏	出演	フェスティバル	朝霞市消防団	2026年朝霞市消防出初め式	1/11	朝霞市役所	社会人・一般	朝霞市役所からの依頼を受け、消防出初め式にて式典の音楽を担当。消防団の入場に合わせて「星条旗よ永遠なれ」や国旗掲揚時の国歌演奏のほか、演技の繋ぎとして子連れ世代に楽しんでもらえるポップス曲計12曲を演奏した。	https://www.city.asaka.lg.jp/soshiki/55/kisya-260107.html	  
159		【箏曲研究会】第41回文京あじさい祭りへの出演・演奏	出演	フェスティバル	文京あじさいまつり実行委員会、一般社団法人文京区観光協会	第41回文京あじさい祭り	6/15	白山神社	社会人・一般	白山神社の特設ステージにて、新入部員を迎えて初となる発表を実施。古典曲2曲とポップス曲「夏祭り」の計3曲を浴衣姿で演奏し、日頃の練習の成果を多くの来場者や地域関係者へ披露した。		
160	学生部学生支援課	【SOUNDGARDEN】文の京カレッジコンサートへの出演	出演	フェスティバル	公益財団法人文京アカデミー	文の京カレッジコンサート	9/28	文京シビックセンター小ホール（東京都文京区春日1丁目16-21）	社会人・一般	カレッジコンサートに出演し、夏合宿で練習を重ねてきた「オーメンズ・オブ・ラブ」と「アルヴァマー序曲」の2曲を披露。仲間と呼吸を合わせて演奏する喜びを実感し、来場者から温かい声援を受けた。		
161		【東洋大学混声合唱団】第41回文京あじさい祭りへの出演	出演	フェスティバル	文京あじさいまつり実行委員会、一般社団法人文京区観光協会	第41回文京あじさい祭り	6/7	白山神社	社会人・一般	白山神社の特設ステージにおいて、『いざ起て戦人よ』『Over Drive』『麦の唄』『翼をください』『夜のうた』の計5曲のアカペラ合唱曲を演奏。新入部員にとって初のステージとなり、多くの来場者やスタッフから好評を得た。		
162		【白山グリークラブ】第41回文京あじさい祭りへの出演	出演	フェスティバル	文京あじさいまつり実行委員会、一般社団法人文京区観光協会	第41回文京あじさい祭り	6/14	白山神社	社会人・一般	特設ステージにて、「上を向いて歩こう」や黒人霊歌「Oh Freedom!」など合計6曲の男声合唱を披露。風雨がある天候の中、来場した観客に日頃の練習成果を届け、お褒めの言葉をいただいた。		
163		【白山グリークラブ】文の京カレッジコンサートへの出演	出演	フェスティバル	公益財団法人文京アカデミー	文の京カレッジコンサート	9/28	文京シビックセンター小ホール（東京都文京区春日1丁目16-21）	社会人・一般	コンサートに参加し、「Deep River」、「The Lily Of The Valley」、「Ev'rytime I Feel The Spirit」の3曲を披露。響きのあるホールで緊張感を持って演奏し、定期演奏会に向けた大きな糧となる舞台経験とした。		
164		【白山グリークラブ】朝霞市文化祭朝霞市合唱連盟第43回演奏会への出演	出演	フェスティバル	朝霞市教育委員会	朝霞市文化祭合唱連盟第43回演奏会	11/1	朝霞市民会館 ゆめばれす	社会人・一般	「I Hear A Voice A Playin'」「The Lily Of The Valley」「Ev'ry Time I Feel The Spirit」の3曲を演奏。他団体の個性的な演奏を鑑賞したほか、演奏会の最後には全体有志による「大地讃頌」の大人合唱を経験した。		

学部・研究所・センター・事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
172	特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」啓発活動（こども大学あさかへの参画）	運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	埼玉県教育委員会・朝霞市教育委員会・東洋大学・NPQ法人アンサーズ ネット（東洋大朝霞共創リーダーズ）	こども大学あさか「植物をじっくり見てみよう！～植物といろんな生き物の関係～」	6/28	朝霞市内会場	小学生	地域連携プロジェクト「東洋大朝霞共創リーダーズ」の学生が、小学生を対象にサクラを脅かす特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の防除について啓発。劇やクイズを通じて、環境保全の重要性や外来種問題の解決策を分かりやすく伝え、次世代の環境意識を醸成する社会貢献活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/flsc/news?authuser=0#h.k8cs6qjrllrx	
173	学長施策「理系学部活性化のためのキャリア形成連携事業」による各種展示会・見学会の実施	講師、助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援、実演、その他	その他	東洋大学生命科学部	2025NEW環境展・アグリビジネス創出フェア・印西市立印旛区医療器械歴史資料館見学会	5月・11月・12月	東京ビッグサイト、印西市立印旛区医療器械歴史資料館	大学生・大学院生・教育関係者・研究者・社会人・一般・学術団体・企業・行政機関・その他	学長施策の一環として、理系4学部の学生を対象に環境・農業・医療の各分野における最新技術や歴史に触れる見学会を計3回実施。廃棄物処理技術、農林水産分野の研究成果、医療機器の発展過程を学ぶ機会を提供し、産学連携の現場や社会実装の取り組みを通じて学生のキャリア形成と専門領域への関心を高める社会貢献・教育支援活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/flsc/news?authuser=0#h.8898snu6er2b	
174	「鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会」の開催支援	講師	セミナー・ワークショップ	鶴ヶ島市、鶴ヶ島市教育委員会、東洋大学生命科学部	第35回・第36回鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会	11/30・2/27	鶴ヶ島市役所 東洋大学川越キャンパス	社会人・一般	地域連携事業の一環として、市民の健康維持・増進を目的としたスポーツ講習会を開催。生命科学部の教員等が講師を務め、『正しく知ろう、血糖コントロール食事・運動とその誤解』（第35回講師：東洋大学 小河 繁彦教授）、『スポーツにも日常生活にも役立つ“筋肉の硬さ”の知識』（第36回講師：早稲田大学 宮本直和教授）の講義を通じて健康づくりを提供する社会貢献活動。	https://www.toyo.ac.jp/news/20251029-18446.html https://www.toyo.ac.jp/news/20260202-18950.html	
175	「化粧品開発展—COSME Tech—2026」アカデミックフォーラムへの研究成果出展	情報提供、企画、運営参加・支援、講師、その他	その他	RX Japan 株式会社（出展：東洋大学生命科学部三浦健准教授）	第16回化粧品開発展[東京]—COSME Tech 2026 TOKYO—	1/16	東京ビッグサイト	企業・研究者・その他	化粧品開発の専門展示会内「アカデミックフォーラム」において、三浦健准教授が「皮膚常在菌のバランス改善」に関する最新の研究成果を出展。産学連携を通じた新たな化粧品素材の開発や、皮膚科学に基づいたウェルビーイングの向上に寄与する知見を産業界へ提供する社会貢献活動。	https://www.toyo.ac.jp/news/20260105-18852.html	
176	朝霞事務課 生命科学研究所 大学院生による「サイエンスカフェ2025」の開催	情報提供、企画、運営参加・支援、講師	サイエンスカフェ	東洋大学大学院生命科学研究科	サイエンスカフェ2025	12/19	東洋大学朝霞キャンパス2号館1階学生食堂	社会人・一般	大学院講義「科学コミュニケーション特論・演習」の一環として、院生が主体となり地域住民を対象としたサイエンスカフェを開催。生活に役立つ科学のトピックをカフェ形式で分かりやすく解説・対話することで、専門知の市民還元と、次世代の科学コミュニケーター育成を推進する社会貢献活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/glsc/news_list#h.d0qlbpjysrv	
177	朝霞事務課 生命科学研究所 食環境科学研究科 国際サイエンスプログラム「垣根を越えた分野横断的交流を通してグローバル人財の育成」の開催	情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学（学長施策）	ストラスブール大学協定締結40周年記念シンポジウム併催 国際サイエンスプログラム	11/11	東洋大学朝霞キャンパス	大学生・研究者	ストラスブール大学との協定40周年を記念し、院生による国際ポスターセッションを開催。生命科学研究所から43名が参加し、海外留学生や他分野の研究者と英語で研究成果を議論。分野の垣根を越えた学術交流を通じて、グローバルな視点を持つ研究人材を育成するとともに、国際的な知のネットワーク構築に寄与する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/glsc/news_list?authuser=0#h.9nscsvxhqvp	
178	朝霞事務課 生命科学部 学長施策「理系学部活性化のためのキャリア形成連携事業」による埼玉大学 WISE-P 関連事業を開催	講師、助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援、実演、その他	その他	東洋大学生命科学部	埼玉大学キャンパスラボツアーおよび出前授業を実施	11月・12月	東洋大学朝霞キャンパス、埼玉県内中学校	大学生・大学院生・教育関係者・研究者・社会人・一般・学術団体・企業・行政機関・その他	東洋大学と埼玉大学との包括連携協定に基づき、埼玉大学ダイバーシティ推進センター WISE-P の一環として、キャンパスラボツアーおよび出前授業を実施。中高生の理工系の興味関心を喚起し、理工系進路選択をエンカレッジする活動。	作成中	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
179	朝霞事務 課 食環 境科学部	「世界 IBD の日」 に向けた炎症性 腸疾患 (IBD) 患 者向けメニュー の考案・発表	情報提供、 企画、運営 参加・支援、 実演、その 他	その他	東洋大学食 環境科学部	「世 界 IBD の 日」に向けた 炎症性腸疾患 (IBD) 患者向 けメニューの 考案・発表	5/19	東洋大学朝 霞キャンパ ス (および Web 公開)	社会人・ 一般	5/19の「世界 IBD の日」に合わせ、 食環境科学部の学生が炎症性腸疾患 (IBD) 患者の方々とその家族が一 緒に楽しめるメニューを考案。病態に 配慮しつつ美味しさを追求したレ ジビを提案することで、患者の食生活 の質の向上と、疾患に対する社会的 な理解を深める取り組みを運営・支 援する活動。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250519IBD.html	  
180		親子食育教室 「朝食について 考えよう!」の 開催	情報提供、 企画、運営 参加・支援、 助言・指 導	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学食 環境科学部 健康栄養学 科 (協賛: 日本栄養士 会)	親子食育教室 「朝食につい て考 え よ う!」	8/20	東洋大学朝 霞キャンパ ス	小学生 保護者	管理栄養士・栄養教諭を目指す学生 が、小学生とその保護者を対象に朝 食の大切さを伝える食育イベントを 企画・運営。3色食品群を用いた ゲームや講話を通じて、生活リズム が乱れがちな夏休みの健康管理と食 事バランスについてレクチャーを実 施。オリジナル教材の提供等を通じ て地域の食育推進に寄与する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/fls/news_f#t.yuez47k0aqz	  
181	朝霞事務 課 食環 境科学研 究科	食の未来研究 フォーラム「鉄 紺のれん」:ほ んとうの「食の 安全」を考える	講師、情報 提供、企画、 運営参加・ 支援	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学大 学院食環境 科学研究科	食の未来研究 フォーラム 「鉄紺のれん」	10/24	東洋大学朝 霞キャンパ ス	大学生 研究者・ 社会人・ 一般	食環境科学研究科主催のフォーラム を開催。国立医薬品食品衛生研究所 の客員研究員 畝山智香子先生を招 聘し、食育・栄養・衛生・文化など 多角的な視点から「真の食の安全」 について最先端の議論と情報発信を 行う。学生や研究者、地域住民に対 し、科学等に基づいた食の安全への 理解を深める機会を提供し、社会の ウェルビーイング向上に寄与する活 動。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250901-18024.html	  
182	朝霞事務 課 食環 境科学部	「マレーシア フェア」への参 加とメニューの 紹介	情報提供、 企画、運営 参加・支援、 実演	フェス ティバル	マレーシア 政府観光 局・日本貿 易振興機構 (JETRO) 等 (参 加: 東 洋大学食環 境科学部健 康 栄 養 学 科)	マレーシア フェア2025	9/18- 9/21	イオンモ ール幕張新 都心	社会人・ 一般	健康栄養学科の学生が国際的な文化 交流イベント「マレーシアフェア」 に参加。特設ステージでのマレーシ ア料理の栄養・魅力紹介や、考案メ ニューのサンプリング配布を実施。 食を通じた異文化理解の促進と、学 生の専門知識を活かした地域・企業 連携による社会貢献活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/fls/news_f#t.yuez47k0aqz	  
183		高校生限定イ ベント「おいしい 科学実験講座」 の開催	運営参加・ 支援	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学食 環境科学部 3学科合同 企画	おいしい科学 実験講座—調 理×実験×テ クノロジーを 体験—	3/14	東洋大学朝 霞キャンパ ス	高校生	食環境科学部3学科 (食環境科学 科・健康栄養学科・フードデータサ イエンス学科) の合同企画として、 高校生を対象とした体験型講座を開 催。カップケーキ作りを通じて「調 理・実験・テクノロジー」の融合を 東洋大生と共に体験し、科学的な視 点から食のおいしさを解き明かす。 オープンキャンパスとは異なる濃厚 な学びの場を提供し、次世代の食科 学人材の育成に寄与する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/fls/news_f#t.yrpl10k504ld	  
184	赤羽台事 務課 情 報連携学 部	(高校生向け) INIAD プログ ラミング講座	企画、運営 参加・支援、 講師	セミナー ・ワーク ショップ	INIAD cHUB (情報連携 学術実業 連携機構)	(高校生向け) INIAD プログ ラミング講座	7/05- 8/16	オンライン	高校生	INIAD への進学を検討する高校生を 対象とした、Pythonを用いたオン ラインのプログラミング入門講座。 生成 AI を活用しつつ、反転型講義 を通じて実践的に大学での学びを体 験する。	https://www.iniad.org/blog/2025/04/21/post-3222/ https://www.iniad.org/lectures_for_hs/	
185		INIAD 開発の AI 対話システム 「AI 四聖討論」 の国際会議にお ける公開・展示	パネリス ト、情報提 供、企画、 運営参加・ 支援	その他	一般社団法 人京都哲学 研究所	2025年度京都 会議	9/23- 9/24	国立京都国 際会館	社会人・ 一般	情報連携学部 (INIAD) が開発した、 歴史上の四聖 (釈迦、孔子、ソクラ テス、キリスト) と AI で対話でき るシステム「AI 四聖討論」を国際 会議「京都会議」にて展示。最新の AI 技術を用いた文化・思想の新た な体験機会を社会に提供し、国際的 な交流を促進する活動。	https://www.iniad.org/blog/2025/10/09/post-3372/	  

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
186	赤羽台事務課 情報連携学部	ストラスブール大学 交流40周年記念シンポジウム「この変革期の中で教育はどう変わっていくのか？」	パネリスト、情報提供、企画、運営参加・支援、講師	講演会	INIAD cHUB (情報連携学術実業連携機構)	ストラスブール大学 交流40周年記念シンポジウム	11/12	赤羽台キャンパス INIAD ホール	研究者 大学生 社会人・一般	ストラスブール大学との交流協定締結40周年を記念し、両大学の学問・研究分野での交流や更なる発展、変革期における教育のあり方について議論するシンポジウム。	https://www.iniad.org/blog/2025/11/06/post-3439/	
187		学生ボランティア団体「こもれび」による能登復興支援観光アプリ『めぐり』のリリース・運営支援	運営参加・支援	インターネット	東洋大学情報連携学部学生団体「こもれび」	能登復興支援観光アプリ『めぐり』	10月	インターネット (App Store/Google Play)	社会人・一般	情報連携学部の学生ボランティア団体「こもれび」が、能登半島地震の被災地支援を目的とした観光アプリ『めぐり』を開発・リリース。被災地の現状発信や観光を通じた地域活性化を ICT 技術で実現する学生プロジェクト。	https://www.toyo.ac.jp/news/2025/11/3-18551.html	  
188		2025年度「東洋大学オンラインライブ保育講座（第32回～第36回）」の開催支援	講師、助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科	東洋大学オンラインライブ保育講座	2025年度	オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	保育・教育職に従事する方や学生、一般の方を対象に、専門的な知見を共有するオンライン講座（2025年度は第32回から第36回まで計5回）を開催。乳幼児教育や保育の質の向上、地域における子育て支援に寄与する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dscc/online-hoiku	 
189		2025年度「東洋大学オンライン公開保育（第7回・第8回）」の開催支援	講師、助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科	東洋大学オンライン公開保育	2025年度	オンライン	教育関係者 大学生 行政機関 研究者 社会人・一般	保育関係者（保育職、学生、行政関係者、研究者など）を対象に、実際の保育園における保育実践や環境をオンラインで配信する公開保育（2025年度は第7回と第8回の計2回）を開催。現場の実践を通して子どもの遊びを支える環境や援助について学び合う研修・協議の機会を提供し、保育の質の向上に寄与する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dscc/online-hoiku	 
190	赤羽台事務課 福祉社会デザイン学部	2025年度「東洋スマホ教室（第31回～第39回）」の開催支援	助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ	東洋スマホ教室	2025年度	東洋大学赤羽台キャンパス	社会人・一般	地域に居住する高齢者等を対象に、スマートフォンの基本操作や活用方法を伝える「東洋スマホ教室」（2025年度は第31回から第39回まで計9回）を開催。社会福祉学科の古川和稔ゼミの学生がサポーターとして運営に携わり、地域のデジタルデバйд解消と多世代交流を促進する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-06-11wed	  
191		ウェスタンシドニー大学 Jing-Jing Hong 氏による学術セミナーの開催	講師、助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ	社会福祉学科公開セミナー	4/16	東洋大学赤羽台キャンパス	研究者 大学生 社会人・一般	社会福祉学科の古川和稔ゼミではオーストラリア・ウェスタンシドニー大学の Jing-Jing Hong 氏を講師に招き、障害学(Disability Studies) やインクルーシブ教育に関する最新の知見を共有するセミナーを開催。国際的な研究交流を通じて、共生社会の実現に向けた専門的知見を学生や地域社会へ提供する活動を実施。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-04-16wed	  
192		古川ゼミ・赤羽八幡自治会・北区社会福祉協議会による地域福祉に関する意見交換会の開催	情報提供、企画、運営参加・支援	対話型集会・市民会議	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ 赤羽八幡自治会 北区社会福祉協議会	地域福祉意見交換会	5/7	東洋大学赤羽台キャンパス	市民団体 行政機関	社会福祉学科の古川和稔ゼミが、赤羽八幡自治会および北区社会福祉協議会との意見交換会を実施。大学周辺地域の現状や課題を共有し、産官学民の連携による地域福祉の向上と、学生の地域貢献への参画について具体案を検討、協議した。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-05-07wed	  
193		韓国・カトリックサンジ大学の学生とのリモート交流会	情報提供、企画、運営参加・支援	対話型集会・市民会議	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ	学生リモート交流会	5/22	オンライン	大学生 研究者	古川和稔ゼミの学生と韓国のカトリックサンジ大学の学生が、リモート形式での学生交流会を実施。日韓両国の社会福祉を学ぶ学生同士が、互いの国の福祉制度や文化について意見交換を行い、国際的な視野を広げるとともに、将来の福祉専門職としての資質向上を目指す活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-05-31sat	 

学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
194	司法福祉シンポジウム「米国の女性刑務所で動物介在プログラムが受刑者にもたらす心理的・社会的効果」の開催	パネリスト、講師、助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援	講演会	東洋大学福祉社会デザイン学部	司法福祉シンポジウム	6/28	東洋大学赤羽台キャンパス	社会人・一般研究者市民団体	米国の女性刑務所における動物介在介入が更生や心理的效果に与える影響について、米国の専門家を招いて知見を共有し、日本の司法福祉の発展に寄与する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-06-12thu#t.ct635cj7i8mn	  
195	所沢日本語学校との交流会	運営参加・支援	対話型集会・市民会議	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ	所沢日本語学校交流会	7/16、12/17	東洋大学赤羽台キャンパス	大学生・社会人・一般	古川和稔ゼミの学生と所沢日本語学校に通う留学生（外国籍住民）との交流会（2025年度は7月16日と12月17日の計2回）を開催。対話やグループワークを通じて、留学生の日本社会への適応支援や、日本人学生の多文化理解・コミュニケーション能力の向上を図る活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-07-16wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-12-17wed	  
196	「みんなで楽しむ小野ゼミレクDAY」開催	情報提供、企画、運営参加・支援	対話型集会・市民会議	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科小野ゼミ	みんなで楽しむ小野ゼミレクDAY	7/23	東洋大学赤羽台キャンパス	小学生	福祉社会デザイン学部社会福祉学科（3年）と社会学部社会福祉学科（4年）の小野ゼミは、今年度初めて、「みんなで楽しむ小野ゼミレクDAY」を7月23日（水）の2限（10：40～12：10）に東洋大学赤羽台キャンパスにて開催しました。本イベントは赤羽台っ子食堂さんのご協力のもと実施されました。 「みんなで楽しむ小野ゼミレクDAY」では、赤羽台っ子食堂を利用している小学生と赤羽地域の小学生、合わせて31名と、ゼミ生29名が参加しました。本イベントは、地域の子どもたちと学生の交流、さらに子ども同士のつながりを深めることを目的とした、学生主体の交流イベント。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-08-04mon	  
197	社会福祉学科主催「2025年度タイ海外研修」	運営参加・支援、企画、報告書執筆、その他	その他	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科	2025年度タイ海外研修	9/1-9/10	タイ王国（バンコク等）	大学生その他	社会福祉学科がタイ王国での海外研修を実施。現地のタマサート大学での学生交流や、障がい者就労支援施設、高齢者施設、NGO等の視察を通じて、アジアにおける社会福祉の現状を学習。国際的な視点での知見共有と相互理解を深める地域・国際貢献活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-10-31fri	  
198	「コペンハーゲン大学・赤羽八幡自治会・古川ゼミによる国際・世代間交流会」の開催	助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援、実演	対話型集会・市民会議	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ	国際・世代間交流会	9/16、2/19	東洋大学赤羽台キャンパス	大学生市民団体その他	第5回・第6回デンマーク・コペンハーゲン大学の学生、赤羽八幡自治会、および古川和稔ゼミによる交流会を開催。日本の地域福祉や自治会活動に関する知見を共有し、国際比較や世代間交流を通じて、地域共生社会のあり方を多角的に検討する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-09-17wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2026-02-19thu	  
199	「障害平等研修（DET）フォーラム2025」の開催	運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ	障害平等研修（DET）フォーラム2025	10/15	東洋大学赤羽台キャンパス	大学生研究者社会人・一般その他	社会福祉学科の古川和稔ゼミが事務局を務め、障がい当事者がファシリテーターとなる「障害平等研修（DET）」のフォーラムを開催。対話を通じて社会の中にある障がい（社会的障壁）を発見し、その解決策を考えるワークショップ等を通じて、共生社会の実現に向けた意識変革を促進する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-10-15wed	  
200	学園祭における「ネパール展」の開催（ネパール社会福祉海外研修報告）	情報提供、運営参加・支援	フェスティバル	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科	第15回「赤羽台祭」	11/01、11/02	東洋大学赤羽台キャンパス	大学生・社会人・一般その他	「ネパール社会福祉海外研修」に参加した学生が、学園祭（赤羽台祭）にてネパール展を開催。現地の福祉、教育、文化に関する展示や民族衣装体験等を通じて、研修で得た知見を学生や地域住民に共有し、国際福祉への関心と理解を深める活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-12-22mon	  

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
201		赤羽台祭における能登半島地震復興支援活動の実施	情報提供、企画、運営参加・支援	フェスティバル	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科	第15回「赤羽台祭」	11/02、11/03	東洋大学赤羽台キャンパス	大学生・社会人・一般	社会福祉学科川原ゼミの学生有志が学園祭（赤羽台祭）において、令和6年能登半島地震の復興支援を目的とした募金活動や被災地の現状を伝える啓発活動を実施。集まった義援金を公的機関へ寄付するとともに、来場者へ防災・減災の重要性を周知する地域・社会貢献活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2026-02-11wed-1	  
202		「園児とパラスイマーのプール交流会」	助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援、実演	セミナー・ワークショップ	東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科 一般社団法人日本パラ水泳連盟	園児とパラスイマーのプール交流会	11/4	プール施設	小学生・保護者・社会人・一般	福祉社会デザイン学部子ども支援学科崎崎ゼミナールの学生16名が参加し、地域の園児とパラスイマーを招いたプール交流会を開催。水泳を通じたパラスポーツ体験や交流により、子どもたちの多様性への理解や共生社会の心を育む活動を運営・支援する取り組み。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-11-04tue	  
203		北区職員（健康福祉部）との意見交換会の開催	情報提供、運営参加・支援	対話型集会・市民会議	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科 古川和稔ゼミ	北区職員との意見交換会	11/12	東洋大学赤羽台キャンパス	大学生・行政機関	古川和稔ゼミの学生と東京都北区役所健康福祉部の職員による意見交換会を開催。行政の現場における福祉施策の現状や課題について直接対話を行い、地域福祉の向上に向けた大学と行政の連携強化および学生の実践的な学びを促進する活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-11-12wed	  
204	赤羽台事務課 福祉社会デザイン学部	2025年度「子育てひろば」開催	情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科 子育て支援実践履修生・伊藤美佳3・4年ゼミ、多文化教育保育実践履修生	子育てひろば2025	5/31、6/9、6/21、6/25、7/12、9/27、10/18、11/2、11/3、11/21、12/21、1/16、1/21	東洋大学赤羽台キャンパス	幼稚園以下・保護者	赤羽台キャンパスにて、地域の子ども（主に0歳から未就学児）とその保護者を対象とした交流の場「子育てひろば」を定期的に開催。学生が主体となって遊びの場を提供し、地域の子育て支援と学生の実践的な学びを両立させる活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2026-03-04wed	  
205		日常生活支援住居施設の利用者と学生による交流イベントの開催支援	情報提供、企画、運営参加・支援	対話型集会・市民会議	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科 孫ゼミ 協力：NPO法人自立支援センターふるさと会	社会福祉学総合演習Ⅱ（孫ゼミ）交流イベント	11/26	台東リビン	社会人・一般	社会福祉学科の孫ゼミ（社会福祉学総合演習Ⅱ）が、日常生活支援住居施設の利用者をキャンパスに招き、レクリエーションや対話を通じた交流イベントを開催。施設利用者の社会参加を促すとともに、学生が演習で学んだ知識を実践に活かし、生活困窮者支援や地域福祉への理解を深める活動を運営・支援する取り組み。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2026-03-04wed	  
206		「2025年度ウィンターレスパイト」の開催	情報提供、企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科 NPO法人ビーンズふくしま 一般社団法人CARNIVAL WORKS 日本財団ボランティアセンター	2025年度ウィンターレスパイト	12/13-12/14	東洋大学赤羽台キャンパス	小学生・保護者	障がいのある子どもたちを対象とした冬のレスパイト（一時休息）支援事業を開催。レクリエーションや創作活動を通じて子どもたちに豊かな体験の場を提供するとともに、保護者の休息を支援。社会福祉学科の学生がボランティアとして運営に携わり、実践的な福祉支援と地域貢献を行う活動。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2025-12-23tue	  
207		「セラピードッグふれあい体験」の開催	情報提供、企画、運営参加・支援、助言・指導	セミナー・ワークショップ	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科 公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）赤羽台図書館	セラピードッグふれあい体験	12/4	東洋大学赤羽台キャンパス図書館	小学生・保護者・社会人・一般	社会福祉学科の学生・教職員および地域住民を対象に、セラピードッグとのふれあい体験イベントを開催。アニマルセラピーへの理解を深めるとともに、参加者のメンタルヘルスケアや多世代交流を促進し、動物を介在させた福祉活動の可能性を広げる取り組み。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news/d/2026-01-06tue	

学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
208	「わんわん読書 タイム」の開催	情報提供、 企画、運営 参 加・支 援、助言・ 指導	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学福 祉社会デザ イン学部社 会福祉学科 公益社団法 人 日本動 物病院協会 (JAHA) 獣 医師 人間 科学総合研 究所 赤羽 台図書館	わんわん読書 タイム	12/10	東洋大学赤 羽台キャン パス図書館	小学生 保護者 社会人・ 一般	読書犬（セラピードッグ）に対して 子どもが本を読み聞かせる「わんわ ん読書タイム」を開催。批判したり 評価したりしない犬を相手に読書 をすることで、子どもたちの読書への 意欲向上や自己肯定感の醸成を支 援。	https://sites. google.com/toyo. jp/wsd/dswf/news d/2026-02-04wed	  
209	スワンペーカ リー学内販売	企画、運営 参加・支援	その他	志村ゼミ スワンペー カリー赤羽 店	スワンペーカ リー学内販売	5/26、 6/9、 6/23、 7/7、 10/6、 10/20、 11/17、 12/15	赤羽台キャン パス		志村ゼミは障がいのある人の社会参 加を応援する目的でスワンペーカ リーの学内販売を行っています。	https://www. instagram.com/p/ DcNhnLEtWho/	  
210	NPO 法人スベ シヤルオリン ピックス日本・ 東京 Athlete Communication Leader プロ ジェクト支援	運営参加・ 支援	セミナー ・ワーク ショップ	志村ゼミ NPO 法人ス ベシヤルオリ ンピックス 日本・東京	ACL プロジェ クト研修会	5/26、 6/30、 8/4、 9/14	赤羽台キャン パス		NPO 法人スベシヤルオリンピックス 日本・東京のAthlete Communication Leader プロジェクト支援のための 研修会を開催。		
211	地域の多文化共 生 支援 TOMONI 12月イベントの 企画運営	企画、運営 参加・支援	対話型集 会・市民 会議	2 年生総合 演 習 の フィールド 活動	TOMONI 12月 イベントの開 催	12/21	赤羽台キャン パス多目 的ホール	小学生 保護者 市民団体	主に桐ヶ丘地区に在住するバングラ デシュ人親子の地域交流を目的と して、子どもたちや保護者が楽しめる レクや羊毛フェルトでの雪だるま作 りを行い、地域の方々との交流を 行った。		  
212	地域での子ども の居場所作り活 動きりがく	運営参加・ 支援、企画	対話型集 会・市民 会議	東洋大学ボ ランティア 活動きりが く2 年生 総合演習学 生とのコラ ボイベント	きりがくと 2 年生総合演習 授業のコラボ 企画	11/15、 12/20	桐生自治会 集会所	幼稚園以下 小学生	東洋大学学内サークルきりがくの活 動に社会福祉学科社会福祉学総合演 習を履修する 2 年できりがくチーム に加わった学生たち（2 年小野ゼミ） が協力し、11月はベビーカステラ作 り、12月はクリスマスイベントを企 画運営した。桐ヶ丘地区だけでなく 周辺地域から、外国ルーツの子ど もたちを含めた多くの子どもたちが 参加した。		  
213	シャブラニール のステナイ生活 を大学生たちが 支援	運営参加・ 支援、企画	セミナー ・ワーク ショップ	2 年生総合 演 習 の フィールド 活動	シャブラニール ステナイ 生活への協力 企画	11- 12月	赤羽台キャン パス	大学生 大学院生	社会福祉学科社会福祉学総合演習で 秋学期にシャブラニールでフィール ド活動を行った学生たち（2 年小野 ゼミ）が中心。認定 NPO 法人シャ ブラニールの「ステナイ生活」を応援 し、学内で書籍や DVD、切手、ハガ キなどの不用品を回収し、その売上 をシャブラニールのネパールおよび バングラデシュでの国際協力活動に 寄付した。	https://sites. google.com/toyo. jp/wsd/dswf/news d/2026-05-11mon ?authuser=0	  

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月 日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
214	赤羽台事 務課 福祉 社会デザ イン学部	赤羽台っ子食堂 での学習支援と 食堂支援活動	運営参加・ 支援	セミナー ・ワーク ショップ	社会福祉学 科 3-4 年 小野ゼミ	赤羽台っ子食 堂 (UR 団 地 で 月 2 回 開 催) でのボラ ンティア活動	4/11、 4/25、 5/9、 5/23、 6/13、 6/27、 7/11、 7/22、 7/23、 7/24、 9/5、 9/26、 10/10、 10/24、 11/14、 11/28、 12/12、 12/19、 1/9、 1/23、 2/13、 2/27、 3/13	UR 団地	小学生 中学生	UR 団地で月2回開催される赤羽 台っ子食堂に小野ゼミ3-4年生が 運営協力を行っている。主な活動と しては、食事の準備と学習支援。夏 休み中には赤羽台西小学校の子ども たちも交えて、東洋大学赤羽台キャン パスの多目的ホールと柔道場を使用 して夏休みレクも行った。	東洋大学 福祉社 会デザイン学部 - 2025.08.04 Mon	    
215	赤羽台事 務課 健康ス ポーツ科学部	「スポGOMI in 東洋大学」の開 催・運営支援	企画、運営 参加・支援、 実演	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学健 康スポーツ 科学部	ス ポ GOMI in 東洋大学	4/19	東洋大学赤 羽台キャン パス周辺	小学生 中学生 高校生 大学生 社会人・ 一般	制限時間内にチームで規定エリア内 のゴミを拾い、質と量でポイントを 競う「スポGOMI」大会を開催。学 生が運営スタッフとして参画し、地 域住民や近隣学校の生徒と共に清掃 活動を行うことで、環境美化への意 識向上と地域コミュニティの活性化 に寄与する取り組み。	https://sites. google.com/toyo. jp/hcs/dspo/news /d/2025-05-15thu #h.lqqgn21b361g	  
216		「ウェルネス フードジャパン 2025」への研究 成果展	パネリス ト、情報提 供、企画、 運営参加・ 支援、実演、 助言・指導	その他	TSO Inter- national 株式会社	Wellness To- kyo 2025 内 「ウェルネス フードジャパ ン2025」	11/26- 11/28	東京ビッグ サイト	企業 研究者 その他 社会人・ 一般	日本最大級の食と健康の専門展示会 において、加藤和則教授が「レジス タントスターチ（難消化性再結晶ア ミロース）」に関する研究成果を出 展。産学連携を通じた高付加価値な 食品開発や、食を通じた健康寿命の 延伸に寄与する知見を広く社会・産 業界へ提供。	https://www. toyo.ac.jp/news/ 20251212-18759. html	   
217		近隣区民への白 山図書館開放	その他	その他	白山図書館	近隣区民への 白山図書館開 放	8/6~9 /18	白山図書館	社会人・ 一般	利用対象：文京区・板橋区・北区内 在住の満18歳以上の社会人の方（学 生・受験生を除く）。利用期間：学 生夏季休暇および春季休暇中。入館 手続き：対象区立図書館発行の閲覧 証を提示および記帳。閲覧席の利用 や著作権範囲内での複写などのサー ビスを提供。	https://sites. google.com/toyo. jp/library/use/ others#h. elwxosyhm2e	
218		附属高校生への 白山図書館及び 赤羽台図書館開 放	その他	その他	白 山 図 書 館・赤羽台 図書館	附属高等学校 生への白山図 書館及び赤羽 台図書館開放	4/1~ 3/31 (7月・1 月は除 く)	白山図書館 ・赤羽台図 書館	高校生	利用対象：附属高校生。利用期間： 通年（ただし7月・1月は利用不 可）。入館手続き：学校発行の身分 証および事前に配付される図書館利 用カードを提示。図書館資料の館内 閲覧、閲覧席の利用、館外貸出など のサービスを提供。	https://sites. google.com/toyo. jp/library/use/ others#h.kfni842 w7cvf	
219	図書事務 課(白山)	近隣中学・高校 生への白山図書 館開放	その他	その他	白山図書館	近隣中学・高 校生への白山 図書館開放	4/1~3 /31(7 月・1 月は除 く)	白山図書館	中学生 高校生	利用対象：近隣中学・高校生（京 華・駒込・広尾学園小石川・郁文館 等）。利用期間：通年（ただし7月・ 1月は利用不可）。入館手続き：学 校発行の身分証明書および事前に貸 与される図書館利用カードを提示。 資料の館内閲覧や閲覧席の利用が可 能。	https://sites. google.com/toyo. jp/library/use/ others#h.37w6 zdxxtb01	
220		山手線沿線私立 大学図書館コン ソーシアム加盟 校との相互協力	その他	その他	山手線沿線 私立大学図 書館コン ソーシアム	山手線沿線私 立大学図書館 コンソーシア ム加盟校との 相互協力	4/1~3 /31(7 月・1 月は除 く)	白山図書館	大学生 大学院生 教育関係 者 研究者	山手線沿線の私立大学図書館がコン ソーシアムを形成し、相互協力に関 する11項目を定め協定を締結。具体 的施策の検討及び実施にむけて活動 を推進。加盟館：青山学院・学習 院・國學院・専修・東洋・法政・明 治・明治学院・立教・上智（2026年 4月～）。	https://sites. google.com/toyo. jp/library/use/ consortium#h.pu4 rgsd9pvwvf	 

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月 日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
221		佛教図書館協会 東地区加盟校との 相互協力	その他	その他	佛教図書館 協会	佛教図書館協 会東地区加盟 校との相互協 力	4/1～3 /31(7 月・1 月は除 く)	白山図書館	大学生 大学院生 教育関係 者 研究者	現在19校の佛教系大学図書館が加盟 しており、東京を中心にした東地区 7校（駒澤・淑徳・大正・鶴見・東 洋・身延山・立正）において相互利 用、情報交換、及び佛教書資料を扱 う図書館職員の研修等の活動を重ね ている。	https://sites.google.com/toyo.jp/library/use/consortium	
222		「東洋大学附属 図書館 貴重書 デジタルアーカ イブ」の公開	その他	インター ネット	附属図書館	「東洋大学附 属図書館 貴 重書デジタル アーカイブ」 の公開	4/1～ 3/31	東洋大学附 属 図 書 館 ポータルサ イト	幼稚園以 下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係 者 保護者 研究者 社会人・ 一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及 びそれに準じる資料をデジタルアー カイブ化し、「東洋大学附属図書館 貴重書デジタルアーカイブ」にて順 次広く一般に向けて公開している。	https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000604kichosho	
223	図書事務 課(白山)	国文学研究資料 館「国書データ ベース」での本 学所蔵古典籍の 画像公開	その他、情 報提供	インター ネット	附属図書館	国文学研究資 料 館「国 書 データベー ス」での本学 所蔵古典籍の 画像公開	4/1～ 3/31	国書データ ベース	幼稚園以 下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係 者 保護者 研究者 社会人・ 一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	国文学研究資料館のプロジェクト 「日本語の歴史的典籍の国際共同研 究ネットワーク構築計画」と連携。 「国書データベース」にて本学所蔵 の古典籍（哲学堂文庫、百人一首コ レクション、吉田幸一旧蔵書）の画 像データを順次公開。	https://kokusho.nijl.ac.jp/	
224		企画展示「東洋 大学—ストラス ブール大学 交 流40周年／ France-Stras- bourg Week」	企画、運営 参加・支 援、その他	その他	白山図書館	企画展示「東 洋大学—スト ラスブール大 学 交流40周 年／France- Strasbourg Week」	10/20 ～ 11/15	白山図書館	大学生 大学院生 教育関係 者 社会人・ 一般 研究者	東洋大学とストラスブール大学（フ ランス）の交流40周年を記念して、 ストラスブール大学に関連した資料 の展示をおこない、両校の歴史や学 術交流の成果を広く発信した。	https://sites.google.com/toyo.jp/hakusanlibrary/exhibitions?authuser=0	
225		外部企画展示 「動物画譚展 おもしろくて不 思議な動物たち の絵物語」への 資料出展・図録 掲載	運営参加・ 支援	その他	市立伊丹 ミュージアム	「動物画譚展 おもしろくて不 思議な動物 たちの絵物 語」	4/11～ 6/1	市立伊丹 ミュージアム	社会人・ 一般 企業 メディア 学術団体	市立伊丹ミュージアムで開催された 「動物画譚展 おもしろくて不思議 な動物たちの絵物語」に、本学所蔵 の貴重資料29点（猿蟹・姥くひ・か な讀八犬傳・南総里見八犬傳など） を貸出・出展し、図録へ掲載。	https://itami-im.jp/exhibitions/doubutsugatan/	
226		外部企画展示 「酒呑童子ピギ ンズ」への資料 出展・図録掲載	運営参加・ 支援	その他	公益財団法 人 サント リー芸術財 団 サント リー美術館	「酒呑童子ピ ギンズ」展	4/29～ 6/15	公益財団法 人 サント リー芸術財 団 サント リー美術館	社会人・ 一般 企業 メディア 学術団体	サントリー美術館で開催された「酒 呑童子ピギンズ展」に、本学所蔵の 貴重資料である「羅生門絵巻」を貸 出・出展し、図録へ掲載した。	https://www.suntory.co.jp/sma/exhibition/2025_2/	
227		外部企画展示 特別展「没後70 年 坂口安吾展 あちこち命が け」への資料 出展・図録掲載	運営参加・ 支援	その他	県立神奈川 近代文学館	特別展「没後 70年 坂口安 吾展 あちこ ち命がけ」	10/4～ 11/30	県立神奈川 近代文学館	社会人・ 一般 企業 メディア 学術団体	県立神奈川近代文学館で開催された 特別展「没後70年 坂口安吾展 あ ちこち命がけ」に、本学所蔵の 貴重資料である坂口安吾の直筆原稿 8点および雑誌1点を貸出・出展 し、図録へ掲載した。	https://www.kanabun.or.jp/exhibition/23094/	

学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
228		貴重書及びそれに準じる資料 『妖怪絵巻』『稲 生物怪録』『化 物婚禮』の掲 載	情報提供	新聞・雑 誌	株式会社新 潮社	『芸術新潮』 第76巻第9号 9月号	8月刊 行	『芸術新潮』 第76巻第9 号9月号	幼稚園以 下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係 者 保護者 研究者 社会人・ 一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及 びそれに準じる資料(『妖怪絵巻』『稲 生物怪録』『化物婚禮』)の画像デー タ等を提供し、外部機関での出版物 刊行において利用された。	
229	図書事務 課(白山)	貴重書及びそれに準じる資料 『桃山人夜話』 の掲載	情報提供	新聞・雑 誌	NHK 出版	『ドラマ人物 伝 小泉八雲 とセツ〜「怪 談」が結んだ 運命のふたり 〜』	9月刊 行	『ドラマ人 物伝 小泉 八雲とセツ 〜「怪談」 が結んだ運 命のふたり 〜』	幼稚園以 下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係 者 保護者 研究者 社会人・ 一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及 びそれに準じる資料(『桃山人夜話』) の画像データ等を提供し、外部機関 での出版物刊行において利用され た。	
230		貴重書及びそれに準じる資料 『平家物語』 の掲載	情報提供	会誌・広 報誌	佛教大学国 文学会	『京都語文』33 号	2月発 行	『京都語文』 33号	幼稚園以 下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係 者 保護者 研究者 社会人・ 一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及 びそれに準じる資料(『平家物語』) の画像データ等を提供し、外部機関 での出版物刊行において利用され た。	

学部・研究所・センター・事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
231		貴重書及びそれに準じる資料(『道外百人首』)の掲載	情報提供	会誌・広報誌	株式会社虎屋 虎屋文庫	機関誌『和菓子』33号	3月発行	機関誌『和菓子』33号	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及びそれに準じる資料(『道外百人首』)の画像データ等を提供し、外部機関での出版物刊行において利用された。	
232	図書事務課(白山)	貴重書及びそれに準じる資料(『桃山人夜話』)の掲載	情報提供	新聞・雑誌	株式会社ワゴン・パブリッシング	ムー特別編集『図説 日本の妖怪百科』	3月刊行	ムー特別編集『図説 日本の妖怪百科』	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及びそれに準じる資料(『桃山人夜話』)の画像データ等を提供し、外部機関での出版物刊行において利用された。	
233		貴重書及びそれに準じる資料(『菩薩戒義疏』)の掲載	情報提供	会誌・広報誌	知恩院浄土宗学研究所	『浄土宗学研究』52号	3月刊行	『浄土宗学研究』52号	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及びそれに準じる資料(『菩薩戒義疏』)の画像データ等を提供し、外部機関での出版物刊行において利用された。	

学部・研究所・センター・事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
234		貴重書及びそれに準じる資料(『頌文雑句』)の放映	テレビ・ラジオ番組	BS11	「偉人・敗北からの教訓放送100回特番 信虎・信玄・勝頼 武田三代 SP」	7/19		幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及びそれに準じる資料(『頌文雑句』)の画像データ等を提供し、外部機関でのテレビ放映において利用された。		
235	図書事務課(白山)	貴重書及びそれに準じる資料(『桃山人夜話』)の放映	テレビ・ラジオ番組	BS 朝日	「関口宏の雑誌の記憶」	12/13		幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及びそれに準じる資料(『桃山人夜話』)の画像データ等を提供し、外部機関でのテレビ放映において利用された。		
236		Web 展示への記事掲載	企画	インターネット	東洋大学附属図書館	4/1～3/31	東洋大学附属図書館ポータルサイト	大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般	図書館内で開催した企画展示を Web 展示として記事にまとめ、来館しなくてもポータルサイト上からいつでも展示内容を楽しめるように広く公開している。	https://sites.google.com/toyo.jp/library-webexhibitions/	
237		文京区立明化小学校 2 年生の授業「町たんけん」のプログラムとしての図書館ツアー	運営参加・支援	施設一般公開	白山図書館	11/21	白山図書館	小学生	文京区立明化小学校 2 年生の授業「町たんけん」のプログラムとして小学生を白山図書館に招き、館内の案内や図書館の仕組みを紹介するツアーを実施した。	https://www.bunkyo-kyo.ed.jp/meika-ps/index.cfm/12,1206,c.html/1206/20251203-075921.pdf	
238	図書事務課(川越)	近隣地域市民への川越図書館開放	その他	その他	川越図書館	4/1～3/31(7月1月を除く)	川越図書館	中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	川越市立図書館・鶴ヶ島市立図書館・坂戸市立図書館の利用証(利用カード)を登録している 3 市に在住、または在勤・在学している中学生以上を対象に閲覧利用を認めている。	https://sites.google.com/toyo.jp/kawagoelibrary/home	
239	図書事務課(朝霞)	近隣地域市民への朝霞図書館開放	その他	その他	朝霞図書館	8月上旬～9月中旬、2/1～3/31	朝霞図書館	中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	朝霞市・志木市・新座市・和光市に在住または在勤・在学している中学生以上の方を対象として閲覧利用を許可している。利用可能期間は、学生夏季休暇および春季休暇中の開館日。館外貸出は不可。	https://sites.google.com/toyo.jp/library/use/others#h.7tox0r94mu2	
240		資料展示『朝霞図書館貸出ランキング』	企画、運営参加・支援、その他	その他	朝霞図書館	7/14～9/16	朝霞図書館	大学生 社会人・一般	朝霞図書館にて、利用者の関心を高めるための展示企画として『朝霞図書館貸出ランキング』の資料展示を実施した。		
241	図書事務課(赤羽台)	北区区民への赤羽台図書館開放	その他	その他	赤羽台図書館	4/1～3/31	赤羽台図書館	社会人・一般	北区内在住の満18歳以上の社会人(学生・受講生を除く)で北区立図書館の利用登録者に対して、長期休暇期間に図書館を開放している。	https://sites.google.com/toyo.jp/akabanedailibrary/	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
242		北区区民への「こども図書館『えーる』」開放	その他	その他	赤羽台図書館	北区区民への「こども図書館『えーる』」開放	4/1～3/31	赤羽台図書館	幼稚園以下保護者	北区内在住の未就学児とその保護者で、保護者が北区立図書館の利用登録者に対して、通年で「こども図書館『えーる』」を開放している。約3800冊の絵本を所蔵。	https://sites.google.com/toyo.jp/akabanedailibrary/	
243		特別資料展「日本の夏～ちりめん本の世界～」&講演会「季節のうつろい～七夕～」	企画、運営参加・支援、その他	講演会	赤羽台図書館	特別資料展「日本の夏～ちりめん本の世界～」&講演会「季節のうつろい～七夕～」	6/23～6/30（展示）・6/26（講演）16:30～17:30	赤羽台図書館1階こども図書館前・2階セミナー室	幼稚園以下小学生中学生高校生大学生大学院生教育関係者保護者社会人・一般	七夕の由来や習わしなど日本の季節行事をテーマにした講演会（講師：赤羽台図書館館長 高橋直美教授、6/26 16:30～17:30、赤羽台図書館2階セミナー室）と、本学所蔵の貴重資料「ちりめん本」のうち夏を感じる資料を用いた特別資料展（1階こども図書館「えーる」前）を実施。		
244	図書事務課（赤羽台）	赤羽台図書館SDGs企画映画上映会「荒野に希望の灯をともし」	企画、運営参加・支援、その他	その他	赤羽台図書館	赤羽台図書館SDGs企画映画上映会「荒野に希望の灯をともし」	10/20～11/15	赤羽台図書館2階セミナー室	大学生大学院生教育関係者社会人・一般	アフガニスタンやパキスタンで病や貧困に苦しむ人に寄り添い続けた医師中村哲さんのドキュメンタリー映画の鑑賞会		 
245		企画展示「東洋大学—ストラスブール大学—交流40周年」展「あらためて、フランスってどんなところ？」	企画、運営参加・支援、その他	その他	赤羽台図書館	企画展示「東洋大学—ストラスブール大学—交流40周年」展	10/20～11/15	赤羽台図書館1階アクティブエリア	大学生大学院生教育関係者社会人・一般	東洋大学とストラスブール大学（フランス）の交流40周年を記念して、本館所蔵のフランスに関する資料を紹介する企画展示。		 
246		東洋大学「読書サポート犬」プログラム「わんわん読書タイム」	助言・指導、企画、運営参加・支援、その他	その他	赤羽台図書館 & 人間科学総合研究所	東洋大学「読書サポート犬」プログラム「わんわん読書タイム」	12/20	赤羽台図書館	小学生保護者市民団体	学齢期の子どもたちに寄り添い、安心して楽しい読書を体験してもらうための取り組み。セラピードッグ基準を満たした犬とボランティアスタッフ、本学の学生ボランティアにより進められ、犬への読み聞かせを楽しむプログラムを実施。子どもの募集には北区の子ども食堂や社会福祉協議会、社会福祉学科教員が協力した。		
247		井上円了記念博物館 常設展示	情報提供、企画	施設一般公開	井上円了哲学センター	井上円了記念博物館 常設展示	通年	東洋大学井上円了記念博物館	小学生中学生高校生大学生大学院生教育関係者保護者研究者社会人・一般その他	「井上円了 その生涯と教育活動」をテーマに常設展示を行い、教育者としての側面から円了の業績を紹介。大学の歴史の原点を振り返り、創立者の活動と理念についての理解を深める展示。	https://www.toyo.ac.jp/about/founder/iecp/museum/	
248	井上円了哲学センター	井上円了考案ボードゲーム「哲学飛将基」の解説動画、解説Webページを公開	助言・指導、情報提供、企画、運営参加・支援、実演、その他	インターネット	井上円了哲学センター	井上円了考案ボードゲーム「哲学飛将基」の解説動画、解説Webページを公開	通年	YouTube®「東洋大学toyouniv」、Web page	中学生高校生大学生大学院生教育関係者保護者研究者社会人・一般その他	井上円了が哲学教育のために作成したボードゲーム「哲学飛将基」の解説動画と解説Webページを公開。動画は前編と後編に分かれ、天理大学・岡田正彦教授や本学経営学部・関勝寿教授と将棋研究会の学生らが登場し、ルールや面白さを解説。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-research/researchpub/toyo-university-history-related	
249		『東洋大学百年史』の「年表・索引編」を電子book化	情報提供、その他	インターネット	井上円了哲学センター	『東洋大学百年史』の「年表・索引編」を電子book化	2025年度	『東洋大学百年史』「年表・索引編」電子ブック	社会人・一般	『東洋大学百年史』は、1993（平成5）年から1995（平成7）年までに順次発行した全8編（全8冊）の東洋大学史の記録です。この度、「年表・索引編」を電子ブック化し公開しました。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-research/researchpub/toyo-university-history-related	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
250		東洋大学史ブックレット全15巻を Web 公開	情報提供、その他	インターネット	井上円了哲学センター	東洋大学史ブックレット全15巻を Web 公開	2025年度	東洋大学史ブックレット	社会人・一般	東洋大学史ブックレット全15巻を Web 公開しました。このブックレットは、2012（平成24）年の創立125周年に制作し、井上円了や東洋大学史を分かり易く紹介した冊子です。先人達の本学への情熱や苦難を乗り越えた歴史を感じてください。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-publication/publications/centerpub/Toyo-University-history-booklet	
251		『CATALOG 井上円了』Web 公開	情報提供、その他	インターネット	井上円了哲学センター	『CATALOG 井上円了』Web 公開	2025年度	『CATALOG 井上円了』	社会人・一般	この冊子は、井上円了没後100周年記念図録として円了関連資料を選別したもので、学内外を問わず、幅広い分野の研究者が解説したものである。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-publication/publications/centerpub/CATALOG?authuser=0	
252		創立者・井上円了先生の人生を綴った：マンガ『円了』	編集、情報提供、企画、寄稿、その他	インターネット	井上円了哲学センター	創立者・井上円了先生の人生を綴った：マンガ『円了』	2025年度	マンガ『円了』	社会人・一般	東洋大学創立者である井上円了の人生をマンガ化しました。日本の哲学者の先駆けであり、教育者・仏教者などの幅広い顔を持ち、チャレンジ精神を持って生きてきた姿を描き伝えます。円了がどのように成長し何を思い哲学館を開設したのかを紹介。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-manga	
253		全国巡講に関する『井上円了選集／第12～15巻』4巻分ならびに井上円了の全3回の世界一周視察記録『井上円了選集／第23巻』を電子book化	情報提供、その他	インターネット	井上円了哲学センター	全国巡講に関する『井上円了選集／第12～15巻』4巻分ならびに井上円了の全3回の世界一周視察記録『井上円了選集／第23巻』を電子book化	2025年度	『井上円了選集／第12～15巻』『井上円了選集／第23巻』	社会人・一般	井上円了選集は、主要な著作を現代の読者のために現代表記に直して読みやすくしたものです。このうち全国巡講に関する第12～15巻の4巻分ならびに、全3回の世界一周視察記録を収録した第23巻を電子book化して公開しました。	https://www.toyo.ac.jp/dp/enryo/senshu/12-15/index_h5.html#1	
254	井上円了哲学センター	長岡市立越路小学校の6年生が円了学習で本学に来校しました	講師、運営参加・支援、情報提供、助言・指導	施設一般公開	井上円了哲学センター	越路小学校円了学習	6/27	東洋大学白山キャンパス	小学生	創立者・井上円了の生誕の地である新潟県長岡市の越路小学校6年生が「円了学習」の一環で本学を訪問。教員による講話や博物館の見学等を通じ、郷土の偉人への理解を深める教育交流を実施。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-oshirase/20250627%E9%95%B7%E5%B2%A1%E5%B8%2E7%A8%B8%E8%B6%8A%E8%B7%AF%E5%B0%8F%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E3%81%AE%E5%B9%B4%E7%94%9F%E3%81%B0%E5%86%86%E4%B8%86%E5%AD%A6%E7%B%E9%2E3%81%A7%E6%9C%AC%E5%AD%A6%E3%81%AB%E6%9D%A5%E6%A0%A1%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%A5	
255		動画「東洋大学の至宝《男子幽霊図》—井上円了と西郷孤月の奇縁—」公開しました	企画、運営参加・支援、情報提供	インターネット	井上円了哲学センター	動画「東洋大学の至宝《男子幽霊図》」公開	9/26	YouTube・Web サイト	小学生・中学生・高校生・大学生・社会人・一般	井上円了の幽霊画収集の背景と西郷孤月との出会い、所蔵作品である西郷孤月《男子幽霊図》の技法・歴史的背景について、学芸員や専門家が徹底解説する動画を Web 上で公開。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-oshirase/20250926	
256		特別展「哲学者の青春—井上円了 哲学館創立までの軌跡—」	情報提供、企画	施設一般公開	井上円了哲学センター	特別展「哲学者の青春—井上円了 哲学館創立までの軌跡—」	10/20-12/20	東洋大学井上円了記念博物館	小学生・中学生・高校生・大学生・大学院生・教育関係者・保護者・研究者・社会人・一般・その他	明治の変革期に青春の日々を送ったひとりの若き僧侶・井上円了が、学問研鑽の果てに哲学と出会い、私立学校である「哲学館（現・東洋大学）」を開設し経営者となるまでの奇跡と軌跡を追う特別展。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-museum/special/20251020	
257		国際観光学部増子ゼミ企画展示「MBTIでわかるあなたのAR-TYPE」を開催	運営参加・支援、情報提供、企画	施設一般公開	国際観光学部増子ゼミ3年生（担当教員：増子美穂教授）	「MBTIでわかるあなたのAR-TYPE」	11/12-12/21	井上円了記念博物館ロビー展示エリア（展示室前）	大学生・大学院生・研究者・社会人・一般	性格傾向を示す「MBTI」の16タイプの視点から東京にある美術館の分類・考察をおこない、MBTIタイプ別におすすめの美術館を紹介した増子ゼミによる企画展示。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-oshirase/20251119	

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
258	井上円了 哲学セン ター	博物館実習Ⅰ成果展示「玉前神社と一宮本郷地区」	情報提供、企画、運営参加・支援	施設一般公開	井上円了哲学センター	博物館実習Ⅰ(①コース)実習成果展示	1/15-3/15	東洋大学井上円了記念博物館	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 その他	博物館実習の一環として、実習生の学生が「玉前神社と一宮本郷地区」をテーマに調査した成果を展示。史料から町の歴史を掘り起こし、地域文化への理解を深める機会を提供。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-museum/special/20260115	
259		【バスケットボール部男子部門】THE NORTH TOKYO DERBY 2025の開催	講師、助言・指導、企画、運営参加・支援、実演	施設一般公開	TOYO スポーツセンター	THE NORTH TOKYO DERBY 2025	7/6	東洋大学赤羽台キャンパス HELSPO HUB-3 HELSPOアリーナ	小学生 中学生 社会人・一般	東京都北区にキャンパスを置く本学男子バスケットボール部と東京成徳大学男子バスケットボール部との対抗戦を開催。試合終了後には小・中学生を対象としたバスケットボール教室も実施した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250610-17561.html	 
260		【ラグビー部】「川越ラグビーフェスティバル」への協力	講師、助言・指導、企画、運営参加・支援、実演	フェスティバル	川越市	川越ラグビーフェスティバル	8/2	川越運動公園陸上競技場	幼稚園以下 小学生 中学生 社会人・一般	川越運動公園陸上競技場内へのラグビーゴール設置を記念した川越市主催「川越ラグビーフェスティバル」に本学ラグビー部が協力。幼児・小中学生や市内チームを対象としたイベント運営に携わった。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250804-17915.html	 
261		バスケットボール教室「TOYO UNIV basketball Academy 2025」の開催	講師、助言・指導、企画、運営参加・支援、実演	セミナー・ワークショップ	TOYO スポーツセンター協力：北区および北区バスケットボール連盟	TOYO UNIV basketball Academy 2025	11/15-2/28	東洋大学赤羽台キャンパス HELSPO HUB-3アリーナ	小学生 中学生	北区および北区バスケットボール連盟の後援を受け、地域の子どもたち(小・中学生)を対象とした全8回のバスケットボール教室を開催。基本的な技術から試合形式の実戦練習まで指導を行った。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250926-18154.html	  
262	TOYO スポーツセン ター	【硬式野球部】小学生対象の野球教室「第3回ベースボールクリニック in 川越」の開催	講師、助言・指導、企画、運営参加・支援、実演	セミナー・ワークショップ	硬式野球部	第3回ベースボールクリニック in 川越	12/6	東洋大学川越キャンパス	小学生	埼玉県川越市・鶴ヶ島市在住の小学生250名を対象に野球教室を開催。本学硬式野球部員が小学生と一緒にピッチングやバッティング、守備の練習を通して技術指導と交流を行った。	https://www.toyo.ac.jp/news/20251209-18718.html	  
263		東洋大学総合スポーツセンターにて「スポーツ体験教室」を開催	講師、助言・指導、企画、運営参加・支援、実演	セミナー・ワークショップ	TOYO スポーツセンター、ボクシング部、卓球部、柔道部 後援：板橋区	スポーツ体験教室	3/1	東洋大学総合スポーツセンター	小学生 中学生 高校生	ボクシング部、卓球部、柔道部の部員が自らプログラムを企画・運営し、小中高校生を対象としたスポーツ体験教室を開催。子どもたちへの技術指導を通じた地域交流を実施した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20260311-19196.html	  
264		【サッカー部】サッカー教室「TOYO UNIV. SOCCER CLINIC in ASAKA」の開催	講師、助言・指導、企画、運営参加・支援、実演	セミナー・ワークショップ	サッカー部	TOYO UNIV. SOCCER CLINIC in ASAKA	3/7	東洋大学朝霞キャンパス	小学生	サッカー部男子部門・女子部門の部員が内容の企画から当日の運営まで行い、108名の小学生を対象としたサッカー教室を開催。部員による技術披露や交流を実施した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20260317-19213.html	  
265		【水泳部】バイクトレーニング体験会の開催	講師、助言・指導、企画、運営参加・支援、実演	セミナー・ワークショップ	水泳部	バイクトレーニング体験会	11/9	東洋大学総合スポーツセンター	小学生 中学生 高校生 大学生 社会人・一般 大学院生	東洋大学総合スポーツセンターのプールにおいて、水泳部によるバイクトレーニング体験会を実施。当日は9歳から60歳の方26名が参加し、ワットバイクを使用したトレーニングの実践などを行った。	https://www.wattcycling.jp/info/1181/	 

	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント 番組 新聞雑誌名	月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
266		【硬式野球部】 東洋大学・中野 区連携事業「少 年少女野球教室」の開催	講師、助言・ 指導、企画、 運営参加・ 支援、実演	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学	中野区少年少 女野球教室	11/30	中野区立哲 学堂公園野 球場	小学生	中野区と東洋大学の連携事業として、例年恒例の「東洋大学少年・少女野球教室」を中野区哲学堂公園野球場において硬式野球部の協力のもと開催。中野区在住・在学の小学生男女約80名が参加した。	https://www.tetsugakudo.jp/event/post-1985.html	  
267	TOYO スポーツセンター	【ラグビー部】 第三回東洋大学 杯 ラグビー地 域対抗戦の開催	講師、助言・ 指導、企画、 運営参加・ 支援、実演	セミナー ・ワーク ショップ	ラグビー部 後援：川越 市ラグビー フットボー ル協会、川 越ラグビー スクール	第三回東洋大 学杯 ラグビ ー地域対抗戦	2/22	東洋大学川 越キャンパ スラグビー 場	小学生	川越キャンパスのラグビー場において、小学生を対象とした「第三回東洋大学杯 ラグビー地域対抗戦」を開催。川越・深谷・狭山ラグビースクールに所属する小学生等約240名が参加した。	https://www.instagram.com/p/DVDMxuPkuAX/	  
268		一般社団法人日 本パラ水泳連盟 との連携協定に 基づく共同事業 の実施	講師、助言・ 指導、企画、 運営参加・ 支援、実演	セミナー ・ワーク ショップ	東洋大学、 日本パラ水 泳連盟	東洋大学と一 般社団法人日 本パラ水泳連 盟との連携協 定に基づく共 同事業	8/26、 10/25、 2/10	城東にここ こ 保 育 園 (栃木県小 山 市)、栃 木県立温水 プール館	幼稚園以下 保護者	日本パラ水泳連盟との連携協定に基づき、保育園等と連携してパラ水泳競技の選手と園児との交流を通じ、多様性への理解や共生社会の意識の醸成を図る共同事業を全3回にわたり実施した。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dscc/%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B%E4%B8%80%E8%A6%A7%E5%AD%A9%E3%82%86%E4%AF%E6%8F%B4%E5%AD%A6%E7%A7%91/2025-11-04 tue	  



社会貢献活動 Pick up-①

法律相談部による無料法律相談会(朝霞市・常総市)の開催支援

法学部教務課

法学部の学生団体である法律相談部が、一般市民を対象に行う無料法律相談会の開催において、教務課として運営や広報の支援を行う地域連携活動。

無料法律相談

相続やお金の貸し借りなどお困りのことはございませんか？
どうぞお気軽にご相談ください。

日時	令和7年10月18日(土) 10:00~16:00(受付は15:30まで)
場所	埼玉県朝霞市 市民会館ゆめばれす
担当	東洋大学法学部教員および学生
相談内容	民法に限らせていただきます

※ 以下の相談はお受けできません。

- 刑事事件、破産、税金、年金、労働関係の問題
- 民法の相談であっても係争中または調停中の相談、
弁護士などの専門家に依頼している相談、
裁判所から文書が送付されている相談
- 当事者以外の方からの相談
- 弁護士などの専門家の紹介もお断りしています

事前予約制ではございません。当日会場までお越しください。
相談の受付は先着15名とさせていただきます。
※相談状況によっては、受付を締め切らせていただく場合がございます。

東洋大学無料法律相談部
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
電話 03-3945-7582

▲朝霞市開催のポスター



社会貢献活動 Pick up②

映画『そして、アイヌ』上映および大宮監督との対話の開催

社会学部教務課

社会学部国際社会学科の主催により、映画『そして、アイヌ』の上映と大宮浩一監督を迎えた対話集会を開催。アイヌの歴史や現代における共生について学ぶ機会を支援する地域・社会貢献活動。

『そして、アイヌ』
上映会
及び
大宮浩一監督との対話

【2022年10月10日（日）18時30分（開演）】大宮浩一監督映画展

映画を通じて、植民地主義と差別、そして人権と多様性を考える。

2019年にアイヌが先住民として法的に認定された後も、偏見や差別は残っている。
この映画は、長年にわたりアイヌの国境をめぐりに力を注いできた宇良直哉さんの率いる、多様な人々との出会いに光を当てる。
文化継承やアイデンティティ、国境と多様性、植民地主義と人権の課題を見つめ直す。
宇良さんが東洋大学を訪れる機会は、学生たちにとって貴重なシーンだ。

大宮浩一、映画監督・企画・プロデューサー。作品に『ただいまそれぞれの植民地』（2008）、『無常楽団』（2011）、『夜間もやってくる探偵団』（2017）、『キアを聞いて』（2022）など。企画や演出、写真、ナレーターとして多方面に活躍。本業を問いつける多くのドキュメンタリーを企画・製作・監督。

東洋大学 2026年1月14日(水)
16時30分開演 拝観25分終了
（開演・閉演料金は0円です）
会場：「学生自治会」ホール
（当日より申し込みが必要です）

主催：東洋大学社会学部国際社会学科
協賛：東洋大学山崎山崎ホール・学生会
東洋大学山崎山崎ホール・学生自治会
〒102-8580 東京都港区赤坂3-2-1 2F 2F 2F
（山崎山崎ホール）

▲ポスター



社会貢献活動 Pick up-③

重点研究推進プログラム「神経可塑性から子どもの発達をサポートする」シンポジウム

研究推進課 東洋大学いのち総合研究機構

脳・からだ・こころの発達メカニズムを明らかにするため、生命科学・教育学等の知見を結集し、発達障害や感覚・運動の課題への支援を探るシンポジウムを開催。カレン・プライアー博士の基調講演も実施。



東洋大学いのち総合研究機構
重点研究推進プログラム

「生育のdiversityを生むメカニズムの解明と
well-beingな社会の実現に向けた支援体制の構築」シンポジウム

神経可塑性から子どもの発達をサポートする
10.11 土 13:00-17:30
東洋大学 朝霞キャンパス 2101教室 (2号館1階)

現代社会では、子どもの発達の多様性に寄り添った理解と支援がますます求められています。本シンポジウムでは、脳・からだ・こころの発達メカニズムを明らかにするため、生命科学・教育学・リハビリテーションなど異分野の知見を結集。特に「神経可塑性」に注目し、発達障害や感覚・運動の課題への支援にどう活かせるかを探ります。

開会のあいさつ：東洋大学学長 矢口悦子

第1部：研究報告「脳とからだの発達と障害——メカニズムから支援への挑戦」
「シナプス可塑性とドレブリシ」
児島 伸彦 (東洋大学生命科学部 生命科学科 教授)
「自閉スペクトラム症の感覚障害とその脳内メカニズム」
金子 (大谷) 律子 (東洋大学生命科学部 生命科学科 教授)
「触れ合うことで育む身体と心—神経可塑性から説く立川教育学」
永杉 理恵 (東洋大学文学部 教育学科 講師)
「子どもの感覚運動機能の発達と支援」
佐藤 拓貴 (東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 理学療法科学域 准教授)

第2部：基調講演
「子どもの神経可塑性を育むための、やさしい支援スキル」
カレン・プライアー博士 (PhD, PT, DPT, ND, CH, CPRCS)
Health Sphere ウェルネスセンター 代表
テネシー州立大学 理学療法学部 アドバイザリーボードメンバー
一般社団法人Maoris顧問



※希望者に同時通訳対応可 (英語→日本語)：Zoomに接続可能なスマートフォン、タブレット、パソコンなどの電子機器とイヤホンをご持参くださいますようお願いいたします。

閉会のあいさつ：東洋大学生命科学部 学部長 根建 拓

お申し込み <https://forms.gle/u8XVboYCA73mvdfr9>

参加費：無料 (事前参加登録制)
定員：250名 (先着順) 申込員に達し次第、受付を終了いたします。
申込締切：10月6日 (月)



共催：一般社団法人Maoris

▲ポスター

社会貢献活動 Pick up-④

「鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会」の開催支援

朝霞事務課 生命科学部

地域連携事業の一環として、市民の健康維持・増進を目的としたスポーツ講習会を開催。生命科学部の教員等が講師を務め、『正しく知ろう、血糖コントロール食事・運動とその誤解』（第35回講師：東洋大学 小河 繁彦教授）、『スポーツにも日常生活にも役立つ“筋肉の硬さ”の知識』（第36回講師：早稲田大学 宮本直和教授）の講義を通じて健康づくりを提供する社会貢献活動。

第 35 回鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会

正しく知ろう。血糖コントロール
食事・運動とその誤解

【講師】
小河 繁彦
東洋大学 生命科学部生体医工学科 教授

東洋大学生命科学部准教授。アメリカヤシ大学協理を歴任。2009 年より長崎、熊本県スポーツ推進部助産部長、熊本県スポーツ医・薬師（医部）専任教授、後援校（つくば）、ヨーロッパ大学助産、ドイツ看護大学センター、カンタウ（フランス）専任教授研究員、アメリカ看護協会等での専攻の卒業生を全員、後援に「スポーツ留学でわかる 身体のかたちとトレーニング」など多数。

11.30

10:30-12:00

S
U
N

血糖を安定させるには、食事と運動が最も大切です。多くの場合、運動は血糖を下げる効果があるため「運動しすぎたら」と勧められます。
しかし、実際には運動をする＝精神的に血糖が上がると入ります。これは体の仕組みや運動のやり方による違いで、決して正しいことではありません。
本講習では、食事と運動の正しい組み合わせを学び、「なぜ人によって運動の効果が違うのか？」を分かりやすく解説します。誤解をなくし、自分に合った血糖コントロールの方法を一緒に考えてみましょう。

参加無料




場所：鶴ヶ島市役所
504会議室
定員：30名（先着順）
申込：QRコード・電話・窓口
（11月3日受付開始）

主 催：鶴ヶ島市、鶴ヶ島市教育委員会、東洋大学（生命科学部）
問合せ：鶴ヶ島市 生涯学習課スポーツ課 市民スポーツ推進
0449-271-1111 03104800050@city.tsurugashima.lg.jp

▲第35回ポスター

第 36 回鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会

**スポーツにも日常生活にも役立つ
“筋肉の硬さ”の知識**

【講師】
宮本直和（みやもと なおかず）氏
早稲田大学スポーツ科学学術院 教授

東洋大学大学院健康生産環境学専攻、
東京女子大学スポーツ健康科学部応用体育教授、日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター／国立スポーツ科学センター副学長等職
長などを歴任。現職。

私たちの身体を動かす筋肉（骨格筋）は、日々の運動習慣やトレーニング内容、さらに肉離れのようなケガの経験によって、その「硬さ」が変化する。実際に、運動を続けることで筋肉が硬くなった、あるいは柔らかくなったと感じたことのある方も少なくないでしょう。

本講演では、これまでになく疑心してきた筋肉の硬さを中心に、筋肉の硬さと運動パフォーマンスとの関係、肉離れ発症リスクとして注目される筋間の硬さ、ケガをしやすい肉離れに対する効果的な対策（ストレッチやトレーニング方法）など、加齢に伴う筋肉の硬さの変化とその改善策などについて紹介します。

2.27 (金)
18:00-19:30

参加無料

場所：東洋大学川越キャンパス
721 教室（7 号館）

定員：50 名（先着順）

申込：QRコード・電話・窓口
（2 月 3 日受付開始）

主催：鶴ヶ島市、鶴ヶ島市体育委員会、東洋大学（生活科学部）
共催：鶴ヶ島市 生涯学習課スポーツ課 鶴ヶ島スポーツ協会
03-649-271-1111 0310800050@city.hirugakima.lg.jp

申込券

▲第36回ポスター



社会貢献活動 Pick up-⑤

バスケットボール教室「TOYO UNIV basketball Academy 2025」の開催

TOYO スポーツセンター

北区および北区バスケットボール連盟の後援を受け、地域の子どもたち（小・中学生）を対象とした全8回のバスケットボール教室を開催。基本的な技術から試合形式の実戦練習まで指導を行った。



東洋大学 バスケットボール教室

東洋大学女子バスケットボール部によるバスケットボール教室です

昨年度は約30名の参加者とバスケットボールを楽しみました！
ボールや体を使ったあそびから高度なドリブル/パス練習まで、様々なメニューに取り組みました。

対象 : 北区在住・在学の小学生（小3～小6）
※チーム単位での申込に限り中学生も募集します

募集定員 : 50名（先着順）

開催時間 : 14:00～16:00

参加費用 : 10,000円（全8回合計）

開催場所 : 東洋大学赤羽台キャンパス
HELSP0 HUB-3アリーナ

問合せ先 : TOYOスポーツセンター事務局
(ml_tsc@toyo.jp)

2025年
11月開講

お申し込みはこちら

小学生 中学生

2025 2026

11/15 (土) 11/22 (土) 12/13 (土) 12/20 (土) 1/10 (土) 1/31 (土) 2/14 (土) 2/28 (土)

主催：東洋大学（TOYOスポーツセンター）
協力：北区バスケットボール連盟
後援：北区

▲ポスター

地域活性化活動支援事業の概要

2016年度、社会貢献部門の活動における特徴として、地域活性化活動支援事業を新たにスタートさせた。2025年度は16企画（うち追加5）応募され、社会貢献センターにて選考を行った結果、全企画が採択となり活動を行った。概要は以下のとおりである。

1. 事業の目的

地域活性化活動支援事業は、過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に若い人材が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することで、都会の若者に地域への理解を促し、地域で活躍する人材として育成することに繋がるとともに、地域住民をはじめとする人材育成を目的とする。学生と教員が共同して進める地域活性化活動を経済的に支援し、今後自立した活動へと発展させていくためのサポートをする。

2. 支援金額及び採択件数の目安

- (1) 地方創生コース：キャンパスから100km以上の地方において、地域活性化活動をするものを対象。1件当たり総活動経費の最大50%以内で、かつ、30万円を上限とする。
- (2) 地域貢献コース：キャンパスから100km以内の地域において、社会貢献・地域貢献をするものを対象。1件当たり総活動費の最大50%以内で、かつ、5万円を上限とする。

3. 対象となる活動

国内の過疎地域、限界集落、農山村だけでなく、都市課題の解決や災害支援なども含め、国内外の多様な地域における教員と学生が共同して行う地域活性化活動。

4. 選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

5. 年間スケジュール

2024年12月2日～2025年1月20日	募集期間
2025年2月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考（申請数：11企画）
2025年3月31日	地域活性化活動支援事業について 採択決定通知（採択数：11企画）
2025年4月1日～2025年5月10日	追加募集期間
2025年6月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考（申請数：5企画）
2025年6月9日	地域活性化活動支援事業について 採択決定通知（採択数：5企画）
2026年2月末まで	各採択企画の報告書および決算書提出締切
2026年3月17日	報告会の実施（16企画報告予定）
2026年3月末まで	支援金額の支払い

6. 2025年度実績

応募企画数	採択企画数
16企画	16企画

2025 年度 地域活性化活動支援事業一覧

No.	教員名	学部	活動名	コース名	主な 市区町村	支援額	支援額 (結果)
						¥4,316,000	¥3,763,936
1	鈴木鉄忠	国際学部	東洋スローシティプロジェクト	①地方創生 (遠距離)	群馬県前橋市と 宮城県気仙沼市	300,000	289,054
2	須賀忠義	国際観光学部	「大内宿雪まつり」の 運営を支える支援活動	①地方創生 (遠距離)	福島県南会津郡 下郷町大内区	300,000	277,500
3	小野道子	福祉社会デザイン学部	福島県の子どもに寄り 添うプログラム	①地方創生 (遠距離)	福島県郡山市と 福島市	300,000	300,000
4	齋藤博	福祉社会デザイン学部	鹿嶋市の活性化に寄与 する実践的取り組み	①地方創生 (遠距離)	茨城県鹿嶋市	300,000	219,725
5	藪長千乃	国際学部	能登ゼミ（創造的復興 に向けた地域住民と学 生の取組）	①地方創生 (遠距離)	石川県志賀町	300,000	300,000
6	森下晶美	国際観光学部	鳥取における付加価値 の高い観光の実現と人 材確保	①地方創生 (遠距離)	鳥取県鳥取市及 び周辺地域	300,000	300,000
7	蜂巢旭	経営学部	行政・JA・生産者との 連携による農業からの 地方創生	①地方創生 (遠距離)	栃木県大田原 市、那須塩原市、 鹿沼市、日光市	300,000	300,000
8	内田彩	国際観光学部	秋田県湯沢市における 地域活性化プロジェク ト	①地方創生 (遠距離)	秋田県湯沢市	300,000	300,000
9	齋藤邦明	経済学部	東洋大学里山サポー ターズ	①地方創生 (遠距離)	新潟県佐渡市、 島根県出雲市	300,000	300,000
10	佐野浩祥	国際観光学部	市街地と郊外の有機的 結合による全市観光プ ロジェクト	①地方創生 (遠距離)	静岡県富士宮市	300,000	298,855
11	牧野冬生	国際学部	福島県川内村の魅力を 発信するプロジェクト	①地方創生 (遠距離)	福島県双葉郡川 内村	300,000	191,545
12	南野奈津子	福祉社会デザイン学部	未就園児と保護者向け の遊びを通じた日本語 クラス運営	①地域貢献 (近距離)	東京都豊島区	40,000	4,130
13	朴苑善	社会学部	滞日外国人との協働を 通じた多文化共生と復 興の支援	①地方創生 (遠距離)	宮城県気仙沼市	300,000	226,122
14	金子元彦	健康スポーツ科学部	東日本大震災を契機と したバドミントン教室 の再開	①地方創生 (遠距離)	福島県相馬市	212,000	45,200
15	堀本麻由子	文学部	地域の文化継承とまち づくりを考える	①地方創生 (遠距離)	長野県諏訪郡下 諏訪町	164,000	111,805
16	箕輪允智	法学部	公共政策フォーラム 2025in 養父	①地方創生 (遠距離)	兵庫県養父市	300,000	300,000

東洋スローシティプロジェクト

代表教員：鈴木 鉄忠
国際学部

■活動内容

スローシティ国際連盟に加盟する前橋市および気仙沼市の地域活性化を目的として、空き家・休耕地の再生および地域資源を活かした観光コンテンツの開発を行う。地域住民と協同し、東京と地方の相互交流を図り、活動過程を公式 SNS で発信しながら、地域内外の人々が気軽に集まれる拠点づくりに取り組む。

■活動の成果概要

本活動は、地方都市の持続可能な発展を目指す国際ネットワーク「スローシティ国際連盟」の正式加盟の2都市（前橋市と気仙沼市）において、学生主体で地域活性化に取り組んだ。成果として以下の5点が挙げられる。

第一に、前橋市の地域活動団体との協力である。大胡地区で空き古民家再生を進める任意団体「前橋赤城マイマイの会」（以下、マイマイの会）の協力を得ながら、多世代交流拠点づくりのための食農イベントに参加した。本年度は5回行われ、計4回の食農イベントに参加した。5月に地元の食材を使用したボルシチ作りイベント、1月に地産もち米による餅つきイベントを主催した。

第二に、スローシティ活性化を目的とした前橋市との連携である。大胡地区の公園と自然資源の活用を目的として、7月に「赤城山トレイルランニングレース2025」にゼミ3年生がボランティアとして参加した。ゼミ3-4年生が8月に「赤城大沼白樺マラソン」、9月に「赤城山ヒルクライム」にそれぞれ運営ボランティアとして参加した。両イベントとも、それぞれランナーのサポートボランティアとして、地域の方々ともスローシティ運動についてのお話をし交流することができた。

第三に、粕川村、富士見町との関わりである。11月2日に前橋市粕川村に「第五回粕川元気まつり」、3日に「富士見産業祭」にそれぞれゼミ2-3年生がボランティアとして参加した。粕川元気まつりでは、主に、地元の野菜で作られた窯焼きピザと、野菜ジュースの販売をお手伝いし、協力して下さったワタナベファームさん、ひろ味工房さんと、交流を深め、またスローシティ運動のお話をさせていただいた。富士見産業祭では、2-3年ゼミ生がスローシティをテーマにポスターを作成、展示を行った。

第四に、気仙沼市における地域活動である。8月に5名、2月に10名で気仙沼市役所を訪れ、食文化、震災、地域活性化、移住の探究テーマを基に、かるたプロジェクトの現地活動を行った。2月に仮完成したかるたを気仙沼市長、気仙沼市震災復興・企画課、気仙沼商工会議所会頭、協力店舗にお渡しした。

第五に、PR タイムスに記事が掲載された。本学のブランドサイトにも転載された。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000166260.html>

最後に、本活動とスローシティ推進に資する情報発信である。上記のすべての活動を本学国際地域学科の公式 HP、前橋赤城マイマイの会の公式 HP で紹介し、対外的に発信した。また学科 HP 記事には、これらの活動が本事業の成果であることを明記した。またゼミの Instagram による情報発信も推進した。今年度は33回（昨年度は48回）投稿し、フォロワーは280人（昨年度は205人）となり、75名増加した。



「大内宿雪まつり」の運営を支える支援活動

代表教員：須賀 忠芳
国際観光学部

■活動内容

ゼミ活動のサービス・ラーニングの一環として、2026年2月13日から2月15日にかけて、2年次から4年次までのゼミ生14名で参加した。江戸期宿場町の景観を今に伝える、福島県大内宿の雪まつりに、運営スタッフの一員として活動し、事前の準備や当日の運営補助、子どもコーナーの企画・運営などに取り組んだ。

■活動の成果概要

地域振興のあり方について学ぶために、ゼミ活動のサービス・ラーニングの一環として、指導教員（須賀）が引率し、会津・南山通りの江戸期宿場町の景観を今に伝え、重要伝統的建造物群保存地区にも選定されている、大内宿（福島県南会津郡下郷町大内区）で、2026年2月13日から2月15日にかけて開催された「大内宿雪まつり」に、2年次から4年次までのゼミ生14名で参加し、地域イベントの運営補助支援活動に取り組んだ。当ゼミにおける当イベントの運営補助は、2012年度以来、コロナ禍の開催中止時を除いて、継続的に実施している。当イベントは、地元自治体や外部資本等には依存せず、地区内だけで準備、運営し、そこに多くの観光客が訪れることから、準備・運営に支障を来すことも多かった。そうした中で、町並み保存の中心的存在として活躍してきた、大内区元区長・吉村徳男氏と指導教員との個人的なつながりもあり、支援の打診を受ける形で、当イベントに関わることとなり、前日の準備設営補助から、当日の運営補助まで、学生らが積極的に支援し、当イベントを成功に導いてきた経緯がある。今回の実施分でも、関係者からは「東洋大の学生の力添えが無ければ運営できない」といったお声をいただいている。こうした取り組みは、過疎地域における観光施策支援として、本学の社会貢献活動の一つとして、地元からも高い評価を受け、大きな信頼を得るものともなった。また、首都圏出身の者が多い参加学生にとって、地域振興にかける強い思いを有する地域の方々と直に接することは大いに刺激となるもので、地域貢献活動の意義について、強く実感する契機となっている。祭りに際して行われる神事にも、地元の方に交じって、当該参加学生の参加をお認めいただき、学生にとっても得難い体験となるとともに、地元からも好評を得る結果となっている。4年次生には、2年次から当該行事に参加した者もいて、学生活動を通じて、本学と当該地域の強い結びつきを体現するものとなっている。一方で、交通費・宿泊費等は自己負担で、学生の経済的負担は少なくなかった。こうした中で、前年度に引き続き、本学発着で貸切バスを活用し、バス借り上げに当該経費を充当することで、学生の経費負担分も軽減し、学生にとって、より参加しやすく、教育的効果は各段に高まったものと思料される。下郷町大内区との間では、「地域活性化支援活動」に関する相互協力の覚書を取り交わしており、当覚書をもとに、当事業について、今後も継続的に活動に取り組んでいきたいと考えている。



福島県の子どもに寄り添うプログラム

代表教員：小野 道子
福祉社会デザイン学部

■活動内容

一日目は会津少年自然の家到着後、パフェ作り体験を行った後に雪遊びやサッカーなど選択レクを実施した。二日目は坂下町中央公民館に移動した後、カレー作り体験や防災レクを実施し、災害に対する知識を高めることが出来た。

■活動の成果概要

私たち小野ゼミでは、ひとり親家庭についてゼミ内で学習を重ね、理解と知識を深めてきた。その学びを実践に生かす場として、レスパイト活動では2日間にわたり、子どもたちと共に昼食やレクリエーション活動を行った。子ども一人一人の長所に目を向け、活動を楽しみながら寄り添うことで、教室内の学習だけでは得られない学びを実感するとともに、社会貢献活動を実践的に発展させる貴重な経験となった。

レスパイト活動に学生が参加する意義は、子どもたちにとって新たな人間関係を築く点にあると考えている。私たち小野ゼミでは、親や同年代の友人だけでなく、大学生という立場の異なる存在との関わり、いわゆる「斜めの関係」を重視している。今回の活動は、大学生と子どもたち双方にとって新たな刺激となり、学びをより深める機会になったと感じている。

今回は宿泊を伴う活動であったため、子どもたちが安心して過ごせるよう、常にペアの学生がつく体制を整えた。その上で、子どもたちと十分に関わる時間を確保し、会話を重ねながらレクリエーション活動に臨んだ。その結果、大学生一人一人が子どもたちの気持ちやペースに寄り添いながら活動することができ、共通の話題で盛り上がる場面も見られるなど、大きな達成感を得ることができた。活動後には、保護者の方々から「帰宅後も活動の思い出を楽しそうに話していた」「親以外の大人に見守られながら楽しい時間を過ごせたことが、子どもにとって良い経験になった」といった感想が寄せられた。今年度の活動では保護者の方の参加はなかったものの、これらの声から、子どもたちが安心して活動に参加し、充実した時間を過ごしていたことがうかがえ、私たち学生にとっても大きな喜びとやりがいを感じる機会となった。

本活動を通して、私たちはひとり親家庭の現状について改めて深く学ぶことができた。保護者の方から直接お話を伺うことで、現実には即した課題を知る貴重な経験となり、大学生一人一人が真摯に向き合い、自分たちに何ができるのかを考える学びの場となった。また福島県を訪れたことで、ひとり親家庭への理解に加え、防災や被災地支援、地域活性化への関心も高まった。この経験は今後の活動計画にも生かされ、社会貢献活動への意欲をさらに高めるきっかけになると考えている。



鹿嶋市の活性化に寄与する実践的取り組み

代表教員：齋藤 博
福祉社会デザイン学部

■活動内容

本活動は、空き店舗が目立つ茨城県鹿嶋市の中心市街地活性化を目的とし、来街者の増加を促進する取り組みとして、まちづくり鹿嶋㈱が主催する「Meet to Art」における一連のイベント（花火鑑賞やコンサート等）の企画及び運営のサポートを行っている。合わせて、地域の魅力を発信するメディアの製作を行った。

■活動の成果概要

【①本学の社会貢献活動のさらなる発展】

本活動は、2019年度のまち歩きを契機として、鹿嶋市中心市街地を舞台に「まちづくり鹿嶋㈱」と協働しながら継続してきた実践である。2023～2025年度においては、「Meet to Art」関連事業の企画・運営補助を担い、大学での学び（人間環境デザイン）を地域社会へ実装してきた。今年度は5月・8月・10月・12月・2月の計5回、ゼミ合宿を実施し、現地調査、神幸祭への参加、花火およびバレンタインイベントの運営補助等に取り組んだ。これにより、大学が地域の実践的パートナーとして果たす役割が一層明確になるとともに、教育・研究・社会貢献を横断する実践モデルとしての展開可能性も高まっている。

【②学生参画の不可欠性】

提灯のデザイン制作や情報発信など、着想から設計・運用に至るまでを学生が主体的に担うことで、若い感性と専門教育の成果が地域資源の再解釈と新たな価値創出につながった。地方都市において若者の参画は象徴的かつ実質的な意義を持ち、学生の存在自体が地域の期待に応えている。また、実社会における協働経験は学生の主体性や責任感を育み、教育と社会貢献が相互に高め合う循環を生み出している。

【③経費支出による具体的効果】

鹿嶋市は本学から約100kmに位置し、交通費・宿泊費は学生にとって大きな負担となる。経費支援により参加のハードルが低減し、最大16名の参加が実現するなど、参画の裾野が広がった。加えて、複数回にわたる現地訪問が可能となり、継続的な関係構築と地域理解の深化が図られた。その結果、現地調査の精度向上、イベント運営の安定化、翌年度計画の具体化など、社会貢献活動の実効性が着実に高まっている。さらに、学生間の協働体制も強化され、学年を越えた知見の継承が進んでいる。

【④昨年度からの改善点】

本活動においては、単発的な支援にとどまらないよう年間計画を立案し、各合宿に調査・運営補助・計画協議といった目的を設定している。また、鹿嶋ログ（インスタグラムによる情報発信）及びサイクリングマップ作成を継続課題として位置づけ、2026年度に向けた工程を整理した。さらに、活動の自走化を見据え、イベント内での自主企画による活動資金の確保にも挑戦する方針であり、地域と対等な協働関係の構築を目指している。

【⑤地域・団体との実績】

本年度は現地調査に加え、神幸祭への参加、花火およびバレンタインイベントの準備・運営補助を実施した。中心市街地を自転車で巡る調査や地域住民との対話を通じ、相互理解と信頼関係を一層深めることができた。さらに、東洋大学とまちづくり鹿嶋㈱との相互協力覚書締結し、継続的連携の基盤を整備した。2026年度は、イベント支援及び情報発信の継続に加え、サイクリングをテーマとした活動や清掃活動等へ展開し、地域の活性化に資する活動を行う予定である。



能登ゼミ（創造的復興に向けた地域住民と学生の取組）

代表教員：藪長 千乃
国際学部

■活動内容

本研修では、令和6年能登半島地震で被災した石川県志賀町富来地域を活動対象地として、お祭りの手伝い・太鼓の練習を通じた伝統文化の継承活動への参加・交流、震災によるダメージを受けた里山の修復作業及び復興イベント準備作業への協力、被災経験に関する縦断調査、居住継続に関する集落の縦断調査を実施した。

■活動の成果概要

これまで能登ゼミの活動では、高齢化が進み消滅が危惧される集落の伝統文化（祭り）の維持や手伝いを通じた地域住民との交流による関係人口の形成、集落が持つ文化や自然などを見直すことによる新たな価値の創出を図ってきた。令和6年の震災をきっかけとして、災害ボランティア活動、地域の住民の方たちの被災経験と将来展望の聞き取り、復興活動への協力を行うことを通じて、一部の集落にとどまらず対象地域を拡大し、また活動内容も地域社会・産業における復興へ向けた取り組みへの貢献活動へと発展させた。今年度もこれらの活動を継承し、志賀町富来地区の復興と伝統文化の継承活動に寄与することができた。

今年度は、上記の活動に加えて、被災後1年半がたって被災した住宅等が解体・撤去され、仮設住宅等への転居等住民の転出が恒久的な状況を見せ始めたことから、これまで交流を行ってきた稗造第二地区の全集落の実踏調査（ローラー調査）を実施した。住宅地図をもとに小グループに分かれて各集落を訪ね、居住を確認し、お会いできた方には現在の生活について学生がお話を伺った。現在、同地区において震災による変化についての本格的な記録は作成されていない。そこで、本活動を通じて現地の生活記録を作成したことにより、今後の復興や伝統・歴史の保存に貢献できた。さらに、今年度は里山の修復活動にも取り組んだ。地震によってダメージを受けた裏山にガイドと共に入って状況を確認し、下枝払いなどの今後の復旧作業に向けた準備を行った。これは、豊かな里山の恵みを利用した生活という能登の文化の再生・維持に向けた重要な活動の一步となった。

学生が継続して交流を続けていることは、被災して多くの住民が転出し、活力を失いつつある地域にとって精神的に大きな支えとなっていることが地元の方たちの言葉から伝わってきた。さらに、これらの伝統文化の継承や記録の作成、里山の保全活動などは、高齢化が極度に進行し、被災と人口流出が進んでいる現地自治体や団体、地元住民では対応できない。学生は、これらの活動に取り組んでおり、この活動がなければこれらの伝統文化や記録は失われてしまうことから、歴史・文化の保存のために非常に重要な作業となっているといえる。

なお、能登半島は、アクセスに課題があり、利用できる交通機関が限定的であるだけでなく交通費も高額になる。地域活性化活動支援事業は交通費がネックとなって参加できない学生の参加を促進することができ、地域への貢献活動に参加できる学生の活動を増やすことができる。したがって学生の機会格差の是正にもつながっている。

なお、本活動については2024年に志賀町と東洋大学の間で包括連携協定を締結している。



鳥取における付加価値の高い観光の実現と人材確保

代表教員：森下 晶美
国際観光学部

■活動内容

鳥取県は地域特性のある観光資源が多く存在するものの、それを生かした付加価値の高い観光の具現化が進んでおらず、十分な観光消費が得られていない。本取り組みでは鳥取県・輝く鳥取創造本部と学生が協働し、地域の資源や潜在市場についてマーケティング分析を行ったうえで、高付加価値な観光を提案する。

■活動の成果概要

- ・社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取組であること。

インバウンド旅行者が飛躍的に増加する一方、オーバーツーリズムや地域消費の少なさなどが課題になっている。鳥取県においても、地域特性のある観光資源が多く存在するものの高付加価値な観光の具現化が遅れ、地域に還元できる観光消費が得られていない。こうしたことから県はアドベンチャーツーリズムを含めた観光の高付加価値化を模索しており、これを研究する本ゼミと協働しマーケティング分析、コンテンツ開発、意見交換などを行って、付加価値の高い観光コンテンツや仕組みを提案した。

具体的には、2025年5月より鳥取県 輝く鳥取創造本部観光交流局と県庁職員と学生とのワークショップを行い、課題抽出や本取り組みに関する枠組み作り、事前調査を行ったうえで、11月に鳥取県に赴き検証のための視察、意見交換などを行った。これにより鳥取県の観光資源のポテンシャルや訪問者の現状などの理解が進んだほか、観光関係者、県庁職員との交流も実現した。こうした実査を行ったことにより、精度の高い高付加価値観光を提案することが可能となった。

- ・取組のために学生参画は不可欠であること

高付加価値化の手法の1つとするアドベンチャーツーリズム（AT）の市場は20～50歳代の比較的若い層が厚く、Z世代、ミレニアル世代の価値観を理解することが重要であり、また、アクティビティの実証にも若い世代の力が必要である。参加学生はゼミにおいてATを研究しており、これに貢献することが出来る。

上記以外にも、実際に地域の方々との意見交換をリアルに行うことで、地域の意向や距離感、気候などを汲んだ提案が可能となる。また、地方の観光産業・行政における人材不足も深刻であり、これについても学生との意見交換を行うことで課題抽出に貢献できる。

- ・活動した地域、団体との実績内容

現地での活動に伴う県庁の観光担当職員との意見交換、県知事の表敬訪問をおこなった。1/30に成果のプレゼンテーション会を行う。継続的に連携するための覚書取り交わしについては、現在協議中。



行政・JA・生産者との連携による農業からの地方創生

代表教員：蜂巢 旭
経営学部

■活動内容

経営学部蜂巢ゼミでは、5つの班に分かれ、栃木県の団体、生産者、行政等と連携し、①とちぎ農業女子×東洋大学食、②廃校を活用したクリスマスマルシェ、③前田牧場×栃木県なかがわ水遊園(食育班、キッズビジネスチャレンジ班の2班構成)、④JA 那須和牛すき焼き学食の4つのプロジェクトを実施した。

■活動の成果概要

①本学の社会活動の発展

一連の活動から、地域と大学生の繋がりが拡大し、新たな活動やプロジェクトにも発展しており、発展した派生プロジェクトも複数実施中である。JA プロジェクトでは、食環境科学部の露久保研究室所属学生も参画するに至っている。

②学生参画の必要性

どのプロジェクトも、学生が生産者・JA・行政・大学・地域（大田原市内、都内）との連携の要となっており、学生による連携力と創意工夫が不可欠である。

③学生の交通費支出により期待できる効果

補助を得られる前は、金銭的都合で地方に足を運べない学生がいた一方、本補助により自分のプロジェクトはもちろん、他班のプロジェクトへのヘルプにも積極的に参加する意欲が高まり、学生による社会貢献活動が活発になった。本活動を通じて、大学生による地方や社会の課題への関心は高まり、就職活動等にも活かされている。

④昨年度からの改善点

学食（ロコモコ、すき焼き）については、生産者・JA・学食と連携のうえ原価を抑えつつ、学生価格を抑えるために教職員価格や教職員販売制度を設けて原価率の低減を図った。マルシェは、那須野地区のみならず、塩谷地区、上都賀地区の生産者やキッチンカーの出店も呼び込み、地域を越えたイベントとなった。前田牧場イベントは、大田原市の後援名義を得るとともに、都内（文京区・北区・板橋区）の小学校の協力を得て1万部以上のチラシを配布し、東京都の親子を大田原市に呼び込むことができた。

⑤活動した地域・団体との実績内容

本取組によるプロジェクトは、現地への視察・提案や打合せで終わるものは一つもなく、すべて実施に至っている。学食プロジェクトはロコモコ、那須和牛すき焼きともに完売に至った。とくに、那須和牛すき焼き学食については食環境科学部露久保研究室との連携により朝霞キャンパスとの同時開催となっており、これらの取り組みは、JA なすの広報誌や日本農業新聞で紹介された。クリスマスマルシェは400人以上の集客を実現し、前田牧場プロジェクトについては都内の親子を地方に呼び込み、イベントを実施することができた。



秋田県湯沢市における地域活性化プロジェクト

代表教員：内田 彩
国際観光学部

■活動内容

春学期の事前学習において秋田県湯沢市の教育旅行企画案を作成したうえで、ゼミ学生16名で、9月2日から5日に湯沢市で現地調査を実施した。本年度は教育旅行のテーマ（酒造、小安郷、地熱、冬季観光）を中心に観光資源調査をおこない、ワークショップではジオガイドとの意見交換を行いながら企画を完成させて発表した。

■活動の成果概要

- ・社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取組であること。

湯沢市は、人口減少、住民の高齢化などが社会問題となっており、市ではこの課題に取り組むため、県外の大学生とともに、地域の活性化に取り組む事業としてジオパークカレッジ企画している。本年の活動では、湯沢市が注目している教育旅行について、学生自らが地域住民とともに企画することを通して、大学での学びを社会に還元することを目的とした。また、この活動を通して、将来、地方の活性化を担う人材育成を行うことを意図しており、本学の社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取組であるといえる。

- ・取組のために学生参画は不可欠であること

ジオパークカレッジは、ゆざわジオパークを活用した教育・学習活動の一環であり、「観光のグローバル化の可能性を考察することを目的として、県外の大学生の観光に関連する調査活動の支援事業及び交流事業」と位置付けられている。そのため、湯沢市の協力のもと観光資源を調査したうえで、行政、観光ボランティア、観光産業関係者から地域の課題と現状について学んだ。さらに、最終日のワークショップでは、教育旅行企画案を発表した。提案内容は地域側から、非常に参考になったという意見をいただいた。以上から、学生の参画なくしては成立しない地域活性化事業であることに加え、学生にとって大きな学びの場となった。

観光計画の提案は、地域関係者との交流、現地での視察、実習、対面での意見交換が欠かせない。ワークショップでは「現実的な企画も多く実現してほしい」という評価を得ている。東北地方は、安価な交通手段が限られており、交通費の負担からゼミ活動で選択しにくい地域ではあるが、それゆえに本補助金の支援を得られたことは、非常に大きな意味を持った。

- ・活動した地域、団体との実績内容

- ① 小安峡きらめき女子会（小安峡温泉の女将会）との意見交換会
- ② 湯沢市ジオカレッジにおけるワークショップ・発表会
- ③ 佐藤一夫市長を表敬訪問

以上から、本活動を通して、学生たちが地域貢献への理解を深めるとともに、該当地域の地域活性化について、さらなる貢献を志すようになった。また地域側においてもメディアに「東京の学生が湯沢市の観光資源の生かし方を考える」（AAB 秋田朝日放送2025.9.4放送）として、取り上げられるなど大きな注目を集めた。今後は、大学での学びの中で、これらの思いと関係性をいかし、大学での「知識」を社会に還元できるよう取り組んでいきたいと考えている。



東洋大学里山サポーターズ

代表教員：齋藤 邦明
経済学部

■活動内容

絶滅危惧種であるトキの餌場作り（環境保全、ビオトープづくり）と、トキを飼育している地域の文化（祭り）・産業（農業）の支援を、留学生を含む学生と共に協力して取り組むことで、多角的な視点から地域貢献や多文化共生の実現を目指す。

■活動の成果概要

2025年度、私たち東洋大学里山サポーターズは3回の社会貢献活動を行いました。

- ①2025年6月12～14日、新潟県佐渡市を訪問して、佐渡市新穂の天王祭の運営ボランティアを行いました。これは、2024年に同地域で活動を行った際、地域の方から、地域の祭りの担い手が減少しており、神輿担ぎや鬼太鼓の囃子などが維持できなくなっているため、祭りの運営を手伝ってほしいとの要望が出され、それに応じたものになります。私たちは毎年、トキの餌場作りで同地域を訪問しており、東洋大学のボランティア活動は地域には少しずつ浸透していたものの、そこで関わる人たちはトキを飼育する人びとに限定されていました。この祭り運営のボランティアでは新穂潟上集落の人たち全員と会ったことで、地域全域で東洋大学のボランティアを周知することが出来ました。またそのことにより、例年行っているトキの餌場作りボランティアにおいても、多くの人に認知してもらい、地域との関係性が深まりました。
- ②2025年8月31日～9月3日、新潟県佐渡市を訪問して、トキの餌場作り（環境保全、ビオトープづくり）のボランティア活動・農作業体験、新潟県佐渡市役所での活動報告（佐渡副市長と面会）、JA佐渡にて地域農業の現状とトキの保護について活動報告および意見交換を行いました。この経験を通じて、地元の方々からトキや自然環境保護の大切さ、地域の歴史、佐渡の産業（農業）の取り組みを学ぶことができました。また今回私たちは、東洋大学の学祖、井上円了の佐渡国巡講日誌を元に、その跡地を巡る体験を通じて、東洋大学と地域との関わりについても考察・実践しました。トキの餌場作りについては、人口減少に伴う地域の労働力が減少する中で、トキの餌場を確保することが困難となりつつあることを学びました。この点は、私たち東洋大学の学生が参画することは、私たちの社会経験のみならず、地域にとっても不可欠であるといえます。また、私たちの活動は、2023年の日中関係学会宮本賞（学生懸賞論文）で優秀賞を受賞しており、その活動は学術的にも評価を得ています。私たちは地域での活動実践と学術の社会還元の両面において、大きな成果を挙げています。この活動は今後も継続していくことで、「東洋大学と地域との関係」の優良かつ先進的な事例となることが期待できます。
- ③2026年1月17～18日、島根県出雲市のトキ分散飼育センターにて、出雲市役所職員から出雲市におけるトキの飼育環境保全や出雲市におけるトキ放鳥計画について地域の取り組みを聞き、私たちの佐渡市における活動報告を行った。また2027年に予定されている出雲市でのトキ放鳥に際して、東洋大学里山サポーターズが手伝えることはないかを確認し、同地域には島根大学医学部を除いて大学がないため、私たちが佐渡で行っているボランティア活動と同じような連携を今後、出雲市とも行っていくことを確認した。

市街地と郊外の有機的結合による全市観光プロジェクト

代表教員：佐野 浩祥
国際観光学部

■活動内容

観光まちづくりを学ぶ学生が丁寧に現地調査を重ね、地域課題をあぶり出し、観光による地域再生に向けたソリューションを提案する。市全域に賦存する地域資源を活用して中心市街地への関心を高め、来街者数を増加させることで、次世代の担い手育成、交流人口の拡大、観光消費額の拡大等を図る。

■活動の成果概要

本プロジェクトに先立って、どのような問題解決を目指して、活動を展開していくのか。この根本的な問いを深めるために、まず資料調査や現地調査を通じて、富士宮の観光に係る課題をリストアップし、構造化した。その上で、様々な課題が連鎖する構造の中で、その上流部に存在する3つの課題に着目し、その課題ごとにグループを設定した。なお、この3グループは、以下の通りである。

- ①ビジョン班（課題：将来のビジョンが見えにくい）
- ②コミュニケーション班（課題：市民や観光客とのコミュニケーション不足）
- ③客観的視点班（課題：客観的視点の欠如）

富士宮への現地調査は、3回にわたって実施された。富士宮市観光協会専務理事の赤池英明氏をはじめとする皆さまに多大なご協力をいただきながら、それぞれのテーマにしたがって調査を進めた。

2025年5月31日から6月1日にかけて実施された第一回現地調査は、観光協会の赤池英明様と渡辺実様に富士宮の観光をめぐる現況について広くお話をうかがい、学生からの質問にも真摯にご回答いただいた。その後、グループごとに富士宮市中心市街地をくまなく歩き、駅前のチリンに集合、第一印象について共有した。翌日もグループごとに市内を視察し、富士宮市の現況について肌感覚で理解することができた。

7月5日から6日にかけて実施された第二回現地調査では、渡辺実様を介して富士宮市地域政策推進室の皆様へ、富士宮市の観光・移住・シティプロモーションに関するお話をうかがうことができた。観光客をいわずらに増やすのではなく、あくまで市民が幸せになるための手段としての観光を推進するという方向性に学生一同強く共感した。11月8日から9日にかけて実施された第三回現地調査では、富士宮市北部を活動エリアとして、白糸の滝などの主要観光資源を視察するとともに、株式会社 KAMUY ホールディングスの植村代表のご案内のもと、上野地区の牧野酒造や旧富士正酒造などを視察させていただいた。

また、現地調査を補足するため、2025年10月21日（火）16時半より、富士宮市役所企画戦略課の佐野和也課長にオンラインインタビューをさせていただいた。2026年度から10年間の新たな総合計画の内容についてうかがい、富士宮市が目指す将来像について理解を深めることができた。

2月2日（月）に、昭和女子大、麗澤大とともに合同報告会を実施した。多くの市民に集まっていただき、無事に学生の提案を発表することができた。



福島県川内村の魅力を発信するプロジェクト

代表教員：牧野 冬生
国際学部

■活動内容

2025年4月より福島県川内村を継続的に訪問しました。大学生観光まちづくりコンテスト入選案の実現による川内村の魅力発信に向け、村長への企画説明、地域農業支援を実施しました。また、遠藤きのご園やかわうちワイナリー等へのインタビューや川内祭りへのコラボ参加を通じて、地域活性化に向けた活動を実施しました。

■活動の成果概要

本活動は、「大学生観光まちづくりコンテスト【福島復興ステージ】」入選案の実現を核としつつ、学生の視点を活かしながら地域資源の魅力を発掘し、川内村の地域活性化に貢献することを目的としています。本企画は、学生のコンテスト入選案を、学生が主体となって実際の地域社会の現場で実践する点に、大学の社会貢献活動としての高い意義があります。また、地域の課題解決に繋がる若いアイデアの活用のために学生参画は不可欠といえます。今回、交通費等の経費支援を受けたことにより、遠隔地である福島県双葉郡川内村への複数回の訪問(2025年4月、8月、11月)が可能になりました。これにより、川内村村長への企画説明、農作業の手伝い、生産者へのインタビュー調査、コラボ企画の議論といった実践的な活動が実現しました。この現地での実体験が、学生の地域課題の解決能力を育成し、将来の社会貢献活動への意欲を醸成しました。遠藤きのご園では、震災からの復興や風評被害対策に加え、地方の少子高齢化に対応するためのベトナム人研修生の受け入れといった、複合的な課題を学びました。かわうちワイナリーでは、設立の経緯や村人との協働、美味しいワインを作るための農業生産（防鳥ネット取り付け作業）を体験し、新しい産業を立ち上げる苦労と情熱を肌で感じました。入選案の具現化としては、遠藤きのご園からは学食コラボ企画に向けて規格外の「ひたむき椎茸」を無料で提供いただき、また11月の「かわうち祭り一秋の陣」に向けては、かわうちワイナリーと連携しオリジナル・カクテル試作を重ねました。また、現地でのインタビュー調査の内容を、地域へのフィードバックとして冊子にまとめて発表する計画を立てています。こうした活動を通して築いた関係を基にして、川内村のまちづくり団体である「一般社団法人かわうちラボ」との間で、継続的連携のための覚書の締結を進めています。これにより単発ではなく継続的な地域連携へと活動を発展させています。



未就園児と保護者向けの遊びを通じた日本語クラス運営

代表教員：南野 奈津子
福祉社会デザイン学部

■活動内容

外国人親子向けの、遊びを通じた日本語を学ぶイベントを12月から1月にかけて3回実施した。学生と連携団体が複数回のミーティングにより企画、準備と運営を行い、毎回10組前後の外国人家族が参加した。参加者アンケートでも「ぜひ今後も行きたい」「子どもが日本語を家でも使っている」等高評価であった。

■活動の成果概要

今回、担当教員のゼミの3年生9名が参加し、外国にルーツをもつ子ども家庭の実情に関する事前学習を経て、認定NPO法人MotherTreeJapan（以下MTJ）と打ち合わせを行い、学生が中心となり、企画、物品購入や当日の進行などを協働しながら行った。MTJは、優れた社会貢献活動に送られる賞を多く受賞しているNPO法人で、2024年度より担当教員との間で協働実績があり、その際には個別に学生も参画していた流れがある。今回の学生主体での運営・実践にあたり、外国人保護者への配慮の方法、活動内容の設定、文化への配慮において、MTJの方々からは実践経験を基に様々なサポートやアドバイスをいただいた。そのことは、保育・幼児教育を学ぶ学生にとって貴重な学びの機会となるとともに、実践を通じて大学の教育理念【他者のために自己を磨く】【活動の中で奮闘する】を習得する機会となった。

計3回のイベントでは、中国、ミャンマー、モンゴル、米国、台湾、ベトナムの家族が参加した。子ども保護者共に「とても楽しかった」「本当にありがとうございます」「また来たいです」「子どもが家で学んだ言葉を言っています」など、参加者からも高い評価を得たことで、学生も意欲的に取り組む姿がみられた。当日は、他の自治体の保育園の園長や子育て支援NPO活動関係者の見学希望もあり、社会的にも注目・評価される実践であることが確認できた。各回では通訳を手配したことで、自治体の担当者からも高い評価をいただいた。学生にとっても学びの多い経験であったことが毎回の振り返りでも話されており、今後もMotherTreeJapanのイベントに学生が自主参加する予定があるなど、継続的に協働することとなっている。

外国人の乳幼児養育家庭は地域で孤立しがちであり、また特に乳幼児期で使い始める日本語を楽しく理解することは、その後の学びへの重要な一歩となる。今回の実践は、子ども支援学科が重点を置く多文化共生に対応した保育・児童福祉専門職の養成にも合致するほか、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念にも沿うものであり、地域、協働団体、学生、大学にとって有意義な活動となった。



滞日外国人との協働を通じた多文化共生と復興の支援

代表教員：朴 苑善
社会学部

■活動内容

宮城県気仙沼市において、地元住民と滞日外国人住民との相互理解にもとづく多文化共生社会の実現を目的として、支援活動を行なった。2024年6月から10月にかけて計3回気仙沼市を訪れ、地元住民と協働のもと、国際交流イベントを開催した。

■活動の成果概要

水産業を主要産業とする宮城県気仙沼市では、1980年代頃からインドネシア人船乗りを雇用してきたことから、1990年代の技能実習生制度開始以降、主に水産加工業の現場で多くのインドネシア人技能実習生を受け入れてきた。東日本大震災後の労働力不足に際して、その数は増加傾向にある。このことから、本活動は、気仙沼市の滞日外国人のなかでも特にインドネシア人技能実習生に焦点を当て、かれらと地元住民との相互理解を促すことで、多文化共生を介した東北復興の実現を目指した。このような本活動は、持続可能なグローバル化を念頭においた独自の社会貢献のモデルを提供するものである。

学生15名は、2025年7月から10月にかけて宮城県気仙沼市を三度訪れた。7月4日から6日の第1班は、技能実習生を受け入れている水産加工会社に関き取りを行うとともに、インドネシア人技能実習生やフィリピン人居住者と交流をもつことで、気仙沼市の主要産業である水産業を支える滞日外国人の労働状況と生活における課題の把握に努めた。8月1日から3日の第2班は、一般社団法人気仙沼インドネシア友好協会、気仙沼市商工会議所青年部との協働のもと、気仙沼みなとまつりでインドネシアパレードを開催した。学生たちは運営に携わるとともに、インドネシア人実習生への積極的な声かけを行い、地元住民と滞日外国人との交流を支援した。10月3日から5日の第3班は、上記友好協会と協働して茶会を開催した。本イベントは、インドネシアのお茶を通して、ゼミの学生たち、地域住民、そしてインドネシア人実習生たちが交流することを目的に企画した。

現地調査の結果を踏まえ、1月中旬に調査に関する成果発表報告会を学内およびオンラインで開催することで、気仙沼インドネシア友好協会のほか、気仙沼市役所まちづくり課（国際交流担当）等に活動報告をおこなうとともに感謝の意を伝える予定である。

本活動における交通費・宿泊費等は自己負担であり、学生の経済的負担は大きなものがあった。今回、交通費・宿泊費を支援していただいたことで学生の経費負担分も大きく軽減され、学生は活動によりいっそう積極的に参加し、多くの学びを得ることができた。



東日本大震災を契機としたバドミントン教室の再開

代表教員：金子 元彦
健康スポーツ科学部

■活動内容

福島県相馬市を拠点とする総合型地域スポーツクラブ・NP0 そうま中央スポーツクラブ バドミントン部門と連携した活動である。連携活動の契機は東日本大震災であり、スポーツ、学生、および現地の方々が連携することによって復興に向け2014年2月に第1回目を開催した。今回、通算9回目の開催に至った。

■活動の成果概要

福島県相馬市を拠点とする総合型地域スポーツクラブ・NP0 そうま中央スポーツクラブ バドミントン部門と連携した活動である。連携活動の契機は東日本大震災であり、スポーツ、学生、および現地の方々とが連携することによって復興に向けて、小さくとも助力になれないだろうかとの2014年2月に第1回目を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響による中断があったが、今回、通算9回目の開催に至った。継続的に取り組んでいくことができたことによって、地域の飲食店や宿泊先、連携クラブの方々との関係性が変容してきたことを感じる場面も多く、いわゆる年中行事として地域や連携クラブの中に定着してきたことを感じることも少なくない。当活動は、東京に拠点を置く本学が地方のまちや人と関わっていくことによって、結果的に生成される社会的な貢献がいかなるものであるかについて、実践的な示唆を開示していく可能性があるものと考えている。

このように継続的な開催をしていくことができたことそのものに本学学生の貢献は多大であり、彼ら・彼女らの参画が不可欠である。学生の持つ活力に期待をしている連携先スタッフも多いこと、大学生と一緒にスポーツができてたり遊んだりできることに期待をして参加している小中学生も多いこと、小中学生時代に東京の大学生と接するという経験が大学進学を考える時期の助けにもなるのではないかと期待している保護者もいること等々に出会うことの連続で、学生の参画が有形無形に当教室の充実をもたらしているといつてよい。

複数回参加した学生や4年生で参加した学生は、当日の教室そのものの充実に尽力しながらも、卒業後（≡就職先にて）の地域社会とのかかわり方を考える契機になったり、卒業後に当教室に参加して学生時代とは異なる貢献を構想したりと、卒業後にも思いを巡らせるような経験の場になっていることも痛感する。こうした彼ら・彼女らの経験が、直接的に東洋大学での社会貢献として数えられるようなものにはならないかもしれないが、別のところで別の形で社会に貢献したり還元したりしていこうとするときのアイデアや構想の源になっていくことを、彼ら・彼女らの様子に触れる中で確信するところである。

連携先がNP0法人であり、当該年度の事業については年次総会での審議を経る必要等があることもあり、現時点で覚書の締結等には至っていないが、今回の教室終了後には次年度も同様に開催したい旨が伝えられていることを添えておきたい。



地域の文化継承とまちづくりを考える

代表教員：堀本 麻由子
文学部

■活動内容

公民館と地域が連携して文化継承や史跡保存を通してまちづくりの過程を体験的に学ぶことで、地域づくりにおける課題を学び、将来的に職業や生活の中で関わることの意義を見出すことを目的とした。学生（若者）の視点から地域の人々と若者（大学生）の課題解決型共同学習を通して地域の発展に寄与する。

■活動の成果概要

長野県下諏訪郡下諏訪町には「みらい塾」という公民館で行っている住民主体に動いている事業があり、昨年度「みらい塾」のメンバーと学生が共に活動の評価をすることで、地域の実際の課題に取り組んだ。今年度は、昨年度の活動をさらに発展させ、学生たちが単なる参加ではなく、住民主体の問題解決に具体的に関わる参画を意図した取り組みを行った。たとえば、公民館主催の夏祭りの支援（高齢者の方々の参加を補助したり、広報車に乗って、夏祭りの宣伝を行った）としてそこでの課題や意義について住民の方々との協働を通して検討することができた。また本屋プロジェクトでは、いったん消えてしまったまちの本屋を再興したプロジェクトをどのように定着させるかをテーマとしたワークショップを通し、住民の目線で考えることに取り組み、大学生にとって得難い経験となった。さらに、20代の移住者である女性の町会議員の方とまちの政治に参加することの意義と課題を議論したことは、地方の過疎問題と移住者の共生によるまちづくりと地方政治におけるジェンダー問題の現実を理解する機会となった。

堀本ゼミの学生は学校教員志望、公務員（社会教育主事、学芸員）を志望するものが多く、学校（教育機関）と地域連携やまちづくりは重要な課題である。最後に、今回初めて参加した学生の感想を記したい。「今回の合宿で訪れるまでは下諏訪がどんな地域で、まちづくりにおいてどんな工夫がなされているのかほとんど知識がありませんでした。そんな中で特に印象的だったのは、歴史的建造物が多く残る地域において、民間と行政がそれぞれの強みを活かしてバランスを取りながら伝統を維持、さらに発展させていくという取り組みが行われているという点です。移住支援プログラムにおいても既存の住民の生活とどのように融合していくかという点まで考えられているということをお聞きし、無条件に新しいものを取り入れるのではなく地域住民の声を聞き連携し、調和を重視したまちづくりが行われているからこそ下諏訪全体で温かく一体感のある雰囲気があるのだろうと考えました。」今回の活動経験は今後のゼミでの探究活動を深める学習機会となった。



代表教員：箕輪 允智
法学部

■活動内容

兵庫県養父市の課題を、インタビュー調査と共起ネットワーク分析で市民の問題意識が見える化。体験交流型のふるさと納税を活用し、市民・地域・公共の協働による既存事業強化と新規事業導入の二層構造で外部資金・人材流入と住民参画を促進。市民の自信の創出を通じて「未来を紡ぐ」持続可能な地域づくりを提案した。

■活動の成果概要

本ゼミの活動は、人口減少や地域経済の課題を抱える養父市をフィールドとし、現地調査・データ分析・政策提案を通じて地域の持続可能な発展に資する方策を検討したものであり、本学の社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取組である。現地の統計データや行政資料の収集・分析のみならず、地域住民・行政担当者・関係団体等へのヒアリングを重ね、地域側のニーズと制約条件を踏まえた具体的な提案を行っている点で、単なる机上の研究にとどまらない「提案プロジェクトベース型」の社会貢献と位置付けられる。また、既存の市の政策ビジョンや個別施策との整合性をとりつつも、ローカスポーツイベントの活用等を通じて地域の魅力向上と関係人口拡大を目指す提案を行い、本学の地域連携機能の高度化にも資する取組となっている。

この社会貢献活動を実効性あるものとするためには、学生が調査・分析・企画立案・成果発表の各段階に主体的に参画することが不可欠である。本ゼミでは、文献・統計分析、テキストマイニング、インタビュー調査、プレゼンテーション資料の作成に至るまで、各プロセスを学生グループが分担し、教員は全体設計と質保証を担う体制とした。これにより、学生は地域課題を自らの問題として捉え、エビデンスに基づく政策提案のプロセスを実地に学ぶと同時に、地域社会との対話を通じて公共性や当事者意識を涵養することができた。

参画学生に対する交通費等の支出は、こうした学修・社会貢献を成立させる前提条件となっている。養父市は本学から距離があり、現地訪問を複数回実施するには一定の移動コストが発生するが、交通費補助により、経済状況にかかわらず意欲ある学生が参加できた。さらに、宿泊を伴う現地調査により関係者との意見交換会を夕方以降まで設定できたことで、行政職員・地域団体との信頼関係が深化し、より具体的な政策提案に繋げることができた。

昨年度も同種の活動をおこなっているが、本年度は選考委員からのコメントを踏まえ、①先行研究や行政計画の整理を一層丁寧に行い、提案の根拠となる理論的・実証的裏付けを明確化した点、②テキストマイニング等の分析手法を導入し、住民意識や地域イメージを定量的に把握した点、③費用対効果や実現可能性に関する検討をより具体化した点が改善として挙げられる。

活動した地域・団体との実績としては、養父市役所企画部局との継続的な意見交換に加え、学生からの提案に対して市職員・地域団体と対話する双方向の場を設けたことにある。また、本発表は公共政策フォーラム本選において予選を通過して決勝に進出し、通例的には全体2位相当とされる市長賞を受賞しており、地域側からも一定の評価を得た取組であるといえる。以上より、本活動は、学生の教育的成長と地域社会への具体的貢献を高い水準で両立させる、本学にとって意義深い社会貢献型ゼミ活動である。

2025年度 能登半島 想像／創造的復興支援事業 募集要項〈改定版〉

東洋大学社会貢献センターでは、東洋大学（以下「本学」という。）で実施する能登半島における新規（※）の社会貢献活動に関する支援策として、本学教員が学生と共同して進める「能登半島の想像／創造的復興支援活動」に対して、必要経費の補助を行います。

※ 新規活動のため、支援期間は今後３年間を目途とし、終了後は従来の地域活性化支援事業内の支援条件と同様になりますのでご留意願います。

なお、各感染症に関するガイドラインにより、活動が中止になる場合があります。本学の行動指針等に基づき本事業を実施いたしますので、あらかじめご了承くださいうえで、申込をお願いいたします。

1. 事業の目的

本事業は、地震や豪雨により甚大な被害を受けた能登半島を対象地域とし、地域社会との協働のもと、創造的視点による復興を目指すことを目的とし、地域の具体的なニーズに即した支援を展開していきます。地震・豪雨に起因する多様な分野にわたる課題に対しては、分野横断的なアプローチを通じてその解決を図ることを目指します。

本学の複数分野にわたる教員および学生が現地に参画することで、地域との関係性を深め、復興の過程を地域と共に担い、被災地の未来を共に“想像”し、その実現に向けた“創造”的な活動を推進していきます。

2. 応募資格

- (1) 本学専任教員であること。
- (2) 複数人が共同で申請する場合には、代表教員１名を選定すること。
なお、申請は、代表教員１名につき１活動までとする。
- (3) 社会貢献センター事務室が実施する「地域活性化支援事業」に重複申請していないこと。

3. 応募、活動期間・応募方法

- (1) 応募、活動期間：

	応募期間	活動期間	経費精算
第１期	2025年４月上旬～５月11日(日)	2025年７月中旬～２月中旬	2月下旬までに完了
第２期	2025年５月28日(水)～６月30日(月)		
第３期	2025年10月上旬～11月上旬	2025年７月中旬～２月中旬	

※予算範囲内での募集となりますので、上限に達した段階で終了となります。

また、応募開始日時については、slack 等でお知らせいたします。

(2) 応募方法：社会貢献センター事務室へ所定書類を電子データにて提出してください。

(3) 提出先：mlvolsup@toyo.jp

【提出書類（データ）】

① 2025年度東洋大学能登半島想像／創造的復興支援事業 申請書〈除く経費積算〉…様式 A

② 2025年度東洋大学能登半島想像／創造的復興支援事業 申請書〈経費積算〉……様式 B

③ 見積書など費用が確認できる資料（見積書の PDF データなど）

※①～③の必要書類が揃わない場合は、申請を受け付けられません。

※公平性を保つため、申請者名は匿名にて採点しますので、申請者名欄以外に教員名前を記載しないようにしてください。記載があった場合は、事務局にて名前を削除した名称や内容にて、学内手続きを取り扱います。

（例：活動名「井上ゼミの X 市活性化」⇒「ゼミの X 市活性化」に修正し、取り扱う）

4. 選考方法及び選考結果

(1) 社会貢献センター運営委員が、選考要領に基づき、選考します。

(2) 選考結果は、代表教員の学内メール（@toyo.jp）に通知します。

なお、予算内示前の場合は、暫定額として通知することがあります。

5. 支援金の交付

(1) 活動報告書等の確認後、立替払いをした代表教員の給与口座に支援金を本学指定日に振り込みます。

原則として、代表教員による立替払いとします。

(2) 長期間の活動は、活動報告を春期と秋期の2回に分けることで、分割交付することができます。

(3) 交付日は、本学指定日とします。

6. 対象となる活動

次の項目の全てを満たす活動を対象とします。

(1) 本学専任教員が指導する活動の一環で、かつ、能登半島における想像／創造的復興支援を目的とする活動であること。ただし、各キャンパス内での活動については、能登地域の住民及び支援関係者をキャンパス内に招いて施設を利用した活動のみ対象とし、それ以外の活動は除外します。

(2) 本学における社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取組であること。

(3) この社会貢献活動の成果として、活動する地域、団体との実績内容を明示すること。

（例：現地での活動に伴うワークショップ、報告会、継続的に連携をするための覚書取り交わし等）

(4) 教員とともに、学生が参画する活動であること。

(5) 一つの事業計画で、かつ、継続申請する場合には、最大3年間までの活動を優先的に選考します。

4年以上継続した活動の申請も可能ですが、「予算残額」、「新規活動の促進」、本事業の目的である「被災地の未来を創造し、創造的視点による復興活動を支援すること」などを踏まえて、選考します。

- ※ なお、上記のうち、協定書（覚書含む。）に基づく事業計画で、かつ、継続申請する場合には、申請年度の上限については、別途弾力的に取り扱うものとする。

7. 応募コース

	能登半島想像／創造的復興支援コース
概要	・2024年1月1日に発災した能登半島地震の影響を受けた地域の想像／創造的復興支援活動を対象 ・学生の参加見込み人数は、原則として3人以上であること。
支援金額	1件当たり補助対象となる総活動経費の最大50万円を上限とする。
対象経費	経済的かつ合理的な交通経路を選択したうえで、特急・新幹線、空路及び貸切りバス等を利用した際の交通費及び宿泊費（※1）
採択件数等	6件程度。ただし、当該年度の予算額の範囲内とする。

※1. 2025年度は、各種感染症に関するガイドライン及び本学の行動指針に基づき、急きょ企画中止をお願いする場合、キャンセル料（交通費、宿泊費）は、支援額の範囲内で補填します。なお、オンライン企画に変更する場合は、社会貢献センター事務局にお申し出ください。関係事務局で検討します。

8. 注意事項等

【申請と活動に関して】

- (1) 申請時と別の目的での支援金使用は、認めません。万一、虚偽の申請が発覚した場合は、選考対象から除外します。支援金振込後に、虚偽の申告又は報告が発覚した場合は、支援金の一部又は全額を返還していただきます。
- (2) 申請した活動に対し、学内や学外の他機関から補助が出ている（予定を含む。）場合は、部分的であっても必ず申請書に記載してください。
- (3) 活動経費は、原則として代表教員の立替払いとし、活動終了後（報告書提出後）に採択金額を上限とした実際の補助対象となる総活動経費〔補助対象となる経費項目で、かつ、領収書（東洋大学宛）に基づくものに限ります。〕が振り込まれます。
- (4) 支援対象の交通費は、学生の場合は20,000円（往復で、かつ空路を算出基準とする場合）を上限、教員は大学の基準とし、合理的な公共交通機関を使用してください。なお、現地での移動については、状況を鑑みレンタカー代（1日16,000円程度）の使用を認めます。
- (5) 教員が出張する場合は、担当教員が所属学部へ出張申請を行い、出張の許可を受けてください。
- (6) 本学学生に交通費等の経費を支出する場合は、そのことにより社会貢献活動上、期待できる具体的な効果を申請書に記載してください。
- (7) 宿泊費は、学生の場合は1泊6,000円～8,000円を目安とし、経済的で合理的な宿泊先

にしてください。ただし、支障がある場合は、事前にご相談ください。

- (8) 活動中の飲食に関する支援は、対象外です。ただし、朝食付きプランしかない場合は、支援対象とします。
- (9) 印刷物や発表資料を製作する場合や、取材を受けた場合は、『この活動は、「東洋大学 能登半島 想像／創造的復興支援事業」の支援金を受けて実施しています。』などの表示や告知にて、可能な限り、本事業の広報にご協力をお願いいたします。
- (10) 活動終了後、個人の所有物となる物品等（PC 等）の購入は、対象外です。なお、社会貢献センター事務室など学内で貸出できる備品がありますので、事前にご確認ください。
- (11) やむを得ず学生に支払いを指示する場合は、事前に、本学の「新会計システム取扱運用要領」の内容に準じた領収書等の証憑書類が準備できることを確認してから、指示してください。
- (12) やむを得ず申請した活動内容を変更する場合は、必ず事前に申し出てください。

【活動終了後について】

- (1) 活動終了後 1 カ月以内に、次の書類を必ず提出してください。2 月末日までに証憑書類等が揃わない場合は、当該経費を補助対象より除外しますので、早めに書類を提出してください。
 - ① 活動報告書（収支報告を含む。）
 - ② 参加者名簿
 - ③ 当該年度の活動と参加者全員が確認でき、本学ホームページ等に掲載可能な写真データ
※写真データは、ホームページ掲載に関して、提出前に関係者の同意を得てください。
 - ④ 交通費、宿泊費等経費に関わる証憑書類（領収書等）
※宿泊費の領収書に食事代が含まれないよう、ご注意ください。
- (2) 本学の「新会計システム取扱運用要領」の内容に準じた会計処理を行いますので、同要領に準じた証憑書類をご提出ください。特に、学生に物品等の購入を指示する際は、学生に領収書に関するご指導をお願いいたします。（例：宛名は「東洋大学」。「個人名のみ」や「上様」は不可。但書の空欄や「品代」は不可。）「新会計システム取扱運用要領」は、slack のファイル管理ご参照ください。
- (3) やむを得ず、学生に支払いを指示した場合は、代表教員にて領収書等の証憑書類が「新会計システム取扱運用要領」に準じていることを確認してください。確認できた場合は、当該学生に領収書等の全額又は一部を支払い、受領印等で支払いを証明してください。学生の受領証明と領収書の双方が揃った場合に限り、代表教員が学生に支払った金額を活動経費として取り扱います。両方が揃わない場合や領収書等の証憑書類が同要領に準じていない場合は、対象外とします。

- (4) 本支援金は代表教員の口座へ振込するため、代表教員は、参加学生に対して、支援金額と使途を明示し、支援金が適正に処理していることを、十分に説明してください。
- (5) 本支援金のほかに、学内や学外の他機関から補助金等を受けた場合は、当該金額分は活動経費より除外します。
- (6) 「本学会計処理上、支出が望ましくない」と判断した証憑書類は、補助対象の活動費として認めません。
- (7) 報告書にて補助対象となる総活動経費が採択金額に満たなかった場合、その経費を最終的な支援金額とします。
- (8) 報告会にて、活動の成果を発表していただきます。

9. その他

この要項に定めのない事項については、社会貢献センター運営委員会にて決定します。

【参考】2025年度 能登半島 想像／創造的復興支援事業スケジュール（改定）

区分	期間等	内容
募集	第1期：2025年4月上旬～5月11日(日) 第2期：2025年5月下旬～6月下旬 第3期：2025年10月上旬～11月上旬	申請データ一式を社会貢献センター事務室に提出。
選考	第1期：2025年5月下旬 第2期：2025年7月上旬 第3期：2025年11月中旬	社会貢献センター運営委員会にて選考。
結果通知	第1期：2025年6月上旬 第2期：2025年7月中旬 第3期：2025年11月下旬	選考結果の通知。
活動	2025年7月～2026年2月中旬まで	活動実施 ＊会計システム取扱運用要領の内容に準じた証憑書類が提出できるよう、事前に確認してください。 特に、学生には、領収書等に関するご指導をお願いいたします。
報告	2月末日〆切（厳守） 活動終了後1カ月以内に、速やかに。	報告書（含む収支）を社会貢献センター事務室に提出。期日までに書類が揃わない場合は、補助対象から除外となります。 ＊長期活動は、年度途中で中間報告することで、中間報告に対する支援金額をお支払いします。（上限：採択金額）
報告会（予定）	2026年3月頃	支援金交付を受けた全団体が集合し、活動成果を発表。 場所は、白山キャンパスを予定。
支援金交付	2026年3月末まで	収支を確認後、採択金額に合わせ支援金を代表教員の口座へ振込。 ＊収支に不備等があった際は、支援金を減額する場合があります。

2025年度 能登半島 想像／創造的復興支援事業 採択団体一覧

No.	代表教員名	学部	活動名	主な市区町村名	採択額	支払額 (結果)
1	松丸 亮	国際学部	未利用地域資源と既存地域資源のマッチング	石川県珠洲市・ 輪島市など	¥500,000	¥500,000
2	八木 裕子	福祉社会デザイン学部	震災を経験した地域で学ぶ認知症ケアと復興支援活動	石川県輪島市	¥500,000	¥500,000
3	富安 亮輔	福祉社会デザイン学部	恋路プロジェクト	石川県能登町	¥500,000	¥443,740
					合計	¥1,443,740

未利用地域資源と既存地域資源のマッチング

代表教員：松丸 亮
国際学部

■活動内容

本活動では、2024年の能登半島地震および同年9月の豪雨によって大きな被害を受けた奥能登地域を対象に、地域資源の調査および復興に向けた活用可能性の検討を目的として活動を実施した。活動は、事前調査、現地調査、分析・考察の流れで進めた。

まず事前調査として、インターネット等を用いて能登半島地震や豪雨の被害状況、復興ボランティアの動向、地域資源（伝統文化、伝統産品、観光資源など）、既存のブランド資源や観光ルート等について情報収集を行った。また、地域資源を組み合わせた新たな価値創出の可能性についても検討した。

次に第1回現地調査（9月8日～12日）では、災害ボランティア活動として被災家屋の修復作業に参加するとともに、地域の文化・観光資源に関する視察および聞き取り調査を実施した。具体的には、蛸島キリコ祭りの視察、珠洲ホースパーク、珠洲市役所での聞き取り調査、見附島や白米千枚田などの観光資源の視察、さらに輪島塗や和ろうそくの体験調査などを行い、地域文化や観光資源の現状を把握した。

さらに第2回現地調査（1月9日～12日）では、食文化をテーマとした調査を実施した。日本酒やワインなどの酒類関連事業者を中心に、酒蔵やワイナリー、クラフトビール施設等を訪問し、試飲や施設見学、事業者への聞き取りを通して、地域産業としての食文化の現状や課題について調査した。

これらの調査結果をもとに、地域資源の活用可能性や復興に資する取り組みについて分析・検討を行った。

■活動の成果概要

現地調査および分析を通じて、能登地域には伝統文化、景観、食文化など多様な地域資源が存在し、それらを組み合わせることで新たな魅力を創出できる可能性があることが明らかとなった。特に、地域住民のつながりや伝統文化の継承といった要素は、復興に向けた重要な基盤となっていることが確認できた。

一方で、交通手段や宿泊施設の不足、観光拠点の営業状況の不安定さなど、観光客誘致における課題も多く存在することが分かった。また、酒類や食文化などは地域内では広く流通しているものの、全国的な発信は十分とは言えない状況であることも確認された。

これらの調査結果を踏まえ、能登の魅力を高めるためには「風景」「伝統工芸（体験）」「食（食べ物・飲み物）」といった地域資源を組み合わせることで、交通や宿泊の不便さを補う価値を創出できる可能性があると考えられた。また、若者を中心とした認知拡大を図るため、SNS（特にTikTokなどのショート動画）を活用した情報発信の可能性についても検討を行った。

本活動を通じて、現地調査によって初めて認識できる地域資源や復興に向けた取り組みを数多く把握することができ、能登地域の魅力を全国へ発信していく必要性和今後の課題を整理することができた。



震災を経験した地域で学ぶ認知症ケアと復興支援活動

代表教員：八木 裕子
福祉社会デザイン学部

■活動内容

2025年11月、学生3名を引率して輪島市で災害支援活動を行いました。能登半島地震と豪雨で被災した認知症グループホームとデイサービスで利用者支援に取り組み、最終日は輪島市の地域踏査と社会福祉法人佛子園が運営している仮設住宅の集会室（コミセン BASE）の見学を行いました。

■活動の成果概要

本活動は、能登半島地震および豪雨によって大きな被害を受けた地域において、学生が現地で支援に取り組むことで、能登半島地域のさらなる発展に寄与することを目的として実施しました。認知症グループホームやデイサービスにおける利用者支援、地域踏査、仮設住宅コミセンの見学を通じ、学生が被災地の現状を直接把握し、復興に向けた地域の歩みを深く理解する機会となりました。また、地域の方々からは活動継続への期待が寄せられ、大学の取り組みが地域社会から信頼されていることを実感する成果も得られました。

さらに今回、コミセンを運営する社会福祉法人佛子園より、コミセンでの社会福祉士のソーシャルワーク実習の受け入れについて打診をいただきました。佛子園は輪島カブーレ（障害者、高齢者など多様な住民が共に過ごす「ごちゃまぜ」の運営を行う拠点）をはじめ、被災後の地域福祉を支える多様な施設を展開しており、学生はその運営の工夫と課題を現地で学ぶことができました。復興途上の輪島で、福祉施設がどのように地域を支え続けているのかを知ることは、学生にとって大きな学びであり、社会福祉士を志す者にとっても実践的な視点が得られる貴重な経験となりました。

このような現場での学びには、学生の参画が不可欠です。学生は柔軟な発想力と行動力を活かし、利用者との関わりや地域住民との交流を通じて温かな雰囲気を生み出し、地域に活気をもたらしました。また、復興途上の地域で直面する課題を自らの目で確かめることで、社会課題に主体的に向き合う姿勢が育まれました。こうした経験は、大学の教育理念である実践的学びを体現するものであり、学生の成長に大きく寄与しています。

さらに、学生の交通費等の経費支援は、活動の質と継続性を高めるうえで重要な役割を果たしました。遠方の被災地での活動は経済的負担が大きく、自己負担のみでは参加できる学生が限られてしまいます。経費支援によって多様な背景や専門性を持つ学生が参加可能となり、①支援体制の強化、②活動内容の充実、③災害支援・福祉分野の人材育成といった具体的な効果が生まれました。経費支援は学生が安心して活動に参加し、責任を持って取り組める環境づくりの基盤となっています。

以上のように、本活動は能登半島地域の復興と発展に寄与すると同時に、学生の教育的成長にも大きく貢献しました。佛子園からの実習打診や地域からの期待は、活動が一時的な支援にとどまらず、今後の継続的な連携へと広がる可能性を示しています。学生参画と経費支援を両輪として、大学として持続的に社会貢献活動を推進していく意義は大きいといえます。



恋路プロジェクト

代表教員：富安 亮輔
福祉社会デザイン学部

■活動内容

主な活動対象地は、能登町恋路地区である。本プロジェクトは、公的支援ではカバーできないちょっとした地域の困りごとをサポートしつつ、長期的には地域の居場所づくりと関係人口を増やす取り組みである。具体的な困りごとは、巨大水たまり撤去、雪かき、石垣修繕、海岸ゴミ拾い、空き家清掃などであった。

■活動の成果概要

本プロジェクトは、公的支援が届かない在宅で暮らす高齢者のちょっとした困りごとをサポート（A）しつつ、長期的には地域の居場所づくり（B）と関係人口を増やす（C）取り組みである。現地訪問は3回、学内 MTG は10回行った。つまり、能登に行って終わりではなく、事前の準備と振り返りを丁寧に行った。

私たちの活動対象地は主に能登町であった。ステークホルダーである恋路アルバカレー店主の三船氏と任意団体「ほしのわっかのむこうに」の平野氏らが結成した地元若者ネットワーク「アルバ団」と連携し、その活動の一つである地域の高齢者の困りごと（A）に応えていった。具体的には、住宅裏にできて悪臭を放つ巨大な水たまりの撤去@能登町恋路地区、高齢夫婦が管理する親類宅の雪かき@能登町松波地区、海岸のゴミ拾い@能登町恋路地区、震災で崩れかかった石垣の調整@能登町小木地区を行った。能登半島地域のさらなる発展というよりも、些細だけど地域の人だけでは解決できない生活課題を解決した。能登半島地域にはそもそも20歳前後の世代が極端に少ないため、活動の人手というだけでなく、地域の人から話を聞く若者がそこに居るということ自体がかけがえのないことであり、学生参画は不可欠であった。

地域の高齢者との会話や地元若者ネットワーク「アルバ団」との共同作業から、関係人口を増やす（c）ことは始まったといえる。一方で、もうひとつの活動の目標である地域の居場所づくり（B）については学生自身がフィールドワークを通し地域資源を理解している段階であり、来年度の成果を期待している。その端緒として、地域の居場所の候補である空き家の調査（しつつ、清掃も）を行った。恋路地区内にあるこの空き家は、築30年ほどだが10年くらい住まい手がいなかった。状態が良く、恋路アルバカレーの店舗と隣接するため、三船氏が最近所有権を得たものだ。学生はDIY などを通し、この住宅と場所の可能性を探った。

以上、約4ヶ月の活動はメンバーが丁寧に記録し活動レポートを作成した。このレポートを製本し、三船氏と平野氏に提出する。2026年度は具体的な居場所の提案を行い、プレゼンテーションシートと模型という成果物を作成する予定である。



社会貢献活動助成・表彰制度

■東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び社会貢献活動に対する表彰

1. 背景と現状 2019年度より、社会貢献部門の新たな取り組みとして、学生の社会貢献活動に対する助成制度および表彰制度を設立した。

本制度は、2018年度まで学生支援課で実施されていた表彰制度を一部継承し、社会貢献センター内にボランティア支援室が設置されたことを契機に創設されたものである。

2020年度以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学生の課外活動は約2年間にわたり制限を受けた。2023年度に感染症法上の分類が5類へ移行し制限は撤廃されたものの、活動先との関係断絶などにより、課外活動全体の再活性化には時間を要した。

2024年度に入り、コロナ禍以前のような自由な活動が可能となり、多くの学生が活動に取り組み始めている。しかし、組織的な活動経験が浅いため、継続的な活動へと発展させることが難しい状況にある。

社会貢献センター設立から7年目となる2025年度においては、8つの学生団体が助成金に採択され、学内外で活動を展開した。また、能登半島地震をはじめとする災害救援活動への要請も引き続き多く寄せられている。

2025年度には新たな学生団体「青いビブス」が発足し、大学の支援を受けつつ学生主体での被災地支援活動を開始した。

2. 課題と今後の展望 これまで助成対象団体は遠隔地での活動が多く、センターとして主に「交通費」や「宿泊費」の一部補助を行ってきた。しかし、今年度の採択団体には近距離での活動を中心とするものもあり、助成金の使途が「消耗品購入」に集中するなど、特定の項目に支出が偏る傾向が見られたため、大学支出の適切性に鑑み、今後は支援方法の見直しが必要であると判断した。

2026年度に向けた目標として、活動場所や内容に応じて複数の助成コースを設定するなど、より適切かつ柔軟な支援が行えるよう制度改定を予定している。

これらの多様な社会貢献活動がさらに広がりと深まりを持つよう、引き続き積極的な支援体制の構築を目指す。

I 学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成事業の目的

本事業は、東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援するものである。

Ⅱ 学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

1. 助成対象となるプロジェクト活動

社会貢献センター運営委員会が設定する社会貢献活動等に参加する学生への支援及び直接的な実施経費に充当するため、主として国内で行われる学生による社会貢献プロジェクト（ボランティア活動を含む。）で、次の2区分による活動を対象とする。

また、本学の学生（大学院生を含む。以下同じ）が活動する団体で、1団体あたり本学学生が最低3名以上在籍しており、かつ、メンバーの大半が本学学生であること。ただし、ゼミ活動は対象外とする。

(1) 新規活動助成

ア 初めの一步を踏み出そうとする、又は踏み出しつつある学生団体であること。

イ 応募年度が初めての活動になること。

(2) 継続的活動助成

ア 自らの団体の持ち合わせている技術力や特技を最大限に生かしたボランティア活動を行っている学生団体であること。

イ 団体として最低1年以上の活動実績があること。

2. 助成内容

(1) 新規活動助成

ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～10万円以内（1万円単位）とする。

イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

(2) 継続的活動助成

ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～20万円以内（1万円単位）とする。

イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

3. 選考

社会貢献センター運営委員会による第1次審査（書類審査結果発表）、第2次審査（プレゼン審査）

Ⅲ 社会貢献活動による表彰

1. 表彰の対象

(1) 本助成金を受けて活動した団体（以下「助成団体」という。）

(2) 本助成金を受けないで活動した団体（選考漏れの団体を含む。）及び個人又は学外の団体に所属して活動した個人（以下「助成を受けない団体及び個人」という。）

(3) 前号の団体及び個人については、別に定める活動実施結果報告書を提出のうえ本助成による「活動報告会」に参加し、その活動が表彰に値すると評価された場合に限る。
また、同一内容の活動の表彰に対しては在学期間中1回限りとし、継続しての表彰はしない。

2. 表彰内容

表彰の内容は次のとおりとし、年度等によって、社会貢献センター運営委員会が定める。

- (1) 助成団体 表彰状と記念の楯を授与する。
- (2) 助成を受けない団体及び個人 表彰状と表彰金（1件3万円を上限）を授与する。

3. 選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

IV 年間スケジュール

●学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

2025年1月6日～2月10日 募集期間（第1次）

2025年2月中 社会貢献センター運営委員会にて第1次書類選考（申請数：5団体）

2025年3月13日 決定通知（採択数：5団体）

2025年4月1日～5月8日 追加募集期間（第2次）

2025年5月中 社会貢献センター運営委員会にて第1次書類選考（申請数：3団体）

2025年6月4日 追加決定通知（採択数：3団体）

2026年2月末まで 各採択企画の報告書および決算書提出締切

2026年3月17日 報告会の実施（報告団体への参加確認中）

2026年3月末まで 支援金額の支払い

●社会貢献活動による表彰

2025年12月22日～2026年1月12日 募集期間

2026年2月 社会貢献センター運営委員会にて書類選考
（申請数：[個人] 2名 [団体] 0団体）

2026年2月 結果通知（受賞：[個人] 1名 [団体] 0団体）

2026年3月17日 授賞式の実施（活動報告を含む）

V 2025年度実績

●プロジェクト助成

応募数 8団体

採択数 8団体

●表彰

応募数 2名

受賞数 1名

**2025 年度
社会貢献活動助成
表彰式・報告会**

東洋大学 社会貢献センター

2025年度 社会貢献活動助成 表彰式・報告会

東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成 及び社会貢献活動に対する表彰の概要（抜粋）

●目的

本事業は、東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援するものである。

◆学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

●助成対象となるプロジェクト活動

(1) 新規活動助成

- ア 初めの一步を踏み出そうとする、又は踏み出しつつある学生団体であること。
- イ 応募年度が初めての活動になること。

(2) 継続的活動助成

- ア 自らの団体の持ち合わせている技術力や特技を最大限に生かしたボランティア活動を行っている学生団体であること。
- イ 団体として最低1年以上の活動実績があること。

●助成内容

(1) 新規活動助成

- ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～10万円以内（1万円単位）とする。
- イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

(2) 継続的活動助成

- ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～20万円以内（1万円単位）とする。
- イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

2025年度	実績応募団体数	8 団体	採択団体数	8 団体
--------	---------	------	-------	------

◆社会貢献活動による表彰

●表彰の対象

- (1) 本助成金を受けて活動した団体（以下「助成団体」という。）
- (2) 本助成金を受けないで活動した団体（選考漏れの団体を含む。）及び個人又は学外の団体に所属して活動した個人（以下「助成を受けない団体及び個人」という。）
- (3) 前号の団体及び個人については、別に定める活動実施結果報告書を提出のうえ、本助成による「活動報告会」に参加し、その活動が表彰に値すると評価された場合に限る。また、同一内容の活動の表彰に対しては在学期間中1回限りとし、継続しての表彰はしない。

●表彰内容

- (1) 助成団体表彰状と記念の楯を授与する。
- (2) 助成を受けない団体及び個人表彰状と表彰金（1件3万円を上限）を授与する。

2025年度	実績応募件数	2 件（個人2名／0 団体）	受賞数	1 件（個人1名／0 団体）
--------	--------	----------------	-----	----------------

社会貢献活動による表彰 受賞者活動紹介

受賞者：本嶋向日葵さん「冷蔵庫プロジェクト」

【活動概要】

育児により外に働きに出ることができないフィリピンの貧困女性に対し、冷蔵庫の貸与と資金援助を行い、自宅の玄関先での店舗開業を支援することで、世帯収入の倍増と生活の向上を図ります。一時的な支援に留まらず、自ら稼ぐ力を身につけてもらうことで、持続可能な将来を獲得していただくプロジェクトになっております。



学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成 採択団体活動紹介

団体名：学ボラ（山古志）

【活動概要】

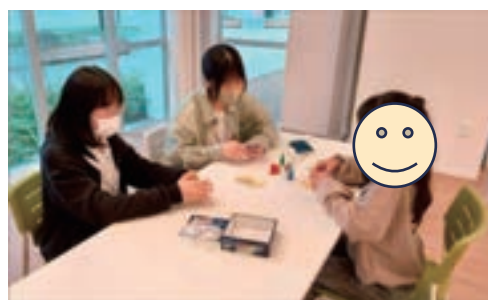
当団体は、2004年の新潟県中越地震を契機に設立され、山古志地域を中心に復興支援や地域活性化に取り組んでいます。コロナ禍の影響で一時活動が制限されましたが、2023年度より「夏祭り」や「中越地震追悼式」の運営支援を再開し、地域住民との交流を深めながら地域文化の継承に努めています。さらに今年度は1月に「地域共創シンポジウム」を開催し、これまで活動に関わっていた方々と20年間の活動を振り返ることができました。



団体名：ボードゲーム地域交流団体 ぼどのわ

【活動概要】

学生メンバーと地域の参加者がボードゲームを通して交流する会（ぼどの会）を開催しています。活動目的は、ボードゲームをツールとした地域の居場所づくりです。2025年度は、ヌーヴェル赤羽台集会室を中心に月1回の開催をしました。また、地域で活動している他団体に出張し、ボードゲームを用いて交流する機会を作りました。



団体名：学生 NPO FLY

【活動概要】

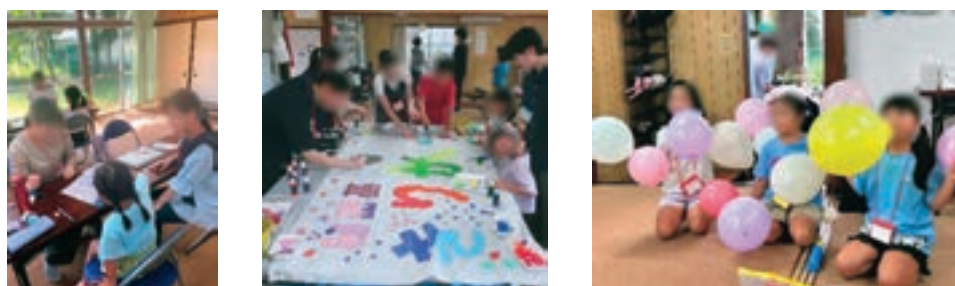
FLYは、貧困、居場所、若年犯罪などの社会問題の解決に向けて活動している学生 NPO です。貧困に関しては、生活保護制度をよりアクセスしやすくするために福祉事務所前でアウトリーチを行いました。居場所に関しては、白山キャンパスの教室を用いた居場所づくりを行い、子どもたちとの交流を深めました。若年犯罪に関しては、若者が犯罪をすることを防ぐために、柏駅前を中心に未然防止のためのアウトリーチ活動を実施しました。



団体名：きりがく

【活動概要】

本活動は、地域の集会所を活用し、子どもが安心して過ごすことのできる居場所づくりを目指して活動しています。カードゲームや風船といった遊び道具を沢山用意し子どもが自由に過ごせるように工夫したり、お菓子作りや手芸体験などの子どもがわくわくするような企画にも挑戦したりしています。



団体名：RISE—難民・移民と手をつなぐ

【活動概要】

RISE は、難民・移民への理解を深め、支援につなげることを目的に活動する東洋大学のサークルです。教育支援、他団体との協働、イベントや発信を通じて、国内外の難民・移民が直面する課題を学び、社会とつながる実践的な活動を行っています！



団体名：Smile F LAOS

【活動概要】

年間を通じてラオスのコーヒー豆をフェアトレードで仕入れ、大学内外で販売し、その収益をラオスの小学校への教育支援に充てています。年末にはメンバー自らラオスを訪れ、コーヒー生産者への聞き取りや家計調査を実施。渡航で得た学びを活動に還元し、学生主体の循環型活動を行っています。



団体名：こもれび

【活動概要】

こもれびは「相手が本当に求めている支援を、自分たちで考えて実行したい」と常に考えて活動しております。

具体的には、能登半島での観光アプリ「めぐり」の開発、児童養護施設のイベントお手伝い、北区での防災アプリの開発を行っております。主軸としている、能登観光アプリ「めぐり」の開発では、企画・調査から開発、運用までを一貫して行っております。



団体名：点字体験・点字しおりの販売（東洋大学点訳サークル）

【活動概要】

当団体は、若い世代の点訳ボランティアを増やすこと、点字・点訳をより多くの方に知っていただくことを目的に活動しています。その一環として、2025年度白山祭において出展企画をしました。来場された方に点字で名前を書く体験をしていただいたり、メンバーが作成した点字しおりを販売したりしました。小学1年生から親世代まで、様々な方にご参加いただきました。



2025 年度 東洋大学 SDGs 実践講座 活動報告



2025年度「SDGs 実践講座～17ゴールへの第一歩～」活動報告

- I. はじめに
- II. 運営委員
- III. 運営委員会の開催
- IV. 広告宣伝
- V. 募集
- VI. 履修者（学部・学年別）
- VII. 履修者数・単位修得者数
- VIII. 予算執行報告
- IX. 骨子およびプログラム
- X. 講義プログラム
- XI. 講義要旨
- XII. 受講前・受講後アンケート結果
- XIII. 最終レポート（ホームページに掲載）

「SDGs 実践講座」は、2022年度より5年目の開講として、全15回の講義を教員および外部講師に担当いただき、対面・オンライン講義として実施をした。以下、今年度の活動報告を行う。

I. はじめに

全学総合講義「SDGs 実践講座—17ゴールへの第一歩—」をふり返って

代表担当者：東洋大学副学長／生命科学部 金子 律子

SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。このSDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルなものであり、皆が日々行っている諸活動の中でSDGsに取り組むことが求められています。さらに、2020年に「行動の10年」がスタートしたという宣言がありました。2015年に公表された目標に対し5年間の予備期間を経て、2020年から10年間をかけて目標を実現しようという、次のフェーズに移ったことが宣言されたということです。

これらの状況を鑑み、本学でも今年度から全学部を対象とした講義「SDGs 実践講座—17ゴールへの第一歩—」を立ち上げました。本講義の目的は下記の3つです。

- ①SDGsに関し、その理念と各ゴールに対する具体的な取り組みを体系的に学ぶ。
- ②この学びを「自分ごと」として理解し、「自らの行動や選択を学生生活の中で具体的に变化させて行く」。
- ③在学中あるいは卒業後に国内外の社会で活躍できる人材に成長する。

これらの目標に対し、受講生の講義の最終発表や最終レポートから、「行動の10年」に相応しい、SDGsをベースとした「行動変容を伴う学び」がある程度実現できたと考えています。

学祖井上円了先生の言葉である、本学の建学の精神は「諸学の基礎は哲学にあり」ですが、これに「他者のために自己を磨く」「活動の中で奮闘する」という言葉を纏めると、「深く考え、実行する」ということになります。この井上円了哲学の実践版として本講義を実施したわけですが、全受講生が将来、「深く考え、実行する」人材として、国内外で大いに活躍してくれるものと確信しています。

Ⅱ. 運営委員

教学担当常務理事	金子 光一
学長	矢口 悦子
教務部長（副学長）	多田 英明（法学部教授）
社会貢献センター長	高山 直樹（福祉社会デザイン学部教授）
講座運営担当責任者	金子 律子（生命科学部教授）
講座運営担当者	小瀬 博之（総合情報学部教授）
講座運営担当者	川口 英夫（生命科学部教授）
講座運営担当者	堀本 麻由子（文学部准教授）

Ⅲ. 運営委員会の開催

実施なし

Ⅳ. 広告宣伝

学内掲示、ホームページ(ボランティア支援室)、本学公式アプリ、ToyoNet-G、ToyoNet-Ace による配信等で広報活動を行なった。

Ⅴ. 募集

申込期間：2025年7月7日(月)～8月22日(金) ＊申込状況により9/15(月)まで延長

申込総数：31名

受講者決定通知および意思確認：9/17(水)

授業開始：9/19(金) A301教室 (10号館3階)

追加登録期間：2025年9月26日(金)～9月28日(日)

履修者数（最終）：26名

VI. 履修者（学部・学年別）

学部／学年	1 年	2 年	3 年	4 年	合計
文学部 1 部		1		1	2
経済学部 1 部				1	1
経営学部第 2 部	1				1
法学部第 1 部		2			2
法学部第 2 部	2	3	1		6
社会学部第 1 部		3			3
国際学部		1		1	2
国際観光学部	2				2
福祉社会デザイン学部		2			2
総合情報学部		1	2		3
生命科学部		1			1
食環境科学部	1				1
合計	6	14	3	3	26

VII. 履修者数・単位修得者数

1、履修者数

「全学総合 J／SDGs 実践講座（―17ゴールへの第一歩―）」	19名（白山キャンパス）
「全学総合 J／SDGs 実践講座（―17ゴールへの第一歩―）」	2名（赤羽台キャンパス）
「SDGs 実践講座（―17ゴールへの第一歩―）／全学総合 J）」	2名（朝霞キャンパス）
「全学総合 F（SDGs 講座 17ゴールへの第一歩）」	3名（川越キャンパス）

2、単位修得者数

25名（96%）

VIII. 予算執行報告

支出

予算目的	予算件名	予算額	執行額	残額
授業・講座等運営	SDGs 実践講座	230,000円	102,800円	127,200円

IX. 骨子およびプログラム

2025年度 SDGs 実践講座「17ゴールへの第一歩」の骨子（シラバス）

1. 講座の目的・内容

「SDGs (Sustainable Developmental Goals)」とは、2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す、17項からなる国際目標である。本講義の目的は、このSDGsについて、その理念と各ゴールに対する具体的な取り組みを体系的に学ぶことである。さらに、この学びを「自分ごと」として理解し、「自らの行動や選択を学生生活の中で具体的に变化させて行く」ことで、在学中、あるいは卒業後に国内外の社会で活躍できる人材に成長することを目指す。

なお、本講義受講期間中にSDGsに繋がる活動をスタートしていただく。社会貢献センター(ボランティア支援室)等で実施する活動、若しくは自身での活動を通じて、本講義の学びを「自分ごと」にする。これらの活動を踏まえ、グループでの最終発表および各自の最終レポートをまとめる。

また、本講座終了後、受講者には東洋大学SDGsアンバサダーへの登録を推奨します。

2. 本講座の名称

本講座は「SDGs 実践講座～17ゴールへの第一歩～」を正式名称とする。

3. 本講座の募集人員、応募方法等

- 1) 募集人員：50名程度
- 2) 対 象：本学の学部生
- 3) 授業期間：秋学期（9月19日～1月23日まで）
- 4) 応募方法：グーグルフォームより申込をする。記載の志望理由等により受講を認める。

4. 学修到達目標

受講生は、以下の力を涵養し獲得することが期待される

1. SDGs の理念と具体的な取り組みを「自分ごと」として理解する力
2. 「自分ごと」として理解したことを、主体的な行動として行動変容につなげる力
3. 課題・問題を発見する力
4. 他者と関わりチームとして成果をあげる力

5. 講義スケジュール

- I. 1) 学長挨拶 (矢口 悦子学長) SDGs 実践講座運営担当挨拶 (金子先生)
2) 「外国にルーツを持つ若者のキャリアをめぐる課題と当事者の経験」(ラウフ アルーサ アアリーさん)
3) アイスブレイク (堀本 麻由子先生 文学部教授)
- II. シティズンシップを育くむとは—SDGs 実践との関係から— (堀本 麻由子先生 文学部教授)
- III. 能登半島記—被災記者が記録した300日の肉声と景色— (前口 憲幸 北陸中日新聞七尾支局長)
- IV. 世界と日本の子どもの貧困について考えよう (小野 道子 福祉社会デザイン学部准教授)
- V. カーボンニュートラルの実現に向けて私たちは何ができるか? (小瀬 博之 総合情報学部教授)
- VI. 移民・難民と私たち: 共生社会へのカギ (南野 奈津子 福祉社会デザイン学部教授)
- VII. 対話的な深い学びへのアプローチ (堀本 麻由子 文学部准教授)
- VIII. ジェンダー・セクシュアリティから社会を考える (外部講師 卒業生 勝又 栄政)
- IX. 開発途上国の生活環境改善に向けて (北脇 秀敏 国際学部教授)
- X. VUCA の時代に豊かなキャリアをどう作るのか? (榊原 圭子 社会学部教授)
- XI. 見える飢餓と見えない飢餓—植物科学からの挑戦— (廣津 直樹 生命科学部教授)
- XII. まちや住まいの持続可能性を妨げない建築設計 (伊藤 暁 理工学部教授)
- XIII. 水道水を考える (大塚 佳臣 総合情報学部教授)
- XIV. 平和と公正をすべての人に—中東から考える— (子島 進 国際学部教授/佐藤 麻利絵 筑波大学助教)
- XV. 最終グループ発表

上記プログラムを受講したまとめとして、グループ毎に受講生が、口頭および文書により発表する。

予め書面を作成し、当該書面に基いて口頭報告をさせることで、プレゼンテーション能力の涵養を図る。

口頭報告については、教員が講評を行い、さらに思考を深化させるように指導する。

6. 成果の公表について

授業の成果については、運営、プログラム内容、最終報告書などをまとめた活動報告書として公表する。

7. 授業科目としての提供

授業科目「総合」(半期15回 2単位)として提供し、単位認定を行う。

8. 録画収録および ToyoNet-Ace の活用

講義については、録画収録して講義記録として保存する。また、ToyoNet-Ace を活用して、授業運営に関する管理を行う。

9. 講師謝礼

学内者: 授業コマに含む 学外者: 33,000円 (税込)

X. 講義プログラム

2025年度 東洋大学 SDGs 実践講座

秋学期 講義+ディス カッション	秋期(金5)	17のゴール (※4は共通)	授業 形式	内容詳細(例)	講師	所属・肩書き
第1回	9月19日	全体	ハイフレックス	(16:30~16:50) 学長挨拶、SDGs 実践講座担当教員挨拶 (16:50~18:00) 「外国にルーツを持つ若者のキャリアをめぐる課題と当事者の経験」及びアイスブレイク/ディスカッション	矢口 悦子/金子 律子 堀本 麻由子/ラウフ アルサー アアリー	学長/社会貢献センター運営委員 (SDGs 担当・生命科学部) 文学部/文学部教務課職員
第2回	9月26日	全体	ハイフレックス	シティズンシップを育くむとは—SDGs 実践との関係から—	堀本 麻由子	文学部
第3回	10月3日	11、17	ハイフレックス	能登半島記—被災記者が記録した300日の肉声と景色—	前口 憲幸 (外部講師)	外部講師 (北陸中日新聞七尾支局長)
第4回	10月10日	1・5・11	ハイフレックス	世界と日本の子どもの貧困について考えよう	小野 道子	福祉社会デザイン学部
第5回	10月17日	7・12・13・15	ハイフレックス	カーボンニュートラルの実現に向けて私たちは何ができるか?	小瀬 博之	総合情報学部
第6回	10月24日	3・10・16	ハイフレックス	移民・難民と私たち: 共生社会へのカギ	南野 奈津子	福祉社会デザイン学部
第7回	11月17日	4	ハイフレックス	対話的な深い学びへのアプローチ	堀本 麻由子	文学部
第8回	11月14日	5	ハイフレックス	ジェンダー・セクシュアリティから社会を考える	勝又栄政 (外部講師 卒業生)	外部講師
第9回	11月21日	3・6・11	ハイフレックス	開発途上国の生活環境改善に向けて	北脇 秀敏	国際学研究所
第10回	11月28日	8	ハイフレックス	VUCA の時代に豊かなキャリアをどう作るのか?	榊原 圭子	社会学部
第11回	12月5日	2	ハイフレックス	見える飢餓と見えない飢餓—植物科学からの挑戦—	廣津 直樹	生命科学部
第12回	12月12日	11	ハイフレックス	まちや住まいの持続可能性を妨げない建築設計	大塚 暁	理工学部
第13回	12月19日	3・6・12・14	ハイフレックス	水道水を考える	伊藤 佳臣	総合情報学部
第14回	1月9日	16	ハイフレックス	平和と公平をすべての人に—中東から考える—	子島 進/佐藤 麻利絵	国際学部/国際学部 非常勤講師・筑波大学助教
第15回	1月23日	全体	ハイフレックス	最終グループ発表	運営担当	

*プログラム内容・授業形式については変更する場合があります。

1: 貧困をなくそう 2: 飢餓をゼロに 3: すべての人に健康と福祉を 4: 質の高い教育をみんなに 5: ジェンダー平等を実現しよう 6: 安全なトイレを世界中に 7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8: 働きがいも経済成長も 9: 産業と技術革新の基礎を作ろう 10: 人や国の不平等をなくそう 11: 住み続けられるまちづくりを 12: つくる責任、つかう責任 13: 気候変動に具体的な対策を 14: 海の豊かさを守ろう 15: 陸の豊かさを守ろう 16: 平和と公正をすべての人に 17: パートナリシップで目標を達成しよう

SDGs17目標よりテーマを設定し、講義を行った。毎回の講義では、グループを設定し、グループワークやディスカッションを重視し、意見を出し合いながらグループ毎の意見をまとめ、発表した。

XI. 講義要旨

SDGs 実践講座第1回 講義要旨

9月19日（金）

講師名：堀本 麻由子（文学部教授）／ラウフ アルーサ アアリー（文学部教務課職員）

テーマ：外国にルーツを持つ若者のキャリアをめぐる課題と当事者の経験

冒頭に学長より、本学におけるSDGsとの関連性や学びの意義についてお話があり、ウォーターサーバーの導入をはじめとした、様々なプロジェクトが学生発信で行われていることの紹介がなされた。講義においてはパキスタンにルーツを持つラウフさんより、外国にルーツを持つ講師自身の目線で感じた、社会の不公平や不平等というものに対してどのように向き合ってきたのかという経験談が語られた。とりわけ学生の関心も高い就職活動においては、講師が自身の強みは何であるか見出し、前向きに行動しつづける姿勢で取り組むことで、内定獲得という結果につながったエピソードが紹介され、受講者への力強いメッセージとして受け取られた。

SDGs 実践講座第2回 講義要旨

9月26日（金）

講師名：堀本 麻由子（文学部教授）

テーマ：シティズンシップを育むとは—SDGs 実践との関係から—

本講義は、シティズンシップ育成と本講座内容の関連について考えることを目的とした。そのため、冒頭において、本授業で大切にしている二点を示した。一つは、民主政治の担い手である市民として、意見の相違を乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成していくにはどうすればよいのかについて、共に考え、聴きあい、話し合うことで学ぶこと、二つは、市民として、異なる意見を尊重しつつ、身近な生活のなかの諸問題を解決するための効果的な議論と参加の方法を身に付けること、である。これら二点を理解するために、「市民とは何か」、「公共空間と私的空間」について、近くの人とじっくり話し合う時間をとった。加えて、話し合いの仕方について、自身の話の聴き方を振り返ることで、他者の話を理解することの難しさについて検討してもらった。多くの受講者にとって、本講座への参加の仕方やSDGs 課題との自分の関わりについて、改めて考える機会となった。

SDGs 実践講座第3回 講義要旨

10月3日（金）

講師名：外部講師（前口 憲幸／北陸中日新聞七尾支局長）

テーマ：能登半島記—被災記者が記録した300日の肉声と景色—

本講義では能登半島地震当日のリアルな被災の様子について、講師より映像資料や取材写真をもとに、震災当時の詳細が語られた。特に受講者からの印象的なエピソードとして受け止められたのが、トイレ環境の整備が行き届かないことにより、子どもやお年寄りが水を飲まないという事象が発生し、体調不良者が相次ぐ悪循環に陥ったことであった。このことは報道だけでは伝わらないリアルな情報であり、災害時のトイレ問題の重要性を強く訴求するものであった。さらに復興はまだ道半ばであり、持続可能な街づくりを進めている状況について説明がなされた。学生のディスカッションにおいては、災害への備えへの必要性を認識したという意見や、自分事として考える機会となったという意見が多く見受けられた。

SDGs 実践講座第4回 講義要旨

10月10日（金）

講師名：小野 道子（福祉社会デザイン学部准教授）

テーマ：世界と日本の子どもの貧困について考えよう

この講義では、SDGs 目標1の「貧困をなくそう」の内容やターゲット、絶対的貧困と相対的貧困の違いについて説明できるようになること、世界と日本の子どもの貧困の現状や対策について自分なりの考えを持つことができるようになることを目的とした。まずは「子どもの貧困」のイメージについて各自で考えてもらった。講義を聴くだけでなく、世界で極度の貧困状況にある子どもはどのようなリスクがあるのか、日本のひとり親家庭の子どもの貧困率がなぜ高いのか、日本の子どもの貧困対策など、グループで話し合い発表した。子どもだけでなくおとなの貧困も自己責任ではないこと、災害などが起きれば誰でも脆弱層になり得るため、平時からのレジリエンス構築が大切であること、2030年までにどのようにしたら子どもの貧困を減らせるのか考え続けてもらうことの重要性などを伝えた。最後に、学内のSDGs研究の取り組みとして、国際共生社会研究センターによるソーラーランタン配布プロジェクト（Buy One Give One）、福祉社会開発研究センターによる「災害時のこどもの居場所づくり」調査研究事業についても紹介した。

SDGs 実践講座第5回 講義要旨

10月17日（金）

講師名：小瀬 博之（総合情報学部教授）

テーマ：カーボンニュートラルの実現に向けて私たちは何ができるか？

この講義では、SDGsの目標7（エネルギー）、12（生産・消費）、13（気候変動）、15（陸上生態系）に関連する共通課題である「カーボンニュートラル（脱炭素社会）」を中心に取り上げた。まず、受講者の関心を把握しながら「2030アジェンダ」とSDGsの基本理念、そして社会・環境・経済のトレードオフについて説明し、東洋大学川越キャンパスのリデザイン事例も紹介した。グループワークに向けて、「カーボンニュートラル」「ネイチャーポジティブ」「サーキュラーエコノミー」といった持続可能な環境を目指す行動や、大学での実践例（「こもれびの森・里山支援隊」「SPRING ウォーターサーバープロジェクト」など）を紹介した。グループワークでは「カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミーに向けて大学で実施すべきこと」をテーマに、ペーパーレス化やリユース促進、省エネ・再生可能エネルギー導入、自然保護、環境教育、食品ロス削減など多様なアイデアが発表され、これらの情報を共有できた。

SDGs 実践講座第6回 講義要旨

10月24日（金）

講師名：南野 奈津子（福祉社会デザイン学部教授）

テーマ：移民・難民と私たち：共生社会へのカギ

本講義では、SDGs の目標 3、10、16 をテーマとして、移民、難民との共生について考える機会とした。世界の難民の実情を概観した。そのうえで、難民受け入れに賛成・反対の立場でのディスカッションを行い、難民の理解と共生がどのように可能かについて学んだ。複数の立場を設定し、それぞれがどのような観点からその意見を支持するのか、実際にロールプレイに基づくディスカッションを行った。ディスカッション後、相手の意見を聞いて何を感じたか、を考えた上でそれを共有した。最後に、どのようにして共生が可能かをグループにてディスカッションを行い、共有した。賛成、反対をどのような観点から考えるのか、誰にとっての利益を考えていくのか、について考えるきっかけになったことがアンケートでも示されており、個々の意見は様々なながらも、難民や移民の受け入れや共生が単純な答えではないこと、考え、知識を持つことの重要性について認識できた様子が窺えた。

SDGs 実践講座第7回 講義要旨

11月7日（金）

講師名：堀本 麻由子（文学部教授）

テーマ：「対話的な深い学びへのアプローチ」

本講義は、SDGs17ゴールに関し、「自分ごと」として理解したことを、主体的な行動として行動変容につなげる力を育むこと、さらにこれまでの授業内容を振り返りつつ、対話的なディスカッションを通して、問題・課題（SDGs17ゴール）への取り組み方を考えることをねらいとした。はじめに、「対話的なディスカッション」に関する講義を行い、その後グループ演習を実施した。各グループは17ゴールの内の関心の近い学生同士による4～5名程度の編成とした。各自の問題関心を深めるため、質問中心の話し合いによる自己紹介ワークなどを活用し、グループメンバーの互いを理解することで、共通関心を探る機会とした。すでに SDGs アンバサダーとして活動している学生も数名おり、ファシリテーター的な役割を担い、話し合いを進めてくれた。また比較的少人数のグループだったこともあるが、他キャンパスからオンラインで参加している学生たちが問題なく、議論に参加できていたのが印象的だった。

SDGs 実践講座第8回 講義要旨

11月14日（金）

講師名：外部講師（卒業生 勝又 栄政）

テーマ：ジェンダー・セクシュアリティから社会を考える

本学社会学部の卒業生であり、トランスジェンダー当事者の視点から、ジェンダーに関する講義が行われた。SDGs 目標5「ジェンダー平等を実現しよう」とは男性・女性の平等に関する目標であり、LGBTQ+については厳密には含まれていないというお話から始まり、LGBTQ+について学ぶ回となった。勝又さんは、幼いころから性の違和感を感じており、その社会的背景には「男女二元論」が存在し、「男性は青、女性は赤」であっ

たり「男性は格好のいいものを好む、女性は可愛いものを好む」といった固定観念が違和感を生んでいることの説明があった。性別は二つではなく、詳細にはもっと多数の性別が存在し、世の中にはそのことを公言せずに生活している方も多くおり、最初から決めつけた発言をするのではなく、誰もが回答に違和感のないような質問を心掛けることが大切であると伝えられ、締めくくられた。

SDGs 実践講座第9回 講義要旨

11月21日（金）

講師名：北脇 秀敏（国際学研究科教授）

テーマ：開発途上国の生活環境改善に向けて

講義では、まず MDGs から SDGs へ世界的な開発目標が移り変わった過程を紹介した。先進国から途上国への国際協力が中心課題であった MDGs と比較し、「誰一人取り残されない」SDGs に変わり多くの人に受け入れられたことを述べた。次に途上国の生活環境を守る重要な要素として水供給、し尿・排水処理、廃棄物処理の3つの公共事業が途上国住民の健康に係る要素であり、健康的な生活を送るためには、これらが破綻のない形で実施されていることが必要なことを述べた。講義において特に強調した点は、これらの不備があるとどのような健康上の問題点があるかという点に加え、途上国において生活環境を改善する上でどのような適正技術を導入すれば良いかという点にも考察を加えた。また東洋大学の卒業生が途上国の環境改善に青年海外協力隊員として活躍している様子も紹介し、聴講生がどのようにこうした活動に関われるかの議論も行った。

SDGs 実践講座第10回 講義要旨

11月28日（金）

講師名：榊原 圭子（社会学部教授）

テーマ：VUCA の時代に豊かなキャリアをどう作るのか？

本講義では、以下について説明、議論を行った。

VUCA とは、不確実性・予測不能性・複雑性・曖昧性が高まる現代社会を示す概念であり、このような時代には「正解のあるキャリア」を外部に求めることが難しくなる。そのため、自分が何を望み、何を大切にしたいのかを主体的に考え、行動する姿勢が重要である。現代の日本では、終身雇用制の崩壊や長寿化による労働期間の長期化があり、従来のように一つの企業に依存する働き方が成り立ちにくくなっている。こうした環境変化に対応する考え方である「プロティアン・キャリア」が注目されている。これは環境に応じて柔軟に働き方や学び方を変える姿勢である。また、長寿化により、学び直しや転職が一般化し、個々のキャリアはますます多様化していくという背景からも、「プロティアン・キャリア」という考え方が求められる。講義の中では、聴講生に問いを投げて発言を求めるなど、双方向の授業を展開した。

SDGs 実践講座第11回 講義要旨

12月5日（金）

講師名：廣津 直樹（生命科学部教授）

テーマ：見える飢餓と見えない飢餓—植物科学からの挑戦—

本講義では、SDGs の目標2「飢餓をゼロに」をテーマに講義を行った。まず、世界の飢餓状況について説明し、このような食料問題の原因と解決策についてグループワークで意見を出し合った。社会的手段としては気候変動対策やフードロス対策、国際協力など、技術的手段としてはストレス耐性作物や栽培技術の改善など幅広い意見が出された。次に、ビタミンAや鉄、亜鉛などの栄養素の不足という目に見えない飢餓“hidden hunger”の状況と今後の予測について紹介し、「hidden hunger」の対策と予想される問題点についてグループワークで意見を出し合った。目に見えない栄養素について啓蒙教育が必要であることを確認した。様々な学部が集まる本講義では、グループワークにより様々な視点の意見が出された点が特徴的であった。最後に、文理融合の必要性和教育を受けている者の責任について投げかけ、講義を総括した。

SDGs 実践講座第12回 講義要旨

12月12日（金）

講師名：伊藤 暁（理工学部教授）

テーマ：まちや住まいの持続可能性を妨げない建築設計

建築設計の観点から、まちや住まいの持続可能性について考える講義を行った。日本の人口が減少に転じ、これまでとは社会の構造が異なっていること、これまでの社会構造を前提に設計された行政・産業・福祉などのシステムが機能不全となっていることなどを確認し、過疎化・少子高齢化が著しく進行している徳島県の神山町を事例に、これからの社会のあり方を想像する知見を共有することを目指した。

社会には「地理的な時間」「社会的な時間」「個人の時間」が共存しているという、フェルナン・ブローデル（歴史家）の指摘をもとに、短期的な時間軸や利益獲得のみに拘泥するのではなく、中期的・長期的な選択肢を阻害しない思考の重要性を解説した。講義後は、「良い社会とは何か」をテーマにグループディスカッションを行い、その内容の発表・共有を行った。

SDGs 実践講座第13回 講義要旨

12月19日（金）

講師名：大塚 佳臣（総合情報学部教授）

テーマ：水道水を考える

SDGs 目標6（安全な水とトイレを世界中に）の主題の1つである水道水をテーマとして扱った。世界および日本における水道水の普及状況や課題を解説した。日本は蛇口の水を直接飲用できる数少ない国で、水道水の質が高いにも関わらず水道水をそのまま飲用する人は13%にとどまることを紹介した。あわせて、水道水

の飲用方法には5つのパターン（そのまま飲む、浄水器を使う、煮沸する、主にお茶にする、飲まない）があり、それぞれのパターンへの帰属は、水道水質不安、健康問題意識、環境問題意識、などの影響を受けているという調査結果を示した。情報提供の前には、水道水、市販のボトル水の「聞き水」を行い、水道水と味のイメージの評価が一致しないことを実感してもらった。

以上を経て、1)水道水を直接飲用する人と飲用しない人では意識や経験にどのような差があるのか、なぜそうなったのか、2)飲用しない人に蛇口の水の飲用の推進をしていく上で、なにをしたらよいか、グループで討議を行い、最終的に蛇口の水の飲用を推進するための方策の提案をグループごとに行った。

SDGs 実践講座第14回 講義要旨

1月9日（金）

講師名：子島 進（国際学部教授）／佐藤 麻利絵（国際学部 非常勤講師・筑波大学助教）

テーマ：平和と公正をすべての人に—中東から考える—

住民へのジェノサイドがつづくパレスチナを筆頭に、内戦下のイエメン、内戦は終了したが未だ不安定なシリア、そして2025年末に全国的な規模で民衆の反政府デモが始まったイラン。中東の状況は「平和と公正をすべての人に」というSDGsの取組が、きわめて多くの困難をともなうものであることを指し示している。今回の講義では、パレスチナ問題やシリア内戦の歴史をごく簡単に説明したうえで、これらの難民の主要な受け入れ先の一つであるヨルダンでの支援について紹介した。日本で暮らす私たちにとって来る紛争や内戦の情報は、対立する集団間の緊張の激化や、戦いの凄惨さに関するものが多い。今回、争いの場から避難した何百万人という人々を支援するNGO、とりわけ草の根レベルで地道に支援を継続するイスラーム系の団体について説明した。これにより、受講生の多くにとって「イスラームという宗教が争いを生んでいるのでは？」という偏った見方を、より複合的なものに変える契機となったものではないだろうか。

以上

1.1 SDGs の項目をいくつ知っていますか。

受講前

知っている目標の個数	回答
1	0
2	2
3	1
4	3
5	2
6	2
7	1
8	0
9	3
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	1
16	0
17	10
一つも知らない	0
合 計	25

受講後

知っている目標の個数	回答
1	0
2	0
3	1
4	1
5	1
6	0
7	0
8	0
9	1
10	0
11	0
12	3
13	0
14	0
15	1
16	0
17	17
一つも知らない	0
合 計	25

1.2 SDGs の目標のうち、現在あなたが最も関心を持っているものを一つ上げてください。

受講前

最も関心を持つ目標	回答
1：貧困をなくそう	2
2：飢餓をゼロに	1
3：すべての人に健康と福祉を	1
4：質の高い教育をみんなに	4
5：ジェンダー平等を実現しよう	3
6：安全な水とトイレを世界中に	2
8：働きがいも経済成長も	1
10：人や国の不平等をなくそう	1
11：住み続けられるまちづくりを	3
12：つくる責任つかう責任	1
13：気候変動に具体的な対策を	3
14：海の豊かさを守ろう	1
15：陸の豊かさを守ろう	1
16：平和と公正をすべての人に	1

受講後

最も関心を持つ目標	回答
1：貧困をなくそう	3
2：飢餓をゼロに	1
3：すべての人に健康と福祉を	1
4：質の高い教育をみんなに	4
5：ジェンダー平等を実現しよう	2
6：安全な水とトイレを世界中に	1
8：働きがいも経済成長も	
10：人や国の不平等をなくそう	
11：住み続けられるまちづくりを	4
12：つくる責任つかう責任	1
13：気候変動に具体的な対策を	4
14：海の豊かさを守ろう	2
15：陸の豊かさを守ろう	
16：平和と公正をすべての人に	
17：パートナーシップで目標を達成しよう	2

1.3 あなたは、設問 2 で挙げた目標の実現に向けて、何かを実践しようと計画していますか。

受講前

(していない) 1 ← 3 — 5 → 7 (している)	回答
1	7
2	3
3	4
4	3
5	4
6	2
7	2
合 計	25

受講後

(していない) 1 ← 3 — 5 → 7 (している)	回答
1	2
2	1
3	2
4	6
5	7
6	4
7	3
合 計	25

1.4 あなたは、設問 2 で挙げた目標の実現に向けて、既に計画の実践の段階に入っていますか。

受講前

(していない) 1 ← 3 — 5 → 7 (している)	回答
1	13
2	1
3	3
4	3
5	2
6	2
7	1
合 計	25

受講後

(していない) 1 ← 3 — 5 → 7 (している)	回答
1	4
2	4
3	3
4	8
5	4
6	1
7	1
合 計	25

1.5 設問3と4のいずれかでSDGsの目標実現に向けた実践を計画している、または、既に実践段階に入っていると回答した人（5～7のいずれかを選択した人）は、具体的に、どのようなことを実践しようと、あるいは、既に実践していますか。自由に記述してください。

受講前

・食べられる量だけ料理を作ったり、賞味期限・消費期限を意識し、期限が近いものから使うなど、食品ロスを減らす。
・主に家庭での節約やECO電気への転換など。
・住んでいる地域や海辺でのゴミ拾いに積極的に参加したり、企画もしている。
・「無料法律相談部」というサークルで相談会を行い、市民の方と司法とのアクセスの機会をつくっています。
・桐ヶ丘地域で、朝活に参加し、地域の方とコミュニケーションをとっている。
・「地域交流団体 紡ぎ」というサークルで、今後、大学生と地域を繋げられるような取り組みができたらいいと考えている。
・SDGs アンバサダーとして活動し、まずは自分自身のSDGsに関する知識を深めたり、他の学部学科の人がどんなSDGsゴールに興味があるのか知ったりするようにしています。

受講後

・不要な照明や家電の電源をこまめに切ることを意識し、無理なく節電行動が継続できるようにしています。
・子供たちに学習支援を行うボランティア活動に参加しようと考えています。
・生命科学部の取り組みである「タコクル」にも所属しており、地域に寄り添ったSDGs活動に取り組んでいる。
・大学で食品についての知識を身に付け、将来は食品会社で手軽に栄養を取れる機能性食品を作り、味や役割の幅を広げたいと考えている。海外の方にも届けられることができれば、栄養不足で体調不良や病気になる人々を減らせるのではと考える。
・卒業論文のテーマとして「キャンパス内の資源循環（バイオマスおよび水循環）モデル」の研究を行っている。具体的には、大学内で排出される廃棄物や水資源のデータを収集・分析し、環境負荷を低減させるための循環システムを設計・提案しようとしている。
・授業の中でグループメンバーが提供してくれた情報で、ゴミを集め、それを工芸品に加工して発信・啓発に活用するという取り組みです。これらは、大学生ですぐに取り組むことのできる実践的な活動だと思います。
・地元で衰退しつつあるりんごの共選所で、地元の人が集まれる場をつくりたい。地元の人と、りんごを買いに来たお客さんがゆるやかに交流し、ちょっとお茶を飲みに来るような場所をつくって地元に貢献してみたいという野望がある。

1.6 あなたには、SDGsの目標のうち、設問2で挙げたもの以外にも、大きな関心を抱いているものがいくつありますか。個数を選択してください。（選択必須）

受講前

設問2で挙げたもの以外に関心を抱く目標の個数	回答
1	2
2	9
3	1
4	2
5	3
6	0
7	1
8	2
9	1
10	0
11	1
12	1
13	0
14	0
15	0
16	0
他には関心がない	2
合 計	25

受講後

設問2で挙げたもの以外に関心を抱く目標の個数	回答
1	3
2	4
3	4
4	4
5	3
6	3
7	0
8	1
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	1
15	0
16	2
他には関心がない	0
合 計	25

1.7 設問6でひとつでも「ある」と回答した方に尋ねます。設問2で挙げたものと設問6で挙げたものを、あなたなりに関連付けて考えていますか。（考えていない）1←3→5→7（考えている）

受講前

（考えていない）1←3→5→7（考えている）	回答
1	2
2	1
3	2
4	2
5	7
6	0
7	8
無回答	3
合 計	25

受講後

（考えていない）1←3→5→7（考えている）	回答
1	0
2	2
3	1
4	6
5	5
6	1
7	9
無回答	1
合 計	25

★2025年度 SDGs 実践講座 受講前／受講後アンケート結果

回答者数：受講前25名 受講後25名

1.8 あなたは、SDGs の目標のうち設問2で挙げたものについて、自分の考えを社会に強く発信していますか。
(発信していない) 1←3→5→7 (発信している) (選択必須)

受講前

(発信していない) 1←3→5→7 (発信している)	回答
1	16
2	4
3	3
4	2
5	0
6	0
7	0
合 計	25

受講後

(発信していない) 1←3→5→7 (発信している)	回答
1	6
2	7
3	5
4	4
5	3
6	0
7	0
合 計	25

1.9 設問7で、SDGs の目標のうち設問2で挙げたものについて、自分の考えを社会に強く発信していると回答した人（5～7のいずれかを選択した人）は、具体的に、どのようなことを発信しようと、あるいは、既に発信していますか。
自由に記述してください。

受講前

受講後

・友だちやバイト先の人に誰もいないなら消してから帰るようにお願いをしている。
・地震などで影響を受けた家庭への支援などのボランティアを探している。
・17 パートナースHIPで目標を達成しように特に関心があり、他者を傷つけない会話を意識しています。
・すべての人に健康を届けるために、食糧問題は非常に重要な課題であり、未来の食べ物を確保するために、環境問題もかかわってくる。そこで地球を少しでもきれいにするために、ごみ拾いイベントに多く参加したり運営にかかわったりしている。

1.10 あなたは、SDGs の目標の実践が社会をより良いものにすると思っていますか。
(思っていない) 1←3→5→7 (思っている) (選択必須)

受講前

(思っていない) 1←3→5→7 (思っている)	件数
1	0
2	0
3	3
4	0
5	3
6	2
7	17
合 計	25

受講後

(思っていない) 1←3→5→7 (思っている)	件数
1	0
2	1
3	0
4	2
5	4
6	4
7	14
合 計	25

1.11 あなたは、SDGs の目標の実践があなた自身を成長させるとしていますか。
(思っていない) 1←3→5→7 (思っている) (選択必須)

受講前

(思っていない) 1←3→5→7 (思っている)	回答
1	1
2	0
3	1
4	1
5	5
6	2
7	15
合 計	25

受講後

(思っていない) 1←3→5→7 (思っている)	回答
1	2
2	0
3	0
4	3
5	6
6	6
7	8
合 計	25

1.12 設問11で、SDGs の目標の実践があなた自身を成長させるとしていると回答した人（5～7のいずれかを選択した人）は、具体的に、どのような点で成長できると思いますか。自由に記述してください。

受講前

・周りと協働することを通じて、自身も成長できると思う。
・日常生活の様々な事象に対して、多面的に考えられるようになる。
・SDGs の目標に取り組むことで、課題に対する理解を深め、将来に生かせる力を身につけていくことができると考えています。
・既存のコミュニティーからぬけだす努力をすることが成長につながると思います。
・もっと責任感を持って行動できるようになる。広い視野（人だけでなく世界全体）を持って考えながら行動できる人になる。
・企画を考えることで発想力が鍛えられると思います。また社会人に必要なスキルを身につけ始めることができると思います。
・日々の生活の中で社会を考えるということ、また、これからの未来を考えるということ、多様な価値観を身につけることに繋がると思う。
・持続可能な社会をつくるために、周りを見渡す力が鍛えられると思っている。
・SDGs を実践することで視野を広くしてくれる点で成長に繋がると思う。
・自分では気づけなかった視点や考え方に触れることによって、行動する際の選択肢の幅が広がり成長できると思います。

受講後

・SDGsの目標の実践には、人と人とのかわかりが不可欠です。誰かのことを思うことが思いやりを持つことに繋がり、社会全体の効用を考える力に繋がると思います。
・SDGsの目標を実践することで、自分とは異なる立場や背景を持つ人の状況を想像し、物事を多面的に考える力が成長すると考える
・SDGsの目標を実践することで、社会や周囲の人のことを「自分ごと」として考えられるようになり、視野が広がると感じています。環境問題や多様性、健康などに意識を向けて行動する中で、今まで気づかなかった課題に目を向ける力や、相手の立場を考える思いやりが育つと思います。
・自分だけではなく、他者の生きづらさに気づくきっかけになると思います。
・今までSDGsの目標はそれぞれ独立したものだと思っていましたが、相互に関わっているものも多くあり、事象に対して様々な角度から解決していく姿勢は、社会に出てからでも大切な素養だと思ったから。
・人々はこうした大きなテーマを達成してこそ、社会のあらゆる面で持続的な発展を実現できると思います。そのために貢献できることは、とても誇りに感じられることです。
・個人がすべての問題を解決することはできないと思うが、一人ひとりが自身の興味のある分野に対して自分なりに考えアプローチしていくことは、自分が社会の中で生きる一人の人間としての自覚であったり、他者を思いやる気持ちの面で成長できる場所があるのではないかとと思う。

1.13 あなたは、SDGsの目標の実践を通じ、仲間たちと連携しながら社会に貢献しようと考えていますか。
(考えていない) 1←3—5→7 (考えている) (選択必須)

受講前

(考えていない) 1←3—5→7 (考えている)	回答
1	0
2	0
3	1
4	3
5	4
6	5
7	12
合 計	25

受講後

(考えていない) 1←3—5→7 (考えている)	回答
1	2
2	2
3	4
4	3
5	5
6	4
7	5
合 計	25

1.14 あなたは、SDGsの目標の実践に際して、仲間たちと連携しながら社会に貢献していますか。
(していない) 1←3—5→7 (している) (選択必須)

受講前

(していない) 1←3—5→7 (している)	回答
1	11
2	0
3	1
4	3
5	6
6	0
7	4
合 計	25

受講後

(していない) 1←3—5→7 (している)	回答
1	5
2	4
3	3
4	4
5	4
6	1
7	4
合 計	25

★2025年度 SDGs 実践講座 受講前／受講後アンケート結果

回答者数：受講前25名 受講後25名

1.15 設問13と14のいずれかで、SDGsの目標の実践を通じ、仲間たちと連携しながら社会に貢献しようとしている、あるいは、既に貢献していると回答した人（5～7のいずれかを選択した人）は、具体的に、どのような貢献をしようと、あるいは、既に貢献をしていますか。自由に記述してください。

受講前

・ 来年から PR 会社に勤務するため、PR という手法を用いて社会課題を投げかけたい。
・ ユニクロなどのいない服を提供するボランティアなどで SDGs の目標に貢献したいと考えている。
・ 海外ボランティアに参加しようと考えている。
・ TUEP の活動で廃クレヨンとレジンを利用したキーホルダーを制作し、資源を有効活用する取り組みを行いました。このような活動を仲間と協力しながら進めることで、環境負荷を減らすと同時に、リサイクルや持続可能な社会づくりの大切さを伝えられるようにしています。
・ 点訳サークルを作り、視覚障害について知ってもらう機会やボランティアとして活動する人を増やせるように活動しています。
・ SDGs アンバサダーのメンバーと一緒に様々なゴミ拾いの企画や食品ロスをなくすための企画を実行中です。
・ 地域のボランティア活動などにも参加して、積極的に自分の取り組みを広げていくことで貢献していきたいと思います。
・ 福島の被災地を訪れ、地域の方々との交流や現地見学を行うボランティア活動に参加しました。今後もこのような活動に積極的に参加し、仲間と協力しながら地域社会に貢献していきたいです。

受講後

・ これからもエネルギーの無駄遣いについては人々に訴えていきたいと思っている。使っていないのに流しっぱなしの水や電気を止めてとお願いするだけでできる。また、エネルギーが有限であるという点も絡めると説得力が増し、より効果があると思う。
・ Diversity Voyage に参加して教育と多文化共生についてフィールドワークする。
・ 私は SDGs の目標の実践として、身近な仲間と協力しながら「人の成長を支えること」を意識した行動を行っています。具体的には、学習に不安を感じている小学生・中学生に対して、分からない部分を一緒に確認したり、継続して勉強できるよう声をかけたりするなど、学習支援ボランティアで学びのサポートを行っています。
・ 地域の住民でゴミ拾いを行うクリーン作戦というボランティア活動に参加しています。これからも引き続き参加するとともに、周りの方にもこの活動を周知してもらえよう、発信していきたいと考えています。
・ SDGs アンバサダーとして環境や SDGs に関するイベントに出店し、学生同士や学生と企業・自治体が活動内容を共有したり交流したりする場に参加したり、ボランティアとしてゴミ拾いなどの活動にも取り組んだりしている。こうした活動を SDGs アンバサダーの仲間と協力して行い、さまざまな視点に触れながら活動している。
・ FGM の現状と SDGs との関連で私たちができる支援として啓発チラシを導入しようと考えています。活動目的は日本での認知度向上と、偏見のない理解の促進です。

1.16 その他、何かあれば自由に記述してください。

受講前

・ 17の目標のさらに細かい具体的な目標まで知っておく必要があると思いました。
・ この講義で学んだこと、考えたことを、これからの SDGs アンバサダーの活動や卒業後の生活にも生かしていきたいです！

受講後

・ 本講義を通じて SDGs について学ぶことができ、「自分事」にして取り組めることがいくらかでもあるとの自覚できました。

リカレント教育推進特別助成制度

2024年度、社会貢献部門の活動として、リカレント教育推進特別助成制度を新たにスタートさせた。2025年度は1企画応募され、社会貢献センターにて選考を行った結果、全企画が採択となり活動を行った。概要は以下のとおりである。

1. 募集対象

人生100年時代やデジタル社会の進展、絶え間なく変化する社会情勢を踏まえ、産業界や社会のニーズに対応した実践的なプログラムの開発・拡充や、リカレント教育の基盤整備を推進するとともに、社会人の学び直し（リスキリング）の充実に繋がる新たなプログラムの開発・拡充に繋がる、本学における学内公募型の助成制度であり、主な募集対象は以下のとおりである。

- ①成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育プログラム（デジタル・グリーン等成長分野を中心に社会のニーズに対応）
- ②価値創造人材育成プログラム（デザイン思考・アート思考の養成、分野横断型の学修を経て、創造的な発想をビジネスにつなぐ）
- ③女性の多様なチャレンジに寄り添う教育プログラム（女性のキャリアアップ・キャリアチェンジに向けた学び直しやキャリア形成）
- ④地方創成人材教育プログラム（地域が求める人材を養成するための教育改革の実行）
- ⑤職業実践力育成プログラム（実践的・専門的なプログラムの受講を通じて社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会を拡大）
- ⑥その他、新たなイノベーションの創出に繋がり、持続性を持って継続的に成果を社会に還元できるもの

2. 助成額

1件当たり年間500,000円を上限とする。

3. 助成期間

1年間としますが、3年間の継続申請が可能。

4. 選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

5. 年間スケジュール

2024年12月2日～2025年1月20日	募集期間
2025年2月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考 (申請数：0企画)
2025年3月中	地域活性化活動支援事業について 採択決定通知 (採択数：0企画)

2025年4月1日～2025年5月10日	追加募集期間
2025年6月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考 (申請数：1企画)
2025年7月30日	地域活性化活動支援事業について 採択決定通知 (採択数：1企画)
2026年2月末まで	各採択企画の報告書および決算書提出締切
2026年3月末まで	支援金額の支払い

6. 2025年度実績

応募企画数 1 企画

採択企画数 1 企画

東洋大学『リカレント教育推進』特別助成採択一覧

No.	代表教員名	学部	学科	活動内容	プログラム名	支援額	支援額 (結果)
1	金 賢珠	食環境科学部	健康栄養学科	健栄会リカレント教育 コースの構築 —実践活動の研究報告 や情報発信能力を向上 し、社会貢献を目指す —	職業実践力養成プログラム	500,000円	343,985円
2	堀本 麻由子	文学部	教育学科	女性リーダーシップ養成 プログラムの実証的 研究 —「フレッシュ・スタート」 講座の開発・検証・実践—	女性の多様な チャレンジに 寄り添う教育 プログラム	500,000円	22,000円
3	小野 道子	福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	災害時の子ども支援お よび災害時の子どもの 居場所 づくり研修プログラムの 構築	地方創生人材 教育プログラ ム	500,000円	402,319円

リカレント教育推進特別助成制度

2025年度 東洋大学リカレント教育推進特別助成

活動報告書

運営代表者	金 賢珠	所属学部（運営代表者）	食環境科学部健康栄養学科
プロジェクト名	「健栄会リカレント教育コースの構築 —実践活動の研究報告や情報発信能力を向上し、社会貢献を目指す—」		
活動概要（150字以内）			
管理栄養士国家試験再受験を検討している東洋大学食環境科学部健康栄養学科卒業生に対し、模擬試験受験の補助、オンライン、オンデマンドコンテンツ等による個別指導を行った。これにより、既卒合格率10%程度と難関の管理栄養士国家試験合格を勝ち取ることを援助した。			
主な活動スケジュール			
第1—2項：事前実力調査：第1、2項として模擬試験を受験する（9月22日） 第3項：個別指導①：事前実力調査を受けて、個別指導する。必要に応じて、オンデマンドコンテンツ等を利用した学習計画の立案をする。 第4—5項：学習効果判定①：学習効果を判定するために模擬試験を受験する（10月18日） 第6項：個別指導②：学習効果判定①を受けて、個別指導する。 第7—8項：学習効果判定②：学習効果を判定するために模擬試験を受験する（11月10日） 第9項：個別指導③：学習効果判定②を受けて、個別指導する。 第10—11項：学習効果判定③：学習効果を判定するために模擬試験を受験する（12月1日） 第12項：個別指導④：学習効果判定③を受けて、個別指導する。 第13—14項：最終効果判定：学習効果を判定するために模擬試験を受験する（1月5日） 第15項：個別指導⑤：最終効果判定を受けて、個別指導する。国家試験受験に向けた最終指導を行うとともに、必要に応じて、オンデマンドコンテンツ等を利用した学習計画を立案する。			
活動成果・進捗			
卒業生向けの広報（健栄会メーリングリスト）やゼミ卒業生への声掛けに対し、9名の応募があり、最終的に7名の受講生が集まった。この受講生に対し、健康栄養学科教員を1対1で担当教員として配置し、個別の学習指導を行った。基本的な運営日程は上記の通りであったが、上記の活動とは別に、10月11日に朝霞キャンパスにおいて、健康栄養学科卒業生で、本リカレント教育プロジェクトが発足する以前に管理栄養士国家試験を再受験し、合格を勝ち取った方を講師として招聘し、仕事と受験勉強の両立をいかにして成し遂げたかについて講演してもらった。この講演は受講生に大変好評であったため、次年度についても同様の企画を検討している（講師としては、今年度の受講生のうち合格を勝ち得た方などを検討している）。9月以降の実施状況であるが、卒業生の現在の状況により、勤務の都合で勉強に取り組みにくい者、受験に関する心理的不安を抱えた者等も見られたが、原則ゼミ卒業生を各教員が担当することにより、こまめな指導を行えるように心がけた。個別指導に関しては受講生によっては上記の想定5回以上実施したケースもあり、受講生の状況に応じ、日曜等の対応を行った教員もいた。また、オンデマンドコンテンツとしてGoogleドライブを介した勉強用コンテンツの提供も行った。本報告書提出時点で、受講生の国家試験合格状況が分からないため、最終的な総括は3月末以降となるが、現時点での総括として、①模擬試験実施時期の見直し（年内は本業で多忙なため、毎月1回のペースで模擬試験を実施することが困難な受講生が多かった。一方、年末年始にかけて本格的に勉強を開始し、年明けには仕事を調整して勉強時間を確保したケースがあり、1月に加えて2月も模試を受験したいという要望があった）、②オンデマンドコンテンツの見直し（学部学生向けのコンテンツを流用したものが多かったが、リカレント教育受講生向けに特化したものを作る必要がある。一方、担当教員の負担が大きく、今年度の実施規模ではなかなか実践できなかった）、③教員謝礼の拡充（休日に対応するケースがあり、コンテンツ作成の労力も考えると、それなりの金銭的補助があるほうが良いと考えられる）、④対面指導の導入（今回はオンデマンド、オンラインで可としたが、指導効率を考えると、数回は対面での指導が望ましいこともあり、募集時点で条件として盛り込む必要がある）、などであった。これらの点に留意し、最終年度の2026年度の運営を行っていく。			

2025年度 東洋大学リカレント教育推進特別助成

活動報告書

運営代表者	堀本麻由子	所属学部（運営代表者）	文学部
プロジェクト名	女性リーダーシップ養成プログラムの実証的研究 —「フレッシュ・スタート」講座の開発・検証・実践—		
活動概要			
■検証フェーズ：「フレッシュ・スタート」パイロット講座の実施と検証。 ・「フレッシュ・スタート」講座を企画し、2025年9月日本社会教育学会研究大会（鹿児島大学）で講座案を発表し、検討する。 ・上記の講座案をパイロット講座（東洋大学フィロソフィア・アカデミー内）を実施する。			
主な活動スケジュール			
・2025年6月28日10時～12時、7月5日10時～12時に以下の東洋フィロソフィアアカデミーの講座として「フレッシュ・スタート」としての講座の狙いを取り入れ、パイロット講座を実施した。実験的に生涯学習・社会教育を学ぶ学部生（1名）、大学院生（4名）も受講メンバーとして参加し、多様な背景をもつ受講生が参加できる環境での講座の検証を行った。 ・2025年9月14日（日）日本社会教育学会9月研究大会ラウンドテーブル「人口減少社会における『高等教育と生涯学習』再考2—地域人材育成を中心として—」を実施した。（20名の参加者があった）大学のリカレント講座における労働・職業教育の課題を確認した。			
活動成果・進捗			
2025年度は、日本社会教育学会のラウンドテーブルでの他大学事例による理論検討と東洋大学フィロソフィアアカデミーでの講座実践の検証による活動が中心となった。その検討から以下が明らかになった。 一つは、大学（リカレント教育、生涯学習センター、地域連携センター等）と地域コミュニティ（男女共同参画センター、公民館、企業、NPO等）において、女性リーダー・管理職向け講座や研修が実施され、リーダー養成を目的とする学習機会は増加している。しかし企業、公的機関等で実施される能力開発講座／研修は、女性のライフイベントに配慮しつつも伝統的な性別役割分業意識への対応を中心とする啓発的なリーダー養成や所属組織／地域コミュニティのニーズにいかによりリーダーとして適応するかをねらいとする学習課題および教育方法が依然として中心である。また、意図しない突然の出来事によって、所属組織や地域コミュニティの変更が生じる女性たちにとって継続的な学習機会を持つことは難しく、学習機会が分断されやすい性格をもつ。女性の流動的なライフ／職業キャリアの変化に寄り添う継続的なフォーマル、ノンフォーマルな学習機会が求められる。成人のリーダーシップの学習過程は、長期にわたる省察的学習の積み重ねであり、その学習の積み重ねを支える教育的コミュニティが求められる。 二つは、日本の成人教育・生涯学習研究において女性のリーダーシップ養成に関する学習実践・研究は少ない。職場や地域コミュニティで女性がリーダーとして成長する過程においては、社会（生活）から期待される役割と組織（仕事）に求められるリーダーとしての役割との葛藤におけるジレンマを省察する変容学習の機会（省察的実践）が必要とされること、さらに省察的実践の学習過程によって、組織への適応を目的とした学習活動ではなく、女性（人間）のあらゆる活動領域（生活と仕事）を一体的にとらえた生涯発達を保障する継続的学習活動とその援助が求められる。そのためにも大学と地域の学習機関・機会との連携が要請され、大学、地域コミュニティ、職場等で個別に実施される女性のリーダーシップの学習機会を省察的実践で接続することによって、生涯にわたる女性の継続的なリーダーシップ養成の学習過程を保障することができるのではないか、との着想を得ることができた。 以上を踏まえ、2026年度東洋大学フィロソフィアアカデミーの講座として、新規に「女性のリーダーシップを考える」（2026年7月実施）を開発し、実施予定である。			

2025年度 東洋大学リカレント教育推進特別助成

活動報告書

運営代表者	小野 道子	所属学部（運営代表者）	福祉社会デザイン学部社会福祉学科
プロジェクト名	災害時の子どもの支援および災害時の子どもの居場所づくり研修プログラムの構築		
活動概要（150字以内）			
災害時の子ども支援、特に、災害時の子どもの居場所づくりについて、昨年度福祉社会開発研究センターがこども家庭庁からの助成で実施した「災害時のこどもの居場所づくり」調査研究報告書と「災害時のこどもの居場所づくり」手引きの内容を解説する研修プログラムを策定し、静岡県および三重県で研修を実施した。			
主な活動スケジュール			
2025年9月から12月：福祉社会開発研究センターが作成した調査報告書や手引きの内容を関係者に紹介し、研修ニーズについて聞き取りを行った。			
2026年1月	：静岡県、三重県で実施する研修の内容を確定し、PPT資料を作成した。研修で用いる「災害時のこどもの居場所」手引きの印刷・製本を行った。		
2026年2月	：静岡県静岡市、三重県津市で研修を実施（静岡大学および三重県ユニセフ協会にそれぞれ共催を依頼）、研修後の参加者アンケートまとめ、共催団体との振り返り、来年度以降の研修のあり方や研修の実施場所について検討を行った。		
活動成果・進捗			
①災害時の子ども支援および災害時の子どもの居場所づくり研修プログラムの策定 2024年度に東洋大学福祉社会開発研究センターが作成に関わった、こども家庭庁「災害時のこどもの居場所づくり」手引きに基づく研修プログラムを策定するため、同センターが作成した調査研究報告書および手引きの内容を関係者に紹介した。これらの紹介は、東京社会福祉士会、石巻市、熊本市等で実施したほか、福祉社会開発研究センターの公開研究会においても行った。報告書の内容を踏まえた手引きの趣旨や具体的内容を説明する過程で、手引きに基づく「災害時のこどもの居場所づくり」研修に対するニーズについても関係者から意見を聴取した。これらの意見を参考に、2026年2月に静岡県および三重県で実施予定の研修プログラムを開発した。さらに、運営代表者は、こども家庭庁「災害時のこどもの居場所づくり支援に関する調査研究委員会」の委員として、手引きを紹介する動画やハンドブック、研修用モジュールの作成にも関わった。これらの経験を通して得られた知見を、研修プログラムの内容検討に活かすことができた。			
②災害時の子ども支援および災害時の子どもの居場所づくりの研修実施 2026年2月1日（土）および2日（日）に、静岡県静岡市および三重県津市において、研修会を実施した（静岡大学および三重県ユニセフ協会との共催）。あわせて、関係者との意見交換も行った。本研修では、手引きの内容理解を促すことにとどまらず、災害時および平時からの地域ネットワークづくりに寄与することを重視した。特に、行政と市民団体、子ども支援団体だけでなく、異なる領域の関係者や専門職を含めた広域的なネットワークの構築を目的として、グループワークやディスカッションの時間を十分に確保した。また、今後、他地域においても研修を展開していくことを見据え、アンケート回答やフィードバックの時間も十分に設け、研修内容の改善に向けた意見を収集した。実施した講座に参加した多様な団体や個人が、この講座を通じて新たなネットワークができたと回答した。ただし、県域や市域かなど、ネットワークのあり方については、その地域のこれまでの多様な仕組みの作られ方について、関係者のヒアリングを行い、慎重に議論し、実施することが重要であることもわかった。さらに、2月3日（月）には、鳥羽市において開催された「第7回防災リレー講座」に講師として運営代表者が招聘され、鳥羽市の学校教職員、学校運営協議会委員、地域団体関係者等を対象に、災害時のこどもの居場所づくりの必要性および手引きの内容について紹介した。			

社会貢献センター 外部評価

2025年度 東洋大学社会貢献センターに対する外部評価結果

(所属：神奈川大学 氏名：齊藤ゆか)

I 判定 (S～C) : A

S	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標の達成が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
A	おおむね、社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標がほぼ達成されている。
B	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成がやや不十分であり、改善すべき点がある。
C	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多く、抜本的な改善が求められる。

II 総 評

2016年に創設した「社会貢献センター」は、大学理念に基づき「生涯学習部門」と「社会貢献部門」の両面から、センターの理念、目的、全学的な方針に基づく活動がほぼ達成されている。

とりわけ、年度ごとの活動記録を詳述し、それらの成果（公開講座、講師派遣事業、リカレント教育推進の特別助成、地域活性化活動支援事業、学生団体による社会貢献活動奨励プロジェクトに対する助成、SDGs 実践講座の活動報告など）の膨大な情報を丁寧に整理・報告している。それは、教職員の連携・協働がなければ成り立たない。また学生・市民・教育指導に対する手厚い「助成」「支援」に対して高く評価したい。

III 概評及び提言

1 理念・目的

〈概評〉

① 社会貢献センターの理念・目的を適切に設定しているか。
御校の理念と大学の方針に従い、社会貢献センターの理念・目的は適切に設定している。
② 社会貢献センターの目的を明示し、社会と共有しているか。
社会貢献センターの目的は、「生涯学習部門」と「社会貢献部門」の両面から、各種事業を総括推進し、社会に共有している。これらは、全学の教員及び学生から情報収集し、社会に共有している。
③ 社会貢献センターの目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。
社会貢献センターの目的等に沿って、大学の将来を見据えた中長期計画及び諸施策の設定した上で、多岐に及び事業の運営を行っている。「生涯学習部門」は、公開講座、諸資格講座、講師派遣事業等と、御校の創始者の哲学に即した基盤事業といえる。一方、「社会貢献部門」は、社会貢献情報収集、地域活性化支援事業、社会貢献活動助成表彰制度、ボランティア支援室等、課内と課外の両面から学生の成長支援と貢献活動に役立っている。

〈提言〉

長所
1) 生涯学習部門は、長年にわたる蓄積がある事業といえる。特質できる点は、「講師派遣事業」である。原型となる創始者の井上円了による「全国巡回講演」（記録5291回、130万人）と寄付の「御礼」として、「講師派遣事業」が継続している。1999年～2023年度まで2685回を記録した。こうした講演会に対する教員（名誉教授）の理解と協力体制、法人による経済的援助は、他大が容易に真似できない。 2) 生涯学習部門における「公開講座」においても、ゼミ形式による「東洋フィロソフィアカデミー」の開設や、現役社会人を対象としたリカレント教育の推進を図っている、正に、リスクリング社会等の時代要請の先取りを行った社会貢献講座と言えるだろう。 3) 社会貢献部門における「地域活性化支援事業」（経済的な支援）は、地域課題に取り組むゼミ生と教員に活力を与えるインセンティブになっている。教員の指導を受けながら、学生たちが「地域活性化支援事業」の申請書類の作成とエントリー、活動、報告と、年度単位で一連のプロジェクトが経験できるサイクルは、重要な学びの機会提供となっている。 4) 社会貢献部門における「SDGs 実践講座」と「SDGs アンバサダー」は、学びが活動に変わる貴重な事業といえる。特に、講座で SDGs の理念を体系的に学んだ学生が、社会課題を「自分ごと」として選び取りながら貢献力を高めている点は高く評価できる。 5) 社会貢献部門における「青いビブス（東洋大学能登復興支援団体）」の活動継続にあたり、遠隔地派遣に対する大学の手厚い支援と現地の方々の受入の環境整備にある。この経験知は、学生個々人の生涯の財産になると思われる。
改善課題
1) 社会貢献センターの組織体制を全学部学科・全キャンパスで展開していくのは容易なことではない。しかし、運営委員会は実質的にはメール審議となっている故、形式的な審議となっていないか、真に教職員の共通理解はあるのか、教員・職員・学生に温度差が生じていないか、少々気になる。 2) 社会貢献に対する、学内の理解者と参加者を増やすには、課内の事業が増えることで、学生参加のすそ野が広がるものと考えられる。興味があるけれど参加できない層にどうアプローチするか課題といえる。 3) 執行部の任期・変更によって、事業を継続するか否か変動しやすいものである。また、事務局や教員（センター長、副センター長）の担当者の変更によって方針転換する場合もあり得る。中長期的な観点から、持続していく事業とそうでない事業で、大方の事業仕分けがあると見通しが立つと思われる。

【コメント】

社会貢献センターの理念や目的と専門的な知見に基づく、先進的な事業運営を行っている。特に、「地域活性化支援事業」は、都会育ちの学生にとって県域を越えた新しい挑戦が可能となる教育機会となっている。また、「SDGs 実践講座」と「アンバサダー（貢献活動）」は、「学びを地域・社会に生かす」成長支援として特質できる。

いずれにしても、東洋大学の哲学を基盤にした理念が貫かれた「社会貢献センター」から見習うべき点が多数散見された。今後の更なる展開と発展が楽しみである。

以 上



2025年度
東洋大学 社会貢献センター年報

発行 2026 年 7 月 20 日



Toyo University supports the Sustainable Development Goals



東洋大学

社会貢献センター

〒113-0021 東京都文京区本駒込 1-10-2 甬水会館 1 階

TEL : 03-3945-7605